

# 令和6年度 講義案内

## 仏教学部 宗学科 仏教学科

RISSHO UNIVERSITY  
2024 Guidebook of Lecture

Faculty of Buddhist Studies  
Department of Nichiren Buddhism  
Department of Buddhist Studies

令和6（2024）年度  
講義案内

仏教学部



# 仏教学部開設科目とその履修方法

## 仏教学部の教育目標、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

仏教学部は、仏教の知的体系と人間探求に関する教養および専門的知識を修得し、広く社会に貢献しうる人材を養成すること、およびそのために必要な教育研究を行うことを、「人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的」として定めています。その実現のため、「教育目標」ならびに「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」、「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を一体的に定め、公表します。

### 教育目標

仏教学部は、その学士課程教育プログラム（正課外のものを含む。）を通じ、持続可能でより良い豊かな平和社会を築くための一つの重心・芯となるべき人材として、仏教学分野における「モラリスト×エキスパート」を養成することを教育の目標とします。

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

仏教学部は、各学位プログラムの課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。

#### <関心・意欲・態度>

- ・ 仏教に説かれる人間の生き方についての洞察を活かし自己の向上に努めることができる。
- ・ 仏教に説かれる慈悲の精神に基づき社会に貢献しようとするすることができる。

#### <思考・判断・表現>

- ・ 仏教に関する幅広い知識に基づき、多様な観点から思考・判断することができる。

#### <知識・理解>

- ・ 仏教に関する幅広い知識を身につけている。

#### <技能>

- ・ 仏教に関する諸資料を読みとることができる。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

仏教学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養の科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

- ・ 学修意欲を喚起するために、授業内容を多様化します。
- ・ 思考・判断・表現の能力を養うため、多様な授業形態を展開します。
- ・ 多様な視点に基づく科目を体系的に配置します。
- ・ アクティブラーニングを念頭においた演習系科目を段階的に配置します。

## 仏教学部 宗学科

仏教学部宗学科は、日蓮聖人の三大誓願をもととする立正精神に立脚し、自らの向上に努めるとともに、他者への慈しみの心を有する菩薩の自覚をもって、広く社会に貢献できる人材を養成すること、およびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的として定めています。その実現のため、以下のように、「教育目標」ならびに「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編

成・実施の方針」、「入学者受入れの方針」を定め公表します。

## 教育目標

仏教学部宗学科は、その学士課程教育プログラム（正課外のものも含む。）を通じ、持続可能でより良い豊かな平和社会を築くための一個の重心・芯となるべき人材として、仏教学（法華仏教・日本仏教）分野における「モラリスト×エキスパート」を養成することを教育の目標とします。

## 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

[平成28年度以降入学生は、法華仏教コース・日本仏教コースの別あり]

仏教学部宗学科の課程を修め、下記的能力・資質を身につけた者に学位を授与します。

### <関心・意欲・態度>

- ・他者に対する慈しみと敬いの心を持って接することができる。
- ・幅広い教養を身につけるとともに、現代社会が直面する諸問題に関心を持っている。

[法華仏教コース]

- ・日蓮聖人の思想と行動や日本仏教の思想を学び、使命感をもって社会の諸問題に対応することができる。

[日本仏教コース]

- ・日蓮聖人や日本仏教の思想を学び、使命感をもって社会の諸問題に対応することができる。

### <思考・判断・表現>

- ・法華経の精神に基づき、自身を見つめて人間としての生き方について思考・判断ができる。
- ・自らの考えを文章や口頭を通じて表現することができる。

### <知識・理解>

[法華仏教コース]

- ・日蓮聖人の宗教思想と社会的実践についての知識を身につけている。

[日本仏教コース]

- ・日本仏教を基礎とした日本の思想・歴史・文化についての知識を身につけている。

### <技能>

[法華仏教コース]

- ・法華仏教に関する資料を読みとることができる。

[日本仏教コース]

- ・日本仏教に関する資料を読みとることができる。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

仏教学部宗学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

- ・人間の生き方と現代社会の諸問題、歴史学的な探求とその解明方法、精神文化の諸相と宗教的価値観などについて広く深く学修し、コミュニケーション能力を高めて他者理解をはかり、社会的諸課題を解決する能力を養成し、宗学を総合的に体得することができるように編成します。
- ・社会的視点を養成するため現地を見学する科目を設置します。
- ・実践的な知識を学ぶための科目を設置します。
- ・少人数でのコミュニケーションワークを取り入れた科目を設置します。

- ・理解力、分析力、問題解決能力、発表能力を養成するために、ゼミナールおよび卒業論文を必修科目として設置します。
- ・古文・漢文の基礎を復習し、法華仏教・日本仏教の基礎的な科目から発展的科目へと段階的に配置します。

#### [法華仏教コース]

- ・日蓮聖人の生涯と思想、日蓮教団の思想と歴史の展開、法華経の思想と文化などを学修する科目を基礎的な科目から発展的科目へと理解が深まるよう段階的に配置します。

#### [日本仏教コース]

- ・日本仏教全般の思想・歴史や美術・文化の様相を体系的に学修する科目を配置します。

## 仏教学部 仏教学科

仏教学部仏教学科は、世界に伝播した仏教の思想と歴史およびそれに関連する文化と芸術について多様な視点から学修研究を行うことを通じて、現代人として有すべき全人的教養と国際的視野をそなえ広く社会に貢献しうる人材を養成すること、およびそのために必要な教育研究を行うことを、人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的として定めています。その実現のために、以下のように、「教育目標」ならびに「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を一体的に定め、公表します。

### 教育目標

仏教学部仏教学科は、その学士課程教育プログラム（正課外のものも含む。）を通じ、持続可能でより良い豊かな平和社会を築くための一つの重心・芯となるべき人材として、仏教学（思想・歴史、文化・芸術）分野における「モラリスト×エキスパート」を養成することを教育の目標とします。

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

[平成28年度以降入学生は、思想・歴史コース・文化・芸術コースの別あり]

仏教学部仏教学科の課程を修め、下記の能力・資質を身につけた者に学位を授与します。

#### <関心・意欲・態度>

- ・仏教に関する諸事象について、創意をもって学修することができる。
- ・文化・社会の課題に積極的に関与し、自主的に問題解決に向けて取り組むことができる。
- ・自らのあり方・生き方を正視し、向上させようと努力することができる。

#### <思考・判断・表現>

##### [思想・歴史コース]

- ・仏教的なものの見方ができる。
- ・歴史的なものの見方ができる。
- ・文化・芸術を理解することができる。

##### [文化・芸術コース]

- ・世界の多様な文化を理解することができる。
- ・芸術を理解し表現することができる。
- ・仏教的・歴史的なものの見方ができる。

### <知識・理解>

- ・ 仏教を文化・社会・自然と関係付けて理解する幅広い教養を身につけている。

#### [思想・歴史コース]

- ・ 思想・歴史を中心とする仏教学の基礎的専門知識を身につけている。

#### [文化・芸術コース]

- ・ 文化・芸術を中心とする仏教学の基礎的専門知識を身につけている。

### <技能>

- ・ 仏教に関する資料を読みとることができる。

#### [文化・芸術コース]

- ・ 仏教文化・芸術に関する資料を読みとることができる。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

仏教学部仏教学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質を身につけるために、教養的科目、専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

- ・ 知的関心を掘り起こすものとしての多様な領域にわたる講義科目を設置します。
- ・ 知的関心から体験的に学修するものとしての実習・研修系科目を設置します。
- ・ 学生の学的関心や考えを表明し、意見交換を行う場としてのゼミ系科目を設置します。
- ・ 社会的視点を養成するため現地を見学する科目を設置します。
- ・ 思考力・判断力・表現力を養うため、講義・演習・実習・ゼミ等、多様な形態の科目を適切に配置します。
- ・ 基礎・演習系、言語・スキル系、基礎・基幹系、言語系、思想・思想史系、各宗派教学・教団史系、文化史・文化財系、芸術実習系、宗教学系、現代宗教系、伝統文化系、日蓮教学系、他学部開講科目といった分類に基づく体系性を有するカリキュラムを編成します。
- ・ 仏教学演習基礎、ゼミナール等の演習系科目を段階的に配置し、アクティブラーニングを念頭においた授業を展開します。

# 目 次

1. 仏教学部専門科目履修案内 .....	1
2. 科目履修上の基礎用語 .....	2
3. 履修に関する全般的注意事項 .....	4
4. 開設科目とその履修方法 【令和2(2020)～令和6(2024)年度入学】 仏教学部 .....	9
5. 開設科目とその履修方法 【平成29(2017)～平成31(2019)年度入学】 宗 学 科 .....	19
6. 開設科目とその履修方法 【平成28(2016)～平成31(2019)年度入学】 仏教学科 .....	27
7. 僧階講座開設科目とその履修方法 .....	37
8. 仏教学部開設一般教育科目について .....	41
9. キャリア開発関連科目について .....	45
10. 仏教学部講義概要（シラバス） .....	49
11. クラス担任 他 .....	171
12. 令和6年度オフィスアワー（学生生活相談）の実施について .....	173
《資料》仏教学部生の9月卒業のための卒業論文提出に関する要領 .....	177





# 1. 仏教学部専門科目履修案内

仏教学部には宗学科と仏教学科の2学科があり、専門科目のカリキュラム編成と履修方法は、それぞれの学科ならびに入学年度による大きな相違がある。原則として入学時に配付された『学生要覧』の規定が卒業まで適用される。ただし、変更が加えられる場合もあるので、(年度末～)毎年度初めに行われるガイダンス・掲示等に充分注意する必要がある。

本書『講義案内 仏教学部』では、令和2年度以降入学生・平成29～31年度入学宗学科生・平成28～31年度入学仏教学科生の開設専門科目とその履修方法、ならびに僧階講座の履修方法について説明をする。学科・コース・入学年度により、開設科目・履修方法が異なるので、必ず下記の表に従って各自の該当する箇所の説明・指示を見ること。

## 令和2(2020)～6(2024)年度入学

仏教学部	11～18頁
------	--------

## 平成29(2017)～31(2019)年度入学 宗学科

宗 学 科	法華仏教コース及び日本仏教コース	21～26頁
-------	------------------	--------

## 平成28(2016)～31(2019)年度入学 仏教学科

仏教学科	思想・歴史コース及び文化・芸術コース	29～36頁
------	--------------------	--------

## 2. 科目履修上の基礎用語

仏教学部生は新年度早々に年間の受講計画を立て、所定の期日に「履修登録」をおこなわなければならない。登録方法については仏教学部事務室及び、所属する学科の指示に従って情報環境基盤センターの端末機や学外（自宅等）のパソコン等から web を利用し、各自が入力することになる。そこでまず、本書で頻繁に使用する基礎用語を簡単に解説しておく。

### 1 単 位

授業を受講して認定される受講基準数のことである。大学設置基準では、1単位につき「45時間の学修を必要とする」と定めている。したがって、2単位の授業を修得するためには90時間の学修が必要である。授業として30時間（1コマ2時間換算×15回）を受講し、授業外学修として60時間（90時間－30時間）学修したうえで、試験やレポート等の成績が合格点に達した場合、2単位を修得できる（4単位の場合、それぞれ2倍の時間数が必要）。ただし、演習、実習、外国語、体育実技では、単位の算定方法が異なる場合があるので、本書の各自が該当する入学年度の「開設科目とその履修方法」で単位数を確認すること。

### 2 開設科目

仏教学部の各学科・コースに在籍する学生が受講できる科目のことである。他学部・他学科・他コースに設けられた科目は、受講できなかつたり、受講しても単位が認定されなかつたり、特別な手続きが必要となる。

### 3 履 修

授業を受講し単位を認定されるまでの一連のながれをいう。1年間の受講計画を立て、所定の期日までに「履修登録」をする必要がある。履修登録をしないと、たとえ受講しても単位は認定されないので、充分留意しなければならない。

### 4 卒業基準単位数

卒業要件として最少限修得しておかなければならない単位数のことである。卒業に必要な最少限度の単位数であるから、できるだけ余裕をもって単位修得に努めること。

### 5 履修登録単位数の上限

各学年において1年間および各学期で履修登録できる単位数には上限がある。単位数の上限は、入学年度・学年・学期によって異なるので、各自所定の表を確認する必要がある。

### 6 必修科目

卒業要件として必ず単位を修得しなければならない各分野の基本科目のことである。これを全て修得しないと卒業できない。

### 7 選択必修科目

必修科目に準ずるもので、各分野の基幹科目のことである。このうち所定の科目数・単位数以上を修得しないと卒業できない。

### 8 選択科目

必修科目・選択必修科目以外で、各分野の専門知識を広く修得するための科目のことである。年次指定等に従って選択履修することになる。必修科目・選択必修科目だけでは卒業基準単位数に達しないので、不足分をこれで補うことになる。

## 9 関連領域科目

専門分野と関連する領域の知識を広く修得するための科目のことである。なお、このカテゴリーは、入学した学科・年度により設けられていない場合がある。

## 10 自由科目

修得単位数が卒業基準単位には算入されないが、単位自体は認定される科目のことである。各種の資格取得、もしくは個々の学的関心に従って履修できる科目をいう。

## 11 セメスター制度

多様な専門知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、半期開講であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。

## 12 資格講座

仏教学部生は在学中に各種の資格を取得するための科目を受講することができる。ただし、卒業基準単位数には含まれない。

# 3. 履修に関する全般的注意事項

## 1 必修科目・選択科目の区分とその履修年次の指定

仏教学部では専門的知識の修得と同時に、学生の自らの研究能力の開発育成をめざしている。専門科目のうち、必修科目・選択必修科目は、各学科及びコースに在籍する学生がそれぞれの専門分野を研究する上で、不可欠の科目とみなされるものである。選択科目はできるだけ学生の自由な選択ができるよう配慮してある。また履修年次の指定に従って各科目を履修する必要がある。なお、科目名・学年の指定などが入学年度によって変更されることもあるが、原則として各自の入学年度の規定が適用されるので、入学時に配付された『学生要覧』に十分に留意し、履修計画を検討することが必要である。

## 2 科目履修上の規定

- (1) 科目を履修するには、年度初めの所定の期間中に、各自が情報環境基盤センターの端末パソコンもしくは、学外（自宅等）のパソコン等から web を利用して「履修登録」の入力をしなければならない。未登録の場合は、受講し試験を受けても単位修得が認められない。さらに授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を担当教員へ提出すること。
- (2) セメスター制における第2期（後期）開講の科目についても、履修登録は原則として年度初めの所定の期間に行うこと。ただし、第2期開講科目については、年間履修登録単位数の上限以内で、第2期追加履修登録期間中に追加履修登録することも可能となつてはいるが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、注意すること。
- (3) 一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り履修中止を申し出ることができる。ただし、以下の点について十分に注意のうえ、手続きを行わなければならない。
  - ①卒業年次では、履修を中止しても卒業要件を満たしているか、また2年次では、履修を中止しても3年次への進級要件を満たしているか、各自が必ず確認をすること。
  - ②履修中止を申請した科目はGPA算出の対象から除外される（履修中止の手続きをしないまま未受講・未受験となると、その科目は0点として換算され、GPAを大幅に下げることになる）。ただし、履修中止をしても登録可能な単位数を回復させることはできない（したがって、他の科目に変更することはできない）。
  - ③通年科目の履修中止は、**第1期履修中止申請期間にのみ受け付ける**。
  - ④科目により履修中止申請ができない場合がある。
  - ⑤履修中止をした科目を、次年度以降に再履修することは可能である。
  - ⑥履修中止を希望する者は、ポータルサイトより申請すること。ただし、履修中止申請期間以外では一切受け付けない。

## 3 単位の修得

- (1) 所定の期日に履修登録をした科目について、試験その他の指定された方法により一定の評価基準以上に達した場合にのみ、所定の単位が認定される。
- (2) 試験は原則として筆記試験が行われるが、レポート等その他の方法をもって代えられることもある。
- (3) 試験は所定の試験日時及び所定の場所で受けなければならない。ただし、止むを得ない事情によって受験できなかった場合に限り、追試験が許可されることもある。追試験を受けようとする場合は、定期試験を受験できなかったことを証明する書類（医師の診断書など）を添えて、大学の指定する日時までに学事課に願出しなければならない。

- (4) レポート等は、学部または、担当教員の指示する期日までに指定された場所に直接提出しなければならない。郵送及び期日に遅れて提出されたものは、原則として受理されない。
- (5) 他の大学を卒業、または中途退学し、新たに本学部の1年次に入学した学生については、他の大学での既修得単位を認定する制度があるので、入学後すみやかに仏教学部事務室へ申し出ること。

#### 4 卒業論文

- (1) 卒業論文題目は、卒業年度（宗学科は卒業前年度）の所定の期日までに指導教員の承認を得て、仏教学部長宛に提出することになっている。それに先立って、当該学科及びコースにおいて、卒業論文指導会が開かれる予定であるが、この指導会以前に指導を希望する教員（1名）の選択（宗学科のみ）、研究分野の選択、研究方針並びに研究内容を十分に検討しておくべきである。

なお、留年者で、当該年度に論文を提出しようとする場合も、その年度の初めに改めて論文題目を提出しなければならない。当該年度に卒業論文題目届が提出されていない論文は受理されないので、特に注意を要する。

なお、「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

仏教学科の文化・芸術コース生は、選考を経て、卒業論文に換えて卒業制作を選択することができる。

- (2) 提出された論文題目の変更は原則として認められない。止むを得ず変更を希望する場合は、所定の期日までに指導教員の承認を得て、論文題目変更届（指導教員の捺印が必要）を仏教学部長宛に提出しなければならない。
- (3) 卒業論文は、原則として手書きの場合は400字詰原稿用紙（宗学科はB4、仏教学科はA4）を使用し、50枚以上の枚数がなければならない。パソコンを使用する場合は20000字以上の文字数を必要とする。指定の枚数・文字数に達しないものは受理されない。卒業論文の書式等の体裁については各学科の指示に従うこと。
- (4) 卒業論文の表紙は厚紙を使用し、論題・所属する学部学科コース名・学籍番号・氏名・指導教員名を必ず明記すること。別冊を添付する場合も同様の表紙をつけること（次頁の図参照）。
- (5) 表紙と同一内容を原稿用紙に記入（パソコンの場合は白紙に印刷）し、内表紙として挿入すること。
- (6) 卒業論文は指定された期間中〔例年、12月10日～1月10日頃（予定）（最終日は午後5時まで）〕に仏教学部事務室窓口へ直接提出する。日時に遅れた場合は受理されない。なお、論文提出に際して、不測の事故が起きて、提出が困難となった場合には、すみやかに指導教員に申し出て相談すること。
- (7) 提出された論文について、例年2月初旬～中旬に口頭試問が行われる。止むを得ず欠席する場合は、指導教員の指示を受け、事前に試問を受けることもできる。

〔宗学科〕

タテ書き

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生	論文題目	仏教学部宗学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名
--------------------------	------	---------------------------

ヨコ書き（１）

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生
論文題目
仏教学部仏教学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇

〔仏教学科〕

タテ書き

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生	論文題目	仏教学部仏教学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇
--------------------------	------	--------------------------------

ヨコ書き（２）

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生
論文題目
仏教学部仏教学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇

5 卒業論文（卒業制作含む）の成績判定基準

1、宗学科

- (1) 宗学についての基本的理解と識見を修得しているか。
- (2) 先行研究の確認と参照は充分になされているか。
- (3) 資料の十分な検討と引用は妥当であるか。
- (4) 十分な考察がなされているか。
- (5) 矛盾なく着実に論理が展開されているか。
- (6) 文章に誤字・脱字などはないか。
- (7) 文章表現は妥当であるか。
- (8) 記号の使い方は妥当であるか。

- (9) 注記の記載は妥当であるか。
- (10) 自律的に取り組んだか。
- (11) 口頭試問の成績。

## 2、仏教学科

- (1) 仏教学およびその関連領域における基礎的理解をふまえ、専門分野に応じた適切な研究テーマの設定と調査・考察・表現の方法が修得されているか。
- (2) 各自の問題意識に対する調査と考察に当たって、主体的積極的な取り組みがなされ、論理的思考が行われているか。
- (3) 卒業制作においては、仏教美術作品の創作もしくは模作を通じて仏教精神を体感的に理解し、それが造形表現および論文に示されているか。
- (4) 矛盾なく着実に論理的記述が展開されているか。
- (5) 主題についての主要な研究書・研究論文が参照されているか。
- (6) 他者の文章や見解を引用・活用する際に典拠を明示しているか。
- (7) 文章表現や記号の使い方は妥当であるか。
- (8) 注記の記載は妥当であるか。
- (9) 口頭試問の成績。

## 6 卒業論文（卒業制作含む）の作成・提出・審査の流れ

- 1、学科・コースにおいて指導会が開催される。
- 2、卒業論文の分野・テーマを指定の期日までに提出する。
- 3、テーマに添って指導教員が決定される。
- 4、宗学科生は4年次の10月上旬までに中間報告書を提出する。
- 5、仏教学科生は4年次のゼミナールにおいて中間発表を行う。
- 6、卒業論文は指定された期間中に提出する。
- 7、卒業論文提出者は指定された期日に口頭試問を受ける。
- 8、指導教員による成績評価。
- 9、仏教学科では、全教員で審査し評価を確定する。

※上記の「5 卒業論文（卒業制作含む）の成績判定基準」「6 卒業論文（卒業制作含む）の作成・提出・審査の流れ」については、年度によって変更されることがあるので、毎年度発行される『講義案内 仏教学部』（シラバス）の該当箇所を必ず参照し、確認すること。

## 7 ポータルサイト・掲示による通知

仏教学部から学生への通知する事項が生じた場合、履修上の事項に限らず、ポータルサイトまたは所定の掲示板に掲示をもって行う。登下校の際は必ず所定の掲示板を確認すること。





## 4. 開設科目とその履修方法

【令和2（2020）～令和6（2024）年度入学】

宗 学 科 法華仏教コース

日本仏教コース

仏教学科 思想・歴史コース

文化・芸術コース



## 4 仏教学部〔令和2(2020)～6(2024)年度入学〕

### 1 卒業基準単位

仏教学部生〔令和2(2020)年度入学～6(2024)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次のとおりである。

仏教学部の卒業基準単位

教養的 科 目	一般教育科目	20単位以上		
	発展教養科目			
	外国語科目	4単位以上		
専 門 科 目	必 修 科 目	法華仏教コース	32単位	必修・選択必修・選択をあわせて84単位以上
		日本仏教コース	28単位	
		思想・歴史コース	24単位	
		文化・芸術コース	24単位	
選択必修科目	24単位以上			
	選 択 科 目			
合 計		124単位以上		

〈教養的科目〉は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上を修得。〈専門科目〉は、必修科目（卒業論文8単位を含む）、選択必修科目、選択科目あわせて84単位以上を修得。さらに〈教養的科目〉と〈専門科目〉のいずれかの科目を加えて、合計124単位以上とすることが必要である。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の必修科目のうち、「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

### 2 受講時間帯

仏教学部生の受講時間帯は、品川キャンパス1～7時限（9時～21時10分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

### 3 セメスター制

教養的科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な専門知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、年度の半期で開講される形態であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。年間履修登録単位数の上限以内で、第2期科目を所定の第2期追加履修登録期間中に追加履修登録することも可能となつてはいるが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出る

ことができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を行わなければならない。

#### 4 選択必修科目

選択必修科目は、「法華仏教研究入門」・「日本仏教研究入門」・「思想・歴史研究入門」・「文化・芸術研究入門」の4科目（開設表の中の※印科目）から2科目以上を含め、**12科目24単位以上**を修得しなければならない。

#### 5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

また、令和5（2023）年度以降入学生について、1年次終了時においてGPA3.5以上の者は2年次の履修登録年間単位数の上限を46単位とする。

学 年	年間履修登録単位数の上限	第1期履修登録単位数の上限	第2期履修登録単位数の上限	備 考
1年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2年	42	24	24	
3年	42	24	24	
4年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

#### 6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

##### 進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 仏教学演習基礎1、仏教学演習基礎2  上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

#### 7. 在籍する学科・コース

在籍する学科・コースは3年次に進級する時に最終確定する。本学を卒業するためには、総単位数を満たすだけでなく、それぞれ学科・コースごとに設定されている必修・選択必修の科目指定や必要単位数等の卒業要件を満たす必要がある。

学科・コースの3年次からの所属については、次の①～③を基準にして総合的に判定される。

① 2年次の所定の時期における各自の志望コース申請（第1志望～第3志望）

② 1・2年次における学業の成績（累積GPA）

③ 教員免許状の取得を志す者は、希望する免許の種類（「中学社会」「中学宗教」「高校公民」「高校地歴」「高校宗教」）の別と、それに向けた資格科目の2年次までの修得状況および成績

入学時に考えている志望コースや卒業後の進路が、大学で学びを重ねるうちに自分の中で変化していくことも十分にあり得ることであるから、1・2年次の間は各コースの重点科目も幅広く学び、自己の可能性を広げていくように、学びの計画を立てていくことが大切である。そして、自らの進路を切り拓

くことができるものは、日頃からの積み重ねだけであることを深く自覚し、目標に向かって邁進してほしい。

## 8 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。仏教学部生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を仏教学部の専門科目（選択科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

### 履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画をたてること。
- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。

仏教学部〔令和2(2020)～6(2024)年度入学〕開設表

系統	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		担当者	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本仏教	思想歴史	文化芸術			
基礎 演習 系	仏教学演習基礎1	2	1	必修	必修	必修	必修	日比 宣仁	4科目のうち 2科目以上選 択必修	
	仏教学演習基礎2	2	1	必修	必修	必修	必修	日比 宣仁		
	文献読解基礎演習1A	2	2	必修	必修	必修	必修	日比 宣仁		
	文献読解基礎演習1B	2	2	必修	必修	必修	必修	日比 宣仁		
	文献読解基礎演習1C	2	2	必修	必修	必修	必修	戸田 教敏		
	文献読解基礎演習1D	2	2	必修	必修	必修	必修	戸田 教敏		
	文献読解基礎演習2A	2	2	必修	必修	必修	必修	日比 宣仁		
	文献読解基礎演習2B	2	2	必修	必修	必修	必修	日比 宣仁		
	文献読解基礎演習2C	2	2	必修	必修	必修	必修	戸田 教敏		
	文献読解基礎演習2D	2	2	必修	必修	必修	必修	戸田 教敏		
	法華仏教研究入門	2	1	※選択必修	※選択必修	※選択必修	※選択必修	原 慎定/ 田村 巨禰/ 本間 俊文		
	日本仏教研究入門	2	1	※選択必修	※選択必修	※選択必修	※選択必修	安中 尚史/ 三輪 是法/ 本間 俊文		
	思想・歴史研究入門	2	1	※選択必修	※選択必修	※選択必修	※選択必修	高橋 堯英/ 手島 一真/ 戸田 裕久		
	文化・芸術研究入門	2	1	※選択必修	※選択必修	※選択必修	※選択必修	秋田 貴廣/ 則武 海源/ 久保真紀子		
	文献学演習1	2	2・3	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	日比 宣仁		
	文献学演習2	2	2・3	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	日比 宣仁		
	文献学演習3	2	2・3	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	戸田 教敏		
	文献学演習4	2	2・3	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	戸田 教敏		
	海外仏教文化研修1	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	三輪 是法/ 則武 海源		
	海外仏教文化研修2	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択			
海外仏教文化研修3	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択				
海外仏教文化研修4	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択				
国内仏教文化研修1	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	秋田 貴廣/ 本間 俊文			
国内仏教文化研修2	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択				
国内仏教文化研修3	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択				
国内仏教文化研修4	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択				
基幹 演習 系	ゼミナール1	2	3	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	安中 尚史		
	ゼミナール1	2	3	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	原 慎定		
	ゼミナール1	2	3	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	三輪 是法		
	ゼミナール1	2	3	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	田村 巨禰		
	ゼミナール1	2	3	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	本間 俊文		
	ゼミナール1	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	秋田 貴廣		
	ゼミナール1	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	高橋 堯英		
	ゼミナール1	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	手島 一真		
	ゼミナール1	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	戸田 裕久		
	ゼミナール1	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	則武 海源		
	ゼミナール1	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	久保真紀子		
	ゼミナール2	2	3	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	安中 尚史		
	ゼミナール2	2	3	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	原 慎定		
	ゼミナール2	2	3	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	三輪 是法		
	ゼミナール2	2	3	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	田村 巨禰		
	ゼミナール2	2	3	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	本間 俊文		
ゼミナール2	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	秋田 貴廣			
ゼミナール2	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	高橋 堯英			

系統	授 業 科 目	単 位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		担当者	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本仏教	思想歴史	文化芸術			
基 幹 ・ 演 習 系	ゼミナール 2	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	手島 一真		
	ゼミナール 2	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	戸田 裕久		
	ゼミナール 2	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	則武 海源		
	ゼミナール 2	2	3	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	久保真紀子		
	ゼミナール 3	2	4	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	安中 尚史		
	ゼミナール 3	2	4	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	原 慎定		
	ゼミナール 3	2	4	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	三輪 是法		
	ゼミナール 3	2	4	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	田村 巨禰		
	ゼミナール 3	2	4	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	本間 俊文		
	ゼミナール 3	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	秋田 貴廣		
	ゼミナール 3	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	高橋 堯英		
	ゼミナール 3	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	手島 一真		
	ゼミナール 3	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	戸田 裕久		
	ゼミナール 3	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	則武 海源		
	ゼミナール 3	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	久保真紀子		
	ゼミナール 4	2	4	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	安中 尚史		
	ゼミナール 4	2	4	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	原 慎定		
	ゼミナール 4	2	4	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	三輪 是法		
	ゼミナール 4	2	4	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	田村 巨禰		
	ゼミナール 4	2	4	必修	必修	宗学科のみ	宗学科のみ	本間 俊文		
ゼミナール 4	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	秋田 貴廣			
ゼミナール 4	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	高橋 堯英			
ゼミナール 4	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	手島 一真			
ゼミナール 4	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	戸田 裕久			
ゼミナール 4	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	則武 海源			
ゼミナール 4	2	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	必修	必修	久保真紀子			
卒業論文	8	4	必修	必修	必修	必修	仏教学部教員			
言 語 ・ ス キ ル 系	サンスクリット語初級ⅠA	2	1・2	選択	選択	選択必修	選択必修	戸田 裕久		
	サンスクリット語初級ⅠB	2	1・2	選択	選択	選択必修	選択必修			本年度休講
	サンスクリット語初級ⅡA	2	1・2	選択	選択	選択必修	選択必修	戸田 裕久		
	サンスクリット語初級ⅡB	2	1・2	選択	選択	選択必修	選択必修			本年度休講
	サンスクリット語中級Ⅰ	2	2・3	選択	選択	選択必修	選択必修	伊藤 瑞康		
	サンスクリット語中級Ⅱ	2	2・3	選択	選択	選択必修	選択必修	伊藤 瑞康		
	世界の言語と文化[英語Ⅰ]	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	戸田 裕久		
	世界の言語と文化[英語Ⅱ]	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	戸田 裕久		
	世界の言語と文化[中国語Ⅰ]	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	方 亜平		
	世界の言語と文化[中国語Ⅱ]	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	方 亜平		
	世界の言語と文化[ドイツ語Ⅰ]	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択			本年度休講
	世界の言語と文化[ドイツ語Ⅱ]	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択			本年度休講
	世界の言語と文化[フランス語Ⅰ]	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	久保真紀子		
	世界の言語と文化[フランス語Ⅱ]	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	久保真紀子		
	世界の言語と文化[ハンガール]	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択			本年度休講
	世界の言語と文化[ヒンディー語]	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	安永 有希		
	人文科学とコンピュータ	2	2・3	選択	選択	選択	選択			本年度休講
日本仏教文献演習1	2	3・4	選択	選択必修	宗学科のみ	宗学科のみ	戸田 教敏			
日本仏教文献演習2	2	3・4	選択	選択必修	宗学科のみ	宗学科のみ	戸田 教敏			
仏教書誌学研究	2	3・4	選択必修	選択	宗学科のみ	宗学科のみ	木村 中一			
仏教古文書演習	2	3・4	選択必修	選択	宗学科のみ	宗学科のみ	木村 中一			
バリ語入門	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択必修	選択			本年度休講	
チベット語入門	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択必修	選択			本年度休講	
思想・思想史系	仏教学概論	1	2・3	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	則武 海源		メディア授業
	仏教学概論	2	2・3	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	則武 海源		メディア授業
	法華思想史	1	2・3・4	選択	選択	選択必修	選択必修			本年度休講
	法華思想史	2	2・3・4	選択	選択	選択必修	選択必修			本年度休講



系統	授業科目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		担当者	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本仏教	思想歴史	文化芸術			
思想・思想史系	インド哲学仏教学特講 1	2	2・3・4	選択	選択	選択必修	選択	木村 紫		本年度休講
	インド哲学仏教学特講 2	2	2・3・4	選択	選択	選択必修	選択			
	インド哲学仏教学特講 3	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択必修	選択	伊藤 瑞康		
	インド哲学仏教学特講 4	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択必修	選択	伊藤 瑞康		
	インド思想史 1	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択必修	選択	友成 有紀		
	インド思想史 2	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択必修	選択	友成 有紀		
	天台学概論 1	2	2・3・4	選択必修	選択必修	選択必修	選択	田村 巨禰	メディア授業	
	天台学概論 2	2	2・3・4	選択必修	選択必修	選択必修	選択	田村 巨禰	メディア授業	
	禅学概論 1	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択		本年度休講	
	禅学概論 2	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択		本年度休講	
	浄土学概論 1	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択		本年度休講	
	浄土学概論 2	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択		本年度休講	
	真言学概論 1	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択	堀内 規之		
	真言学概論 2	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択	堀内 規之		
	日本仏教思想概論	2	2・3	選択必修	必修	選択必修	選択必修	三輪 是法	メディア授業	
	日本仏教思想特講 1	2	2・3・4	選択	選択必修	選択	選択	都守 基一		
	日本仏教思想特講 2	2	2・3・4	選択	選択必修	選択	選択	久保田正宏		
	日本仏教思想特講 3	2	3・4	選択	選択必修	宗学科のみ	宗学科のみ	三輪 是法		
日本仏教思想特講 4	2	3・4	選択	選択必修	宗学科のみ	宗学科のみ	三輪 是法			
仏教史系	インド仏教史 1	2	1	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	高橋 堯英		メディア授業 メディア授業 メディア授業 メディア授業 本年度休講
	インド仏教史 2	2	2	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	高橋 堯英		
	中国仏教史 1	2	2・3	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	手島 一真		
	中国仏教史 2	2	2・3	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	手島 一真		
	日本仏教史概論	2	2・3	選択必修	必修	選択必修	選択必修	安中 尚史	メディア授業	
	仏教史特講 1	2	2・3・4	選択	選択	選択必修	選択必修	手島 一真		
	仏教史特講 2	2	2・3・4	選択	選択	選択必修	選択必修		本年度休講	
	仏教史特講 3	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択必修	選択必修	中井 本勝		
	日本仏教史特論 1	2	2・3・4	選択	選択必修	選択	選択	本間 俊文		
	日本仏教史特論 2	2	2・3・4	選択	選択必修	選択	選択	本間 俊文		
	日本仏教史特論 3	2	2・3・4	選択	選択必修	選択	選択	本間 俊文		
日本仏教史特論 4	2	2・3・4	選択	選択必修	選択	選択	安中 尚史			
文化・文化史系	アジア文化史 1	2	1・2	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	久保真紀子		本年度休講
	アジア文化史 2	2	1・2	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	久保真紀子		
	東洋文化史 1	2	1・2	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	手島 一真		
	東洋文化史 2	2	1・2	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	手島 一真		
	日本文化史概論	2	1・2	選択必修	選択必修	選択必修	選択必修	本間 俊文		
	世界の宗教地理 1	2	2・3・4	選択	選択	選択必修	選択必修	則武 海源		
	世界の宗教地理 2	2	2・3・4	選択	選択	選択必修	選択必修	則武 海源		
	仏教文化史特講 1	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択必修	久保真紀子		
	仏教文化史特講 2	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択必修	久保真紀子		
	仏教文化史特講 3	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択	選択必修	内藤 善之		
	仏教考古学研究 1	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択		本年度休講	
	仏教考古学研究 2	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択	池上 悟		
	日本文化特講 1	2	2・3・4	選択	選択必修	選択	選択	田村 巨禰		
	日本文化特講 2	2	2・3・4	選択	選択必修	選択	選択	松野 智章		
日本文化史特講 1	2	2・3・4	選択	選択必修	選択	選択	田村 巨禰			
日本文化史特講 2	2	2・3・4	選択	選択必修	選択	選択		本年度休講		
美術史・文化財・伝統文化系	アジア美術史 1	2	2・3	選択	選択	選択	選択必修	久保真紀子		本年度休講
	アジア美術史 2	2	2・3	選択	選択	選択	選択必修	久保真紀子		
	日本美術史 1	2	2・3	選択	選択	選択	選択必修	安田 治樹		
	日本美術史 2	2	2・3	選択	選択	選択	選択必修	安田 治樹		
	文化財論 1	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択必修	秋田 貴廣		
	文化財論 2	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択必修	秋田 貴廣		
文化財論 3	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択	選択必修		本年度休講		

系統	授 業 科 目	単 位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		担当者	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本仏教	思想歴史	文化芸術			
美術・文庫・図像体系	芸術研究 1	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択	渡辺 貴彦	本年度休講 本年度休講	
	芸術研究 2	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択	渡辺 貴彦		
	芸術研究 3	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択			
	芸術研究 4	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択			
	芸術研究 5	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択	高島 一郎		
芸術実習系	芸術実習基礎 A	4	1・2	選択	選択	選択	選択必修	秋田 貴廣	2時限連続授業 Bについては 本年度休講	
	芸術実習基礎 B	4	1・2	選択	選択	選択	選択必修			
	芸術実習〔仏像Ⅰ〕A	4	2・3	自由科目	自由科目	選択	選択	秋田 貴廣	2時限連続授業 (芸術実習基礎 を修得してからの 履修を推奨)	
	芸術実習〔仏像Ⅰ〕B	4	2・3	自由科目	自由科目	選択	選択	伊加利庄平		
	芸術実習〔仏画Ⅰ〕	4	2・3	自由科目	自由科目	選択	選択	橋岡 昭男	2時限連続授業 (卒業制作指導)	
	芸術実習〔仏像Ⅱ〕A	4	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択	選択	秋田 貴廣		
	芸術実習〔仏像Ⅱ〕B	4	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択	選択	伊加利庄平		
芸術実習〔仏画Ⅱ〕	4	4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択	選択	橋岡 昭男			
比較文化系	比較思想論	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択必修	選択	則武 海源	本年度休講 本年度休講	
	比較文化特講	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択	選択必修			
	比較宗教文化論	2	3・4	仏教学科のみ	仏教学科のみ	選択	選択必修			
宗教学・現代宗教学系	宗教とは何か	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択	戸田 裕久	メディア授業 本年度休講 本年度休講 メディア授業 メディア授業 メディア授業	
	宗教の史的展開	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択	戸田 裕久		
	宗教哲学	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択	松野 智章		
	現代宗教研究	2	2・3・4	選択必修	選択必修	選択	選択	安中 尚史		
	宗教社会学	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択			
	宗教心理学	2	2・3・4	選択	選択	選択	選択			
	仏教カウンセリング	2	2・3・4	選択必修	選択	選択	選択	横畑 泰希		
	仏教デス・エデュケーション	2	2・3・4	選択必修	選択	選択	選択	武田 悟一		
	宗教法人法	2	2・3・4	選択必修	選択	選択	選択	山本 展也		
日本社会と宗教	2	3・4	選択	選択必修	宗学科のみ	宗学科のみ	小高 絢子			
日蓮教学系	日蓮聖人伝 1	2	2	選択必修	選択必修	選択	選択	本間 俊文		
	日蓮聖人伝 2	2	2	選択必修	選択必修	選択	選択	本間 俊文		
	立正安国論講義 1	2	2・3	選択必修	選択	選択	選択	三輪 是法		
	立正安国論講義 2	2	2・3	選択必修	選択	選択	選択	三輪 是法		
	宗学概論 1	2	2	必修	選択必修	選択	選択	田村 巨禰		
	宗学概論 2	2	2	必修	選択必修	選択	選択	田村 巨禰		
	宗史概論 1	2	2・3	選択必修	選択	選択	選択	本間 俊文		
	宗史概論 2	2	2・3	選択必修	選択	選択	選択	本間 俊文		
	法華経概論 1	2	3	必修	選択必修	選択	選択	原 慎定		
	法華経概論 2	2	3	必修	選択必修	選択	選択	原 慎定		
	宗学史概論 1	2	3	選択必修	選択	自由科目	自由科目	田村 巨禰		
	宗学史概論 2	2	3	選択必修	選択	自由科目	自由科目	田村 巨禰		
	開目抄講義 1	2	3	選択必修	選択	自由科目	自由科目	三輪 是法		
	開目抄講義 2	2	3	選択必修	選択	自由科目	自由科目	三輪 是法		
観心本尊抄講義 1	2	4	選択必修	選択	自由科目	自由科目	原 慎定			
観心本尊抄講義 2	2	4	選択必修	選択	自由科目	自由科目	原 慎定			
学際領域系	哲学とは何か A	2	2	選択	選択	選択	選択	湯浅 正彦		
	哲学とは何か B	2	2	選択	選択	選択	選択	長倉 誠一		
	倫理学とは何か A	2	2	選択	選択	選択	選択	小館 貴幸		
	倫理学とは何か B	2	2	選択	選択	選択	選択	木村 史人		
	心理学概論Ⅰ	2	3・4	選択	選択	選択	選択	久田 満		
心理学概論Ⅱ	2	3・4	選択	選択	選択	選択	久田 満			

※「海外仏教文化研修2」「国内仏教文化研修2」は、事前・事後学習会を行います。掲示等で発表される開催日に注意すること。

## 学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。

区分	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		担当者	講義概要 参照方法	備考
				法華仏教	日本仏教	思想歴史	文化芸術			
	Introduction to Cultures of the World 1(世界の文明1)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	杉 亜希子	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 2(世界の文明2)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	杉 亜希子	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 3(東アジア文化1)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	オーラ ベン	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 4(東アジア文化2)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	オーラ ベン	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 5(世界遺産1)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	伊藤 真悟	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 6(世界遺産2)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	伊藤 真悟	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 7(日本文化1)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択		Web	本年度休講
	Introduction to Cultures of the World 8(日本文化2)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択		Web	本年度休講
	Introduction to Cultures of the World 9(日本の歴史1)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択		Web	本年度休講
	Introduction to Cultures of the World 10(日本の歴史2)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択		Web	本年度休講
	Introduction to Cultures of the World 11(日本文化3)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	亀井ダイチ利子	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 12(日本文化4)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	亀井ダイチ利子	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 13(日本の歴史3)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	亀井ダイチ利子	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 14(日本の歴史4)	2	1・2・3・4	選択	選択	選択	選択	亀井ダイチ利子	Web	文学部開設
	哲学の基本諸問題	2	2	選択	選択	選択	選択	武内 大		文学部開設
	倫理学の基本諸問題A	2	2	選択	選択	選択	選択			文学部開設
	倫理学の基本諸問題B	2	2	選択	選択	選択	選択	木村 史人		文学部開設
	キリスト教思想1	2	3・4	選択	選択	選択	選択	土居 由美		文学部開設
	キリスト教思想2	2	3・4	選択	選択	選択	選択	土居 由美		文学部開設
	民俗学1	2	3・4	選択	選択	選択	選択	加藤 紫識		文学部開設
	民俗学2	2	3・4	選択	選択	選択	選択	加藤 紫識		文学部開設
	家族社会学	2	2・3・4	自由科目	自由科目	自由科目	自由科目	石川由香里	Web	文学部開設*
	政治社会学	2	2・3・4	自由科目	自由科目	自由科目	自由科目		Web	本年度休講
	都市社会学	2	2・3・4	自由科目	自由科目	自由科目	自由科目	小浜ふみ子	Web	文学部開設*
	憲法	2	2・3・4	自由科目	自由科目	自由科目	自由科目	鄭 裕静	Web	経済学部開設*
	民法	2	2・3・4	自由科目	自由科目	自由科目	自由科目	戸田 知行	Web	経済学部開設*
	ミクロ経済学基礎A	2	2・3・4	自由科目	自由科目	自由科目	自由科目	山口 和男	Web	経済学部開設*
	マクロ経済学基礎A	2	2・3・4	自由科目	自由科目	自由科目	自由科目	山口 和男	Web	経済学部開設*

※自由科目は卒業基準単位数に含まれないので注意すること。

## 5. 開設科目とその履修方法

【平成29（2017）～平成31（2019）年度入学】

宗 学 科 法華仏教コース

日本仏教コース



## 5 宗学科〔平成29(2017)～31(2019)年度入学〕

### 1 卒業基準単位

宗学科生〔平成29(2017)～31(2019)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次のとおりである。

宗学科の卒業基準単位

教養的 科 目	一般教育科目	20単位以上	
	発展教養科目		
	外国語科目	4単位以上	
専 門 科 目	必 修 科 目	28単位	必修・選択必修・選択をあわせて84単位以上
	選択必修科目	24単位以上	
	選 択 科 目		
合 計		124単位以上	

教養的科目は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上、専門科目は、卒業論文8単位を含め、必修科目（28単位）、選択必修科目（24単位以上）、選択科目あわせて84単位以上、合計124単位以上である。

例えば、一般教育科目24単位、外国語科目4単位、専門科目の必修科目28単位（卒業論文含む）、選択必修科目42単位、選択科目26単位を修得すれば、合計124単位となり卒業要件を満たす。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

一般教育科目の「キャリア開発基礎講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目中、1科目2単位以上が**選択必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

### 2 受講時間帯

宗学科生の受講時間帯は、品川キャンパス1～7時限（9時～21時10分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

### 3 セメスター制

教養的科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な専門知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、年度の半期で開講される形態であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。年間履修登録単位数の上限以内で、第2期科目を所定の第2期追加履修登録期間中に追加履修登録することも可能となっているが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出ることができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を

行わなければならない。

#### 4 選択必修科目

選択必修科目は12科目24単位以上を修得しなければならない。

#### 5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

学 年	年間履修登録単位数の上限	第1期履修登録単位数の上限	第2期履修登録単位数の上限	備 考
1年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2年	42	24	24	
3年	42	24	24	
4年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

#### 6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

##### 進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 宗学基礎演習1、宗学基礎演習2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

#### 7 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。宗学科生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を宗学科の専門科目（選択科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

##### 履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画をたてること。
- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。

## 宗学科〔平成29(2017)～31(2019)年度入学〕専門科目開設表

## 《法華仏教コース及び日本仏教コース》

授業科目	単位	履修年次	区分		担当者	講義概要 参照方法	備考
			法華仏教	日本仏教			
宗学基礎演習1	A	2	1	必修	必修		本年度休講
宗学基礎演習1	B	2	1	必修	必修		本年度休講
宗学基礎演習2	A	2	1	必修	必修		本年度休講
宗学基礎演習2	B	2	1	必修	必修		本年度休講
宗学概論	1	2	2	必修	選択必修	田村 巨禰	
宗学概論	2	2	2	必修	選択必修	田村 巨禰	
法華経概論	1	2	3	必修	必修	原 慎定	
法華経概論	2	2	3	必修	必修	原 慎定	
ゼミナール	1	2	3	必修	必修	安中 尚史	
ゼミナール	1	2	3	必修	必修	原 慎定	
ゼミナール	1	2	3	必修	必修	三輪 是法	
ゼミナール	1	2	3	必修	必修	田村 巨禰	
ゼミナール	1	2	3	必修	必修	本間 俊文	
ゼミナール	2	2	3	必修	必修	安中 尚史	
ゼミナール	2	2	3	必修	必修	原 慎定	
ゼミナール	2	2	3	必修	必修	三輪 是法	
ゼミナール	2	2	3	必修	必修	田村 巨禰	
ゼミナール	2	2	3	必修	必修	本間 俊文	
ゼミナール	2	2	3	必修	必修	安中 尚史	
ゼミナール	3	2	4	必修	必修	原 慎定	
ゼミナール	3	2	4	必修	必修	三輪 是法	
ゼミナール	3	2	4	必修	必修	田村 巨禰	
ゼミナール	3	2	4	必修	必修	本間 俊文	
ゼミナール	4	2	4	必修	必修	安中 尚史	
ゼミナール	4	2	4	必修	必修	原 慎定	
ゼミナール	4	2	4	必修	必修	三輪 是法	
ゼミナール	4	2	4	必修	必修	田村 巨禰	
ゼミナール	4	2	4	必修	必修	本間 俊文	
卒業論文	文	8	4	必修	必修	仏教学部教員	
日蓮聖人伝	1	2	2	選択必修	選択必修	本間 俊文	
日蓮聖人伝	2	2	2	選択必修	選択必修	本間 俊文	
立正安国論講義	1	2	2	選択必修	選択	三輪 是法	
立正安国論講義	2	2	2	選択必修	選択	三輪 是法	
開目抄講義	1	2	3	選択必修	選択	三輪 是法	
開目抄講義	2	2	3	選択必修	選択	三輪 是法	
観心本尊抄講義	1	2	4	選択必修	選択	原 慎定	
観心本尊抄講義	2	2	4	選択必修	選択	原 慎定	
仏教概論	1	2	2	選択必修	選択必修	則武 海源	メディア授業
仏教概論	2	2	2	選択必修	選択必修	則武 海源	メディア授業
宗史概論	1	2	2	選択必修	選択	本間 俊文	
宗史概論	2	2	2	選択必修	選択	本間 俊文	
宗学史概論	1	2	3	選択必修	選択	田村 巨禰	
宗学史概論	2	2	3	選択必修	選択	田村 巨禰	
天台学概論	1	2	2・3	選択必修	選択必修	田村 巨禰	メディア授業
天台学概論	2	2	2・3	選択必修	選択必修	田村 巨禰	メディア授業
日本仏教史	1	2	2・3	選択必修	必修	安中 尚史	メディア授業
日本仏教史	2	2	2・3	選択必修	必修	安中 尚史	
日蓮遺文研究	1	2	2・3	選択必修	選択	木村 中一	
日蓮遺文研究	2	2	2・3	選択必修	選択	木村 中一	
史料演習	1	2	2	選択必修	選択必修	戸田 教敬	
史料演習	2	2	2	選択必修	選択必修	戸田 教敬	
史料演習	3	2	3	選択必修	選択必修	戸田 教敬	
史料演習	4	2	3	選択必修	選択必修	戸田 教敬	



授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	区 分		担 当 者	講 義 概 要 参 照 方 法	備 考
			法 華 仏 教	日 本 仏 教			
日 本 仏 教 思 想 特 講	1	2	3・4	選 択	選 択 必 修	都 守 基 一	
日 本 仏 教 思 想 特 講	2	2	3・4	選 択	選 択 必 修	久 保 田 正 宏	
日 本 仏 教 史 特 講	1	2	3・4	選 択	選 択 必 修	本 間 俊 文	
日 本 仏 教 史 特 講	2	2	3・4	選 択	選 択 必 修	本 間 俊 文	
禅 学 概 論	1	2	2・3・4	選 択	選 択		本 年 度 休 講
禅 学 概 論	2	2	2・3・4	選 択	選 択		本 年 度 休 講
浄 土 学 概 論	1	2	2・3・4	選 択	選 択		本 年 度 休 講
浄 土 学 概 論	2	2	2・3・4	選 択	選 択		本 年 度 休 講
真 言 学 概 論	1	2	2・3・4	選 択	選 択	堀 内 規 之	
真 言 学 概 論	2	2	2・3・4	選 択	選 択	堀 内 規 之	
イ ン ド 仏 教 史	1	2	1	選 択	選 択	高 橋 堯 英	
イ ン ド 仏 教 史	2	2	2	選 択	選 択	高 橋 堯 英	メ デ ィ ア 授 業
中 国 仏 教 史	1	2	2	選 択	選 択	手 島 一 真	メ デ ィ ア 授 業
中 国 仏 教 史	2	2	2	選 択	選 択	手 島 一 真	メ デ ィ ア 授 業
仏 教 史 特 講	1	2	2・3・4	選 択	選 択 必 修	手 島 一 真	
仏 教 史 特 講	2	2	2・3・4	選 択	選 択 必 修		本 年 度 休 講
仏 教 史 特 講	3	2	2・3・4	選 択	選 択 必 修	中 井 本 勝	
仏 教 史 特 講	4	2	2・3・4	選 択	選 択 必 修		本 年 度 休 講
法 華 思 想 史	1	2	2・3・4	選 択	選 択		本 年 度 休 講
法 華 思 想 史	2	2	2・3・4	選 択	選 択		本 年 度 休 講
サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級 I (宗 学 科)	2	2	1	選 択	選 択	戸 田 裕 久	
サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級 II (宗 学 科)	2	2	1	選 択	選 択	戸 田 裕 久	
サ ン ス ク リ ッ ト 語 中 級 I	2	2	2	選 択	選 択	伊 藤 瑞 康	
サ ン ス ク リ ッ ト 語 中 級 II	2	2	2	選 択	選 択	伊 藤 瑞 康	
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講	1	2	3・4	選 択	選 択	木 村 紫	
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講	2	2	3・4	選 択	選 択		本 年 度 休 講
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講	3	2	3・4	選 択	選 択	伊 藤 瑞 康	
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講	4	2	3・4	選 択	選 択	伊 藤 瑞 康	
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講	5	2	3・4	選 択	選 択		2017年 度 入 学 生 の み 履 修 可 能 本 年 度 休 講
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講	6	2	3・4	選 択	選 択		2017年 度 入 学 生 の み 履 修 可 能 本 年 度 休 講
世 界 の 宗 教 地 理	1	2	2	選 択	選 択	則 武 海 源	
世 界 の 宗 教 地 理	2	2	2	選 択	選 択	則 武 海 源	
日 本 文 化 史	1	2	1・2	選 択	選 択 必 修		本 年 度 休 講
日 本 文 化 史	2	2	1・2	選 択	選 択 必 修	本 間 俊 文	
東 洋 文 化 史	1	2	1・2	選 択	選 択	手 島 一 真	
東 洋 文 化 史	2	2	1・2	選 択	選 択	手 島 一 真	
ア ジ ア 文 化 史	1	2	1・2	選 択	選 択	久 保 真 紀 子	
ア ジ ア 文 化 史	2	2	1・2	選 択	選 択	久 保 真 紀 子	
仏 教 文 化 史 特 講	1	2	2	選 択	選 択	久 保 真 紀 子	
仏 教 文 化 史 特 講	2	2	2	選 択	選 択	久 保 真 紀 子	
仏 教 文 化 史 特 講	3	2	2	選 択	選 択	内 藤 善 之	
仏 教 文 化 史 特 講	4	2	2	選 択	選 択		本 年 度 休 講
仏 教 文 化 史 特 講	5	2	2	選 択	選 択		2017年 度 入 学 生 の み 履 修 可 能 本 年 度 休 講
仏 教 文 化 史 特 講	6	2	2	選 択	選 択		2017年 度 入 学 生 の み 履 修 可 能 本 年 度 休 講
ア ジ ア 美 術 史	1	2	2	選 択	選 択	久 保 真 紀 子	
ア ジ ア 美 術 史	2	2	2	選 択	選 択	久 保 真 紀 子	
日 本 美 術 史	1	2	2	選 択	選 択	安 田 治 樹	
日 本 美 術 史	2	2	2	選 択	選 択	安 田 治 樹	
芸 術 研 究	1	2	2・3・4	選 択	選 択	渡 辺 貴 彦	
芸 術 研 究	2	2	2・3・4	選 択	選 択	渡 辺 貴 彦	
芸 術 研 究	3	2	2・3・4	選 択	選 択		本 年 度 休 講
芸 術 研 究	4	2	2・3・4	選 択	選 択		本 年 度 休 講

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	区 分		担 当 者	講 義 概 要 参 照 方 法	備 考
			法 華 仏 教	日 本 仏 教			
芸術研究	5	2	2・3・4	選択	選択	高島 一郎	
芸術実習基礎 A	4	4	1・2	選択	選択	秋田 貴廣	2時限連続授業 本年度休講
芸術実習基礎 B	4	4	1・2	選択	選択		
文化財論	1	2	2・3・4	選択	選択	秋田 貴廣	
文化財論	2	2	2・3・4	選択	選択	秋田 貴廣	
文化財修復概説	2	2	2・3・4	選択	選択		2017年度入学生は履修不可 本年度休講
文化財修復概説 1	2	2	2・3・4	選択	選択		2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
文化財修復概説 2	2	2	2・3・4	選択	選択		2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
海外仏教文化研修 1	2	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
海外仏教文化研修 2	2	2	1・2・3・4	選択	選択	三輪 是法/ 則武 海源	本年度休講
海外仏教文化研修 3	2	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
海外仏教文化研修 4	2	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
国内仏教文化研修 1	2	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
国内仏教文化研修 2	2	2	1・2・3・4	選択	選択	秋田 貴廣/ 本間 俊文	本年度休講
国内仏教文化研修 3	2	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
国内仏教文化研修 4	2	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
世界の言語と文化[英語Ⅰ]	2	2	1・2・3・4	選択	選択	戸田 裕久	
世界の言語と文化[英語Ⅱ]	2	2	1・2・3・4	選択	選択	戸田 裕久	
世界の言語と文化[中国語Ⅰ]	2	2	1・2・3・4	選択	選択	方 亜平	
世界の言語と文化[中国語Ⅱ]	2	2	1・2・3・4	選択	選択	方 亜平	
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅰ]	2	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅱ]	2	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
世界の言語と文化[フランス語Ⅰ]	2	2	1・2・3・4	選択	選択	久保真紀子	
世界の言語と文化[フランス語Ⅱ]	2	2	1・2・3・4	選択	選択	久保真紀子	
世界の言語と文化[ハンガール]	2	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
世界の言語と文化[ヒンディー語]	2	2	1・2・3・4	選択	選択	安永 有希	
人文科学とコンピュータ	2	2	2	選択	選択		本年度休講
仏教カウンセリング	2	2	2・3・4	選択	選択	横畑 泰希	メディア授業
仏教デス・エデュケーション	2	2	2・3・4	選択	選択	武田 悟一	メディア授業
現代宗教研究	2	2	2・3・4	選択	選択	安中 尚史	メディア授業
宗教法	2	2	2・3・4	選択	選択	山本 展也	メディア授業
社会と宗教 1	2	2	2・3・4	選択	選択	小高 絢子	
社会と宗教 2	2	2	2・3・4	選択	選択		本年度休講
宗教とは何か	2	2	2・3・4	選択	選択	戸田 裕久	
宗教の文化	2	2	2・3・4	選択	選択	松野 智章	
宗教の史的展開	2	2	2・3・4	選択	選択	戸田 裕久	
宗教文化史概論	2	2	2・3・4	選択	選択		本年度休講
宗教社会学	2	2	2・3・4	選択	選択		本年度休講
宗教哲学	2	2	2・3・4	選択	選択	松野 智章	
宗教心理学	2	2	2・3・4	選択	選択		本年度休講
哲学とは何か A	2	2	2	選択	選択	湯浅 正彦	他学部開講科目
哲学とは何か B	2	2	2	選択	選択	長倉 誠一	他学部開講科目
倫理学とは何か A	2	2	2	選択	選択	小館 貴幸	他学部開講科目
倫理学とは何か B	2	2	2	選択	選択	木村 史人	他学部開講科目
心理学概論Ⅰ	2	2	3・4	選択	選択	久田 満	他学部開講科目
心理学概論Ⅱ	2	2	3・4	選択	選択	久田 満	他学部開講科目

※「海外仏教文化研修2」「国内仏教文化研修2」は、事前・事後学習会を行います。掲示等で発表される開催日に注意すること。

## 学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。  
 なお、講義概要は Web シラバス検索にて確認すること。

授 業 科 目	単位	履修年次	区分		担当者	講義概要 参照方法	備 考
			法華仏教	日本仏教			
Introduction to Cultures of the World 1〈世界の文明 1〉	2	1・2・3・4	選択	選択	杉 亜希子	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 2〈世界の文明 2〉	2	1・2・3・4	選択	選択	杉 亜希子	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 3〈東アジア文化 1〉	2	1・2・3・4	選択	選択	オーラ ベン	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 4〈東アジア文化 2〉	2	1・2・3・4	選択	選択	オーラ ベン	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 5〈世界遺産 1〉	2	1・2・3・4	選択	選択	伊藤 真悟	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 6〈世界遺産 2〉	2	1・2・3・4	選択	選択	伊藤 真悟	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 7〈日本文化 1〉	2	1・2・3・4	選択	選択		Web	本年度休講
Introduction to Cultures of the World 8〈日本文化 2〉	2	1・2・3・4	選択	選択		Web	本年度休講
Introduction to Cultures of the World 9〈日本の歴史 1〉	2	1・2・3・4	選択	選択		Web	本年度休講
Introduction to Cultures of the World 10〈日本の歴史 2〉	2	1・2・3・4	選択	選択		Web	本年度休講
Introduction to Cultures of the World 11〈日本文化 3〉	2	1・2・3・4	選択	選択	亀井ダイ子利子	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 12〈日本文化 4〉	2	1・2・3・4	選択	選択	亀井ダイ子利子	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 13〈日本の歴史 3〉	2	1・2・3・4	選択	選択	亀井ダイ子利子	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 14〈日本の歴史 4〉	2	1・2・3・4	選択	選択	亀井ダイ子利子	Web	文学部開設
哲学の基本諸問題	2	2	選択	選択	武内 大		文学部開設
倫理学の基本諸問題 A	2	2	選択	選択			本年度休講
倫理学の基本諸問題 B	2	2	選択	選択	木村 史人		文学部開設
キリスト教思想 1	2	3・4	選択	選択	土居 由美		文学部開設
キリスト教思想 2	2	3・4	選択	選択	土居 由美		文学部開設
民俗学 1	2	3・4	選択	選択	加藤 紫識		文学部開設
民俗学 2	2	3・4	選択	選択	加藤 紫識		文学部開設
家族社会学	2	2・3・4	自由科目	自由科目	石川由香里	Web	文学部開設*
政治社会学	2	2・3・4	自由科目	自由科目		Web	本年度休講
都市社会学	2	2・3・4	自由科目	自由科目	小浜ふみ子	Web	文学部開設*
憲法	2	2・3・4	自由科目	自由科目	鄭 裕静	Web	経済学部開設*
民法	2	2・3・4	自由科目	自由科目	戸田 知行	Web	経済学部開設*
ミクロ経済学基礎 A	2	2・3・4	自由科目	自由科目	山口 和男	Web	経済学部開設*
マクロ経済学基礎 A	2	2・3・4	自由科目	自由科目	山口 和男	Web	経済学部開設*

※自由科目は卒業基準単位数に含まれないので注意すること。

## 6. 開設科目とその履修方法

【平成28（2016）～平成31（2019）年度入学】

仏教学科 思想・歴史コース

文化・芸術コース



## 6 仏教学科〔平成28(2016)～31(2019)年度入学〕

### 1 卒業基準単位

仏教学科生〔平成28(2016)～31(2019)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次のとおりである。

仏教学科の卒業基準単位

教養的 科 目	一般教育科目	20単位以上	
	発展教養科目		
	外国語科目	4単位以上	
専 門 科 目	必 修 科 目	24単位	必修・選択必修1群・ 選択必修2群・選択・ 関連領域をあわせて 84単位以上
	選択必修科目1群	24単位以上	
	選択必修科目2群	8単位以上 (2018、2019年度入学生) 16単位以上 (2016、2017年度入学生)	
	選 択 科 目		
	関連領域科目		
合 計		124単位以上	

教養の科目は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上、専門科目は、卒業論文8単位を含め、必修科目(24単位)、選択必修科目1群(24単位以上)、選択必修科目2群(2016、2017年度入学生は16単位以上。2018、2019年度入学生は8単位以上)、選択科目、関連領域科目あわせて84単位以上、合計124単位以上である。

例えば、一般教育科目24単位、外国語科目4単位、専門科目の必修科目24単位(卒論含む)、選択必修科目44単位、選択科目28単位を修得すれば、合計124単位となり卒業要件を満たす。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

一般教育科目の「キャリア開発基礎講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目中、1科目2単位以上が**選択必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

### 2 受講時間帯

仏教学科生の受講時間帯は、品川キャンパス1～7時限(9時～21時10分)である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

### 3 セメスター制

教養の科目・専門科目(一部科目を除く)は、多様な知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、年度の半期で開講される形態であり、第1期(前期)・第2期(後期)においてそれぞれ単位が認定される。第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。第2期開講科目については、年間履修登録単位数の上限以内で所定の第2期追加履修登録期間中に追加履修登録することも可能となっているが、履修を希望する第

2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出ることができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を行わなければならない。

#### 4 選択必修科目

選択必修科目は1群と2群に分かれる。各コースの必要単位数は次表のとおりである。

コース	選択必修1群	選択必修2群 (2016、2017年度入学生)	選択必修2群 (2018、2019年度入学生)
思想・歴史 コース	20科目40単位中	18科目36単位中 8科目16単位以上	15科目30単位中 8単位以上
文化・芸術 コース	12科目24単位以上	19科目40単位中 8科目16単位以上	15科目32単位中 8単位以上

#### 5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

学年	年間 履修登録単位数の上限	第1期 履修登録単位数の上限	第2期 履修登録単位数の上限	備考
1年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2年	42	24	24	
3年	42	24	24	
4年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

#### 6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

##### 進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 仏教学基礎演習1、仏教学基礎演習2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

#### 7 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。仏教学科生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を仏教学科の専門科目（関連領域科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

##### 履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画をたてること。

- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。



仏教学科〔平成28(2016)～31(2019)年度入学〕専門科目開設表

《思想・歴史コース及び文化・芸術コース》

	授 業 科 目	単位	履修年次	区分		担当者	備 考
				思想歴史	文化芸術		
	●統括科目 卒業論文	8	4	必修	必修	仏教学部教員	
	●基礎・演習系						
	仏 教 学 基 礎 演 習 1 A	2	1	必修	必修	日比 宣仁	
	仏 教 学 基 礎 演 習 2 A	2	1	必修	必修	日比 宣仁	
	仏 教 学 基 礎 演 習 3 A	2	2	必修	必修	日比 宣仁	
	仏 教 学 基 礎 演 習 3 B	2	2	必修	必修	日比 宣仁	
	仏 教 学 基 礎 演 習 3 C	2	2	必修	必修	日比 宣仁	
	仏 教 学 基 礎 演 習 3 D	2	2	必修	必修	戸田 教敏	
	仏 教 学 基 礎 演 習 4 A	2	2	必修	必修	日比 宣仁	
	仏 教 学 基 礎 演 習 4 B	2	2	必修	必修	日比 宣仁	
	仏 教 学 基 礎 演 習 4 C	2	2	必修	必修	日比 宣仁	
	仏 教 学 基 礎 演 習 4 D	2	2	必修	必修	戸田 教敏	
	ゼ ミ ナ ー ル 1	2	3	必修	必修	秋田 貴廣	
	ゼ ミ ナ ー ル 1	2	3	必修	必修	高橋 堯英	
	ゼ ミ ナ ー ル 1	2	3	必修	必修	手島 一真	
	ゼ ミ ナ ー ル 1	2	3	必修	必修	戸田 裕久	
	ゼ ミ ナ ー ル 1	2	3	必修	必修	則武 海源	
	ゼ ミ ナ ー ル 1	2	3	必修	必修	久保真紀子	
	ゼ ミ ナ ー ル 2	2	3	必修	必修	秋田 貴廣	
	ゼ ミ ナ ー ル 2	2	3	必修	必修	高橋 堯英	
	ゼ ミ ナ ー ル 2	2	3	必修	必修	手島 一真	
	ゼ ミ ナ ー ル 2	2	3	必修	必修	戸田 裕久	
	ゼ ミ ナ ー ル 2	2	3	必修	必修	則武 海源	
	ゼ ミ ナ ー ル 2	2	3	必修	必修	久保真紀子	
	ゼ ミ ナ ー ル 3	2	4	必修	必修	秋田 貴廣	
	ゼ ミ ナ ー ル 3	2	4	必修	必修	高橋 堯英	
	ゼ ミ ナ ー ル 3	2	4	必修	必修	手島 一真	
	ゼ ミ ナ ー ル 3	2	4	必修	必修	戸田 裕久	
	ゼ ミ ナ ー ル 3	2	4	必修	必修	則武 海源	
	ゼ ミ ナ ー ル 3	2	4	必修	必修	久保真紀子	
	ゼ ミ ナ ー ル 4	2	4	必修	必修	秋田 貴廣	
	ゼ ミ ナ ー ル 4	2	4	必修	必修	高橋 堯英	
	ゼ ミ ナ ー ル 4	2	4	必修	必修	手島 一真	
	ゼ ミ ナ ー ル 4	2	4	必修	必修	戸田 裕久	
	ゼ ミ ナ ー ル 4	2	4	必修	必修	則武 海源	
	ゼ ミ ナ ー ル 4	2	4	必修	必修	久保真紀子	
	海 外 仏 教 文 化 研 修 1	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
	海 外 仏 教 文 化 研 修 2	2	1・2・3・4	選択	選択	三輪 是法/ 則武 海源	
	海 外 仏 教 文 化 研 修 3	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
	海 外 仏 教 文 化 研 修 4	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
	国 内 仏 教 文 化 研 修 1	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
	国 内 仏 教 文 化 研 修 2	2	1・2・3・4	選択	選択	秋田 貴廣/ 本間 俊文	
	国 内 仏 教 文 化 研 修 3	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
	国 内 仏 教 文 化 研 修 4	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
	●言語・スキル系						
	サンスクリット語初級Ⅰ(仏教学科)	2	1	選択必修1群	選択必修1群	戸田 裕久	
	サンスクリット語初級Ⅱ(仏教学科)	2	1	選択必修1群	選択必修1群	戸田 裕久	
	サンスクリット語中級Ⅰ	2	2	選択必修1群	選択必修1群	伊藤 瑞康	
	サンスクリット語中級Ⅱ	2	2	選択必修1群	選択必修1群	伊藤 瑞康	
	世界の言語と文化〔英語Ⅰ〕	2	1・2・3・4	選択	選択	戸田 裕久	

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	区 分		担 当 者	備 考
			思 想 歴 史	文 化 芸 術		
世界の言語と文化[英語Ⅱ]	2	1・2・3・4	選択	選択	戸田 裕久	
世界の言語と文化[中国語Ⅰ]	2	1・2・3・4	選択	選択	方 亜平	
世界の言語と文化[中国語Ⅱ]	2	1・2・3・4	選択	選択	方 亜平	
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅰ]	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅱ]	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
世界の言語と文化[フランス語Ⅰ]	2	1・2・3・4	選択	選択	久保真紀子	
世界の言語と文化[フランス語Ⅱ]	2	1・2・3・4	選択	選択	久保真紀子	
世界の言語と文化[ハンガール]	2	1・2・3・4	選択	選択		本年度休講
世界の言語と文化[ヒンディー語]	2	1・2・3・4	選択	選択	安永 有希	
人文科学とコンピュータ	2	2・3	選択	選択		本年度休講
<b>●基礎・基幹系</b>						
アジア文化史 1	2	1	選択必修1群	選択必修1群	久保真紀子	
アジア文化史 2	2	1	選択必修1群	選択必修1群	久保真紀子	
東洋文化史 1	2	1	選択必修1群	選択必修1群	手島 一真	
東洋文化史 2	2	1	選択必修1群	選択必修1群	手島 一真	
日本文化史 1	2	1	選択必修1群	選択必修1群		本年度休講
日本文化史 2	2	1	選択必修1群	選択必修1群	本間 俊文	
インド仏教史 1	2	1	選択必修1群	選択必修1群	高橋 堯英	
インド仏教史 2	2	2	選択必修1群	選択必修1群	高橋 堯英	メディア授業
中国仏教史 1	2	2	選択必修1群	選択必修1群	手島 一真	メディア授業
中国仏教史 2	2	2	選択必修1群	選択必修1群	手島 一真	メディア授業
日本仏教史 1	2	2	選択必修1群	選択必修1群	安中 尚史	メディア授業
日本仏教史 2	2	2	選択必修1群	選択必修1群	安中 尚史	
仏教概論 1	2	2	選択必修1群	選択必修1群	則武 海源	メディア授業
仏教概論 2	2	2	選択必修1群	選択必修1群	則武 海源	メディア授業
法華思想史 1	2	2	選択必修1群	選択必修1群		本年度休講
法華思想史 2	2	2	選択必修1群	選択必修1群		本年度休講
<b>●言語系</b>						
パ ー リ 語 入 門	2	2・3	選択必修2群	選択		本年度休講
チ ベ ッ ト 語 入 門	2	2・3	選択必修2群	選択		本年度休講
<b>●思想・思想史系</b>						
インド思想史 1	2	2・3	選択必修2群	選択	友成 有紀	
インド思想史 2	2	2・3	選択必修2群	選択	友成 有紀	
インド哲学仏教学特講 1	2	2・3	選択必修2群	選択	木村 紫	
インド哲学仏教学特講 2	2	2・3	選択必修2群	選択		本年度休講
インド哲学仏教学特講 3	2	2・3	選択必修2群	選択	伊藤 瑞康	
インド哲学仏教学特講 4	2	2・3	選択必修2群	選択	伊藤 瑞康	
インド哲学仏教学特講 5	2	2・3	選択必修2群	選択		2016,2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
インド哲学仏教学特講 6	2	2・3	選択必修2群	選択		2016,2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
仏教史特講 1	2	2・3	選択必修2群	選択	手島 一真	
仏教史特講 2	2	2・3	選択必修2群	選択		本年度休講
仏教史特講 3	2	2・3	選択必修2群	選択	中井 本勝	
仏教史特講 4	2	2・3	選択必修2群	選択		本年度休講
天台学概論 1	2	2・3	選択必修2群	選択	田村 巨禰	メディア授業
天台学概論 2	2	2・3	選択必修2群	選択	田村 巨禰	メディア授業
比較思想論	2	2・3	選択必修2群	選択		2016,2017年度入学生は履修不可 本年度休講
比較思想論 1	2	2・3	選択必修2群	選択		2016,2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
比較思想論 2	2	2・3	選択必修2群	選択		2016,2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講

両コース共通基礎科目

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	区 分		担 当 者	備 考
			思 想 歴 史	文 化 芸 術		
<b>●各宗派教学・教団史系</b>						
禅学概論	1	2	2・3・4	選択	選択	堀内 規之 堀内 規之 都守 基一 久保田正宏 本間 俊文 本間 俊文
禅学概論	2	2	2・3・4	選択	選択	
浄土学概論	1	2	2・3・4	選択	選択	
浄土学概論	2	2	2・3・4	選択	選択	
真言学概論	1	2	2・3・4	選択	選択	
真言学概論	2	2	2・3・4	選択	選択	
日本仏教思想特講	1	2	3・4	選択	選択	
日本仏教思想特講	2	2	3・4	選択	選択	
日本仏教史特講	1	2	3・4	選択	選択	
日本仏教史特講	2	2	3・4	選択	選択	
<b>●文化史・文化財系</b>						
アジア美術史	1	2	2・3	選択	選択必修2群	久保真紀子
アジア美術史	2	2	2・3	選択	選択必修2群	久保真紀子
日本美術史	1	2	2・3	選択	選択必修2群	安田 治樹
日本美術史	2	2	2・3	選択	選択必修2群	安田 治樹
世界の宗教地理	1	2	2・3	選択	選択必修2群	則武 海源
世界の宗教地理	2	2	2・3	選択	選択必修2群	則武 海源
仏教文化史特講	1	2	2・3	選択	選択必修2群	久保真紀子
仏教文化史特講	2	2	2・3	選択	選択必修2群	久保真紀子
仏教文化史特講	3	2	2・3	選択	選択必修2群	内藤 善之
仏教文化史特講	4	2	2・3	選択	選択必修2群	
仏教文化史特講	5	2	2・3	選択	選択必修2群	本年度休講
仏教文化史特講	6	2	2・3	選択	選択必修2群	2016,2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
比較文化特講	2	2	2・3	選択	選択必修2群	2016,2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
比較文化特講	1	2	2・3	選択	選択必修2群	2016,2017年度入学生は履修不可 本年度休講
比較文化特講	2	2	2・3	選択	選択必修2群	2016,2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
比較宗教文化論	2	2	2・3	選択	選択必修2群	則武 海源
比較宗教文化論	1	2	2・3	選択	選択必修2群	則武 海源
比較宗教文化論	2	2	2・3	選択	選択必修2群	2016,2017年度入学生は履修不可 2016,2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
文化財論	1	2	2・3	選択	選択必修2群	秋田 貴廣 秋田 貴廣
文化財論	2	2	2・3	選択	選択必修2群	
仏教考古学研究	1	2	2・3・4	選択	選択	池上 悟
仏教考古学研究	2	2	2・3・4	選択	選択	
文化財修復概説	2	2	2・3・4	選択	選択	2016,2017年度入学生は履修不可 本年度休講
文化財修復概説	1	2	2・3・4	選択	選択	2016,2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
文化財修復概説	2	2	2・3・4	選択	選択	2016,2017年度入学生のみ履修可能 本年度休講
<b>●芸術実習系</b>						
芸術実習基礎	A	4	1・2	選択	選択必修2群	秋田 貴廣
芸術実習基礎	B	4	1・2	選択	選択必修2群	
芸術実習〔仏像Ⅰ〕	A	4	2・3	選択	選択	秋田 貴廣 伊加利庄平
芸術実習〔仏像Ⅰ〕	B	4	2・3	選択	選択	
芸術実習〔仏画Ⅰ〕	4	4	2・3	選択	選択	橋岡 昭男
芸術実習〔仏像Ⅱ〕	A	4	4	選択	選択	
芸術実習〔仏像Ⅱ〕	B	4	4	選択	選択	秋田 貴廣 伊加利庄平
芸術実習〔仏画Ⅱ〕	4	4	4	選択	選択	
芸術実習〔仏画Ⅱ〕	4	4	4	選択	選択	橋岡 昭男

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	区 分		担 当 者	備 考
			思 想 歴 史	文 化 芸 術		
<b>●宗教学系</b>						
宗 教 と は 何 か	2	2・3・4	関連領域	関連領域	戸田 裕久	2016年度入学生は履修不可
宗 教 の 文 化	2	2・3・4	関連領域	関連領域	松野 智章	2016年度入学生は履修不可
宗 教 の 史 的 展 開	2	2・3・4	関連領域	関連領域	戸田 裕久	2016年度入学生は履修不可
宗 教 文 化 史 概 論	2	2・3・4	関連領域	関連領域		2016年度入学生は履修不可 本年度休講
宗 教 学 概 説	2	2・3・4	関連領域	関連領域	戸田 裕久	2016年度入学生のみ履修可能
宗 教 史 概 説 学	2	2・3・4	関連領域	関連領域	戸田 裕久	2016年度入学生のみ履修可能
宗 教 哲 学	2	2・3・4	関連領域	関連領域	松野 智章	
<b>●現代宗教学系</b>						
宗 教 社 会 学	2	2・3・4	関連領域	関連領域		本年度休講
宗 教 心 理 学	2	2・3・4	関連領域	関連領域		本年度休講
社 会 と 宗 教 1	2	2・3・4	関連領域	関連領域	小高 絢子	
社 会 と 宗 教 2	2	2・3・4	関連領域	関連領域		本年度休講
仏 教 カ ウ ン セ リ ン グ	2	2・3・4	関連領域	関連領域	横畑 泰希	メディア授業
仏 教 デ ス ・ エ デ ュ ケ ー シ ョ ン	2	2・3・4	関連領域	関連領域	武田 悟一	メディア授業
<b>●伝統文化系</b>						
芸 術 研 究 1	2	2・3・4	関連領域	関連領域	渡辺 貴彦	
芸 術 研 究 2	2	2・3・4	関連領域	関連領域	渡辺 貴彦	
芸 術 研 究 3	2	2・3・4	関連領域	関連領域		本年度休講
芸 術 研 究 4	2	2・3・4	関連領域	関連領域		本年度休講
芸 術 研 究 5	2	2・3・4	関連領域	関連領域	高島 一郎	
<b>●日蓮教学系</b>						
日 蓮 聖 人 伝 1	2	2	関連領域	関連領域	本間 俊文	
日 蓮 聖 人 伝 2	2	2	関連領域	関連領域	本間 俊文	
宗 学 概 論 1	2	2	関連領域	関連領域	田村 巨禰	
宗 学 概 論 2	2	2	関連領域	関連領域	田村 巨禰	
宗 史 概 論 1	2	2	関連領域	関連領域	本間 俊文	
宗 史 概 論 2	2	2	関連領域	関連領域	本間 俊文	
法 華 経 概 論 1	2	3	関連領域	関連領域	原 慎定	
法 華 経 概 論 2	2	3	関連領域	関連領域	原 慎定	
宗 学 史 概 論 1	2	3	関連領域	関連領域	田村 巨禰	
宗 学 史 概 論 2	2	3	関連領域	関連領域	田村 巨禰	
立 正 安 国 論 講 義 1	2	2	関連領域	関連領域	三輪 是法	
立 正 安 国 論 講 義 2	2	2	関連領域	関連領域	三輪 是法	
開 目 抄 講 義 1	2	3	関連領域	関連領域	三輪 是法	
開 目 抄 講 義 2	2	3	関連領域	関連領域	三輪 是法	
観 心 本 尊 抄 講 義 1	2	4	関連領域	関連領域	原 慎定	
観 心 本 尊 抄 講 義 2	2	4	関連領域	関連領域	原 慎定	
現 代 宗 教 研 究	2	2	関連領域	関連領域	安中 尚史	メディア授業
<b>●他学部開講科目</b>						
哲 学 と は 何 か A	2	2	関連領域	関連領域	湯浅 正彦	他学部開講科目
哲 学 と は 何 か B	2	2	関連領域	関連領域	長倉 誠一	他学部開講科目
倫 理 学 と は 何 か A	2	2	関連領域	関連領域	小館 貴幸	他学部開講科目
倫 理 学 と は 何 か B	2	2	関連領域	関連領域	木村 史人	他学部開講科目
心 理 学 概 論 I	2	3・4	関連領域	関連領域	久田 満	他学部開講科目
心 理 学 概 論 II	2	3・4	関連領域	関連領域	久田 満	他学部開講科目

※「海外仏教文化研修2」「国内仏教文化研修2」は、事前・事後学習会を行います。掲示等で発表される開催日に注意すること。

## 学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部仏教学科の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。  
 なお、講義概要は Web シラバス検索にて確認すること。

授 業 科 目	単 位	履修年次	区 分		担 当 者	備 考
			思想歴史	文化芸術		
Introduction to Cultures of the World 1〈世界の文明1〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	杉 亜希子	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 2〈世界の文明2〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	杉 亜希子	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 3〈東アジア文化1〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	オーラ ベン	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 4〈東アジア文化2〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	オーラ ベン	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 5〈世界遺産1〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	伊藤 真悟	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 6〈世界遺産2〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	伊藤 真悟	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 7〈日本文化1〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		本年度休講
Introduction to Cultures of the World 8〈日本文化2〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		本年度休講
Introduction to Cultures of the World 9〈日本の歴史1〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		本年度休講
Introduction to Cultures of the World 10〈日本の歴史2〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		本年度休講
Introduction to Cultures of the World 11〈日本文化3〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	亀井ダイ利子	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 12〈日本文化4〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	亀井ダイ利子	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 13〈日本の歴史3〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	亀井ダイ利子	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 14〈日本の歴史4〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	亀井ダイ利子	文学部開設
哲学の基本諸問題	2	2	関連領域	関連領域	武内 大	文学部開設
倫理学の基本諸問題A	2	2	関連領域	関連領域		本年度休講
倫理学の基本諸問題B	2	2	関連領域	関連領域	木村 史人	文学部開設
キリスト教思想1	2	3・4	関連領域	関連領域	土居 由美	文学部開設
キリスト教思想2	2	3・4	関連領域	関連領域	土居 由美	文学部開設
民俗学1	2	3・4	関連領域	関連領域	加藤 紫識	文学部開設
民俗学2	2	3・4	関連領域	関連領域	加藤 紫識	文学部開設
家族社会学	2	2・3・4	自由	自由	石川由香里	文学部開設*
政治社会学	2	2・3・4	自由	自由		本年度休講
都市社会学	2	2・3・4	自由	自由	小浜ふみ子	文学部開設*
憲法	2	2・3・4	自由	自由	鄭 裕静	経済学部開設*
民法	2	2・3・4	自由	自由	戸田 知行	経済学部開設*
ミクロ経済学基礎A	2	2・3・4	自由	自由	山口 和男	経済学部開設*
マクロ経済学基礎A	2	2・3・4	自由	自由	山口 和男	経済学部開設*

※自由科目は卒業基準単位数に含まれないので注意すること。

## 7. 僧階講座開設科目とその履修方法







## 7-2 僧階講座開設表〔平成27(2015)～平成31(2019)年度入学生〕

区分	授 業 科 目	単 位	学 年	担 当 者	備 考		
1	開 目 抄 講 義	1	2	3	三輪 是法	「法華経概論1・2」が履修済であることを前提としています	
2	開 目 抄 講 義	2	2	3	三輪 是法		
3	観 心 本 尊 抄 講 義	1	2	4	原 慎定		
4	観 心 本 尊 抄 講 義	2	2	4	原 慎定		
5	宗 学 概 論	1	2	2	田村 巨禰	仏教学部開設科目と共通	
6	宗 学 概 論	2	2	2	田村 巨禰		
7	日 蓮 聖 人 伝	1	2	2	本間 俊文		
8	日 蓮 聖 人 伝	2	2	2	本間 俊文		
9	宗 史 概 論	1	2	2	本間 俊文		
10	宗 史 概 論	2	2	2	本間 俊文		
11	宗 学 史 概 論	1	2	3	田村 巨禰		
12	宗 学 史 概 論	2	2	3	田村 巨禰		
13	法 華 経 概 論	1	2	3	原 慎定		
14	法 華 経 概 論	2	2	3	原 慎定		
15	日 本 仏 教 史	1	2	2	安中 尚史		メディア授業
16	仏 教 学 概 論	1	2	2	則武 海源		メディア授業
17	天 台 学 概 論	1	2	2・3	田村 巨禰		メディア授業
18	天 台 学 概 論	2	2	2・3	田村 巨禰		メディア授業
19	現 代 宗 教 研 究	2	2	2・3・4	安中 尚史		メディア授業
20	宗 教 法 人 法	2	2	2・3・4	山本 展也		メディア授業
21	仏 教 カ ウ ン セ リ ン グ	2	2	2・3・4	横畑 泰希		メディア授業
22	仏 教 デ ス ・ エ デ ュ ケ ー シ ョ ン	2	2	2・3・4	武田 悟一		メディア授業
23	教 化 学	1	2	2・3・4	宮崎 英朋		メディア授業
24	教 化 学	2	2	2・3・4	平井 智親		メディア授業
25	法 要 実 習	1	1	2	伊東 泰樹		
26	法 要 実 習	2	1	2	伊東 泰樹		

- ・ 1～26の26科目50単位を修得すること。
- ・ 学年指定に注意すること。
- ・ 2年次編転入学生は、平成28年度の編転入学者より適用する。
- ・ 3年次編転入学生は、平成29年度の編転入学者より適用する。
- ・ 科目等履修生は、平成28年度受講開始者より適用する。
- ・ 大学院に在学し、新たに僧階講座を履修するものは、平成28年度入学者より適用する。

## 8. 仏教学部開設一般教育科目について

### 凡 例

- ① 科目名が同一であっても、担当者などにより、講義内容が異なることもあるので、注意すること。
- ② 入学年度により履修可能科目が異なるので、十分に注意をすること。



## 8 一般教育科目

一般教育科目（仏教学部生のクラスとして指定されている授業）

授 業 科 目	開 講 形 態	単 位	担 当 教 員	備 考
英語 1 A、B	1 期	1	戸田 裕久	
英語 2 A、B	2 期	1	戸田 裕久	
英語 3 A、B	1 期	1	田中亜由美	
英語 4 A、B	2 期	1	田中亜由美	
学修の基礎 I A～C	1 期	2	丹治 恭子	
学修の基礎 II A～C	2 期	2	丹治 恭子	
キャリア開発基礎講座 I G～I	2 期	2	坪田まり子	2024年度入学生のみ
キャリア開発基礎講座 II D	1 期	2	坪田まり子	2023年度入学生のみ
教養基礎〈日本語表現 A〉	1 期	2	石井 公一	2024年度入学生のみ
教養基礎〈日本語表現 B、C〉	1 期	2	小此木敏明	2024年度入学生のみ
教養総合〈古文漢文表現 A、B〉	2 期	2	清水 祥華	2024年度入学生のみ
情報基礎 1	1 期	2	田邊 資章	
情報基礎 2	2 期	2	田邊 資章	
データサイエンス入門（仏教学部）	1 期集中	2	高部 勲	2023年度以降入学生のみ

※一部の科目は『令和6年度 講義案内 教養的科目』冊子と重複掲載されています。

一般教育科目：講義概要（シラバス）は『令和6年度 講義案内 教養的科目』または Web シラバスを参照

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
仏教入門	2	哲学概論	2	経済学概説	2
仏教と人間	2	社会学概説	2	経済学と社会	2
教養基礎	2	社会学の基礎	2	統計学序説	2
教養総合	2	心理学	2	統計学概説	2
文学入門	2	心理学理論と心理的支援	2	進化生物学とは何か	2
文学の世界	2	法学入門	2	進化生物学の世界	2
歴史と文化	2	法律学概説	2	数学の世界	2
歴史の世界	2	政治学概説	2	環境科学	2
哲学入門	2	現代日本の政治と社会	2		

《学部間相互履修科目》 ※以下の2科目（法学部開設）は、平成28～令和4年度入学生のみ適用する。

授 業 科 目	授 業 テーマ	単 位	授 業 科 目	授 業 テーマ	単 位
現代の政治	〈石橋湛山の政治思想〉	2	現代の経済	〈石橋湛山の経済思想〉	2

発展教養科目：講義概要（シラバス）は『令和6年度 講義案内 教職課程・各種資格課程』または Web シラバスを参照

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
日本史概説	2	地理学概論	2	人文地理学概論	2
外国史概説	2	自然地理学概論	2	地誌学概論	2



## 9. キャリア開発関連科目について



## 9-1. キャリア開発関連科目とその履修方法 〔令和2(2020)年度以降入学生〕(一般教育科目)

大学卒業後の就職に向けた支援プログラムを、キャリア開発関連科目として開設する。

「キャリア開発基礎講座Ⅰ～Ⅲ」「インターンシップ」は、一般教育科目であり卒業単位として認定される。(下表の備考欄を参照)。また「スキル開発」受講にあたっては、講座別に登録料等が必要となる。

### (1) キャリア開発基礎講座とその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
キャリア開発基礎講座Ⅰ	2	1・2	
キャリア開発基礎講座Ⅱ	2	1・2・3	
キャリア開発基礎講座Ⅲ	2	3	

一般教育科目・専門科目等と同様、年度初めの所定の期間に、各自が端末室等で「履修登録」のための科目入力を行わなければならない。未登録の場合には、講義・試験を受けても単位修得が認められない。また、授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を講義担当者に提出しなければならない。

### (2) インターンシップとその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
インターンシップ	2	2・3	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。職場体験実習は8月～9月を予定。成績評価は事前ガイダンスへの出席、実習状況、実習先からの評価ならびに、事後学習、課題文評価などを総合してキャリアサポート運営委員会で成績評価をおこなう。

募集時期等については、キャリアサポートセンターの掲示に注意しておくこと。

### (3) スキル開発とその履修方法〔自由科目〕

開設科目	単位	学年	備考
スキル開発〔情報系1〕	2	1～4	MOS講座(Word・Excel)など
スキル開発〔情報系2〕	2	1～4	
スキル開発〔情報系3〕	2	1～4	
スキル開発〔ビジネス系1〕	2	1～4	簿記検定2級講座 秘書技能検定2級講座など
スキル開発〔ビジネス系2〕	2	1～4	
スキル開発〔ビジネス系3〕	2	1～4	
スキル開発〔語学系1〕	2	1～4	TOEIC®講座など
スキル開発〔語学系2〕	2	1～4	
スキル開発〔語学系3〕	2	1～4	

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。このスキル開発講座はキャリアサポートセンターが主催する講座で、登録料が必要であるが、外部の各種学校における受講料より低廉である。成績評価は所定の試験合格実績、講座への出席状況、受講態度等をキャリアサポート運営委員会で総合的に判定する。どの講座も開講時期は不定期につき、募集時期等についてはキャリアサポートセンターの掲示・お知らせに注意すること。



## 9-2. キャリア開発関連科目とその履修方法 〔平成29(2017)～平成31(2019)年度入学生〕(一般教育科目)

大学卒業後の就職に向けた支援プログラムを、キャリア開発関連科目として開設する。

「キャリア開発基礎講座Ⅰ～Ⅲ」「インターンシップ」は、一般教育科目であり卒業単位として認定される。なお「キャリア開発基礎講座Ⅰ～Ⅲ」の3科目より1科目以上を修得することが必要である。(下表の備考欄を参照)。また「スキル開発」受講にあたっては、講座別に登録料等が必要となる。

### (1) キャリア開発基礎講座とその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
キャリア開発基礎講座Ⅰ	2	1・2	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。 3科目中、1科目以上を選択必修。
キャリア開発基礎講座Ⅱ	2	1・2・3	
キャリア開発基礎講座Ⅲ	2	3	

一般教育科目・専門科目等と同様、年度初めの所定の期間に、各自が端末室等で「履修登録」のための科目入力を行わなければならない。未登録の場合には、講義・試験を受けても単位修得が認められない。また、授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を講義担当者に提出しなければならない。

### (2) インターンシップとその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
インターンシップ	2	2・3	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。職場体験実習は8月～9月を予定。成績評価は事前ガイダンスへの出席、実習状況、実習先からの評価ならびに、事後学習、課題文評価などを総合してキャリアサポート運営委員会で成績評価をおこなう。

募集時期等については、キャリアサポートセンターの掲示に注意しておくこと。

### (3) スキル開発とその履修方法〔自由科目〕

開設科目	単位	学年	備考
スキル開発〔情報系1〕	2	1～4	MOS講座(Word・Excel)など
スキル開発〔情報系2〕	2	1～4	
スキル開発〔情報系3〕	2	1～4	
スキル開発〔ビジネス系1〕	2	1～4	簿記検定2級講座 秘書技能検定2級講座など
スキル開発〔ビジネス系2〕	2	1～4	
スキル開発〔ビジネス系3〕	2	1～4	
スキル開発〔語学系1〕	2	1～4	TOEIC®講座など
スキル開発〔語学系2〕	2	1～4	
スキル開発〔語学系3〕	2	1～4	

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。このスキル開発講座はキャリアサポートセンターが主催する講座で、登録料が必要であるが、外部の各種学校における受講料より低廉である。成績評価は所定の試験合格実績、講座への出席状況、受講態度等をキャリアサポート運営委員会で総合的に判定する。どの講座も開講時期は不定期につき、募集時期等についてはキャリアサポートセンターの掲示・お知らせに注意すること。

## 10. 仏教学部講義概要(シラバス)

### 凡 例

- ①科目名が同一であっても、担当者などにより、講義内容が異なることもあるので、注意すること。
- ②抽選の有無については、仏教学部生用の2024年度時間割表で確認すること。



講義コード	11A0110600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	アジア美術史 1				久保 真紀子		第1期
履修前条件					備考		
授業の目的	東南アジア各地では、インドから伝来した仏教やヒンドゥー教と土着の祖先崇拜や精霊信仰とが結びつき、固有の宗教文化が発展した。その様相は、各地に残る寺院建築や建築に施された装飾浮彫、あるいは寺院内に祀られた彫像からうかがえる。この講義では、カンボジアを中心とする地域に9～15世紀に繁栄したアンコール朝の美術を中心に、寺院建築に施された多様な浮彫をテーマ別に詳しく観察する。						
到達目標	東南アジアの寺院建築や彫刻を題材に、仏教・ヒンドゥー教美術の主題や図像表現を理解し、説明できるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 東南アジアにおける「インド化」と「地域化」 【第3回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (1) ヒンドゥー教美術、シヴァ、ヴィシュヌ、ブラフマーの図像 【第4回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (2) ヒンドゥー教の神像表現のまとめ 【第5回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (3) ヒンドゥー教美術、『ラーマーヤナ』の図像 【第6回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (4) ヒンドゥー教美術、『マハーバーラタ』の図像 【第7回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (5) ヒンドゥー教叙事詩の図像表現のまとめ 【第8回】 東南アジアとインドのヒンドゥー教美術の比較 【第9回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (6) 仏教美術、仏伝図 【第10回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (7) 仏教美術、ジャータカ図 【第11回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (8) 仏教美術のまとめ 【第12回】 東南アジア美術に表現された世俗世界、庶民の日常風景図、王の肖像、戦闘図 【第13回】 東南アジア美術に表現された装飾文様 【第14回】 東南アジア美術史研究の流れ 【第15回】 まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、課題の提出状況と内容 (20%)、期末試験 (40%) を総合して、成績を評価する。						
フィードバックの内容	毎回の授業に対する感想や課題を課す。提出された内容に基づき、その後の授業で補足説明する。						
教科書							
指定図書							
参考書	『東南アジア史〈1〉大陸部 (新版 世界各国史)』石井米雄・桜井由躬雄編 (山川出版社) 1999、『東南アジア史〈2〉島嶼部 (世界各国史)』池端雪穂編 (山川出版社) 1999、『インド・東南アジアの文様 (世界の文様)』石澤良昭他編 (小学館) 1991、『アンコールワットの彫刻』伊東照司 (雄山閣) 2009、『世界美術大全集 東洋編 12 東南アジア』肥塚隆責任編集 (小学館) 2001、『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』千原大五郎 (鹿島出版会) 1982、『アンコールワットとクメール美術の1000年展』東京国立博物館他編 (朝日新聞社) 1997、『美術を書く』バーネット・シルヴァン (東京美術) 2014、『オリエンタリストの憂鬱 - 植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学 -』藤原貞朗 (めこん) 2008、『アジア仏教美術論集 (全12巻)』宮治昭・肥田路美・板倉聖哲監修 (中央公論美術出版)						
教員からのお知らせ	東南アジアの美術・歴史・文化に関心があり、意欲的に学ぶ受講生を歓迎する。また、受講生に作品鑑賞文を書いてもらい、その次の講義で紹介する機会を複数回設ける。 講義はパワーポイントのスライドを中心に進め、テキストは使用しない。毎回、ハンドアウトや図版などの資料を配布するので、適宜参照すること。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。						
アクティブラーニングの内容その他	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション						

講義コード	11A0110700	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	アジア美術史2				久保 真紀子		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	この講義では、アジアの文化遺産について多様な観点から学ぶ。前半は、アジア各地に残る寺院建築や美術に着目し、その歴史的背景や造形的特徴、およびそれらを取り巻く環境や諸問題について理解を深める。後半は、東南アジアの文化遺産を毎回採り上げ、その建築や美術の鑑賞を通して、各地に残る文化的多様性を理解する。						
到達目標	アジアの寺院建築や美術の特徴を理解し説明できるようになる。文化遺産を歴史的な視点だけでなく、現代的な視点からもとらえられるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 アジアの石造建築と技術 【第3回】 アジアの青銅彫刻（1） 【第4回】 アジアの青銅彫刻（2） 【第5回】 アジアの文化遺産と保存修復活動（1）遺跡現場での取り組み 【第6回】 アジアの文化遺産と保存修復活動（2）博物館の取り組み 【第7回】 東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（1）ベトナム 【第8回】 東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（2）タイ〈先タイ期〉 【第9回】 東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（3）タイ〈純タイ期〉 【第10回】 東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（4）タイ美術のまとめ 【第11回】 東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（5）ミャンマー 【第12回】 東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（6）インドネシア〈美術史の概説〉 【第13回】 東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（7）インドネシア〈ボロブドゥールとプランバナン〉の彫刻 【第14回】 東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（8）インドネシア美術のまとめ 【第15回】 まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、授業時間内に指示する課題の提出状況と内容（20%）、期末課題（40%）を総合して、成績を評価する。						
フィードバックの内容	毎回の授業に対する感想や課題を課す。提出された内容に基づき、その後の授業で補足説明する。						
教科書							
指定図書							
参考書	『東南アジア史〈1〉大陸部（新版 世界各国史）』石井米雄・桜井由躬雄編（山川出版社）1999、『東南アジア史〈2〉島嶼部（世界各国史）』池端雪穂編（山川出版社）1999、『インド・東南アジアの文様（世界の文様）』石澤良昭他編（小学館）1991、『アンコールワットの彫刻』伊東照司（雄山閣）2009、『世界美術大全集 東洋編 12 東南アジア』肥塚隆責任編集（小学館）2001、『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』千原大五郎（鹿島出版会）1982、『アンコールワットとクメール美術の1000年展』東京国立博物館他編（朝日新聞社）1997、『美術を書く』バーネット・シルヴァン（東京美術）2014、『オリエンタリストの憂鬱-植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学-』藤原貞朗（めこん）2008、『アジア仏教美術論集（全12巻）』宮治昭・肥田路美・板倉聖哲監修（中央公論美術出版）						
教員からのお知らせ	東南アジアの美術・歴史・文化に関心があり、意欲的に学ぶ受講生を歓迎する。また、受講生には数回にわたって作品鑑賞文の課題を課し、それを次の授業で紹介する機会を設ける。講義はパワーポイントのスライドを中心に進め、テキストは使用しない。毎回、ハンドアウトや図版などの資料を配布するので、適宜参照すること。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション						
その他							

講義コード	11A0109400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第1期
科目名	アジア文化史1				久保 真紀子			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教やヒンドゥー教を生み出した古代インド文明の成立と発展について、政治的、経済的、社会的な展開を軸に学ぶ。								
到達目標	南アジア世界の多様性を、周辺諸地域との影響関係を踏まえながら歴史的に理解する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書および指定図書に基づき講義を行うので、それらの書籍を使って各自60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 ガイダンス</li> <li>【第2回】 インド亜大陸</li> <li>【第3回】 インダス文明の謎</li> <li>【第4回】 アーリヤ人と先住民</li> <li>【第5回】 農耕社会の成立</li> <li>【第6回】 古代王国の成立</li> <li>【第7回】 非正統派思想の興起</li> <li>【第8回】 古代インドの統一帝国</li> <li>【第9回】 外來民族と土着勢力</li> <li>【第10回】 流動期の亜大陸</li> <li>【第11回】 古典文化の繁栄</li> <li>【第12回】 有力国家の分立と抗争</li> <li>【第13回】 転換期の社会と宗教</li> <li>【第14回】 インド文化の伝播</li> <li>【第15回】 総括</li> </ul>								
成績評価の方法	期末レポート（40%）、および授業への取り組み姿勢（60%）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の授業の最後に、その回の内容を振り返る課題に取り組んでもらい、次回授業冒頭でフィードバックを行う。								
教科書	『世界の歴史3 古代インドの文明と社会』山崎元一（中央公論社（中央文庫））2009								
指定図書	『古代インド』中村元（講談社（講談社学術文庫））2004								
参考書									
教員からのお知らせ	講義は教科書の内容をまとめたパワーポイントのスライドを中心に進める。毎回の配布資料は、授業時に教室で配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								

講義コード	11A0109500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第2期
科目名	アジア文化史2				久保 真紀子			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	文化的、宗教的に多様な東南アジア世界について、古代王朝の展開や周辺諸地域との関係を軸に学ぶ。								
到達目標	東南アジア諸地域に成立した諸王朝の歴史を捉え、各地の文化や宗教思想における固有性を理解する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書および指定図書に基づき講義を行うので、それらの書籍を使って各自60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 ガイダンス</li> <li>【第2回】 東南アジア史の曙</li> <li>【第3回】 インド文明の伝来と国家の形成</li> <li>【第4回】 古代「海のシルクロード」</li> <li>【第5回】 東南アジア群島部における国家の発展</li> <li>【第6回】 東南アジア古典世界の栄華に向けて-13世紀までのインドシナ半島</li> <li>【第7回】 中国船の来航と東南アジア群島部</li> <li>【第8回】 歴史の大転換-13世紀以降のインドシナ半島世界</li> <li>【第9回】 イスラーム国家の形成</li> <li>【第10回】 東南アジア群島部の「商業の時代」</li> <li>【第11回】 東南アジア群島部における「商業の時代」から「開発の時代」へ</li> <li>【第12回】 インドシナ伝統社会の変貌-近代への胎動</li> <li>【第13回】 東南アジアの経済発展と政治</li> <li>【第14回】 現代の東南アジア</li> <li>【第15回】 総括</li> </ul>								
成績評価の方法	期末レポート（40%）、および授業への取り組み姿勢（60%）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の授業の最後に、その回の内容を振り返る課題に取り組んでもらい、次回授業冒頭でフィードバックを行う。								
教科書	『世界の歴史13 東南アジアの伝統と発展』石澤良昭・生田滋（中央公論社（中公文庫））2009								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	講義は教科書の内容をまとめたパワーポイントのスライドを中心に進め、毎回の授業時に教室で資料を配布する。教科書は各自で必ず購入すること。毎回の授業時には、事前に教科書の該当箇所を熟読した上で受講してほしい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								

講義コード	17Y0105801	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	インターンシップA(就業体験型)				財津 優		第2期集中		
履修前条件					備考				
授業の目的	本プログラムは、日々変化する社会に対応し、納得のいく進路選択をするために必要な、「社会人基礎力の向上」、「自己理解」、「業界・企業の理解」を促すことを目的とし、「事前学習」、「就業体験実習」、「事後学習」の3つの過程により構成される。また、これらの経験を通し、将来設計(キャリアプラン)を考える機会をつくる。								
到達目標	職場や社会の中で仕事をしていくために必要な能力を把握し、社会人として必要な能力を身につけるとともに、自身の今後の課題を認識する。自己理解、業界・企業の理解を深めることで、主体的な職業選択が期待される。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	座学後のリアクションペーパーやレポートの提出、実習期間中の実習日誌作成、実習後の実習報告書提出や報告会の準備など、60時間以上の授業外学修時間が必要となる。								
授業計画	<p>【第1回】実習準備(1): マナー・自己分析  【第2回】実習準備(2): グループワーク・発表に関する説明  【第3回】模擬実習(1): 就業体験, グループワーク  【第4回】模擬実習(2): 就業体験, グループワーク  【第5回】実習準備(3): 実習先の企業研究  【第6回】実習準備(4): 目標設定  【実習】インターンシップ(就業体験実習) ※夏期休暇期間中に原則5日間以上  【第7回】事後学習(1): 就業体験での学びのアウトプット  【第8回】事後学習(2): 今後の学生生活やキャリアプランへの就業体験の活用  【第9回】事後学習(3): 報告会準備  【第10回】事後学習(4): 報告会リハーサル  【第11・12回】報告会</p> <p>※本科目は選考を通過した学生が履修することができる。履修を希望する学生は、ガイダンス期間に行われる「インターンシップガイダンス」に出席すること。通常履修登録期間での登録は不要。</p>								
成績評価の方法	すべての授業・実習への参加を原則とし、その取り組み姿勢(50%)、実習日誌(15%)、実習先からの評価(10%)、実習後の課題(25%)								
フィードバックの内容	報告会のプレゼンテーション内容について、講師よりフィードバックする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、Teamsのチャットも活用します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、発見学習・体験学習、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイング/シミュレーションなど								
その他									

講義コード	17Y0105802	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	インターンシップB(課題解決型)				大沢 恭介		第2期集中		
履修前条件					備考				
授業の目的	本授業は、三省合意のもとでの認定マークを取得可能な3年生限定の本格的インターンシップであり、受け入れ企業から出された課題を学生が自主的に考え、解決を目指す。実習期間を通して、企業が現実に直面している問題を理解し、社員と共に解決策を見出すことで、社会の即戦力となるために必要とされる自覚と問題解決能力を養うことを目的とする。								
到達目標	企業から出された現実的な課題(例えば、地域貢献の具体的方法やSNS等での企業アピール方法、企業内施設のリノベーション提案など)に対し、社員とのディベートや会議を通して、具体的方策をプレゼンできることを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	与えられた課題に取り組み、解決策を見出し、プレゼンの準備を行うなど、120時間以上の授業外学修時間が必要となる。								
授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション  【第2回】実習準備(1): 実習先の企業研究  【第3回】実習準備(2): プレゼンテーション入門  【第4回】実習準備(3): 実習にあたっての心得など、グループワーク  【実習】インターンシップ(課題解決実習) ※夏期休暇期間中に原則5日間以上 sw  【第5回】事後学習(1): 実習内容の具体的報告  【第6回】事後学習(2): 実習内容の具体的報告  【第7回】事後学習(3): 実習での学びのアウトプット  【第8回】報告会(準備含む)  【第9回】報告会</p> <p>※本科目は選考を通過した学生が履修することができる。履修を希望する学生は、ガイダンス期間に行われる「インターンシップガイダンス」に出席すること。通常履修登録期間での登録は不要。</p>								
成績評価の方法	実習準備・事後学習・報告会の取り組み姿勢(50%)、実習への取り組み姿勢(50%)								
フィードバックの内容	リアクションペーパーや実習報告書は、講師より随時フィードバックがなされる。また、実習期間中は必要に応じて講師とオンラインでディスカッション等をおこなう。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、問題解決学習(PBL)、発見学習・体験学習、グループ・ワーク、プレゼンテーションなど								
その他									

講義コード	11A2117600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	友成 有紀	開講期	第1期
科目名	インド思想史1				友成 有紀		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	多面多臂の神々が街に溢れ、スパイスの香りが鼻をくすぐる殊更にエスニックなイメージをインドに抱く人も多いでしょう。他方で、我々にとって馴染みの深い仏教が生まれたのも同じインドです。ヴェーダという聖典に始まるインド思想の歴史は、この聖典を認める人々と、認めない人々が、何を寄る辺に人は生きるべきかを真剣に議論し続けてきた歴史でもあります。本授業ではヒンドゥー教経典が整備される頃までのインド思想の展開を原典テキスト（翻訳）を紹介しながら考察し、明らかにすることを目的とします。								
到達目標	(1) インド思想史上に登場する様々なグループの根本的な思想とその対立軸・影響関係を理解し、特にヒンドゥー教典が整備される頃までの諸学派の思想の特徴を歴史的な枠組みの中で捉えることができる。(2) 原典資料テキストの内容に親しみ、理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料および参考図書の該当箇所を予習し、授業後には毎回復習に努めること。予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。特に復習には多く時間を費やすこと。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 ヴェーダ以前のインド 【第3回】 ヴェーダ時代 【第4回】 プラーフマナ時代 【第5回】 ウパニシャッド時代（1） 【第6回】 ウパニシャッド時代（2） 【第7回】 沙門の出現と六師外道 【第8回】 原始仏教・初期仏教、ジャイナ教 【第9回】 スムリテイ聖典の成立 【第10回】 叙事詩と『バガヴァッド・ギーター』・プラーナ文献 【第11回】 「六派哲学」の形成（1）：ミーマンサーとヴェーダーンタ 【第12回】 「六派哲学」の形成（2）：ニヤーヤとヴァイシェシカ 【第13回】 「六派哲学」の形成（3）：サーンキヤとヨーガ 【第14回】 「ヒンドゥー教」の形成 【第15回】 総括								
成績評価の方法	前期末テスト（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）								
フィードバックの内容	授業中で回収するコメントペーパー、Webclassを利用して適宜フィードバックを図る。								
教科書									
指定図書									
参考書	『インド思想史』早鳥鏡正 [ほか] (東京大学出版会) 1982、『インド思想史』中村元 (岩波書店) 1968、『インド思想史』J. ゴンダ著；鏗淳訳 (岩波書店) 2002、『インド哲学10講』赤松明彦 (岩波書店) 2018								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A2117700	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	友成 有紀	開講期	第2期
科目名	インド思想史2				友成 有紀		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	多面多臂の神々が街に溢れ、スパイスの香りが鼻をくすぐる殊更にエスニックなイメージをインドに抱く人も多いでしょう。他方で、我々にとって馴染みの深い仏教が生まれたのも同じインドです。ヴェーダという聖典に始まるインド思想の歴史は、この聖典を認める人々と、認めない人々が、何を寄る辺に人は生きるべきかを真剣に議論し続けてきた歴史でもあります。本授業では仏教の新展開と中世に大変質を遂げ現代に至るインド思想の展開を原典テキスト（翻訳）を紹介しながら考察し、明らかにすることを目的とします。								
到達目標	(1) インド思想史上に登場する様々なグループの根本的な思想とその対立軸・影響関係を理解し、特に中世以降の諸学派思想の変遷を歴史的な枠組みの中で捉えることができる。(2) 原典資料テキストの内容に親しみ、理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料および参考図書の該当箇所を予習し、授業後には毎回復習に努めること。予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。特に復習には多く時間を費やすこと。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 部派仏教の展開と大乘仏教の出現 【第3回】 大乘仏教の二大学派（1）：中観派 【第4回】 大乘仏教の二大学派（2）：瑜伽行派 【第5回】 中世インド哲学の展開（1）：諸派の動向 【第6回】 中世インド哲学の展開（2）：存在論 【第7回】 中世インド哲学の展開（3）：論理学の発展 【第8回】 中世インド哲学の展開（4）：言語哲学の発展 【第9回】 タントリズム・密教 【第10回】 バクティ 【第11回】 シヴァ派・ヴィシュヌ派の展開 【第12回】 ヴィシュヌ派とヴェーダーンタ学派 【第13回】 ヒンドゥー教とイスラーム 【第14回】 諸教の融合とシク教 【第15回】 現代インド								
成績評価の方法	前期末テスト（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）								
フィードバックの内容	授業中で回収するコメントペーパー、Webclassを利用して適宜フィードバックを図る。								
教科書									
指定図書									
参考書	『インド思想史』早鳥鏡正 [ほか] (東京大学出版会) 1982、『インド思想史』中村元 (岩波書店) 1968、『インド思想史』J. ゴンダ著；鏗淳訳 (岩波書店) 2002、『インド哲学10講』赤松明彦 (岩波書店) 2018								
教員からのお知らせ	原典については担当教員が説明しますので、サンスクリット等の古典語については全くの初心者でも受講可能です。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									



講義コード	11A0108000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	木村 紫	開講期	第1期
科目名	インド哲学仏教学特講1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	アビダルマは、私の言葉をどのように理解するかということから始まっています。世親が書いた『俱舎論』は、説一切有部のアビダルマだけではなく、大乘仏教を理解する上でも基礎となる、とても重要な論書です。この授業では『俱舎論』で説かれている基本的な項目を幾つか採り上げ、そこに出てくる用語や概念について説明します。								
到達目標	サンスクリットや漢訳語で表記された有部アビダルマの基本的な用語を理解できます。『俱舎論』で提示される有部の考え方や世親の考え方を理解する道筋を身につけます。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で扱ったこと、紹介した資料などをもとに、『俱舎論』の和訳研究や漢訳も参考にして、60時間以上の授業外学修を行ってください。								
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】『俱舎論』と有部アビダルマ 【第3回】有為と無為 【第4回】五蘊・十二処・十八界 【第5回】物質的な存在 【第6回】小さいまとめと補足(1) 【第7回】心と心作用(1) 【第8回】心と心作用(2)				【第9回】心と相応しない法 【第10回】小さいまとめと補足(2) 【第11回】原因と結果(1) 【第12回】原因と結果(2) 【第13回】意業・語業・身業 【第14回】小さいまとめと補足(3) 【第15回】全体のまとめ				
成績評価の方法	期末試験(35%)、授業内容に関する積極的な意見や質問の提起等、授業への取り組み姿勢(20%)及び課題の提出3回(45%)を基に総合的に評価します。								
フィードバックの内容	課題の講評は授業時間内に行います。授業内容に関する質問等を授業に反映させます。								
教科書	授業内容に関するプリントを配布し、教科書は特には定めません。								
指定図書	『俱舎論の研究【界・根品】』櫻部建(法蔵館)2011、『俱舎論の原典解明【世間品】』山口益・舟橋一哉(法蔵館)2012、『俱舎論の原典解明 業品』舟橋一哉(法蔵館)2011、『俱舎論の原典研究 随眠品』小谷信千代・本庄良文(大蔵出版)2007、『俱舎論の原典解明 賢聖品』櫻部建・小谷信千代(大蔵出版)2004、『俱舎論の原点研究 智品・定品』櫻部建・小谷信千代・本庄良文(大蔵出版)2004、『破我品の研究』櫻部建(『大谷大学研究年報』12号)1959、『存在の分析「アビダルマ」』櫻部建・上山春平(角川書店)1996、『俱舎-絶ゆることなき法の流れ-』青原令知編(自照社出版)2015								
参考書	『アビダルマディーパの研究』三友健容(平楽寺書店)2007、『俱舎論註ウパーイカーの研究 上』本庄良文(大蔵出版)2014、『俱舎論註ウパーイカーの研究 下』本庄良文(大蔵出版)2014								
教員からのお知らせ	聞き慣れない言葉が沢山並ぶ、入り組んだジャングルのようにも見えますが、基本的には私たち自身を観察対象として分析したものです。疑問に思ったら質問したり、調べたりして分け入って行く楽しさも感じてみましょう。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習、意見共有								
その他									

講義コード	11A2108200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	伊藤 瑞康	開講期	第1期
科目名	インド哲学仏教学特講3								
履修前提条件					備考				
授業の目的	インド哲学・仏教学を学ぶ上で必修の基本概説書ならびに原典に基づいて唯識教学の基本的教理を学ぶ。重要な教理については可能な限りテキストを解説し、文献学的方法論に基づいた研究も視野に入れた講義とする。唯識教学は、アビダルマの教理など仏教の基礎的な教理が前提となっているため、本講義においては、仏教学の基本的な教義についても解説を加えていき、唯識教学の理解を目指す。								
到達目標	唯識教学について、基本的な教義を理解・習得することを到達目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テキストの予習は毎回必ず行い、意味の分からない用語などについては、辞書や事典などで意味・概念を可能な限り確認しておくこと。また、講義後には復習をして習得した事柄を確認し、わからなかった内容については次回の講義で質問することが望ましい。以上の授業外学修時間は60時間を目安とする。								
授業計画	【第1回】唯識思想の成立と背景 【第2回】唯識思想の展開について 【第3回】唯識思想の諸文献について 【第4回】唯識思想における基本教理の概説(1) 【第5回】唯識思想における基本教理の概説(2) 【第6回】法相宗について 【第7回】三乗と五性 【第8回】五位百法説・八識説(1)				【第9回】五位百法説・八識説(2) 【第10回】三性三無性説(1) 【第11回】三性三無性説(2) 【第12回】唯識思想における修道論 【第13回】アーラヤ識についての考察(1) 【第14回】アーラヤ識についての考察(2) 【第15回】全体のまとめ				
	※以上はあくまで計画であり、みなさんの理解度に応じて授業の進捗も調整しますので、安心して参加してください。								
成績評価の方法	レポート60%、授業への取り組み40%、として評価します。								
フィードバックの内容	期末レポートについては、希望者には提出後に添削指導を行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『認識と超越(唯識)-仏教の思想(4)』服部正明他(角川書店)1997、『講座・大乘仏教 第8巻 唯識思想』平川彰他編(春秋社)1995、『シリーズ大乘仏教(7) 唯識と瑜伽行』桂紹隆編(春秋社)2012、『仏教における存在と知識』梶山雄一(紀伊国屋書店)1983								
教員からのお知らせ	教科書として、テキストならびに資料のコピーを配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど。								
その他									

講義コード	11A2108300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	伊藤 瑞康	開講期	第2期																
科目名	インド哲学仏教学特講4																								
履修前提条件					備考																				
授業の目的	インド哲学・仏教学を学ぶ上で必修の基本概説書ならびに原典に基づいて、華厳教学の基本的教理を学ぶ。重要な教理については可能な限りテキストを解説し、文献学的方法論に基づいた研究も視野に入れた講義とする。インド・中国における華厳思想の展開を概観した上で華厳教学を学ぶが、その際、仏教の基本的な教義の理解が必須であるため、授業においては必要に応じてそれらの解説を加えていく。																								
到達目標	華厳教学について、基本的な教義を理解・習得することを到達目標とする。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テキストの予習は毎回必ず行い、意味の分からない用語などについては、辞書や事典などで意味・概念を可能な限り確認しておくこと。また、講義後には復習をして習得した事柄を確認し、わからなかった内容については次回の講義で質問することが望ましい。以上の授業外学修時間は60時間を目安とする。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 華厳宗の成立と背景</td> <td>【第9回】 十玄縁起(2)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 華厳経について</td> <td>【第10回】 六相円融</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 華厳宗の歴史と祖師</td> <td>【第11回】 事事無礙法界</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 華厳宗の展開</td> <td>【第12回】 十宗の教判</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 五教十宗の教判(小乗教・大乘始教)</td> <td>【第13回】 四種法界・仏身と仏土</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 五教十宗の教判(大乘終教)</td> <td>【第14回】 九識説について</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 五教十宗の教判(頓教・円教)</td> <td>【第15回】 全体のまとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 十玄縁起(1)</td> <td></td> </tr> </table> <p>※以上はあくまで計画であり、みなさんの理解度に応じて授業の進捗も調整しますので、安心して参加してください。</p>									【第1回】 華厳宗の成立と背景	【第9回】 十玄縁起(2)	【第2回】 華厳経について	【第10回】 六相円融	【第3回】 華厳宗の歴史と祖師	【第11回】 事事無礙法界	【第4回】 華厳宗の展開	【第12回】 十宗の教判	【第5回】 五教十宗の教判(小乗教・大乘始教)	【第13回】 四種法界・仏身と仏土	【第6回】 五教十宗の教判(大乘終教)	【第14回】 九識説について	【第7回】 五教十宗の教判(頓教・円教)	【第15回】 全体のまとめ	【第8回】 十玄縁起(1)	
【第1回】 華厳宗の成立と背景	【第9回】 十玄縁起(2)																								
【第2回】 華厳経について	【第10回】 六相円融																								
【第3回】 華厳宗の歴史と祖師	【第11回】 事事無礙法界																								
【第4回】 華厳宗の展開	【第12回】 十宗の教判																								
【第5回】 五教十宗の教判(小乗教・大乘始教)	【第13回】 四種法界・仏身と仏土																								
【第6回】 五教十宗の教判(大乘終教)	【第14回】 九識説について																								
【第7回】 五教十宗の教判(頓教・円教)	【第15回】 全体のまとめ																								
【第8回】 十玄縁起(1)																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢60%、期末レポート40%、として評価します。																								
フィードバックの内容	期末レポートについては、希望者には提出後に添削指導を行います。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	『無限の世界観(華厳) 仏教の思想(6)』鎌田茂雄他(角川書店)1996、『講座・大乘仏教 第3巻 華厳思想』平川彰他編(春秋社)1995、『華厳の思想』鎌田茂雄(講談社)1988																								
教員からのお知らせ	教科書として、テキストならびに資料のコピーを配布します。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど。																								
その他																									

講義コード	11A0106000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	高橋 堯英	開講期	第2期															
科目名	インド仏教史1																							
履修前提条件					備考																			
授業の目的	本講義は、インド仏教の展開に関して、指定した教科書に基づき、次の4点について講義する。 ①仏教の生まれた社会的思想的背景 ②インド仏教の歴史的展開 ③インド仏教の思想的展開 ④インド仏教の衰退と復活																							
到達目標	インドにおいて仏教がどのような背景のもとに誕生し、どのように発展し、どのようにして衰亡し、どのようにして再興したのか(つまり、インドにおける仏教の歴史的展開)を理解することができる。																							
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義では、シラバスに則って進めます。テキストの該当項目を事前に読み、読み方や意味の分からない用語について、辞書・事典であらかじめ調べておいて下さい。講義後は復習を重ね不明な点を明らかにしてください。計60時間以上の授業外学修を行うことが必要です。																							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 はじめに：インドについて</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 古代インドの社会と宗教</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 仏陀の時代-政治・経済・社会-</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 ゴータマ・ブッダの生涯と思想</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 初期の仏教教団</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 マウリヤ王朝下の仏教</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 異民族侵入期と仏教</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 部派仏教の展開</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 クシャーナ王朝下の仏教</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 ヒンドウイズムの形成</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 サータヴァーハナ王朝と仏教</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 グプタ王朝下の仏教</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 グプタ王朝分裂後の仏教・パーラ王朝下の仏教</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 イスラム教徒の侵入と仏教の衰退・滅亡</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 近代におけるインドの仏教の復興運動</td> </tr> </table>									【第1回】 はじめに：インドについて	【第2回】 古代インドの社会と宗教	【第3回】 仏陀の時代-政治・経済・社会-	【第4回】 ゴータマ・ブッダの生涯と思想	【第5回】 初期の仏教教団	【第6回】 マウリヤ王朝下の仏教	【第7回】 異民族侵入期と仏教	【第8回】 部派仏教の展開	【第9回】 クシャーナ王朝下の仏教	【第10回】 ヒンドウイズムの形成	【第11回】 サータヴァーハナ王朝と仏教	【第12回】 グプタ王朝下の仏教	【第13回】 グプタ王朝分裂後の仏教・パーラ王朝下の仏教	【第14回】 イスラム教徒の侵入と仏教の衰退・滅亡	【第15回】 近代におけるインドの仏教の復興運動
【第1回】 はじめに：インドについて																								
【第2回】 古代インドの社会と宗教																								
【第3回】 仏陀の時代-政治・経済・社会-																								
【第4回】 ゴータマ・ブッダの生涯と思想																								
【第5回】 初期の仏教教団																								
【第6回】 マウリヤ王朝下の仏教																								
【第7回】 異民族侵入期と仏教																								
【第8回】 部派仏教の展開																								
【第9回】 クシャーナ王朝下の仏教																								
【第10回】 ヒンドウイズムの形成																								
【第11回】 サータヴァーハナ王朝と仏教																								
【第12回】 グプタ王朝下の仏教																								
【第13回】 グプタ王朝分裂後の仏教・パーラ王朝下の仏教																								
【第14回】 イスラム教徒の侵入と仏教の衰退・滅亡																								
【第15回】 近代におけるインドの仏教の復興運動																								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢40%と学期末レポート60%により成績を評価する。																							
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行う。																							
教科書	『仏教史概説：インド篇』佐々木教悟 [ほか] (平楽寺書店) 1966																							
指定図書																								
参考書	『インド仏教史 上』平川彰(春秋社)2011、『インド仏教史 下』平川彰(春秋社)2011																							
教員からのお知らせ	参考文献は必要に応じて授業内にて紹介します。																							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。																							
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習																							
その他																								

講義コード	11A0106100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	高橋 堯英	開講期	第1期
科目名	インド仏教史2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	インド仏教史1にてインドにおける仏教の展開を理解した。この授業では、インド仏教史1にて提供できなかった背景について、社会経済史・文化的視座から探る。従って、仏陀の時代から近現代における仏教復興までの流れの中のいくつかのトピックを取り上げ、それらの意義を考えることを目的とする。								
到達目標	①仏陀の時代の思想界の動向、②マウルヤ王朝のアショーカ王のダルマの政治、③紀元前2世紀から紀元2世紀頃までの異民族侵入期におけるインド社会について、④仏教の拠点となった仏塔や石窟寺院について、⑤ヒンドゥー世界の展開について、⑧仏教の衰退と消滅、⑨アンベードカルの生涯と思想、などについて理解を深める。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	事前にアップロードした授業の資料に目を通し、辞典・事典等で下調べを必ず行うこと。各授業に対し、2時間以上の予習と2時間以上の復習、計60時間以上の授業外学修を各自の責任で進めて欲しい。								
授業計画	【第1回】はじめに：インド仏教史1の内容確認 【第2回】仏陀の時代：政治・経済の動向 【第3回】仏陀の時代：古代インドの思想界 【第4回】マウルヤ王朝形成とアショーカ王とダルマの政治 【第5回】異民族侵入期について 【第6回】異民族侵入期の社会と思想について 【第7回】北インドの拠点都市マトゥラーについて 【第8回】マトゥラーの宗教について（バラモン教、ヒンドゥー教、ジャイナ教、ヤクシャ信仰）				【第9回】マトゥラーの宗教について（ナーガ信仰） 【第10回】信仰の拠点：仏塔について 【第11回】信仰の拠点：石窟寺院群について 【第12回】初期大乘仏教の思想 【第13回】中央集権国家の形成と封建制：グプタ王朝時代のインド社会と思想 【第14回】グプタ王朝分裂後のヒンドゥー社会と仏教：インド仏教の衰退と消滅 【第15回】アンベードカルの生涯と思想				
成績評価の方法	授業参加状況（40%）、中間レポート（30%）、学期末レポート（30%）により評価する。								
フィードバックの内容	授業形態がオンライン授業（オンデマンド型）ですので、質問等は高橋の授業用アドレス、takahidetakahashi1955@gmail.comにて受付け、返信にて対応します。								
教科書									
指定図書									
参考書	『古代インドの文明と社会』山崎元一（中央公論社）1997年、『世界歴史大系 南アジア先史・古代-』山崎元一・小西正捷編（山川出版）2007年、『古代インドの歴史』R.S.シャルマ（山川出版社）1985年								
教員からのお知らせ	授業の資料は、ポータルサイトの共有ストレージ内の高橋のストレージに事前にアップロードする予定です。授業前に各自でダウンロードして予習・復習に利用してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、高橋の授業用アドレス、takahidetakahashi1955@gmail.comにて受付け、返信にて対応します。また、学部指定のオフィスアワーにおいても対応します。								
アクティブラーニングの内容	オンデマンド型オンライン授業のため、受講生の主体的能動的な授業外学習（予習・復習）が必要です。								
その他									

講義コード	11A0151001	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期
科目名	英語1A								
履修前提条件					備考				
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさや文化的背景を理解し心情に触れる。								
到達目標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティブスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講読される英語論説の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うこと。								
授業計画	【第1回】授業の進め方および講読する文献の説明 【第2回】Chapter 2. The Buddha (introduction) 【第3回】The Buddha (Historical Information) 【第4回】Early Scriptures 【第5回】Biographical Works 【第6回】The Life of the Buddha (1) 【第7回】The Life of the Buddha (2) 【第8回】Chapter 1. Buddhism and Elephants [introduction]				【第9回】Buddhism and Elephant [introduction] (continued) 【第10回】Buddhisms (plural) 【第11回】Is Buddhism a Religion ? 【第12回】The Seven Dimensions of Religion 【第13回】The Practical and Ritual Dimension (1) 【第14回】The Practical and Ritual Dimension (2) 【第15回】第1期講読内容総括				
成績評価の方法	レポート（60%）、当番発表（30%）、授業への取り組み姿勢（10%）。								
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。								
教科書	『BUDDHISM : A Very Short Introduction』Damien Keown (Oxford University Press) 2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教材は必要箇所を適宜複写して配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション								
その他	授業には必ず出席すること。遅刻しないこと。スマートフォン等で遊ばないこと。受講生同士互いに尊重し合い、学友の発表の折には特に静粛に傾聴するよう心がけてください。								

講義コード	11A0151002	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期
科目名	英語1B								
履修前提条件					備考				
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさや文化的背景を理解し心情に触れる。								
到達目標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティブスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講読される英語論説文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うこと。								
授業計画	【第1回】 授業の進め方および講読する文献の説明 【第2回】 Chapter 2. The Buddha (introduction) 【第3回】 The Buddha (Historical Information) 【第4回】 Early Scriptures 【第5回】 Biographical Works 【第6回】 The Life of the Buddha (1) 【第7回】 The Life of the Buddha (2) 【第8回】 Chapter 1. Buddhism and Elephants [introduction]		【第9回】 Buddhism and Elephant [introduction] (continued) 【第10回】 Buddhisms (plural) 【第11回】 Is Buddhism a Religion ? 【第12回】 The Seven Dimensions of Religion 【第13回】 The Practical and Ritual Dimension (1) 【第14回】 The Practical and Ritual Dimension (2) 【第15回】 第1期講読内容総括						
成績評価の方法	レポート (60%)、当番発表 (30%)、授業への取り組み姿勢 (10%)。								
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。								
教科書	『BUDDHISM : A Very Short Introduction』 Damien Keown (Oxford University Press) 2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教材は必要箇所を適宜複写して配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション								
その他	授業には必ず出席すること。遅刻しないこと。スマートフォン等で遊ばないこと。受講生同士互いに尊重し合い、学友の発表の折には特に静粛に傾聴するよう心がけてください。								

講義コード	11A0151101	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期
科目名	英語2A								
履修前提条件					備考				
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさや文化的背景を理解し心情に触れる。								
到達目標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティブスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講読される英語論説文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うこと。								
授業計画	【第1回】 The Experiential and Emotional Dimension (1) 【第2回】 The Experiential and Emotional Dimension (2) 【第3回】 The Narrative and Mythic Dimension (1) 【第4回】 The Narrative and Mythic Dimension (2) 【第5回】 The Doctrinal and Philosophical Dimension (1) 【第6回】 The Doctrinal and Philosophical Dimension (2) 【第7回】 The Ethical and Legal Dimension 【第8回】 The Social and Institutional Dimension (1)		【第9回】 The Social and Institutional Dimension (2) 【第10回】 Buddhist Sects and Schools 【第11回】 The Material Dimension (1) 【第12回】 The Material Dimension (2) 【第13回】 Summary (1) 【第14回】 Summary (2) 【第15回】 第2期講読内容総括						
成績評価の方法	レポート (60%)、当番発表 (30%)、授業への取り組み姿勢 (10%)。								
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。								
教科書	『BUDDHISM : A Very Short Introduction』 Damien Keown (Oxford University Press) 2013								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	各回の授業の最後に紹介する歌は、成績には直接関わりませんが、世の中、数字で表わされないものに本当の価値があったりするものです。そこにこそ皆さんに伝えたいものがあるのです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション								
その他	いつまで続くんか、この苦役苦行は。と思っていた英語の授業も、振り返ってみれば、あつという間だった気がするでしょう。必修の授業は1年足らずで済みますが、外国語との付き合いはずっと続きます。一生勉強です。								

講義コード	11A0151102	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期																
科目名	英語2B				戸田 裕久			第2期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさや文化的背景を理解し心情に触れる。																								
到達目標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティブスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に生き活きと英語で表現できる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講読される英語論説文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 The Experiential and Emotional Dimension (1)</td> <td>【第9回】 The Social and Institutional Dimension (2)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 The Experiential and Emotional Dimension (2)</td> <td>【第10回】 Buddhist Sects and Schools</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 The Narrative and Mythic Dimension (1)</td> <td>【第11回】 The Material Dimension (1)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 The Narrative and Mythic Dimension (2)</td> <td>【第12回】 The Material Dimension (2)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 The Doctrinal and Philosophical Dimension (1)</td> <td>【第13回】 Summary (1)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 The Doctrinal and Philosophical Dimension (2)</td> <td>【第14回】 Summary (2)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 The Ethical and Legal Dimension</td> <td>【第15回】 第2期講読内容総括</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 The Social and Institutional Dimension (1)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 The Experiential and Emotional Dimension (1)	【第9回】 The Social and Institutional Dimension (2)	【第2回】 The Experiential and Emotional Dimension (2)	【第10回】 Buddhist Sects and Schools	【第3回】 The Narrative and Mythic Dimension (1)	【第11回】 The Material Dimension (1)	【第4回】 The Narrative and Mythic Dimension (2)	【第12回】 The Material Dimension (2)	【第5回】 The Doctrinal and Philosophical Dimension (1)	【第13回】 Summary (1)	【第6回】 The Doctrinal and Philosophical Dimension (2)	【第14回】 Summary (2)	【第7回】 The Ethical and Legal Dimension	【第15回】 第2期講読内容総括	【第8回】 The Social and Institutional Dimension (1)	
【第1回】 The Experiential and Emotional Dimension (1)	【第9回】 The Social and Institutional Dimension (2)																								
【第2回】 The Experiential and Emotional Dimension (2)	【第10回】 Buddhist Sects and Schools																								
【第3回】 The Narrative and Mythic Dimension (1)	【第11回】 The Material Dimension (1)																								
【第4回】 The Narrative and Mythic Dimension (2)	【第12回】 The Material Dimension (2)																								
【第5回】 The Doctrinal and Philosophical Dimension (1)	【第13回】 Summary (1)																								
【第6回】 The Doctrinal and Philosophical Dimension (2)	【第14回】 Summary (2)																								
【第7回】 The Ethical and Legal Dimension	【第15回】 第2期講読内容総括																								
【第8回】 The Social and Institutional Dimension (1)																									
成績評価の方法	レポート (60%)、当番発表 (30%)、授業への取り組み姿勢 (10%)。																								
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。																								
教科書	『BUDDHISM : A Very Short Introduction』 Damien Keown (Oxford University Press) 2013																								
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	各回の授業の最後に紹介する歌は、成績には直接関わりませんが、世の中、数字で表わされないものに本当の価値があったりするものです。そこにこそ皆さんに伝えたいものがあるのです。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション																								
その他	いつまで続くんた、この苦役苦行は。と思っていた英語の授業も、振り返ってみれば、あつという間だった気がするでしょう。必修の授業は1年足らずで済みますが、外国語との付き合いはずっと続きます。一生勉強です。																								

講義コード	11A0151201	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	田中 亜由美	開講期	第1期															
科目名	英語3A				田中 亜由美			第1期																
履修前提条件					備考																			
授業の目的	日常生活において使える実践的な英語力の習得を目的とする。特に本授業ではリスニングとスピーキングを中心に多様な場面で用いられる英語表現を学ぶことにより、コミュニケーションツールとしての英語力アップを目指す。																							
到達目標	(1) ネイティブスピーカーによる簡単な日常会話が聞き取れる。(2) 英語で自己紹介ができる。(3) 簡単な質問を理解し、英語で適切に回答できる。(4) 英語による意志伝達・情報発信を楽しむ。(5) 英語を通じて海外の文化や出来事に興味を持つ。																							
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で扱った内容を必ず復習する。重要単語は辞書で確認し、テキストは繰り返し音読をする。指示された宿題や提出課題を終えて次の授業に出席すること。なお、この科目では15時間以上を目安に授業外学修を行う。																							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 Unit 1 Introductions (1)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 Unit 1 Introductions (2)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 Unit 2 What Do You Do? (1)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 Unit 2 What Do You Do? (2)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 Unit 3 I'm Busy! (1)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 Unit 3 I'm Busy! (2)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 Review Units 1 - 3</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 Unit 4 What Does She Look Like? (1)</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 Unit 4 What Does She Look Like? (2)</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 Unit 5 People and Places (1)</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 Unit 5 People and Places (2)</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 Unit 6 Likes and Dislikes (1)</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 Unit 6 Likes and Dislikes (2)</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 Review Units 4 - 6</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第2回】 Unit 1 Introductions (1)	【第3回】 Unit 1 Introductions (2)	【第4回】 Unit 2 What Do You Do? (1)	【第5回】 Unit 2 What Do You Do? (2)	【第6回】 Unit 3 I'm Busy! (1)	【第7回】 Unit 3 I'm Busy! (2)	【第8回】 Review Units 1 - 3	【第9回】 Unit 4 What Does She Look Like? (1)	【第10回】 Unit 4 What Does She Look Like? (2)	【第11回】 Unit 5 People and Places (1)	【第12回】 Unit 5 People and Places (2)	【第13回】 Unit 6 Likes and Dislikes (1)	【第14回】 Unit 6 Likes and Dislikes (2)	【第15回】 Review Units 4 - 6
【第1回】 ガイダンス																								
【第2回】 Unit 1 Introductions (1)																								
【第3回】 Unit 1 Introductions (2)																								
【第4回】 Unit 2 What Do You Do? (1)																								
【第5回】 Unit 2 What Do You Do? (2)																								
【第6回】 Unit 3 I'm Busy! (1)																								
【第7回】 Unit 3 I'm Busy! (2)																								
【第8回】 Review Units 1 - 3																								
【第9回】 Unit 4 What Does She Look Like? (1)																								
【第10回】 Unit 4 What Does She Look Like? (2)																								
【第11回】 Unit 5 People and Places (1)																								
【第12回】 Unit 5 People and Places (2)																								
【第13回】 Unit 6 Likes and Dislikes (1)																								
【第14回】 Unit 6 Likes and Dislikes (2)																								
【第15回】 Review Units 4 - 6																								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (授業内発表、積極性を含む) (40%)、レポート・提出物 (40%)、スピーチ発表 (20%) による。																							
フィードバックの内容	レポートに対するフィードバック、および質問の回答は授業内にて行う。																							
教科書	『Speaking of People (Intro)』 Peter Vincent (南雲堂) 2024																							
指定図書																								
参考書																								
教員からのお知らせ	欠席・遅刻には厳格に対処します。授業は講義形式ではなく、ペアワークやグループワークが中心となります。間違いを恐れず、積極的に参加して欲しいと期待します。																							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																							
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループワークなど。																							
その他																								

講義コード	11A0151202	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	田中 亜由美	開講期	第1期
科目名	英語3B				田中 亜由美		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	日常生活において使える実践的な英語力の習得を目的とする。特に本授業ではリスニングとスピーキングを中心に多様な場面で用いられる英語表現を学ぶことにより、コミュニケーションツールとしての英語力アップを目指す。								
到達目標	(1) ネイティブスピーカーによる簡単な日常会話が聞き取れる。(2) 英語で自己紹介ができる。(3) 簡単な質問を理解し、英語で適切に回答できる。(4) 英語による意志伝達・情報発信を楽しむ。(5) 英語を通じて海外の文化や出来事に興味を持つ。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で扱った内容を必ず復習する。重要単語は辞書で確認し、テキストは繰り返し音読をする。指示された宿題や提出課題を終えて次の授業に出席すること。なお、この科目では15時間以上を目安に授業外学修を行う。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】Unit 1 Introductions (1) 【第3回】Unit 1 Introductions (2) 【第4回】Unit 2 What Do You Do? (1) 【第5回】Unit 2 What Do You Do? (2) 【第6回】Unit 3 I'm Busy! (1) 【第7回】Unit 3 I'm Busy! (2) 【第8回】Review Units 1 - 3 【第9回】Unit 4 What Does She Look Like? (1) 【第10回】Unit 4 What Does She Look Like? (2) 【第11回】Unit 5 People and Places (1) 【第12回】Unit 5 People and Places (2) 【第13回】Unit 6 Likes and Dislikes (1) 【第14回】Unit 6 Likes and Dislikes (2) 【第15回】Review Units 4 - 6								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（授業内発表、積極性を含む）(40%)、レポート・提出物（40%）、スピーチ発表（20%）による。								
フィードバックの内容	レポートに対するフィードバック、および質問の回答は授業内にて行う。								
教科書	『Speaking of People 〈Intro〉』 Peter Vincent (南雲堂) 2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席・遅刻には厳格に対処します。授業は講義形式ではなく、ペアワークやグループワークが中心となります。間違いを恐れず、積極的に参加して欲しいと期待します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループワークなど。								
その他									

講義コード	11A0151301	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	田中 亜由美	開講期	第2期
科目名	英語4A				田中 亜由美		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	日常生活において使える実践的な英語力の習得を目的とする。特に本授業ではリスニングとスピーキングを中心に多様な場面で用いられる英語表現を学ぶことにより、コミュニケーションツールとしての英語力アップを目指す。								
到達目標	(1) ネイティブスピーカーによる簡単な日常会話が聞き取れる。(2) 英語で自己紹介ができる。(3) 簡単な質問を理解し、英語で適切に回答できる。(4) 英語による意志伝達・情報発信を楽しむ。(5) 英語を通じて海外の文化や出来事に興味を持つ。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で扱った内容を必ず復習する。重要単語は辞書で確認し、テキストは繰り返し音読をする。指示された宿題や提出課題を終えて次の授業に出席すること。なお、この科目では15時間以上を目安に授業外学修を行う。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】Unit 7 Personality (1) 【第3回】Unit 7 Personality (2) 【第4回】Unit 8 Tell Me About Your Family (1) 【第5回】Unit 8 Tell Me About Your Family (2) 【第6回】Unit 9 Feelings (1) 【第7回】Unit 9 Feelings (2) 【第8回】Review Units 7 - 9 【第9回】Unit10 Communication (1) 【第10回】Unit10 Communication (2) 【第11回】Unit11 Memories (1) 【第12回】Unit11 Memories (2) 【第13回】Unit12 Into the Future (1) 【第14回】Unit12 Into the Future (2) 【第15回】Review Units 10-12								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（授業内発表、積極性を含む）(40%)、レポート・提出物（40%）、スピーチ発表（20%）による。								
フィードバックの内容	レポートに対するフィードバック、および質問の回答は授業内にて行う。								
教科書	『Speaking of People 〈Intro〉』 Peter Vincent (南雲堂) 2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席・遅刻には厳格に対処します。授業は講義形式ではなく、ペアワークやグループワークが中心となります。間違いを恐れず、積極的に参加して欲しいと期待します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループワークなど。								
その他									

講義コード	11A0151302	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	田中 亜由美	開講期	第2期
科目名	英語4B								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日常生活において使える実践的な英語力の習得を目的とする。特に本授業ではリスニングとスピーキングを中心に多様な場面で用いられる英語表現を学ぶことにより、コミュニケーションツールとしての英語力アップを目指す。								
到達目標	(1) ネイティブスピーカーによる簡単な日常会話が聞き取れる。(2) 英語で自己紹介ができる。(3) 簡単な質問を理解し、英語で適切に回答できる。(4) 英語による意志伝達・情報発信を楽しむ。(5) 英語を通じて海外の文化や出来事に興味を持つ。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で扱った内容を必ず復習する。重要単語は辞書で確認し、テキストは繰り返し音読をする。指示された宿題や提出課題を終えて次の授業に出席すること。なお、この科目では15時間以上を目安に授業外学修を行う。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 Unit 7 Personality (1) 【第3回】 Unit 7 Personality (2) 【第4回】 Unit 8 Tell Me About Your Family (1) 【第5回】 Unit 8 Tell Me About Your Family (2) 【第6回】 Unit 9 Feelings (1) 【第7回】 Unit 9 Feelings (2) 【第8回】 Review Units 7 - 9 【第9回】 Unit10 Communication (1) 【第10回】 Unit10 Communication (2) 【第11回】 Unit11 Memories (1) 【第12回】 Unit11 Memories (2) 【第13回】 Unit12 Into the Future (1) 【第14回】 Unit12 Into the Future (2) 【第15回】 Review Units 10-12								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（授業内発表、積極性を含む）(40%)、レポート・提出物（40%）、スピーチ発表（20%）による。								
フィードバックの内容	レポートに対するフィードバック、および質問の回答は授業内にて行う。								
教科書	『Speaking of People (Intro)』 Peter Vincent (南雲堂) 2024								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	欠席・遅刻には厳格に対処します。授業は講義形式ではなく、ペアワークやグループワークが中心となります。間違いを恐れず、積極的に参加して欲しいと期待します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループワークなど。								
その他									

講義コード	11A0112300	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	則武海源・三輪晃法	開講期	集中
科目名	海外仏教文化研修2								
履修前提条件						備考			
授業の目的	本授業は、現地での実地研修と事前事後の学習を併せて行うことによって、海外における仏教文化とその周辺について体験的に学習することを目的とします。 本年度の海外仏教文化研修はネパールです。ブッダ生誕の地や釈迦族の居城はもとより、ネパールの三古都を巡り、ネパールの宗教事情を歴史的、民族的、地理的、社会的方面から考えます。								
到達目標	研修で訪れた地域の歴史や民族性を体験し、仏教史跡・寺院をはじめとした仏教文化遺産、ネパールの宗教事情の特色や歴史的背景・意義等に関して説明できる。								
授業外学習内容・ 授業外学習時間数	見学先となる史跡・寺院等の歴史・背景等の予習に40時間以上、事前学習会および現地での発表の準備に20時間以上、合計60時間以上の学習を行うこと。								
授業計画	<p>研修参加を希望する学生は、必ず第1回の事前学習会に出席して下さい。それをふまえて履修登録変更期間に履修登録を行って頂きます。</p> <p>事前学習会を3回開催し、各古都や史跡・寺院等の特色や歴史的背景についてあらかじめ知識を蓄え、現地で発表できるように準備してもらいます。</p> <p>事前学習会： 第1回・4月6日（土）4限 第2回・6月8日（土）4限 第3回・7月20日（土）4限 事後学習会： 第4回・9月21日（土）4限</p> <p>研修渡航期間： 8月26日～9月3日（9日間）</p> <p>※事前学習会・事後学習会は以上の日程で行う予定（教室は1353教室の予定）。 教室等の詳細・日程変更があった場合は、仏教学部掲示板に掲示、もしくはポータルサイトで伝達します。 登校時には必ず仏教学部掲示板（2号館・4号館間の地下1階外廊下）や事前にポータルサイトを見るようにしてください。</p> <p>主な研修先 1. 釈迦生誕地ルンビーニ 2. 釈迦族居城・四門出遊地ティラウラコット 3. デーヴァダッタ村・八王分骨地ラマグラマ 4. カトマンズ盆地の三古都 5. 最古の寺院スワンプナート・目玉寺院ボダナート 6. 最大のヒンドゥー教寺院・火葬場パシュパティナート など</p> <p>&lt;特記&gt; ネパールとの交流が深い著名なアルピニストで本学客員教授の竹内洋岳先生（日本人初8000m 峰14座登頂者）のご協力により、日本大使館での日尼文化交流や NGO 農園視察などの文化交流も予定されております。</p>								
成績評価の方法	事前学習・現地研修の平常点60%、研修レポート40%で成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは、授業時に指示します。								
教科書	各種プリント等を配布								
指定図書	授業中に指示を出します。								
参考書	授業中に指示を出します。								
教員からのお知らせ	事前・事後学習会に必ず参加し、予備知識や必要な情報修得に自ら努めてください。渡航における安全確保や集団行動に対応出来るよう、健康を含め自己管理を心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応するほか、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、フィールドワーク								
その他	日本ならびに研修国等の法令に違反する行為、団体を乱し行動の妨げとなる行為、注意事項を怠る行為等を行った者は、参加中止・即刻帰国に処す場合があります。厳に自制し皆で協力して実り多い研修としましょう。								



講義コード	11A0103200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第1期																
科目名	開目抄講義1				三輪 是法		第1期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	『開目抄』は、日蓮聖人の三大部の中に含まれる重要な書である。本書は、日蓮聖人流罪の地・佐渡において執筆され、その内容は、仏教を布教・実践する宗教者としての自覚を表明された書といわれている。大著である『開目抄』をじっくりと拝読し、日蓮聖人の仏教の特質と、自覚という心理的動向について理解していく。																								
到達目標	『開目抄』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】オリエンテーション～『開目抄』 解題1</td> <td>【第9回】『開目抄』 講読6</td> </tr> <tr> <td>【第2回】『開目抄』 解題2</td> <td>【第10回】『開目抄』 講読7</td> </tr> <tr> <td>【第3回】『開目抄』 解題3</td> <td>【第11回】『開目抄』 講読8</td> </tr> <tr> <td>【第4回】『開目抄』 講読1</td> <td>【第12回】『開目抄』 講読9</td> </tr> <tr> <td>【第5回】『開目抄』 講読2</td> <td>【第13回】『開目抄』 講読10</td> </tr> <tr> <td>【第6回】『開目抄』 講読3</td> <td>【第14回】『開目抄』 講読11</td> </tr> <tr> <td>【第7回】『開目抄』 講読4</td> <td>【第15回】まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】『開目抄』 講読5</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】オリエンテーション～『開目抄』 解題1	【第9回】『開目抄』 講読6	【第2回】『開目抄』 解題2	【第10回】『開目抄』 講読7	【第3回】『開目抄』 解題3	【第11回】『開目抄』 講読8	【第4回】『開目抄』 講読1	【第12回】『開目抄』 講読9	【第5回】『開目抄』 講読2	【第13回】『開目抄』 講読10	【第6回】『開目抄』 講読3	【第14回】『開目抄』 講読11	【第7回】『開目抄』 講読4	【第15回】まとめ	【第8回】『開目抄』 講読5	
【第1回】オリエンテーション～『開目抄』 解題1	【第9回】『開目抄』 講読6																								
【第2回】『開目抄』 解題2	【第10回】『開目抄』 講読7																								
【第3回】『開目抄』 解題3	【第11回】『開目抄』 講読8																								
【第4回】『開目抄』 講読1	【第12回】『開目抄』 講読9																								
【第5回】『開目抄』 講読2	【第13回】『開目抄』 講読10																								
【第6回】『開目抄』 講読3	【第14回】『開目抄』 講読11																								
【第7回】『開目抄』 講読4	【第15回】まとめ																								
【第8回】『開目抄』 講読5																									
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント（事前学習の有無を判断）、最終試験70パーセント（事後学修の有無を判断）で評価する。																								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行う。																								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年																								
指定図書	『日蓮聖人遺文全集 第二巻』渡辺宝陽・関戸堯海（春秋社）2011年、『日本の仏典9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰（筑摩書房）1988年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年																								
参考書	『開目抄講讀 上下』茂田井教亨（山喜房佛書林）1988年、『傍訳日蓮聖人御遺文 開目抄 上下』庵谷行亨・高森大乘（四季社）2001年、『日蓮聖人御遺文講義 第二巻』石川海典（日本仏書刊行会）1964年																								
教員からのお知らせ	開目抄講義2／（二）をあわせて履修してください。その他、参考文献については適宜紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』を持っている学生（日蓮宗寺院にはあると思います）は、必ず持参するようにしてください。																								
オフィスアワー	水曜日を原則とします。その他、メールで可能な限り対応します。																								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。																								
その他																									

講義コード	11A0103300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第2期																
科目名	開目抄講義2				三輪 是法		第2期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	『開目抄』は、日蓮聖人の三大部の中に含まれる重要な書である。本書は、日蓮聖人流罪の地・佐渡において執筆され、その内容は、仏教を布教・実践する宗教者としての自覚を表明された書といわれている。大著である『開目抄』をじっくりと拝読し、日蓮聖人の仏教の特質と、自覚という心理的動向について理解していく。																								
到達目標	『開目抄』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】第1期復習・『開目抄』 講読1</td> <td>【第9回】『開目抄』 講読9</td> </tr> <tr> <td>【第2回】『開目抄』 講読2</td> <td>【第10回】『開目抄』 講読10</td> </tr> <tr> <td>【第3回】『開目抄』 講読3</td> <td>【第11回】『開目抄』 講読11</td> </tr> <tr> <td>【第4回】『開目抄』 講読4</td> <td>【第12回】『開目抄』 講読12</td> </tr> <tr> <td>【第5回】『開目抄』 講読5</td> <td>【第13回】『開目抄』 講読13</td> </tr> <tr> <td>【第6回】『開目抄』 講読6</td> <td>【第14回】『開目抄』 講読14</td> </tr> <tr> <td>【第7回】『開目抄』 講読7</td> <td>【第15回】まとめ～総括</td> </tr> <tr> <td>【第8回】『開目抄』 講読8</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】第1期復習・『開目抄』 講読1	【第9回】『開目抄』 講読9	【第2回】『開目抄』 講読2	【第10回】『開目抄』 講読10	【第3回】『開目抄』 講読3	【第11回】『開目抄』 講読11	【第4回】『開目抄』 講読4	【第12回】『開目抄』 講読12	【第5回】『開目抄』 講読5	【第13回】『開目抄』 講読13	【第6回】『開目抄』 講読6	【第14回】『開目抄』 講読14	【第7回】『開目抄』 講読7	【第15回】まとめ～総括	【第8回】『開目抄』 講読8	
【第1回】第1期復習・『開目抄』 講読1	【第9回】『開目抄』 講読9																								
【第2回】『開目抄』 講読2	【第10回】『開目抄』 講読10																								
【第3回】『開目抄』 講読3	【第11回】『開目抄』 講読11																								
【第4回】『開目抄』 講読4	【第12回】『開目抄』 講読12																								
【第5回】『開目抄』 講読5	【第13回】『開目抄』 講読13																								
【第6回】『開目抄』 講読6	【第14回】『開目抄』 講読14																								
【第7回】『開目抄』 講読7	【第15回】まとめ～総括																								
【第8回】『開目抄』 講読8																									
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント（事前学習の有無を判断）、最終試験70パーセント（事後学修の有無を判断）で評価する。																								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行っていく。																								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年																								
指定図書	『日蓮聖人遺文全集 第二巻』渡辺宝陽・関戸堯海（春秋社）2011年、『日本の仏典9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰（筑摩書房）1988年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年																								
参考書	『開目抄講讀 上下』茂田井教亨（山喜房佛書林）1988年、『傍訳日蓮聖人御遺文 開目抄 上下』庵谷行亨・高森大乘（四季社）2001年、『日蓮聖人御遺文講義 第二巻』石川海典（日本仏書刊行会）1964年																								
教員からのお知らせ	開目抄講義1／（一）をあわせて履修してください。その他、参考文献については適宜紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』を持っている学生（日蓮宗寺院にはあると思います）は、必ず持参するようにしてください。																								
オフィスアワー	水曜日を原則とします。その他、メールで可能な限り対応します。																								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して対話を行う。																								
その他																									

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義・演習	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	学修の基礎Ⅰ〔A～C〕					丹治 恭子	第1期
履修前条件		備考	講義コード [A] 11A0152001 [B] 11A0152002 [C] 11A0152003				
授業の目的	<p>本科目は、立正大学仏教学部入学者を対象に、高等学校までの生活から学問探究の場としての大学生活へとスムーズに移行し、学修に積極的に取り組めるよう、①仏教精神に由来する立正大学・仏教学部での学びの動機づけ、②充実した大学生活を送るために必要となる事項の理解、③大学生として求められる基礎的なコミュニケーションの方法ならびにアカデミック・スキルの修得、を主な目的としている。</p> <p>本授業では複数クラスを編成し、少人数制を導入する。①については、仏教学を専門分野とする教員が「立正大学を知る」をテーマに講義を行い、②については、障害や命といった身近なテーマを専門とする講師を招いて特別講義を行う。なお、①②は講義内容に応じて全クラス合同での対面授業またはオンライン授業を実施する。③については、大学での研究・学修と関連づけながら、「話す」「聞く」「読む」「書く」といったコミュニケーション活動を用いて講義・演習を行う。なお、演習では、受講者同士のグループ・ワークを行い、実践的な理解を図る。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>立正大学仏教学部の一員としての誇りを持ち、学修に積極的に取り組むことができる。</li> <li>大学生に求められる基礎的なアカデミック・スキルズについて理解することができる。</li> <li>大学生活に必要なコミュニケーションの方法を理解し、実践することができる。</li> </ol>						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の講義で扱う項目について、授業内で提示する課題ならびに図書館及びインターネットを活用した予習・復習に取り組むこと。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 オリエンテーション・異文化体験としての大学生活</li> <li>【第2回】 文献読解基礎能力テスト</li> <li>【第3回】 スタディ・スキル (1) — 学内情報サービスの使い方</li> <li>【第4回】 学生生活の留意点 (1) — 大学生とカルト</li> <li>【第5回】 スタディ・スキル (2) — メールを書く、ノートをとる</li> <li>【第6回】 学生生活の留意点 (2) — 命を考える (合同授業) ※オンライン授業で実施</li> <li>【第7回】 学生生活の留意点 (3) — 障害を考える (合同授業)</li> <li>【第8回】 スタディ・スキル (3) — 図書館の使い方</li> <li>【第9回】 スタディ・スキル (4) — レポートとは何か</li> <li>【第10回】 スタディ・スキル (5) — 論理的な文章とは</li> <li>【第11回】 立正大学を知る (1) — 建学の精神・立正大学の歴史 (合同授業)</li> <li>【第12回】 スタディ・スキル (6) — 論理的な文章と論理的でない文章</li> <li>【第13回】 スタディ・スキル (7) — レポートの形式</li> <li>【第14回】 立正大学を知る (2) — 立正大学仏教学部の学び (合同授業)</li> <li>【第15回】 大学での学び</li> </ul>						
成績評価の方法	課題またはレポート (25%)、各回の授業外学修課題 (45%) および授業への取り組み姿勢 (30%) で評価する。						
フィードバックの内容	レスポンスカードに対するフィードバックは、次回以降の授業内にて行う。						
教科書	『START 学修の基礎2024』立正大学全学教育推進センター運営委員会編 (立正大学) 2024						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業計画に示した各回の内容は、合同授業の日程等によって前後することがある。また、合同授業の実施方法については内容に応じて変更される場合がある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、メール (アドレスは授業内で提示) でも受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、グループ・ワーク、反転授業						
その他							

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義・演習	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	学修の基礎Ⅱ(A～C)					丹治 恭子	第2期
履修前提条件		備考	講義コード [A] 11A0152101 [B] 11A0152102 [C] 11A0152103				
授業の目的	<p>本科目は、仏教学の専門的学修への導入を図るとともに、学問探求の場としての大学での学修・生活に取り組むための基礎として、①仏教学部での学びの動機づけ、②充実した学生生活を送るために必要となる事項の理解、③大学における学修・研究活動に必須となるアカデミック・スキルズ、ならびにそこで用いられるコミュニケーション技能の習得、を主な目的とする。</p> <p>本授業も「学修の基礎Ⅰ」と同様、複数クラス編成の少人数制を導入する。①については、仏教学を専門分野とする教員が案内役となり、宗教・仏教に関連する施設を見学する機会を2～3回程度設け、履修者はいずれかの回に参加する（行先・日程等の詳細については、授業内で提示する）。②は、アルバイト等の学生生活に関するテーマを取り上げ、必要に応じて全クラス合同またはオンラインで授業を実施する。③については、クラス別に、「話す」「聞く」「読む」「書く」といったコミュニケーション活動について、大学での研究・学修と関連づけながら講義・演習を行う。なお、演習では、受講者同士のペアワークやグループワークを行い、実践的な理解を図る。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仏教学に対する関心をもち、学修に積極的に取り組むことができる。</li> <li>2. 大学生として求められる基礎的なアカデミック・スキルズを理解し、実践することができる。</li> <li>3. 大学生生活に必要なコミュニケーションの方法を理解し、実践することができる。</li> </ol>						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の講義で扱う項目について、授業内で提示する課題ならびに図書館及びインターネットを活用した予習・復習に取り組むこと。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】オリエンテーション</li> <li>【第2回】学生生活の留意点(1) — ソーシャルメディアと情報倫理</li> <li>【第3回】論理的な文章(1) — 論理的文章の構造</li> <li>【第4回】論理的な文章(2) — 論証とは何か</li> <li>【第5回】論理的な文章(3) — 事実と意見 ※オンライン授業で実施</li> <li>【第6回】論理的な文章(4) — 資料の読取</li> <li>【第7回】論理的な文章(5) — 構成 ※オンライン授業で実施</li> <li>【第8回】論理的な文章(6) — レポートの作成</li> <li>【第9回】学生生活の留意点(2) — アルバイトを考える</li> <li>【第10回】学生生活の留意点(3) — 学生生活とアルバイト(合同授業)</li> <li>【第11回】学生生活の留意点(4) — 学生生活を考える</li> <li>【第12回】宗教・仏教関連施設の見学(1)(合同授業)</li> <li>【第13回】宗教・仏教関連施設の見学(2)(合同授業)</li> <li>【第14回】学びの振り返り・文献読解基礎能力テスト(合同授業)</li> <li>【第15回】まとめと今後の課題</li> </ul>						
成績評価の方法	課題またはレポート(25%)、各回の授業外学修課題(45%)および授業への取り組み姿勢(30%)で評価する。						
フィードバックの内容	レスポンスカードに対するフィードバックは、次回以降の授業内にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『START 学修の基礎2024』立正大学全学教育推進センター運営委員会編(立正大学)2024						
教員からのお知らせ	授業計画に示した各回の内容は、合同授業の日程等によって前後することがある。また、合同授業の実施方法については内容に応じて変更される場合がある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、メール(アドレスは授業内で提示)でも受け付ける。						
アクティブラーニングの内容その他	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、調査学習、グループワーク、反転授業						

か

講義コード	11A0103400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第1期
科目名	<b>観心本尊抄講義 1</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	『観心本尊抄』には、日蓮聖人みずから「当身の大事」と記されているように、最重要の教えが開陳されている。すなわち、聖人が幾多の法難を克服して「法華経の行者」としての自覚を深められ、さらに久遠の釈尊の勅命に応じて、末法に応現した地涌の菩薩としての自覚に立って執筆されたのが『観心本尊抄』である。そこで本抄の講読を通して、聖人独自の法華経信仰の世界を探究し、末代凡夫の救済のあり方についてたずねてみたい。								
到達目標	『観心本尊抄』がどのような意図で著され、いかなる宗教的意義をもつかを理解できるようになる。また本抄の概要を説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では毎回4時間程度(合計60時間以上)の授業外学修を行うこと。まず予習としてテキストの該当箇所を読み、専門用語等について予め調べる。授業中は、日蓮聖人の遺文の中でも最重要の『観心本尊抄』を拝読するので真摯な学修が要請される。さらに毎回の復習として、使用するシステム(Teams)を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】日蓮聖人の五大部について(1) 【第3回】日蓮聖人の五大部について(2) 【第4回】『観心本尊抄』の解題、構成と大綱 【第5回】『観心本尊抄』撰述の由来 【第6回】『観心本尊抄副状』と題号釈 【第7回】〈序分〉第1章「天台教学における一念三千の位置」第1節：一念三千名称の出处 【第8回】第1章第2節：天台大師を歎じて後世を誡しむ				【第9回】第2章「観門の意義」第1節：教門の難信難解 【第10回】第2章第2節：観門の難信難解 【第11回】第3章「法華経の十界互具」第1節：観心と向鏡 【第12回】第3章第2節：法華経における十界互具の明文 【第13回】第3章第3節：十界互具の事実 【第14回】第3章第4節：人界具仏界の難信難解 【第15回】まとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(毎回の課題・感想など)50%、期末試験(50%)を基準として総合的に評価します。								
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内冒頭にて行います。								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)2008年、『日蓮聖人『観心本尊抄』を読む』北川前肇(大法輪閣)2008年								
指定図書	『本尊抄講讀(上・中・下)』茂田井教亨述(山喜房佛書林)1983~7年、『日本の仏典9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰著(筑摩書房)1988年								
参考書	『日蓮聖人御遺文講義第3巻』望月敏厚著(日蓮聖人遺文研究会)1957年復刊、『仏典講座38 観心本尊抄』浅井圓道著(大蔵出版)1982年、『傍訳 観心本尊抄』小松邦彰・田村完爾編著(四季社)2002年、『國寶『観心本尊抄』讃仰』渡邊寶陽著(山喜房佛書林)2013年								
教員からのお知らせ	本講義の受講の必須条件として、3年次の「法華経概論1・2」が履修済であることを前提としますので、あらかじめご承知おき下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステム(Teams)の質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。								
その他									

講義コード	11A0103500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第2期
科目名	<b>観心本尊抄講義 2</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	『観心本尊抄』には、日蓮聖人みずから「当身の大事」と記されているように、最重要の教えが開陳されている。すなわち、聖人が幾多の法難を克服して「法華経の行者」としての自覚を深められ、さらに久遠の釈尊の勅命に応じて、末法に応現した地涌の菩薩としての自覚に立って執筆されたのが『観心本尊抄』である。そこで本抄の講読を通して、聖人独自の法華経信仰の世界を探究し、末代凡夫の救済のあり方についてたずねてみたい。								
到達目標	『観心本尊抄』がどのような意図で著され、いかなる宗教的意義をもつかを理解できるようになる。また聖人独自の法門は、三十三字段、四十五字段、五十一字段に帰結していることを説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では毎回4時間程度(合計60時間以上)の授業外学修を行うこと。まず予習としてテキストの該当箇所を読み、専門用語等について予め調べる。授業中は、日蓮聖人の遺文の中でも最重要の『観心本尊抄』を拝読するので真摯な学修が要請される。さらに毎回の復習として、使用するシステム(Teams)を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。								
授業計画	【第1回】〈正宗分〉第4章「受持の成仏」第1節：七大難問 【第2回】第4章第2節：爾前経の真理性と天台の僻見 【第3回】第4章第3節：難信難解と覚知の三師 【第4回】第4章第4節：一念三千の仏種 【第5回】第4章第5節：受持と譲与 【第6回】第5章「本尊の相貌」第1節：不常住の依正、第2節：三千常住と本門の肝心 【第7回】第5章第3節：本尊の相貌 【第8回】〈流通分〉第6章「末法の法華経」第1節：五重三取				【第9回】第6章第2節：末法為正と種脱対判 【第10回】第6章第3節：起顕竟と下種の必然 【第11回】第7章「末法の依師」第1節：四種の四依 【第12回】第7章第2節：遣使還告と神力別付 【第13回】第8章「五義の闡明」第1節：謗法と五字と地涌 【第14回】第8章第2節：仏記と現証 【第15回】まとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(毎回の課題・感想など)50%、期末試験(50%)を基準として総合的に評価します。								
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内冒頭にて行います。								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)2008年、『日蓮聖人『観心本尊抄』を読む』北川前肇著(大法輪閣)2008年								
指定図書	『本尊抄講讀(上・中・下)』茂田井教亨述(山喜房佛書林)1983~7年、『日本の仏典9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰著(筑摩書房)1988年								
参考書	『日蓮聖人御遺文講義第3巻』望月敏厚著(日蓮聖人遺文研究会)1957年復刊、『仏典講座38 観心本尊抄』浅井圓道著(大蔵出版)1982年、『傍訳 観心本尊抄』小松邦彰・田村完爾編著(四季社)2002年、『國寶『観心本尊抄』讃仰』渡邊寶陽著(山喜房佛書林)2013年、『法華経の信心〜久遠釈尊からの要請に生きる〜』原 慎定著(日蓮宗福岡県布教師会)2020年								
教員からのお知らせ	本講義の受講の必須条件として、「法華経概論1・2」および「観心本尊抄講義1」が履修済であることを前提としますので、あらかじめご承知おき下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステム(Teams)の質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。								
その他									

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅰ(A～C)					田中 聖華	第1期
履修前提条件	2024年度仏教学部入学生は履修不可。						
備考	講義コード [A] 17Y0105101 [B] 17Y0105102 [C] 17Y0105103						
授業の目的	本科目では、社会・組織における自己の役割や仕事への動機付けといった自己理解の深化や、主体的に職業を選択するために自己の適性や生き方を考える態度など、社会人としての資質能力を形成するために必要とされる要素を明確化することが目的である。自己管理能力やキャリア・プランニング能力を高めることで、大学から社会・職業への円滑な移行を図ることを目的とする。						
到達目標	生涯を通じた持続的かつ自律的なキャリア形成が促進されることで、環境の変化に対応しながら自分らしい生き方を実現することが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度の育成が期待される。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組むために、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス：本科目の主旨と授業の進め方、履修上の注意等</p> <p>【第2回】キャリアについて考えるⅠ：キャリアとは、なぜキャリア開発が必要なのか</p> <p>【第3回】社会を知るⅠ：大学生の役割と学び</p> <p>【第4回】社会を知るⅡ：進路の考え方</p> <p>【第5回】自分を知るⅠ：過去のふりかえりからやる気を分析する（過去）</p> <p>【第6回】自分を知るⅡ：職業についての価値観を確かめる（現在）</p> <p>【第7回】自分を知るⅢ：職業についての興味を確認する（現在）</p> <p>【第8回】自分を知るⅣ：キャリアステージを広げる（現在～未来）</p> <p>【第9回】社会を知るⅢ：社会から求められる能力とは</p> <p>【第10回】社会を知るⅣ：Society 5.0の社会について考える</p> <p>【第11回】自分を知るⅤ：ダイバーシティ&amp;インクルージョン、アンコンシャスバイアス</p> <p>【第12回】自分を知るⅥ：上手くいかないときは？（現在～将来）</p> <p>【第13回】仕事を知るⅠ：職業世界へのアプローチ（業界、業種、職種、資格情報への扉）</p> <p>【第14回】キャリアについて考えるⅡ：キャリアチェンジのとらえ方</p> <p>【第15回】まとめ</p> <p>*クラスサイズにより、授業計画の進捗や順序が異なることがある。</p>						
成績評価の方法	授業中およびリアクションペーパーによる授業取り組み姿勢40%、授業中ワークに基づく自己分析レポート30%、期末試験30%の合計点を評価点とする。						
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	資料およびワークシート配布、連絡は指定アプリを使用する。確認を欠かさないこと。指定アプリの使い方は初回授業で説明する。事前配布されるワークシートがある場合はプリントアウトして持参すること。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（setanakaris@gmail.com）で受けつけます。必要に応じて、授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。なるべく予めメールで連絡をしてください。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、反転授業、グループディスカッション、ペアワークなど *クラスサイズにより、実施できない内容もある。						
その他	企業人としての社会人経験や国家資格キャリアコンサルタントの知識および経験を生かし、ワークとその振り返りを中心とした授業をおこなう。自身のキャリア開発に関心を持ち積極的に取り組む受講者を歓迎する。						

講義コード	17Y0105104	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	勝又 あずさ	開講期	第1期
科目名	キャリア開発基礎講座 I D								
履修前条件	2024年度仏教学部入学生は履修不可。				備考				
授業の目的	<p>本科目の目的は、学生が、コミュニケーションを通じた自他理解と、大学生活と卒業後も視野に入れた「自律的なキャリア開発」について考えることである。</p> <p>具体的には、自らキャリアを開発していく上で必要な考えかたを、理論と実践を組み合わせながら学んでいく。授業の前半は“自分らしさ”を追究し、後半は“キャリアビジョン”を描いていく。</p> <p>この科目の大まかなながれは、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の歩んできた道をふり振り返り、今、自分の糧になっている出逢いや正念場を意味づける。</li> <li>2. 自分の強みを整理する。他者の魅力を知り自分を観る。集団における自分を観る。</li> <li>3. 将来を描き、目標を設定し、コミットする（目標は決めつけず柔軟な発想で）。</li> </ol> <p>大学時代のこの節目に自他理解と関係構築を行いながら、立正大学生としての「モラリスト×エキスパート」を体現していく。</p> <p>注：履修については、本シラバスの「教員からのお知らせ」に記載した4つの項目を認識の上で、履修を検討してください。</p>								
到達目標	<p>本授業では下記3点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分と他者と社会について考え、大学で学ぶ意味、働く意義について、自身の意見を論理的に表現できる。</li> <li>2. 集団の中で自己の価値を發揮し、他者の価値を引き出し、リーダーシップを發揮する場をつくる。</li> <li>3. キャリアに関する諸理論を理解し、自分なりの解釈ができる。</li> </ol>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回の授業で学び得たことを授業レポートとして提出する（500字以上と毎回文字数を指定する予定）。</li> <li>2. 授業後のおさらい・振り返りと、翌日に扱うテーマの予習を行う。</li> <li>3. 理論について、学習後は自分なりの解釈を書きとめ、また翌日に備え質問を整理しておく。</li> </ol> <p>授業外には計60時間以上の学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション（科目趣旨と授業の進め方）、グランドルール、キャリアとは、クラスづくり</p> <p>【第2回】 自己理解と他者理解：一人ひとりの個性を大切にしよう</p> <p>【第3回】 キャリア発達：ライフステージとキャリアステージ、ライフ・キャリア・レインボー</p> <p>【第4回】 キャリアとアイデンティティ、キャリア・アンカー</p> <p>【第5回】 多様な働き方：社会を知り職業を知る、職業興味と職業選択理論</p> <p>【第6回】 多様な生き方：ダイバーシティ・エクイティ・インクルーシブネス</p> <p>【第7回】 創造するキャリア・創造する社会、計画された偶発性理論</p> <p>【第8回】 働くことの意味：なぜ働くのか、どのように働こうか、キャリア構成理論</p> <p>【第9回】 働くことの意義：生き活きと働いている人、社会を創造・共創する人</p> <p>【第10回】 よく生きる：ウエルビーイングとメンタルヘルス</p> <p>【第11回】 世界市民・地球市民として：サステナビリティ、他者と社会との共生</p> <p>【第12回】 キャリアビジョンとライフテーマ：将来の見通し</p> <p>【第13回】 キャリアプラン：社会に出てどう生きようか</p> <p>【第14回】 アクションプラン：学生生活をどう過ごそうか</p> <p>【第15回】 授業全体のふりかえり 今後の実践と継続的発展に向けてコミットメント・授業総まとめ</p> <p>受講者にあわせて授業を進行していくため、内容を更新する場合がある。</p>								
成績評価の方法	<p>下記4項目の合計点で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点（授業への参加度等）（30%）</li> <li>2. 授業で学んだことのふりかえり・解釈、授業レポートの提出（30%）</li> <li>3. 授業への取り組み姿勢として、授業中の発言・質問・設営準備等の貢献、受講態度やペア・グループワークにおけるファシリテーションや、協同学習におけるリーダーシップ（5%）</li> <li>4. 定期試験に代わるレポート（35%）</li> </ol> <p>出席すべき時間数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目修了の認定を受けることができない。</p>								
フィードバックの内容	<p>授業レポートには授業での学びや理論の解釈について記述を求めるが、授業時間内にその授業レポートに対するフィードバックを行う。</p>								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の教室での座席について、毎回ランダムに配付する座席票の番号に座っていただき毎回異なるクラスメイトとペアワーク・グループワークを行っていただく予定です。</li> <li>2. 授業終了後には毎回、授業レポートをWebClassを通して提出していただきます（500字以上といったように毎回文字数を指定する予定）。</li> <li>3. 授業は、アイスブレイク・講義・演習・ふりかえりで構成され、対話・グループワーク・ちいさな発表を行う予定です。</li> <li>4. 授業ではグランドルールを守り、一人ひとりの生き方を尊重し多様性を受容するクラスを全員でつくっていきましょう。上記4つの項目を認識の上で、履修を検討してください。</li> </ol>								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。</p> <p>WebClassのメッセージ機能→メールでの問い合わせにも対応する。</p> <p>メールアドレス：katsumata [at] seiyo.ac.jp * [at] を@に置き換える。</p>								
アクティブラーニングの内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の教室での座席について、毎回ランダムに配付する座席票の番号に座っていただき毎回異なるクラスメイトとペアワーク・グループワークを行っていただく予定です。</li> <li>2. 授業終了後には毎回、授業レポートをWebClassを通して提出する（500字以上といったように毎回文字数を指定する予定）。</li> <li>3. 授業は、アイスブレイク・講義・演習・ふりかえりで構成され、対話・グループワーク・ちいさな発表を行う予定です。</li> <li>4. 授業ではグランドルールを守り、一人ひとりの生き方を尊重し多様性を受容するクラスを全員でつくっていく。上記4つの項目を認識の上で、履修を検討のこと。</li> </ol>								
その他									

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅰ〔E・L〕				山田 竜平		【E】第1期集中 【L】第2期集中
履修前提条件	2024年度仏教学部入学生は履修不可。			備考	講義コード〔E〕17Y0105105〔L〕17Y0105112		
授業の目的	本科目では、社会・組織における自己の役割や仕事への動機付けといった自己理解の深化や、主体的に職業を選択するために自己の適性や生き方を考える態度など、社会人としての資質能力を形成するために必要とされる要素を明確化することが目的である。 自己管理能力やキャリア・プランニング能力を高めることで、大学から社会・職業への円滑な移行を図ることを目的とする。						
到達目標	生涯を通じた持続的かつ自律的なキャリア形成が促進されることで、環境の変化に対応しながら自分らしい生き方を実現することが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度の育成が期待される。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方 【第2回】自己理解：若者はなぜ3年で会社を辞めてしまうのか 【第3回】生涯発達：青年期以降の発達課題、キャリアの意味付け 【第4回】内的キャリア：アイデンティティーの形成、キャリア・アンカー 【第5回】キャリア形成（1）：日本におけるキャリア形成 【第6回】キャリア形成（2）：諸外国とのキャリア形成の比較 【第7回】内的キャリアと計画された偶発性：シャイン理論とクランボルツ理論 【第8回】働くことの意義（1）：なぜ働くのか 【第9回】働くことの意義（2）：社会に求められる人材とは、エンプロイアビリティ 【第10回】働く人のメンタルヘルス 【第11回】21世紀の日本社会（1）：日々変化する社会の中で生き抜くこと 【第12回】21世紀の日本社会（2）：生涯を通してのキャリア・ビジョン 【第13回】キャリア・プラン（1）：社会に出てどう生きるか 【第14回】キャリア・プラン（2）：学生生活をどう過ごすか 【第15回】まとめ ※担当教員によって、授業計画の進捗や順序が異なることがある。						
成績評価の方法	レポート課題 50%、小テスト 30%、授業に対する取り組み姿勢 20%						
フィードバックの内容	授業時間内、リアクションペーパーの記入を求めることがある。次回授業時にリアクションペーパーに対する講評を授業内で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	上記の授業計画に基づいて授業を進める。担当教員によって、授業計画の内容や順序は変更されることがある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業の前および終了後に随時対応する。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、グループワーク、グループ・ディスカッション						
その他							

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅰ〔F～H〕					坪田 まり子	第2期
履修前提条件	2024年度仏教育学部入学生のみ履修可能。						
備考	講義コード〔F〕17Y0105106〔G〕17Y0105107〔H〕17Y0105108						
授業の目的	本科目では、社会・組織における自己の役割や仕事への動機付けといった自己理解の深化や、主体的に職業を選択するために自己の適性や生き方を考える態度など、社会人としての資質能力を形成するために必要とされる要素を明確化することが目的である。自己管理能力やキャリア・プランニング能力を高めることで、大学から社会・職業への円滑な移行を図ることを目的とする。						
到達目標	生涯を通じた持続的かつ自律的なキャリア形成の考え方を理解・促進することで、環境の変化に対応しながら自分らしい生き方を実現することができること。産業構造や就業構造が変化の中で、社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を向上させること。就職活動や社会に出て必須のコミュニケーション能力向上を図ること。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方、本学学生の就職状況</p> <p>【第2回】自己理解：若者はなぜ3年で会社を辞めてしまうのか</p> <p>【第3回】生涯発達：青年期以降の発達課題、キャリアの意味付け</p> <p>【第4回】内的キャリア：アイデンティティーの形成、キャリア・アンカー</p> <p>【第5回】キャリア形成（1）：モチベーション</p> <p>【第6回】キャリア形成（2）：ワーク・ライフ・バランス</p> <p>【第7回】働き方を構成するシャイン理論とクランボルツ理論</p> <p>【第8回】働くことの意義（1）：なぜ働くのか</p> <p>【第9回】働くことの意義（2）：社会に求められる人材とは、エンプロイアビリティ</p> <p>【第10回】働く人のメンタルヘルスとレジリエンス</p> <p>【第11回】21世紀の日本社会（1）：日々変化する社会の中で生き抜くこと、SDGsへの取り組み</p> <p>【第12回】21世紀の日本社会（2）：生涯を通してのキャリア・ビジョン</p> <p>【第13回】キャリア・プラン（1）：社会に出てどう生きるか</p> <p>【第14回】キャリア・プラン（2）：学生生活をどう過ごすか</p> <p>【第15回】まとめ</p>						
成績評価の方法	定期試験50%、レポート20%、授業への取り組み姿勢30% 対面・オンライン授業に関わらず、授業中に発言を求める機会が多い授業。話を聞くだけの受け身姿勢ではなく、自ら手を挙げて発言する姿勢やグループディスカッション時の取り組み姿勢、人前での発表時の取り組み姿勢などを30%として評価し、就職活動に必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。定期試験は、筆記ではなく口頭実技試験に変更する可能性がある。						
フィードバックの内容	授業の冒頭で、前回の授業を振り返ることから始め、理解の定着を図る。 課題に対する講評を良く袖須授業内冒頭で行う場合がある。 課題の内容によっては、個別にコメントを出す場合がある。 ポータルサイトの「振り返り欄」で、前回の授業概要を知らせる（欠席者のため）。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	この授業は授業計画に基づいて授業を進めます。 学生の理解と授業効果を高めるために、順番を変更する場合があります。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内で対応します。 ポータルサイトの掲示板や、Webclass（メール）からの質問も可能とします。						
アクティブラーニングの内容	対面の場合は、毎回の授業で挙手をもとめ意見を積極的に共有する。授業内容に合わせて、適宜、グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる。						
その他	この授業は実務経験のある教員の担当する授業科目です。						



講義コード	備考欄参照	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅰ〔Ⅰ～Ⅰ〕					木村 了子	第2期
履修前提条件	2024年度仏教学部入学生は履修不可。						
備考	講義コード〔Ⅰ〕17Y0105109〔Ⅱ〕17Y0105110〔Ⅲ〕17Y0105111						
授業の目的	本科目では、社会・組織における自己の役割や仕事への動機付けといった自己理解の深化や、主体的に職業を選択するために自己の適性や生き方を考える態度など、社会人としての資質能力を形成するために必要とされる要素を明確化することが目的である。自己管理能力やキャリアプランニング能力を高めることで、大学から社会・職業への円滑な移行を図ることを目的とする。						
到達目標	生涯を通じた持続的かつ自律的なキャリア形成が促進されることで、環境の変化に対応しながら自分らしい生き方を実現することが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的、自立のために必要な基盤となる能力や態度の育成が期待される。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組むために、授業外に60時間以上の学習を行う必要がある。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方、本学学生の就職状況</li> <li>【第2回】生涯発達：青年期以降の発達課題、キャリアの意味付け</li> <li>【第3回】自己理解：若者はなぜ3年で会社を辞めてしまうのか</li> <li>【第4回】アイデンティティの形成と内的キャリア</li> <li>【第5回】ダイバーシティ&amp;インクルージョン</li> <li>【第6回】ワーク・ライフ・バランス</li> <li>【第7回】シャイン理論とクランボルツ理論</li> <li>【第8回】働くことの意義（1）：なぜ働くのか</li> <li>【第9回】働くことの意義（2）：社会に求められる人材とは、エンプロイアビリティ</li> <li>【第10回】働く人のメンタルヘルス</li> <li>【第11回】21世紀の日本社会（1）：私たちが生きている社会と未来</li> <li>【第12回】21世紀の日本社会（2）：VUCA時代に求められること</li> <li>【第13回】キャリア・プラン（1）：社会に出てどう生きるか、キャリアビジョンを考える</li> <li>【第14回】キャリア・プラン（2）：学生生活をどう過ごすか</li> <li>【第15回】まとめ</li> </ul>						
成績評価の方法	期末試験（50%）、レポート（10%）、リアクション・ペーパー（小レポート）に基づく授業に対する取り組み姿勢（40%）						
フィードバックの内容	授業で扱った内容の振り返りを記述するためのリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーに対する講評を次回以降の授業内で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	上記の授業計画に基づいて授業を進める。状況により、授業計画の内容や順序は変更されることがある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、C-learningからも受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習や、授業内でグループ・ワークおよびグループ・ディスカッションを実施する。						
その他							

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅱ〔A～C〕					佐藤 一義	第1期
履修前提条件	2023年度仏教学部入学生は履修不可。						
備考	講義コード〔A〕17Y0105201〔B〕17Y0105202〔C〕17Y0105203						
授業の目的	本科目の目的は、労働者としての権利・義務、就業規則といった雇用にかかわる基本的知識、税金・社会保険・年金の仕組みなどのキャリアを積み上げていく上で必要な知識を習得することに加えて、多様な雇用形態の在り方、男女共同参画社会の意義や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の重要性などについて学ぶことである。						
到達目標	社会人・職業人として必要な知識を習得することで、大学から社会・職業への円滑な移行・将来のキャリア形成の場における様々な課題への柔軟な対応が可能になることが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度が育成される。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方</li> <li>【第2回】雇用環境と諸問題（1）：日本経済の動向、雇用動向</li> <li>【第3回】雇用環境と諸問題（2）：新規学卒者の就職状況</li> <li>【第4回】労働条件・職場環境に関するルール（1）：賃金に関する基準</li> <li>【第5回】労働条件・職場環境に関するルール（2）：労働時間・休日に関する主な制度</li> <li>【第6回】労働条件・職場環境に関するルール（3）：保険や年金に関する主な制度</li> <li>【第7回】雇用システムの在り方：長期雇用・年功賃金、成果主義</li> <li>【第8回】職場における教育・人材育成</li> <li>【第9回】多様な働き方：派遣労働者、契約社員、パートタイム労働者などの雇用形態</li> <li>【第10回】雇用における男女の均等な機会と待遇</li> <li>【第11回】定年、退職及び解雇</li> <li>【第12回】定年・退職後の働き方</li> <li>【第13回】就職・採用活動に関する基礎知識</li> <li>【第14回】新卒段階でのミスマッチの解消に向けて</li> <li>【第15回】まとめ</li> </ul>						
成績評価の方法	定期試験の結果で評価する（100%）						
フィードバックの内容	ポータルサイトの本授業の「掲示板」で質問を受け付ける。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、WebClassのメッセージ機能でも受け付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。						
アクティブラーニングの内容	経済的ニュース・情報を入力した場合や社会人と接した場合、授業で学んだ知識を積極的に確認する授業外学習。						
その他							

講義コード	17Y0105204	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	坪田 まり子	開講期	第1期
科目名	キャリア開発基礎講座ⅡD				坪田 まり子		第1期		
履修前条件	2023年度仏教学部入学生のみ履修可能。				備考				
授業の目的	本科目の目的は、労働者としての権利・義務、就業規則といった雇用にかかわる基本的知識、税金・社会保険・年金の仕組みなどのキャリアを積み上げていく上で必要な知識を習得することに加えて、多様な雇用形態の在り方、男女共同参画社会の意義や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の重要性などについて学ぶものである。								
到達目標	大学から社会・職業への円滑な移行・将来のキャリア形成の場における様々な課題への柔軟な対応ができるようになること。産業構造や就業構造が変化する中で、社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を高めることができること。さらに、キャリア開発Ⅰの授業で身につけた人前で話す力やプレゼンテーション能力のさらに高めること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方 【第2回】雇用環境と諸問題（1）日本経済の動向、雇用動向 【第3回】雇用環境と諸問題（2）新規卒者の離職状況 【第4回】労働条件・職場環境に関するルール（1）賃金に関する基準 【第5回】労働条件・職場環境に関するルール（2）労働時間・休日に関する主な制度 【第6回】労働条件・職場環境に関するルール（3）保険や年金に関する主な制度 【第7回】雇用システムの在り方：長期雇用・年功賃金、成果主義 【第8回】職場における教育・人材育成 【第9回】多様な働き方：派遣労働者、契約社員、パートタイム労働者などの雇用形態 【第10回】雇用における男女の均等な機会と待遇 【第11回】定年、退職及び解雇・その後の働き方など 【第12回】就職・採用活動に関する基礎知識（1） 【第13回】就職・採用活動に関する基礎知識（2） 【第14回】新卒段階でのミスマッチの解消に向けて備えるべきこと 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	定期試験50%、レポート20%、授業への取り組み姿勢30% 対面授業、オンライン授業に関わらず、自主的な発言やグループディスカッション中の積極的な取り組み姿勢、プレゼンテーション時の取り組み姿勢で評価していく。キャリア開発基礎講座Ⅰで得たコミュニケーション能力の成果を実践的な場を設けて評価していく。期末の定期試験は、筆記試験ではなく、成果発表（実技試験）に代える場合がある。								
フィードバックの内容	授業の冒頭で、前回の授業を振り返ることから始め、理解の定着を図る。 課題に対する講評を翌週の授業内冒頭にて行う。 レポートに対する各自へのコメントを適宜、Webclass で出す。								
教科書									
指定図書									
参考書	『ポケット労働法 2023』東京都産業労働局								
教員からのお知らせ	この授業は授業計画に基づいて授業を進めますが、授業の効果を上げるために、順番を変更する場合があります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室にて対応します。 ポータルサイトの掲示板や Webclass からの質問も可とします。								
アクティブラーニングの内容	挙手により意見を求め、全体で共有する。レポートへの教員のフィードバックや学生自身の振り返りを求めることがある。 授業内容のペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを積極的に取り入れる。								
その他	実務経験のある教員の担当する授業科目。 ポケット労働法2023は、適宜、授業で使用するため、初回授業で配布する予定。								

講義コード	17Y0105205	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅱ E				徳山 誠		第2期		
履修前条件	2023年度仏教学部入学生は履修不可。				備考				
授業の目的	本科目では、「大学生にとってのキャリア」はじめ「大学で学ぶ意味」と「社会で働く意義」について理解を深め、自身のキャリアの自律を図ることを目指す。先行きが不透明な時代だからこそ自分で考え、決断し主体的に行動することに大切さが重要で、そのことを自覚するきっかけとする。								
到達目標	激動・激変の社会にあって、変化に柔軟に対応できる力、自らのキャリアについて考え行動する力が必要であることを習得する。さらに、ライフキャリアと職業キャリアについて理解を深め、社会的自立のために必要な礎となる意識ははじめ能力や態度を醸成する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組むために、授業外に60時間以上の学習をおこなう必要がある。								
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション：本科目の趣旨と授業の進め方。キャリアとは何か</p> <p>【第2回】 大学で学ぶ意味、大学教育と働く際に必要な能力との関係</p> <p>【第3回】 社会を見る目を養う、新聞を読むメリットとは</p> <p>【第4回】 労働の連鎖を追ってみる、企業内の労働の連鎖、連鎖のどこを担うのが職業選択</p> <p>【第5回】 アルバイトは就業経験になるのか、アルバイトと正社員は何か違うか</p> <p>【第6回】 働くことの意義：働く目的を考えよう、「仕事」って何？、インタビュー取材</p> <p>【第7回】 やりがいはどこで生まれるのか、その幸運は偶然ではないんです！、中間課題</p> <p>【第8回】 ライフキャリアと職業キャリア（女性の視点）、女性労働の実態を知ろう</p> <p>【第9回】 ライフキャリアと職業キャリア（男性の視点）、働き方改革で日本の未来が変わる？</p> <p>【第10回】 グローバル人材とは、経営のグローバル化、グローバル人材の能力とは？</p> <p>【第11回】 仕事の未来を考える、昔あった仕事、15年先の社会とは、10年先の仕事をイメージしよう</p> <p>【第12回】 変化対応力を鍛える、企業・組織の変化対応力、個人の変化対応力</p> <p>【第13回】 世界の中の日本、相互依存関係が進む国際社会、国際社会の中で日本が果たす役割</p> <p>【第14回】 考える力を高める、データベースを構築すること、やりたいことができるようになるには</p> <p>【第15回】 まとめ、達成度の確認</p>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題（中間）20%</li> <li>・最終試験（対面）またはレポート（リモートの場合）40%</li> <li>・リアクション・ペーパー（授業中の「課題」も含む）評価および授業に対する取り組み姿勢（授業中の態度など）40%</li> </ul>								
フィードバックの内容	毎回授業後に提出するリアクションペーパー（課題）の内容を共有し理解深化を図るため、次回の授業の冒頭で必ずフィードバックをおこなう。								
教科書	『考える力を高めるキャリアデザイン入門』 藤村博之編（有斐閣）2021年4月10日								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	大学は、いろいろなことにチャレンジできる場です。そして、チャレンジには失敗がつきものです。大学は、失敗してもいい場所です。失敗したら、その原因を解明し工夫して、またチャレンジすればいいのです。授業を通じて、失敗を恐れずチャレンジするモチベーションが高まることを期待します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	授業では、意見共有、グループワークによる交流、インタビュー取材、能動的な授業外学習など								
その他									

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義	抽選の有無	あり	担当教員	開講期																
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅲ〔A～F〕					〔A・B・C〕野条 美貴 〔D・E・F〕木村 了子	第1期																
履修前提条件																							
備考	講義コード 〔A〕17Y0105301 〔B〕17Y0105302 〔C〕17Y0105303 〔D〕17Y0105304 〔E〕17Y0105305 〔F〕17Y0105306																						
授業の目的	本科目では、自己分析や業界研究・企業研究を行うことで、産業構造・企業構造の変化に伴う職業人として求められる資質能力の多様化を踏まえた、具体的な業種・職種を意識した職業観・勤労観を育成することが目的である。加えて、実際の現場で活躍する実務家などを外部講師として招聘し、業界や企業の最新動向を学ぶことを目的とする。																						
到達目標	様々な業種・職種と学生の適性や興味・関心がすり合わされることで、自己実現に向けた主体的なキャリアデザインが期待される。産業構造や就業構造が変化の中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度が育成されることを目標とする。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方</td> <td>【第9回】社会を知る（3）：企業研究</td> </tr> <tr> <td>【第2回】自分を知る（1）：自己分析</td> <td>【第10回】業界の特徴を理解する（1）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】働くとは（1）：社会で活躍するために大切なこと</td> <td>【第11回】業界の特徴を理解する（2）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】社会を知る（1）：社会人基礎力</td> <td>【第12回】業界の特徴を理解する（3）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自分を知る（2）：筆記試験の種類と傾向</td> <td>【第13回】業界の特徴を理解する（4）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自分を知る（3）：適職を見つける・考える</td> <td>【第14回】業界の特徴を理解する（5）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】働くとは（2）：先輩からの助言</td> <td>【第15回】まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】社会を知る（2）：業界研究</td> <td></td> </tr> </table>							【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方	【第9回】社会を知る（3）：企業研究	【第2回】自分を知る（1）：自己分析	【第10回】業界の特徴を理解する（1）	【第3回】働くとは（1）：社会で活躍するために大切なこと	【第11回】業界の特徴を理解する（2）	【第4回】社会を知る（1）：社会人基礎力	【第12回】業界の特徴を理解する（3）	【第5回】自分を知る（2）：筆記試験の種類と傾向	【第13回】業界の特徴を理解する（4）	【第6回】自分を知る（3）：適職を見つける・考える	【第14回】業界の特徴を理解する（5）	【第7回】働くとは（2）：先輩からの助言	【第15回】まとめ	【第8回】社会を知る（2）：業界研究	
【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方	【第9回】社会を知る（3）：企業研究																						
【第2回】自分を知る（1）：自己分析	【第10回】業界の特徴を理解する（1）																						
【第3回】働くとは（1）：社会で活躍するために大切なこと	【第11回】業界の特徴を理解する（2）																						
【第4回】社会を知る（1）：社会人基礎力	【第12回】業界の特徴を理解する（3）																						
【第5回】自分を知る（2）：筆記試験の種類と傾向	【第13回】業界の特徴を理解する（4）																						
【第6回】自分を知る（3）：適職を見つける・考える	【第14回】業界の特徴を理解する（5）																						
【第7回】働くとは（2）：先輩からの助言	【第15回】まとめ																						
【第8回】社会を知る（2）：業界研究																							
成績評価の方法	期末試験（50%）、リアクション・ペーパー（小レポート）に基づく授業に対する取り組み姿勢（50%）																						
フィードバックの内容	授業で扱った内容の振り返りを記述するためのリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーに対する講評を次回以降の授業内で行う。																						
教科書	『会社四季報 業界地図2024年版』（東洋経済新報社）2023年																						
指定図書																							
参考書	『CAREER COMPASS 2026』（立正大学キャリアサポートセンター）																						
教員からのお知らせ	上記の授業計画に基づいて授業を進める。但し、学外の講師による講演が授業計画の一部に含まれるため、授業計画は変更されることがある。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、C-learningからも受け付ける。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習や、授業内でグループ・ワークおよびグループ・ディスカッションを実施する。																						
その他	参考書は、3月下旬に実施のキャリアサポートセンター主催「キャリアガイダンス」で配布します。																						

講義コード	16A0170300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期																
科目名	教化学1					宮崎 英朋	第2期																
履修前提条件	備考																						
授業の目的	本学の名称は、日蓮聖人の『立正安国論』に由来すると大学紹介にあるように、日蓮宗教師を目指す学生が入学する大学でもあります。僧階単位となる本授業は、日蓮宗教師を目指す履修生の一助として、日蓮宗の教師（僧侶）になるにはどのようなことが必要なのか。また、教師（僧侶）とは何を以て教師（僧侶）なのかを探求していくことが目的です。																						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業を受けることにより、日蓮宗教師（僧侶）になる心構えを養う。</li> <li>・宗定日蓮宗法要式を読めるようになる。</li> <li>・様々な教化の方法を作り上げることが出来る。</li> </ul>																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、テキストの該当箇所を読み、予習、実践を行う（30時間）。 最終的にレポート提出となり、それに費やす時間も含めてよろしい（30時間）。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】本講義の目的</td> <td>【第9回】宗定日蓮宗法要式④</td> </tr> <tr> <td>【第2回】日蓮宗の組織</td> <td>【第10回】宗定日蓮宗法要式⑤</td> </tr> <tr> <td>【第3回】日蓮宗の修行・教育機関</td> <td>【第11回】宗定日蓮宗法要式⑥</td> </tr> <tr> <td>【第4回】日蓮宗教師（僧侶）</td> <td>【第12回】宗定日蓮宗法要式⑦</td> </tr> <tr> <td>【第5回】教化の手段</td> <td>【第13回】宗定日蓮宗法要式⑧</td> </tr> <tr> <td>【第6回】宗定日蓮宗法要式①</td> <td>【第14回】宗定日蓮宗法要式⑨</td> </tr> <tr> <td>【第7回】宗定日蓮宗法要式②</td> <td>【第15回】まとめ 教化と実践</td> </tr> <tr> <td>【第8回】宗定日蓮宗法要式③</td> <td></td> </tr> </table>							【第1回】本講義の目的	【第9回】宗定日蓮宗法要式④	【第2回】日蓮宗の組織	【第10回】宗定日蓮宗法要式⑤	【第3回】日蓮宗の修行・教育機関	【第11回】宗定日蓮宗法要式⑥	【第4回】日蓮宗教師（僧侶）	【第12回】宗定日蓮宗法要式⑦	【第5回】教化の手段	【第13回】宗定日蓮宗法要式⑧	【第6回】宗定日蓮宗法要式①	【第14回】宗定日蓮宗法要式⑨	【第7回】宗定日蓮宗法要式②	【第15回】まとめ 教化と実践	【第8回】宗定日蓮宗法要式③	
【第1回】本講義の目的	【第9回】宗定日蓮宗法要式④																						
【第2回】日蓮宗の組織	【第10回】宗定日蓮宗法要式⑤																						
【第3回】日蓮宗の修行・教育機関	【第11回】宗定日蓮宗法要式⑥																						
【第4回】日蓮宗教師（僧侶）	【第12回】宗定日蓮宗法要式⑦																						
【第5回】教化の手段	【第13回】宗定日蓮宗法要式⑧																						
【第6回】宗定日蓮宗法要式①	【第14回】宗定日蓮宗法要式⑨																						
【第7回】宗定日蓮宗法要式②	【第15回】まとめ 教化と実践																						
【第8回】宗定日蓮宗法要式③																							
成績評価の方法	授業に対する姿勢（40%）、レポート1回（60%）で評価する。 到達目標の内容について、自分自身の言葉で具体例を示し、記述できることをレポートの評価基準とします。																						
フィードバックの内容	質問等があれば、後の授業冒頭で答える。若しくは個別で答える。																						
教科書	『宗定日蓮宗法要式 平成版』宗定法要式平成版編集委員会（日蓮宗）																						
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	教科書については、持っている受講者は、そのまま使用可。 購入希望者は日蓮宗新聞社（TEL 03-3755-5271、営業時間は平日9：45-16：45）へ各自注文して購入してください。 メールにて質問を受け付けます。																						
オフィスアワー	E-mail : h1del10mo@nike.eonet.ne.jp																						
アクティブラーニングの内容	教員により、所作の実践、読経・声明の実唱など。																						
その他																							

講義コード	16A0170400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	教化学2					平井 智親		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	日蓮宗の教化というが無意識に国内での活動を思い浮かべる。しかし、交通網の発達及びインターネットの普及などにより、日本国外との接触は過去に例をみないほど活発である。海外布教（国際布教）を通して教化の諸相を学び、異文化における教化の重要性と困難さ、諸宗教との交流対話の重要性と怖さを理解する。								
到達目標	①日蓮宗の国際布教を理解する ②国際布教を通して、教化に対する本質的理解を深める。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業前に関連書籍や資料、またインターネット等による情報収集により、理解をより深めることができる。そのための授業外学修は60時間以上は必要と考えられる。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 海外における日蓮宗の教化の歴史 【第3回】 ハワイにおける教化 【第4回】           〃 【第5回】           〃 【第6回】 北米における教化 【第7回】 南米における教化 【第8回】 ヨーロッパにおける教化 【第9回】 東南アジアにおける教化 【第10回】 他宗派の海外布教 【第11回】 他宗派の教化 【第12回】 日本仏教以外の仏教の教化 【第13回】 キリスト教の教化 【第14回】 イスラム教の教化 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み（45%）、中間レポート（10%）、期末レポート（45%）による。								
フィードバックの内容	中間レポート等は授業内で講評します。								
教科書	なし								
指定図書	なし								
参考書	『開教日誌』 村野宣忠（日蓮宗新聞社）								
教員からのお知らせ	日蓮宗の国際布教を通して教化とは何かを学びましょう。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談はメールで対応します。メールアドレスは最初の授業でお知らせします。								
アクティブラーニングの内容	授業の中で中間レポートの講評を通して、教員からのフィードバックをする予定です。								
その他	教科書や指定図書はありませんが、必要に応じてその都度資料等を用意します。								

講義コード	11A0160602	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	教養基礎<日本語表現A>					石井 公一		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業の目的は論理的な文章をわかりやすく表現できるようにすることです。自分の意見を論理的に組み立てて、相手に明瞭に伝えられるかが重要です。そのために、表現・文体・構成などに注意しながら文章表現ができることが目的です。								
到達目標	多くの論理的な文章に触れることにより、自ら論理的文章の構成を学ぶことが重要です。そのためには何回も書いたり、発表することを重ねながら推敲を行います。また、資料やデータを読み解き、相手に正確に伝わる文章表現に仕上げられるようにすることが到達目標です。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。相手の文章を読んで自分の意見をどう発表できるか。自分の書いた文章を推敲し、論理的でより分かりやすい文章になるかを考えること。								
授業計画	【第1回】 授業の概要 【第2回】 文章表記上のルール・原則 【第3回】 校正記号について 【第4回】 わかりやすい文について① 【第5回】 わかりやすい文について② 【第6回】 論理的文章を読んで、意見発表を行う① 【第7回】 論理的文章を読んで、意見発表を行う② 【第8回】 段落と構成の研究① 【第9回】 段落と構成の研究② 【第10回】 話し言葉と書き言葉の相違について① 【第11回】 話し言葉と書き言葉の相違について② 【第12回】 資料やデータを読み解く方法と技術① 【第13回】 資料やデータを読み解く方法と技術② 【第14回】 文章要約の方法 【第15回】 文章表現方法のまとめ								
成績評価の方法	①欠席・遅刻をしないこと。（40%） ②毎回の課題提出を行うこと（40%） ③授業への積極的な取り組みと活発な意見発表ができること（20%）								
フィードバックの内容	毎回提出された課題を添削し、評価をして返却する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	テキストはありません。毎回教員が用意した文章について考察し、各自が意見発表する形式で授業を展開いたします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	毎回、提出課題についての意見交換と発表を実施いたします。積極的・能動的な学修のためにディスカッションを取り入れた授業展開を実施いたします。								
その他									

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	教養基礎<日本語表現B~C>					小此木 敏明	第1期
履修前提条件						備考	講義コード [B] 11A0160603 [C] 11A0160604
授業の目的	論理的な文章が書けるように、レポートなどを書く上での約束ごとを説明する。						
到達目標	表現・文体・構成などに注意しつつ、論理的な文章を組み立てることができる。 分かりやすい文章を書くことができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、自分で書いた文章を見直し、どうしたらより分かりやすくなるかを考えること。						
授業計画	【第1回】 授業の概要 【第2回】 原稿用紙のルール、各種記号の使い方 【第3回】 文体について 【第4回】 文章を訂正する（校正記号について） 【第5回】 一文を分かりやすく書く① 【第6回】 一文を分かりやすく書く② 【第7回】 段落と構成① 【第8回】 段落と構成② 【第9回】 段落と構成③ 【第10回】 接続詞に注意する① 【第11回】 接続詞に注意する② 【第12回】 接続詞に注意する③ 【第13回】 引用のルールと表現① 【第14回】 引用のルールと表現② 【第15回】 出典の示し方						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢と提出課題（60%）、レポート（40%）						
フィードバックの内容	提出課題に対する講評・解説を授業の初めに行う。						
教科書	プリントを配布する						
指定図書	授業中に指示する						
参考書	授業中に指示する						
教員からのお知らせ	授業中に文章を書いてもらうが、文字を丁寧に書くこと。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返りなど						
その他							

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	教養総合<古文漢文表現A~B>					清水 祥華	第2期
履修前提条件						備考	講義コード [A] 11A0160701 [B] 11A0160702
授業の目的	本授業は、仏教学部の学びの導入科目として、古文・漢文の基本的な文法について学び、仏教文献を読解する上での必要な基礎学力を養うことを目的とする。						
到達目標	古文・漢文の文法に関する基本的事項について説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 ガイダンス、古文基礎① 【第2回】 古文基礎② 【第3回】 古文基礎③ 【第4回】 古文基礎④ 【第5回】 古文基礎⑤ 【第6回】 古文基礎⑥ 【第7回】 古文基礎⑦、小テスト 【第8回】 漢文基礎① 【第9回】 漢文基礎② 【第10回】 漢文基礎③ 【第11回】 漢文基礎④ 【第12回】 漢文基礎⑤ 【第13回】 漢文基礎⑥ 【第14回】 漢文基礎⑦ 【第15回】 漢文基礎⑧、小テスト						
成績評価の方法	小テスト（40%）、授業への取り組み姿勢（60%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内で行う。						
教科書	『(新版二訂) ニューエイジ 古典 基礎1』第一学習社編集部編（第一学習社）						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	指定の教科書に基づいて授業を行いますので、各自教科書を必ず用意して下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り						
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。						

講義コード	11B5126401	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	土居 由美	開講期	第1期
科目名	キリスト教思想Ⅰ					土居 由美		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本講義では、仏教・イスラームと共に世界三大宗教の一つであるキリスト教について、その聖／正典である「旧約聖書」を軸とし、また、その成立及び継承背景としての歴史・風土・文化的諸側面、多角的視点、現実的な感性を大切にしながら、根本思想を学びます。								
到達目標	キリスト教の根本思想およびその形成と発展の歴史的文脈と文化的広がりの概要について、「旧約聖書」を軸としながら総合的に基礎を捉え、それら諸側面について、自身で考察することができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学習を行うことを必要とします。 各授業テーマで扱う内容について、以下のように予復習を行って下さい。 予習（60分）：次回の講義内容を確認し、可能な範囲で下調べをする。 復習（60分）：講義内容を振り返り、自身が学んだ内容と考えたことについて、再考し、整理する。								
授業計画	【第1回】 導入・アンケート・授業の方法論（宗教学的方法と神学的方法について） 【第2回】 一神教とキリスト教①（一神教の定義・歴史・文化について） 【第3回】 一神教とキリスト教②（一神教諸宗教の相互関連性・文化について） 【第4回】 旧約聖書①（成立・構成・読み方） 【第5回】 旧約聖書②（成立の歴史的背景・風土・思想的影響） 【第6回】 旧約聖書③（「創世記」にみる基本的世界観・神観・人間観・死生観）その1 【第7回】 旧約聖書④（「創世記」にみる基本的世界観・神観・人間観・死生観）その2 【第8回】 旧約聖書⑤（「創世記」にみる基本的世界観・神観・人間観・死生観）その3 【第9回】 旧約聖書⑥（「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」にみられる神観） 【第10回】 旧約聖書⑦（「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」にみられる人間のありよう） 【第11回】 旧約聖書⑧（「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」に描かれる律法） 【第12回】 旧約聖書⑨（「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」に描かれる律法の影響史） 【第13回】 旧約聖書⑩（預言者と預言書） 【第14回】 旧約聖書⑪（諸書） 【第15回】 総括								
成績評価の方法	以下の割合で、総合的に評価します 平常点（各講義毎のリアクションペーパーの提出状況）：40% 期末レポート：60%								
フィードバックの内容	次回の講義内で全体にフィードバックすることを基本とします								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	基本的な必要事項については、講義内でお知らせします。 急を要する場合には、web Class から、別途お知らせをします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習：図書館やインターネットなどで、講義内容に関わる参考資料を調べる								
その他									

講義コード	11B5126501	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	キリスト教思想2				土居 由美		第2期
履修前条件					備考		
授業の目的	本講義では、仏教・イスラームと共に世界三大宗教の一つであるキリスト教について、その聖／正典である「新約聖書」を軸とし、また、その成立及び継承背景としての歴史・風土・文化的諸側面、多角的視点、現実的な感性を大切にしながら、根本思想を学びます。						
到達目標	キリスト教の根本思想およびその形成と発展の歴史的脈と文化的広がりの概要について、「新約聖書」を軸としながら総合的に基礎を捉え、それら諸側面について、自身で考察することができるようになることを目標とします。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を、下記のように行う必要があります。 予習（60分）：次回の講義内容を確認し、そのテーマを巡って可能な範囲で下調べをしておく。 復習（60分）：講義内容を振り返って、自身が学んだ内容と考えたことについて、再考し、整理する。						
授業計画	【第1回】 導入 【第2回】 新約聖書の成立・構成とキリスト教の成立 【第3回】 新約聖書の成立・伝搬と写本・福音と資料 【第4回】 新約聖書・福音書（1）マルコによる福音書から（癒し物語） 【第5回】 新約聖書・福音書（2）マルコによる福音書から（奇跡物語） 【第6回】 新約聖書・福音書（3）マルコによる福音書から（論争物語） 【第7回】 新約聖書・福音書（4）マルコによる福音書から（たとえ話） 【第8回】 聖書・キリスト教と文化的諸事象 【第9回】 新約聖書・福音書（5）マタイとルカによる福音書から（イエスの誕生物語と系図） 【第10回】 新約聖書・福音書（6）マタイとルカによる福音書から（イエスの誕生物語と系図） 【第11回】 キリスト教と文化的諸事象（クリスマスと暦） 【第12回】 新約聖書・福音書（7）ヨハネによる福音書から（ロゴス賛歌と後世の加筆の逸話） 【第13回】 新約聖書・福音書（8）マルコ・マタイ・ルカ・ヨハネ福音書から（女性を巡る逸話） 【第14回】 新約聖書・ヨハネ文書・使徒言行録：「愛」「信仰」と原始キリスト教 【第15回】 総括						
成績評価の方法	下記のように、平常点と期末レポートにより、総合的に評価します。 平常点（各講義毎のリアクションペーパーの提出状況）：40% 期末レポート：60%						
フィードバックの内容	各講義〔リアクションペーパー〕に対するフィードバックは、翌週の講義内で全体に行うことを基本とします。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	基本的な事項については、各講義内でお知らせします。 急を要する場合には、別途 web class でお知らせします。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習：図書館やインターネットなどで、講義内容に関わる参考資料を調べて下さい。						
その他							



講義コード	11A0111100	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	渡辺 貴彦	開講期	第1期
科目名	芸術研究1					渡辺 貴彦		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	<p>古典法帖の臨書を中心とした毛筆実習により、書道の基礎技能を習得する。          楷書行書をはじめ、草書隸書篆書の練習もして、漢字書道技法を広く学修する。          文字の起源から始まる中国書道史などの解説から「美術としての書」への理解を深める。          ペン習字課題練習により日頃の書写姿勢の改善を図る。</p>								
到達目標	<p>毛筆書に慣れ、各法帖に応じた用筆法を理解し書き分けられる。          ペン習字課題を通じ普段の書写が美しくなる。          書道史等の解説を学習し、書美への関心を深める。</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。          法帖の理解を深めるように予習し、実習後も反復練習する。          毎回のペン習字課題を欠かさず練習する。          書道史も講義を聴くだけでなく、キーワードを検索して理解を深めること。          美術館で開催される書道展や美術展などにも積極的に出かけてほしい。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス 筆順・部首名確認          【第2回】 永字八法練習 文房四宝解説          【第3回】 楷書臨書「孔子廟堂碑」2文字 法帖解説          【第4回】 〃 〃 4文字 中国書道史「文字の起源」          【第5回】 〃 「九成宮醴泉銘」2文字 法帖解説          【第6回】 〃 〃 4文字 中国書道史「書体の変遷」          【第7回】 〃 「雁塔聖教序」2文字 法帖解説 中国書道史「唐太宗と四大家」          【第8回】 楷書清書          【第9回】 行書臨書「集字聖教序」法帖解説          【第10回】 〃 「蘭亭序」法帖解説 中国書道史「書聖王羲之」          【第11回】 〃 「風信帖」法帖解説 中国書道史「宋・明清時代の書」          【第12回】 行書清書          【第13回】 草書隸書篆書臨書 用筆法解説          【第14回】 〃 創作作品制作準備          【第15回】 創作作品制作</p>								
成績評価の方法	<p>清書提出40% ペン習字課題提出30% 授業への取り組み30%を基準に評価する。          毛筆習字未経験者でも、習熟度、達成度を重視する。</p>								
フィードバックの内容	<p>毎時間の実習で添削指導する。          ペン習字は提出後に添削指導し返却する。</p>								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	<p>手本と解説資料となる教科書は授業内に配布する。          第1回講義では毛筆実習は行わない。          道具は2回目の講義までに各自準備すること。          道具についても初回講義で説明する。</p>								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。</p>								
アクティブラーニングの内容	<p>意見共有、能動的な授業外学習など</p>								
その他									

講義コード	11A0111200	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	渡辺 貴彦	開講期	第2期
科目名	芸術研究2								
履修前条件					備考				
授業の目的	日本書道における古典の中心は平安時代の上代仮名である。 本講座では細筆を使用した用筆練習から、仮名古典臨書・実用書道・写経などの実技習得を目指す。 加えて、日本書道史や文房四宝の解説を通して、「日本美術としての書」を理解する。 ペン習字課題の練習で、日常の筆者活動の改善にも役立てる。								
到達目標	毎時間の課題を練習し、細筆による仮名の用筆に慣れる。 古典法帖臨書・写経練習を重ねることにより、法帖を理解し、書けるようになる。 最終的に創作課題が書けるように学修を進める。 ペン習字課題の練習で、日常の筆者姿勢も改善させる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業ごとの古典法帖の予習に20時間、ペン習字課題筆写に40時間、合計60時間の学修を行う。 また、授業中に紹介する各種書道展や美術展などを鑑賞することも望ましい。								
授業計画	【第1回】 かな書の説明 かな用道具の説明 【第2回】 いろは単体・用筆練習 日本書道史「文字の渡来」 【第3回】 変体仮名・連綿体練習 日本書道史「仮名文字の変遷」 【第4回】 連綿隊練習 日本書道史「平安期のかな」 【第5回】 「蓬萊切」臨書 かな臨書の心得説明 【第6回】 「高野切」拡大臨書 高野切解説 【第7回】 「高野切第3種」臨書 日本書道史「中世期の書」 【第8回】 「高野切第1種」臨書 日本書道史「近世期の書」 【第9回】 「高野切」臨書清書 【第10回】 実用書道練習 日本書道史「現代書」 【第11回】 写経1 写経解説 【第12回】 写経清書 写経の要点について 【第13回】 かな散らし書き練習 散らし書き解説 【第14回】 かな創作作品制作 かな創作説明 【第15回】 創作作品制作								
成績評価の方法	毛筆清書提出40% ペン習字課題提出30% 授業への取り組み30% を基準に評価する。 実習を積んでの上達度を考慮する。								
フィードバックの内容	毎回の実習ではその場で添削指導する。 ペン習字課題は提出ごとに添削し返却する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	手本と解説の教科書は第1期と同じものを使用する。授業中に配布する。 1回目の授業では毛筆実習は行わない。 書道具は第2回講義までに各自準備してもらおうが、ガイダンスを聞いてからでもよい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、能動的な授業外学習など								

講義コード	11A0111500	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	高島 一郎	開講期	第1期
科目名	芸術研究5					高島 一郎		第1期	
履修前条件						備考			
授業の目的	日本の伝統音楽である「邦楽」は、変化していく歴史と共にその時々時代と密接に関わりながら現代まで脈々と歩み続けてきている。この授業では、私達日本人の心と体に深く刻みこまれてきた「邦楽」全般に対し、箏（琴・こと）を主軸としてアプローチすることで、日本の伝統音楽や伝統文化に関する基礎知識の付与を目的とする。								
到達目標	日本の音楽や芸能の変遷を、歴史と関連づけて理解することが出来る。 日本の様々な伝統楽器について理解することが出来る。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で扱う項目について、インターネット等で予習・復習を行うこととし、單元ごとに課すレポート作成と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 邦楽の基礎 【第2回】 箏（コト）とは 【第3回】 雅楽と邦楽 【第4回】 三味線音楽その1 【第5回】 三味線音楽その2 【第6回】 生田流と山田流 【第7回】 明治期の邦楽界 【第8回】 宮城道雄の功績その1 【第9回】 宮城道雄の功績その2 【第10回】 十七絃箏誕生からその後へ 【第11回】 尺八音楽の世界 【第12回】 沖縄（うちなー）音楽 【第13回】 箏を弾こう！（さくらさくらを題材として） 【第14回】 邦楽コンサート鑑賞（DVD） 【第15回】 邦楽のゆくえ（まとめ）								
成績評価の方法	レポート15回（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）等による総合評価。								
フィードバックの内容	ポータルサイト内にて対応する。								
教科書	毎授業時に資料を配布								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	分かりやすい説明と動画で日本の歴史と音楽との深い繋がりに興味を持ってもらえる授業を目指します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A2118700	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	橋岡 昭男	開講期	通年
科目名	芸術実習【仏画Ⅰ】					橋岡 昭男		通年	
履修前条件						備考			
授業の目的	本講義では、古典により多く接しながら、模写の製作手順など仏画における基礎知識を身につけることを目的とします。								
到達目標	物の見方、考え方、感じ方の参考になることをなるべく簡単に、かつ理論的に理解して、頭の中で理解したものを実践し、使いこなせる。線の引き方（明度の差・強弱・太い細い）で、立体の表現ができる。展覧会を見た時に色々な事柄（明度・明暗・構図・絵の考え方）に興味をもてる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	鳥獣戯画の背景となる関連事項や、鎌倉時代後期から平安時代前期にどのような絵巻物があるか、展覧会に行くなど、授業外に計120時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 導入・授業全体の見直し 鳥獣戯画の説明 【第2回】 新聞紙で模写棒を作る 【第3回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方① 【第4回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方② 【第5回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方③ 【第6回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方④ 【第7回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方① 【第8回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方② 【第9回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方③ 【第10回】 本紙制作 擦れの表現の仕方① 【第11回】 本紙制作 擦れの表現の仕方② 【第12回】 本紙制作 擦れの表現の仕方③ 【第13回】 本紙制作 擦れの表現の仕方④ 【第14回】 本紙制作 擦れの表現の仕方⑤ 【第15回】 本紙制作 擦れの表現の仕方⑥ 【第16回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）① 【第17回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）② 【第18回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）③ 【第19回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）④ 【第20回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑤ 【第21回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑥ 【第22回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑦ 【第23回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑧ 【第24回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑨ 【第25回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑩ 【第26回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑪ 【第27回】 本紙制作 毛羽立ちの表現① 【第28回】 本紙制作 毛羽立ちの表現② 【第29回】 朱で印を表現する 裏打① 【第30回】 朱で印を表現する 裏打②								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢70% 作品の仕上がり30%								
フィードバックの内容	制作課題を授業期間内に返却する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	実践的な模写をするにあたって薄美濃紙、面相筆を購入して頂きます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	実習／実技／調査研究（調査学習）								
その他									

講義コード	11A2118990	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	橋岡 昭男	開講期	通年																					
科目名	芸術実習【仏画Ⅱ】				橋岡 昭男			通年																						
履修前提条件					備考																									
授業の目的	古典により多く接し、実践的な模写を通して、優れた美術・文化を身近なものとしてゆくことを目的とする。又、卒業制作(仏画関係)を希望する者がいる場合は、その指導も行う。																													
到達目標	物の見方、考え方、感じ方の参考になることをなるべく簡単に、かつ理論的に理解して、頭の中で理解したものを実践して使いこなせる。芸術実習Ⅰにあわせて、薄墨の明暗明度のとり方も身につける。構図の在り方が理解できる。																													
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	平安・鎌倉時代の絵画に興味をもち関連事項を調べた上で、日本画とはどのようなものか理解し、授業外に計120時間以上の学修を行い、積極的に色々な展覧会へ足を運んで下さい。																													
授業計画	【第1回】 導入・授業全体の見通し 制作における作品探し	【第2回】 作品探し コピー 模写棒作り	【第3回】 試し描き 立体の意識(明暗明度の捉え方)①	【第4回】 試し描き 立体の意識(明暗明度の捉え方)②	【第5回】 試し描き 立体の意識(明暗明度の捉え方)③	【第6回】 試し描き 立体の意識(明暗明度の捉え方)④	【第7回】 本紙制作 立体の意識(明暗明度の捉え方)①	【第8回】 本紙制作 立体の意識(明暗明度の捉え方)②	【第9回】 本紙制作 立体の意識(明暗明度の捉え方)③	【第10回】 本紙制作 立体の意識(明暗明度の捉え方)④	【第11回】 本紙制作 立体の意識(明暗明度の捉え方)⑤	【第12回】 本紙制作 立体の意識(明暗明度の捉え方)⑥	【第13回】 本紙制作 空間の意識①	【第14回】 本紙制作 空間の意識②	【第15回】 本紙制作 空間の意識③	【第16回】 本紙制作 空間の意識④	【第17回】 本紙制作 空間の意識⑤	【第18回】 本紙制作 空間の意識⑥	【第19回】 本紙制作 全体感をよく見る①	【第20回】 本紙制作 全体感をよく見る②	【第21回】 本紙制作 全体感をよく見る③	【第22回】 本紙制作 全体感をよく見る④	【第23回】 本紙制作 全体感をよく見る⑤	【第24回】 本紙制作 全体感をよく見る⑥	【第25回】 本紙制作 全体感をよく見る⑦	【第26回】 本紙制作 全体感をよく見る⑧	【第27回】 本紙制作 全体感をよく見る⑨	【第28回】 裏打の仕方	【第29回】 裏打①	【第30回】 裏打②
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢70% 作品の仕上がり30%																													
フィードバックの内容	制作課題を授業期間内に返却する。																													
教科書																														
指定図書																														
参考書																														
教員からのお知らせ	芸術実習Ⅰを履修した生徒は道具類そのまま使用可、初めての生徒は薄美濃紙、面相筆を購入して頂きます。																													
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																													
アクティブラーニングの内容	実習/実技/調査研究(調査学習)																													
その他																														

講義コード	11A2118601	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第1期
科目名	芸術実習【仏像Ⅰ】A				秋田 貴廣			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	当実習では実際に小仏像を制作する。基礎的な造形力を養うとともに、観念的理解では掴みきれない仏像彫刻の存在意義を体験する。彫刻制作は通常の視覚的なものの捉え方のみでは成しえず、普段は意識することのない触覚的感性を用いなければならない。感性領域に潜行する造形行為は、時代の制約を受けている自分自身のものの方のくせを発見する機会となる。その感触をもってかつての人々の意識や感性の発見につなげる。								
到達目標	一つの作品を制作、完成させる。彫刻芸術に対して自分の感覚を通した新たな視点を獲得し、その存在意義を実感できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各時代の仏像彫刻の様式について、授業時間の前に確認しておくこと(60時間以上)。事前に美術館・博物館・寺院等にて実物の仏像を鑑賞し、その印象を書きとめておくことが望ましい(60時間以上)。								
授業計画	※当実習は2時限連続授業なので、下の表記は2時限を「1回」に換算している。 【第1回】 導入・授業全体の見通しと「仏像彫刻の誕生」について 【第2回】 <仏像制作>下絵作成 【第3回】 材の調整1 【第4回】 材の調整2 【第5回】 荒づくり1 【第6回】 荒づくり2 【第7回】 荒づくり3 【第8回】 中づくり1 【第9回】 中づくり2 【第10回】 中づくり3 【第11回】 中づくり4 【第12回】 仕上げ1 【第13回】 仕上げ2 【第14回】 仕上げ3 【第15回】 仕上げ4								
成績評価の方法	実習への取り組み姿勢50%、作品の内容50%。								
フィードバックの内容	授業時間内において、各学生の作品に対する講評を行うとともに、取り組みの方向性を指示する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	芸術実習【仏像Ⅰ】のA・Bクラスは同科目である。最初の授業時にクラス分けを行うので必ず出席のこと。実習に用いるモチーフ・材料・道具・資料などは授業中に指示する。完成作品は専門家に依頼して鋳造する。また材料費と鋳造費(¥17,000-)が別途必要となる。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワー(秋田担当 水曜日17:40~18:00)にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など 実習								
その他	仏像修復会社の実務経験を活かし小仏像を制作することによって彫刻芸術を体験的に理解させる。								

講義コード	11A2118602	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	伊加利 庄平	開講期	第1期																
科目名	芸術実習【仏像Ⅰ】B					伊加利 庄平		第1期																	
履修前提条件						備考																			
授業の目的	本講座では、特殊な粘土を用いて高さ14cmの小仏像を制作する。小仏像とはいえ、授業時間内で作品をある程度の完成度までもって行くのは大変な作業である。完成を目標に粘り強く取り組んでほしい。同時に、触覚芸術ともいわれる彫刻の新鮮な立体的造形感覚の世界を体験することにより、彫刻芸術に対する新たな認識を得ることを目的とする。完成作品は業者に依頼してブロンズに铸造する。																								
到達目標	各自なりに一つの仏像を造り上げる。 彫刻芸術に対して、自分の感覚を通した新たな視点を獲得する。																								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 美術書等で日本の古典の仏像、またアジア各地の仏教美術に親しみ、仏像や仏教美術に対する見識を高める。日本の仏像に関しては、時代ごとの表現の違いに着目して観るとよい。 また、美術館、博物館などで、仏像彫刻その他の美術作品の実物に触れる機会を多く持つこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 導入・授業全体の見直し</td> <td>【第9回】 中作り②</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 &lt;仏像制作&gt;下絵作成</td> <td>【第10回】 中作り③</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 材の調整①</td> <td>【第11回】 中作り④</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 材の調整②</td> <td>【第12回】 小作り（こづくり）①</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 粗作り（あらづくり）①</td> <td>【第13回】 小作り②</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 粗作り②</td> <td>【第14回】 小作り・仕上げ①</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 粗作り③</td> <td>【第15回】 小作り・仕上げ②</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 中作り（なかづくり）①</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 導入・授業全体の見直し	【第9回】 中作り②	【第2回】 <仏像制作>下絵作成	【第10回】 中作り③	【第3回】 材の調整①	【第11回】 中作り④	【第4回】 材の調整②	【第12回】 小作り（こづくり）①	【第5回】 粗作り（あらづくり）①	【第13回】 小作り②	【第6回】 粗作り②	【第14回】 小作り・仕上げ①	【第7回】 粗作り③	【第15回】 小作り・仕上げ②	【第8回】 中作り（なかづくり）①	
【第1回】 導入・授業全体の見直し	【第9回】 中作り②																								
【第2回】 <仏像制作>下絵作成	【第10回】 中作り③																								
【第3回】 材の調整①	【第11回】 中作り④																								
【第4回】 材の調整②	【第12回】 小作り（こづくり）①																								
【第5回】 粗作り（あらづくり）①	【第13回】 小作り②																								
【第6回】 粗作り②	【第14回】 小作り・仕上げ①																								
【第7回】 粗作り③	【第15回】 小作り・仕上げ②																								
【第8回】 中作り（なかづくり）①																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、作品の内容50%。																								
フィードバックの内容																									
教科書																									
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	「芸術実習【仏像Ⅰ】」および「芸術実習Ⅰ（仏像）」それぞれのA、Bは同科目です。最初の授業時にクラス分けを行うので必ず出席のこと。また実習に用いるモチーフ・材料・道具・資料などは授業中に指示します。完成作品は専門家に依頼して铸造します。なお、材料費と铸造費が別途必要（17,000円）となります。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間中個別指導時、または授業終了後、次の授業に支障が無い範囲で教室内にて対応します。																								
アクティブラーニングの内容	実技実習、能動的な授業外学習、体験学習・発見学習など																								
その他	仏像修復会社の実務経験を活かし小仏像を制作することによって彫刻芸術を体験的に理解させる。																								

講義コード	11A2118891	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第2期
科目名	芸術実習【仏像Ⅱ】A					秋田 貴廣		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	この授業は卒業制作を選択する学生に対して開講する。卒業制作において、模刻や模写作品の内容をそれに見合うレベルのものにするためには、限られた時間の中で造形の本質をできる限り深く理解すると同時に、それを感覚として自分のものにし、制作に応用していかなければならない。そのために必要とされる実際的な指導を行う。								
到達目標	彫刻作品を対象とする場合は、触覚的感性に感応する彫刻芸術の本質を捉えるために「量塊」と「面」についての理解を深めつつ、古典彫刻の特殊な存在感の秘密に触れる。絵画作品を対象とする場合は、線描や彩色技法を習得しつつ、古代の優れた表現形式を体得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	美術館や寺院に遺されている仏像彫刻の優品を定期的に拝観する（60時間以上）。そしてそれぞれの時代の造形様式の違いを確認しつつ、造形様式が形成される必然性を考察し、レポートを作成する（60時間以上）。								
授業計画	<p>当授業は連続授業なので、同日の2時限を1回に換算して記す。</p> <p>【第1回】 造形という行為をとらえて、仏像彫刻や仏画にアプローチする意義を考える</p> <p>【第2回】 各時代様式の在り方と必然について探る</p> <p>【第3回】 各自の制作テーマ・素材・大きさ等の検討1</p> <p>【第4回】 各自の制作テーマ・素材・表現等の検討2</p> <p>【第5回】 各自の制作テーマ・素材・表現等の検討3</p> <p>【第6回】 各自の制作テーマ・素材・表現等の検討4</p> <p>【第7回】 制作指導・資料収集1</p> <p>【第8回】 制作指導・資料収集2</p> <p>【第9回】 制作指導・資料検証1</p> <p>【第10回】 制作指導・資料検証2</p> <p>【第11回】 ～【第15回】 各自で決定したテーマに基づいて作品制作</p>								
成績評価の方法	対象の造形に迫る努力30% 造形密度40% 模刻・模写としての精度30%								
フィードバックの内容	授業時間内において、各学生の作品に対する講評を行うとともに、取り組みの方向性を指示する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業は、「卒業制作」を選択した学生を対象としています。他の学生が履修しても受講はできません。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	実習								
その他									

講義コード	11A2118892	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	伊加利 庄平	開講期	第2期
科目名	芸術実習【仏像Ⅱ】B								
履修前条件					備考				
授業の目的	本講座は卒業制作において彫刻模刻を選択する学生に対して開講するものである。卒業制作において、模刻作品の内容をそれに見合うレベルのものにするためには、限られた時間の中で、彫刻造形の本質をできる限り深く理解すると同時に、それを感覚として自分のものにし、制作に応用していかなければならない。そのために必要とされる実際的な指導を行う。								
到達目標	高いレベルの造形的探求に基づいた模刻制作を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。美術館、博物館などで実物の美術作品（仏像や仏教美術を主とするが、それだけに限らない）に触れる機会を多く持つ。仏像に関しては、美術書などにも当たり、自分が模刻する仏像だけでなく、より多くの仏像を鑑賞し、特に各時代の特色に関する見識を深める。								
授業計画	【第1回】 模刻制作の現時点での到達点と課題を明確にし、後半の制作の進め方についての見通しを立てる。 【第2回】 彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導① 【第3回】 彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導② 【第4回】 彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導③ 【第5回】 彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導④ 【第6回】 模刻対象の形態の持つ造形的必然性についての理解及び作品の密度を上げていくための指導① 【第7回】 模刻対象の形態の持つ造形的必然性についての理解及び作品の密度を上げていくための指導② 【第8回】 模刻対象の形態の持つ造形的必然性についての理解及び作品の密度を上げていくための指導③ 【第9回】 模刻対象の形態の持つ造形的必然性についての理解及び作品の密度を上げていくための指導④ 【第10回】 時間的な制約と完成密度の兼ね合いを見極め、最終的な完成イメージを想定する。 【第11回】 完成イメージに向けての具体的な指導① 【第12回】 完成イメージに向けての具体的な指導② 【第13回】 完成イメージに向けての具体的な指導③ 【第14回】 完成イメージに向けての具体的な指導④ 【第15回】 完成イメージに向けての具体的な指導⑤								
成績評価の方法	授業及び制作全般への取り組み姿勢50%、完成作品の内容50%。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	卒業制作において模刻制作を行う4年生のみ履修すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業時間内に受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	卒業研究、実技実習、体験学習・発見学習、能動的な授業外学修、意見共有など。								
その他	当授業は制作中の作品に対する指導のための授業なので、授業時間の他に各自制作のための時間をできる限り多く捻出する努力をすること。								

講義コード	11A0111701	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第1期
科目名	芸術実習基礎A								
履修前条件					備考				
授業の目的	仏像彫刻が存在する意味について、特に触覚的感性に関わる彫刻芸術としての観点から考察する。実際に制作し表現することで「想像」から「創造」へのプロセスを体感し、「仏像」の文化的必然性に迫る。								
到達目標	○日本の仏像彫刻の種類・形状等の基礎知識を修得。 ○仏像彫刻を「様式」の観点からとらえて古代の「美の形式」を学ぶ。 ○彫刻が仏像として成立した理由を体験的に把握する。 各時代の仏像彫刻の様式について、毎回の授業時間前に確認する（60時間）。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本実習授業で仏頭を模刻するにあたり、美術館・博物館・寺院等にて尊名・制作年代に注意しながら実物の仏像を見る。それが難しい場合は、写真集などで確認する（60時間）。 ※当授業は2時間連続授業なので、下の表記は2時限を「1回」と換算している。								
授業計画	【第1回】 講義 文化としての仏像、実習の意味、等 【第2回】 講義 仏像の種類・特徴・各部名称、仏像彫刻の素材・制作技法、等 【第3回】 実習課題（仏顔制作） 【第4回】 自分の顔をトレース。 【第5回】 トレースした自分の顔に仏像の要素加える。 【第6回】 仏像の顔として仕上げる（線描）。 【第7回】 各部分を着色。 【第8回】 全体を着色。 【第9回】 粘土を用いて仏頭を制作する1 【第10回】 粘土を用いて仏頭を制作する2 【第11回】 粘土を用いて仏頭を制作する3 【第12回】 粘土を用いて仏頭を制作する4 【第13回】 粘土を用いて仏頭を制作する5 【第14回】 粘土を用いて仏頭を制作する6 【第15回】 石膏取り								
成績評価の方法	実習への取り組み姿勢20%。「仏顔」実習40%。「仏頭」実習40%。								
フィードバックの内容	授業時間内において、各学生の作品に対する講評を行うとともに、取り組みの方向性を指示する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	実習に必要なものは授業中に配布。※実習材料費（3,000円程度）が必要。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	実習								
その他									

講義コード	11A0114400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	現代宗教研究				安中 尚史			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	現代社会のなかで、実に多様性をもっている宗教問題について、特に身近な宗教の具体的な事例を掲げて、本講義では考察を進めます。								
到達目標	現代社会における宗教状況について、その基本知識と理解の修得を目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書を使用せず、プリントを配布して進めます。授業計画とプリントを参照し、現代社会における宗教の展開について事前に調べたうえで、講義に臨んで下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	【第1回】近代以降における日蓮系各宗派の動向1 【第2回】近代以降における日蓮系各宗派の動向2 【第3回】近代以降における日蓮系各宗派の動向3 【第4回】宗教制度の変遷1 【第5回】宗教制度の変遷2 【第6回】宗教制度の変遷3 【第7回】伝統宗教教団の過去・現在・未来1 【第8回】伝統宗教教団の過去・現在・未来2 【第9回】伝統宗教教団の過去・現在・未来3 【第10回】新宗教について1 【第11回】新宗教について2 【第12回】新宗教について3 【第13回】現代社会における宗教の意義1 【第14回】現代社会における宗教の意義2 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%（講義毎の課題等）、レポート70%で評価します								
フィードバックの内容	現在、大学が新たな学習管理システム（LMS）の導入を予定しています。「Microsoft365」、「ポータルサイト」「新たな学習管理システム」のうち、どれを使用するか未定です。詳細については、第1回目の授業でお伝えします。								
教科書	プリントを配布します								
指定図書									
参考書	講義の中で紹介します								
教員からのお知らせ	単に知識として現代における宗教問題を学習するのではなく、講義に対して問題意識をもち、主体的に意欲をもって下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
その他	現役僧侶としての実務経験を活かし、現代の宗教情勢に関する基本知識を理解させる。								

講義コード	11A0112700	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	国内仏教文化研修2				秋田貴廣・本間俊文			集中	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、実地の見学・研修と事前事後の学習を併せて行うことによって、日本における仏教文化とその周辺について体験的に学修することを目的とします。本年度は、「みちのくの仏像と宮沢賢治の信仰」というテーマで、東北地方に遺されているきわめて個性のかつ彫刻的な仏像作品や、近代を代表する詩人・童話作家の一人である宮沢賢治（1896-1933）ゆかりの地を中心に研修を行います。								
到達目標	研修で訪れた寺院や、寺院が所蔵する仏像を中心とした仏教文化の特色について、歴史的背景等も含めて説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研修先となる寺院や、寺院が所蔵する仏像等の予習に40時間以上、事前学習および現地での研修の準備に20時間以上、合計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	《研修期間》令和6年9月8日（日）～10日（火）2泊3日  事前学習会を以下の通り4回開催し、各寺院・仏像等の特色や、その歴史的背景について予備知識を得る。研修への参加を希望する学生は、第1回の事前学習会に必ず出席すること。 【第1回】事前学習会 4月20日（土）5時限（16:10～17:40） 【第2回】事前学習会 5月18日（土）5時限（16:10～17:40） 【第3回】事前学習会 6月15日（土）5時限（16:10～17:40） 【第4回】事前学習会 7月20日（土）5時限（16:10～17:40）  ※教室等の詳細は、ガイダンス・ポータルサイト・仏教学部掲示板等で別途提示する（使用教室は1353教室の予定）。								
成績評価の方法	事前学習・現地研修の平常点60%、課題レポート40%で総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	参考書等は、事前学習会各回において適宜指示する。 主体的な意欲をもって研修に臨むこと。 研修期間は団体行動となるので、全体の行動の妨げとなるような行為は厳に慎むこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーまたはメールにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	フィールドワーク								
その他									

講義コード	11A0107600	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期																
科目名	サンスクリット語初級Ⅰ／サンスクリット語初級Ⅰ(宗学科)(仏教学科)				戸田 裕久		第1期																		
履修前提条件	備考																								
授業の目的	サンスクリット語すなわち梵語は数千年前に端を発し紀元前4世紀頃に文法が確立された古典語であり印欧語族の最古層に位置づけられる。インド文化圏の共通語として宗教・哲学・文学・科学等あらゆる分野で用いられており、仏教等インドの思想・文化の研究にはその習得が必須である。本講では梵語の発音と文字、文法の概要を講じる。また、西欧諸語との関連性や東洋諸語に与えた影響、仏教用語の翻訳上の問題等にも言及する。																								
到達目標	サンスクリット語の音韻に慣れ、聞き取り、発音することができる。名詞・形容詞・代名詞等の格変化形に慣れる。格の意味用法を理解し、文の構造を読み取ることができる。時制・態・法・人称・数に応じた動詞の活用が解る。簡単な文章が読める。デーヴァナーガリー文字を読むことができる。仏教用語の原語を知り原義が解る。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前に、配布資料『梵語便覧』の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、授業後に、資料を再読して扱われた内容を完全に理解するように努め、また語形変化表や例文を音読し発音練習を重ねる。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 サンスクリット語とは／文字と発音(母音字母)</td> <td>【第9回】 動詞活用概要(人称、態、時制、法、構成要素)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 文字と発音(子音字母、母音表示記号)</td> <td>【第10回】 現在組織の動詞活用：第1種(直説法現在時制)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 文字と発音(子音文字の結合体)、母音の階梯</td> <td>【第11回】 同：第1種(直説法未完了過去時制)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 品詞、性・数・格、格の意味用法</td> <td>【第12回】 同：第1種(願望法、命令法)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 名詞・形容詞の格変化(a-語幹、ā-語幹)</td> <td>【第13回】 比較級・最上級、数詞(基数詞の語幹)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 名詞・形容詞の格変化(i, u, ī, ī, ū, -語幹)</td> <td>【第14回】 数詞(基数詞の格変化・用法、序数詞、分数)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 代名詞(人称・指示・関係代名詞)</td> <td>【第15回】 不変化辞(副詞、前置詞、接続詞、間投詞)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 代名詞(疑問・不定代名詞)、代名詞的形容詞</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 サンスクリット語とは／文字と発音(母音字母)	【第9回】 動詞活用概要(人称、態、時制、法、構成要素)	【第2回】 文字と発音(子音字母、母音表示記号)	【第10回】 現在組織の動詞活用：第1種(直説法現在時制)	【第3回】 文字と発音(子音文字の結合体)、母音の階梯	【第11回】 同：第1種(直説法未完了過去時制)	【第4回】 品詞、性・数・格、格の意味用法	【第12回】 同：第1種(願望法、命令法)	【第5回】 名詞・形容詞の格変化(a-語幹、ā-語幹)	【第13回】 比較級・最上級、数詞(基数詞の語幹)	【第6回】 名詞・形容詞の格変化(i, u, ī, ī, ū, -語幹)	【第14回】 数詞(基数詞の格変化・用法、序数詞、分数)	【第7回】 代名詞(人称・指示・関係代名詞)	【第15回】 不変化辞(副詞、前置詞、接続詞、間投詞)	【第8回】 代名詞(疑問・不定代名詞)、代名詞的形容詞	
【第1回】 サンスクリット語とは／文字と発音(母音字母)	【第9回】 動詞活用概要(人称、態、時制、法、構成要素)																								
【第2回】 文字と発音(子音字母、母音表示記号)	【第10回】 現在組織の動詞活用：第1種(直説法現在時制)																								
【第3回】 文字と発音(子音文字の結合体)、母音の階梯	【第11回】 同：第1種(直説法未完了過去時制)																								
【第4回】 品詞、性・数・格、格の意味用法	【第12回】 同：第1種(願望法、命令法)																								
【第5回】 名詞・形容詞の格変化(a-語幹、ā-語幹)	【第13回】 比較級・最上級、数詞(基数詞の語幹)																								
【第6回】 名詞・形容詞の格変化(i, u, ī, ī, ū, -語幹)	【第14回】 数詞(基数詞の格変化・用法、序数詞、分数)																								
【第7回】 代名詞(人称・指示・関係代名詞)	【第15回】 不変化辞(副詞、前置詞、接続詞、間投詞)																								
【第8回】 代名詞(疑問・不定代名詞)、代名詞的形容詞																									
成績評価の方法	小テストあるいは課題レポート4回(80%)、授業への取り組み姿勢(20%)。																								
フィードバックの内容	小テスト終了後に解法のヒントまたは解答を示す。翌週以降の授業内に答案を返却し講評する。																								
教科書	『梵語便覧 2024年度簡約版』戸田 裕久(私家版(随時印刷して配布します。))																								
指定図書																									
参考書	『サンスクリット文法』辻 直四郎(岩波書店)1974年、『初心者のためのサンスクリット文法Ⅰ』平岡 昇修(世界聖典刊行協会)2008年、『実習サンスクリット文法——荻原雲来『実習梵語学』新訂版』荻原 雲来・吹田 隆道(春秋社)2015年、『ニューエクスプレス+ サンスクリット語』石井 裕(白水社)2021年																								
教員からのお知らせ	サンスクリット語はインド・ヨーロッパ語族に属しており、英語等の西洋諸言語の文法と対比すると理解し易い。大きな声で音読を繰り返し耳に慣れさせれば覚えられます。授業中はもちろん、復習する時も声を出して。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。																								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り																								
その他	語学の習得は基礎からの積み重ねです。今、何の話をしているのか、見失ってしまったときには、配布資料『梵語便覧』の最初の方と各章の始めの方を、落ちていて読み返してみてください。必ずわかるようになります。																								

講義コード	11A0107700	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期																
科目名	サンスクリット語初級Ⅱ／サンスクリット語初級Ⅱ(宗学科)(仏教学科)				戸田 裕久		第2期																		
履修前提条件	備考																								
授業の目的	サンスクリット語すなわち梵語は数千年前に端を発し紀元前4世紀頃に文法が確立された古典語であり印欧語族の最古層に位置づけられる。インド文化圏の共通語として宗教・哲学・文学・科学等あらゆる分野で用いられており、仏教等インドの思想・文化の研究にはその習得が必須である。本講では梵語の発音と文字、文法の概要を講じる。また、西欧諸語との関連性や東洋諸語に与えた影響、仏教用語の翻訳上の問題等にも言及する。																								
到達目標	サンスクリット語の音韻に慣れ、聞き取り、発音することができる。名詞・形容詞・代名詞等の格変化形に慣れる。格の意味用法を理解し、文の構造を読み取ることができる。時制・態・法・人称・数に応じた動詞の活用が解る。簡単な文章が読める。デーヴァナーガリー文字を読むことができる。仏教用語の原語を知り原義が解る。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前に、配布資料『梵語便覧』の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、授業後に、資料を再読して扱われた内容を完全に理解するように努め、また語形変化表や例文を音読し発音練習を重ねる。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 連声(音の連結)：母音の外連声、絶対語末子音</td> <td>【第9回】 未来組織の活用(単純未来、条件法、複合未来)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 連声：子音の外連声、内連声</td> <td>【第10回】 アオリスト組織の活用(直説法7類型、祈願法)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 名詞・形容詞の格変化(子音一語幹)</td> <td>【第11回】 完了組織の活用(重複完了、複合完了)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 名詞・形容詞の格変化(子音一語幹、多語幹)</td> <td>【第12回】 第二次活用(受動・使役・意欲・強意活用)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 名詞・形容詞の格変化(子音多語幹)</td> <td>【第13回】 準動詞(現在分詞、過去分詞、不定詞、等)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 現在組織の動詞活用：第2種(第5・8類)</td> <td>【第14回】 複合語(その種類と分析)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 現在組織の動詞活用：第2種(第9・7類)</td> <td>【第15回】 派生語(造語法)、文献講読の例示</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 現在組織の動詞活用：第2種(第2・3類)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 連声(音の連結)：母音の外連声、絶対語末子音	【第9回】 未来組織の活用(単純未来、条件法、複合未来)	【第2回】 連声：子音の外連声、内連声	【第10回】 アオリスト組織の活用(直説法7類型、祈願法)	【第3回】 名詞・形容詞の格変化(子音一語幹)	【第11回】 完了組織の活用(重複完了、複合完了)	【第4回】 名詞・形容詞の格変化(子音一語幹、多語幹)	【第12回】 第二次活用(受動・使役・意欲・強意活用)	【第5回】 名詞・形容詞の格変化(子音多語幹)	【第13回】 準動詞(現在分詞、過去分詞、不定詞、等)	【第6回】 現在組織の動詞活用：第2種(第5・8類)	【第14回】 複合語(その種類と分析)	【第7回】 現在組織の動詞活用：第2種(第9・7類)	【第15回】 派生語(造語法)、文献講読の例示	【第8回】 現在組織の動詞活用：第2種(第2・3類)	
【第1回】 連声(音の連結)：母音の外連声、絶対語末子音	【第9回】 未来組織の活用(単純未来、条件法、複合未来)																								
【第2回】 連声：子音の外連声、内連声	【第10回】 アオリスト組織の活用(直説法7類型、祈願法)																								
【第3回】 名詞・形容詞の格変化(子音一語幹)	【第11回】 完了組織の活用(重複完了、複合完了)																								
【第4回】 名詞・形容詞の格変化(子音一語幹、多語幹)	【第12回】 第二次活用(受動・使役・意欲・強意活用)																								
【第5回】 名詞・形容詞の格変化(子音多語幹)	【第13回】 準動詞(現在分詞、過去分詞、不定詞、等)																								
【第6回】 現在組織の動詞活用：第2種(第5・8類)	【第14回】 複合語(その種類と分析)																								
【第7回】 現在組織の動詞活用：第2種(第9・7類)	【第15回】 派生語(造語法)、文献講読の例示																								
【第8回】 現在組織の動詞活用：第2種(第2・3類)																									
成績評価の方法	小テストあるいは課題レポート4回(80%)、授業への取り組み姿勢(20%)。																								
フィードバックの内容	小テスト終了後に解法のヒントまたは解答を示す。翌週以降の授業内に答案を返却し講評する。																								
教科書	『梵語便覧 2024年度簡約版』戸田 裕久(私家版(随時印刷して配布します。))																								
指定図書																									
参考書	『サンスクリット文法』辻 直四郎(岩波書店)1974年、『初心者のためのサンスクリット文法Ⅰ』平岡 昇修(世界聖典刊行協会)2008年、『実習サンスクリット文法——荻原雲来『実習梵語学』新訂版』荻原 雲来・吹田 隆道(春秋社)2015年、『ニューエクスプレス+ サンスクリット語』石井 裕(白水社)2021年																								
教員からのお知らせ	「サンスクリット語初級Ⅱ」は「サンスクリット語初級Ⅰ」の内容を習得済みであることを前提として授業を進めます。夏期休暇中に第1期に習ったことを総復習しておきましょう。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。																								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り																								
その他	本講は単語の語形変化の説明が主となり、文については簡単な構文の短文に触れるに留まるでしょう。実際に色々な文章に親しむには次年度に「サンスクリット語中級Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。																								



講義コード	11A0107800	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	伊藤 瑞康	開講期	第1期
科目名	サンスクリット語中級Ⅰ								
履修前提条件					備考				
授業の目的	サンスクリット語の文法を基礎よりも深く学ぶことにより、サンスクリット語をある程度習得し、また、サンスクリット原典を文法的に解析読解することにより、文献学の基本を学ぶことを目的とする。								
到達目標	サンスクリット原典を自分自身で参照できるようになるための基礎知識、ならびに基礎から進んだサンスクリット語の文法の習得を到達目標とする。さらには、サンスクリット原典の簡単な文章を解説可能となることをめざす。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	語学は積み重ねですから、毎回の講義で習得した内容を入念に復習してマスターできるように努めてください。また、辞書で単語を調べて文法書で文法事項を確認するという予習は必ず行ってください。以上の授業外学修時間は、60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	<p>【第1回】 サンスクリット語についての概説、文字と発音・母音の階梯など復習</p> <p>【第2回】 連声概説・文法概説（品詞・語根）</p> <p>【第3回】 名詞・形容詞の格変化（母音語幹）（1）</p> <p>【第4回】 名詞・形容詞の格変化（母音語幹）（2）</p> <p>【第5回】 名詞・形容詞の格変化（子音語幹）（1）</p> <p>【第6回】 名詞・形容詞の格変化（子音語幹）（2）</p> <p>【第7回】 代名詞・数詞の復習</p> <p>【第8回】 準動詞について</p> <p>【第9回】 複合語について</p> <p>【第10回】 関係代名詞（1）</p> <p>【第11回】 関係代名詞（2）</p> <p>【第12回】 動詞（総説）</p> <p>【第13回】 現在組織の動詞活用（第1種活用）（1）</p> <p>【第14回】 現在組織の動詞活用（第1種活用）（2）</p> <p>【第15回】 復習・まとめ</p> <p>※以上はあくまで各回に学ぶ新しい事項についての一応の目安です。みなさんの理解度や習得状況に合わせて適宜授業の進展を調整するほか、既出事項の復習も行いますので、安心して参加してください。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、講義内での小テストならびにまとめのテスト70%として評価します。								
フィードバックの内容	小テストの講評を授業内で行う。								
教科書									
指定図書	『サンスクリット文法』辻直四郎（岩波書店）1974								
参考書	『初心者のためのサンスクリット辞典』平岡昇修（山喜房佛書林）2015、『実習サンスクリット文法』吹田隆道（春秋社）2015								
教員からのお知らせ	教科書はありません。テキストのコピー、文法事項のプリントを配布します。ただしサンスクリット語の読解には文法書が必携であるため、今後もサンスクリット語を学ぶ人は文法書の各自購入が望まれます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど。								
その他									

講義コード	11A0107900	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	伊藤 瑞康	開講期	第2期
科目名	サンスクリット語中級Ⅱ								
履修前提条件					備考				
授業の目的	サンスクリット語の文法を基礎よりも深く学ぶことにより、サンスクリット語をある程度習得し、また、サンスクリット原典を文法的に解析読解することにより、文献学の基本を学ぶことを目的とする。								
到達目標	サンスクリット原典を自分自身で参照できるようになるための基礎知識、ならびに基礎から進んだサンスクリット語の文法の習得を到達目標とする。さらには、サンスクリット原典の簡単な文章を解説可能となることをめざす。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	語学は積み重ねですから、毎回の講義で習得した内容を入念に復習してマスターできるように努めてください。また、辞書で単語を調べて文法書で文法事項を確認するという予習は必ず行ってください。以上の授業外学修時間は、60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	<p>【第1回】 名詞・形容詞の格変化の復習</p> <p>【第2回】 代名詞・数詞の復習</p> <p>【第3回】 不変化辞・準動詞の復習</p> <p>【第4回】 関係代名詞の復習</p> <p>【第5回】 動詞活用の復習</p> <p>【第6回】 現在組織の動詞活用（第2種活用）（1）</p> <p>【第7回】 現在組織の動詞活用（第2種活用）（2）</p> <p>【第8回】 未来組織の活用（単純未来・条件法・複合未来）</p> <p>【第9回】 アオリスト組織の活用（直説法アオリスト・祈願法）</p> <p>【第10回】 完了組織の活用（重複完了・複合完了）</p> <p>【第11回】 第二次活用（1）</p> <p>【第12回】 第二次活用（2）</p> <p>【第13回】 テキスト講読（1）</p> <p>【第14回】 テキスト講読（2）</p> <p>【第15回】 復習・まとめ</p> <p>※以上はあくまで各回に学ぶ新しい事項についての一応の目安です。みなさんの理解度や習得状況に合わせて適宜授業の進展を調整するほか、既出事項の復習も行いますので、安心して参加してください。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、講義内での小テストならびにまとめのテスト70%として評価します。								
フィードバックの内容	小テストの講評を授業内で行う。								
教科書									
指定図書	『サンスクリット文法』辻直四郎（岩波書店）1974								
参考書	『初心者のためのサンスクリット辞典』平岡昇修（山喜房佛書林）2015、『実習サンスクリット文法』吹田隆道（春秋社）2015								
教員からのお知らせ	教科書はありません。テキストのコピー、文法事項のプリントを配布します。ただしサンスクリット語の読解には文法書が必携であるため、今後もサンスクリット語を学ぶ人は文法書の各自購入が望まれます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返りなど。								
その他									

講義コード	11A0100700	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	手島一真・高橋堯英・戸田裕久	開講期	第2期
科目名	思想・歴史研究入門								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この講義では、①宗教学・印度思想、②インド学仏教学・仏教史（南アジア）、③歴史学・仏教史（東アジア中心）という学問分野の概要と研究方法を紹介します。								
到達目標	①宗教学・印度思想、②インド学仏教学・仏教史（南アジア）、③歴史学・仏教史（東アジア中心）という視点から学修・研究するための基礎的な方法を実践することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。 特に配布資料や参考図書の該当箇所を授業後に再読して理解に努めること。								
授業計画	<p>[宗教学・印度思想]</p> <p>【第1回】 導入、世界の神話、神話の世界（戸田）</p> <p>【第2回】 宗教の世界（戸田）</p> <p>【第3回】 世界の宗教（戸田）</p> <p>【第4回】 世界の神秘主義（戸田）</p> <p>【第5回】 ヨーガの世界（戸田）</p> <p>[インド学仏教学・仏教史]</p> <p>【第6回】 インド学仏教学とは？古代インドの仏教史研究の資料について（高橋）</p> <p>【第7回】 仏教とインド古代史の流れ（高橋）</p> <p>【第8回】 考古学と仏教：発掘報告書の例1（タキシラ）（高橋）</p> <p>【第9回】 考古学と仏教：発掘報告書の例2（メハサンダ）（高橋）</p> <p>[歴史学・仏教史]</p> <p>【第10回】 歴史の探究（1）「ひと」=人物を対象として（手島）</p> <p>【第11回】 歴史の探究（2）「もの」=遺物・遺跡などを対象として（手島）</p> <p>【第12回】 歴史の探究（3）「こと」=事件・制度・政策などを対象として（手島）</p> <p>【第13回】 歴史の探究（4）総合的に（手島）</p> <p>[鼎談]</p> <p>【第14回】 何を知りたいか～たとえば卒論のこと～</p> <p>[総括]</p> <p>【第15回】 まとめ（手島）</p> <p>※（カッコ内）は当該授業の担当者。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）と学期中に数回提示されるレポート課題（50%）提出により成績を評価します（計100%）。								
フィードバックの内容	この授業は3人の担当者がそれぞれ行います。成績評価の具体的な方法は授業内に担当者よりアナウンスします。								
教科書	フィードバックは授業内にて行います。								
指定図書	各教員より資料配付。								
参考書	『世界の歴史（全30冊）』（中央公論新社（中公文庫））2008年～2010年、『日本の歴史（全26冊）』（講談社（講談社学術文庫））2008年～2010年、『アジア仏教史（インド編全6巻、中国編全5巻、日本編全9巻）』中村元、笠原一男、金岡秀友監修・編（俊成出版社）1972年～1976年、『新アジア仏教史（全15冊）』（俊成出版社）2010年～2011年、『インド哲学仏教学への誘い』菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会編（大東出版社）2005年、『講座・大乘仏教』平川彰〔ほか〕編（春秋社）1981～1985年、『シリーズ大乘仏教』桂紹隆〔ほか〕編（春秋社）2011～2014年、『アジア歴史事典（全10冊）』平凡社編（貝塚茂樹ほか）（平凡社）1984年（新装復刊版）、『国史大辞典（全17冊）』国史大辞典編集委員会編（大久保利謙ほか）（吉川弘文館）1979年～1997年、『世界歴史大事典（全22冊）』芳賀登〔ほか〕編集（教育出版センター）1992年（新装版）								
教員からのお知らせ	『宗教学辞典』小口偉一、堀一郎監修（東京大学出版会）1973年、『比較思想事典』峰島旭雄編（東京書籍）2000年、『宗教的経験の諸相』W. ジェイムズ著；榊田啓三郎訳（岩波書店（岩波文庫））1970年、『比較思想論』中村元著（岩波書店）1969年、『比較思想序論』三枝充憲著（春秋社）1995年（増補版）、『インド思想史』早鳥鏡正著（東京大学出版会）1982年、『古代インドの文明と社会』山崎元一著（中央公論社）1997年、『世界歴史大系 南アジア先史・古代』山崎元一・小西正捷編（山川出版社）2007年、『古代インドの歴史』R.S. シャルマ著（山崎利男・山崎元一訳）（山川出版社）1985年、『仏教考古学事典』坂詰秀一編（雄山閣）2003年								
オフィスアワー	◆戸田・手島：授業時に資料配付。								
アクティブラーニングの内容	◆高橋：4回の授業に用いるプリント・資料はポータルサイトの共有ストレージ内の高橋ストレージに収納する予定。授業前に事前に各自目を通して予習してから出席してください。								
その他	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
	課題解決型学習								

講義コード	11A0102400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第1期
科目名	宗学概論 1					田村 亘禰		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	日蓮聖人教学の基本的概念を体系的に修得させる。宗学の専門用語をできるだけ平易に説明し、これを体得させる。私たちが生きている意義・価値を考え、未来の目標設定と実行への意志の涵養をはかる。								
到達目標	法華経の全般的な内容や、日蓮聖人の生涯と思想について、心を込めて他者に話して聞かせることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回の内容について、自宅および図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。ただし、インターネットに頼る学修は避けること。ネット上に氾濫する日蓮聖人に関連する解説などは、確かな文献に基づいていない場合が数多くある。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】「宗学」とはどのような学問であるか</li> <li>【第2回】日蓮聖人教学の本質</li> <li>【第3回】法華経の思想</li> <li>【第4回】久遠実成本師釈迦牟尼仏</li> <li>【第5回】本化地涌の菩薩</li> <li>【第6回】日蓮聖人の生涯（1）</li> <li>【第7回】日蓮聖人の生涯（2）</li> <li>【第8回】日蓮聖人の生涯（3）</li> <li>【第9回】日蓮聖人の主要著作（1）</li> <li>【第10回】日蓮聖人の主要著作（2）</li> <li>【第11回】三国四師の系譜と本化上行の自覚</li> <li>【第12回】日蓮聖人の法華経受容（1）</li> <li>【第13回】日蓮聖人の法華経受容（2）</li> <li>【第14回】日蓮聖人の法華経受容（3）</li> <li>【第15回】日蓮聖人の法華経受容（4）</li> </ul>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト（20%）、期末試験（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部 編（日蓮宗新聞社）1989年								
指定図書	『真訓両説妙法蓮華経並開結』法華経普及会 編（平楽寺書店）1996年、『日蓮宗読本』立正大学日蓮教学研究所 編（平楽寺書店）1985年、『新装版日蓮辞典（電子版）』宮崎英修 編（紀伊國屋書店）2021年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所 編（身延山久遠寺）2003年、『日蓮辞典』宮崎英修 編（東京堂出版）1978年								
参考書	『日蓮-その行動と思想』高木 豊（太田出版）2002年、『日蓮宗小辞典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年								
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室を退出させる。 専門用語に慣れ親しむこと。 日蓮宗僧侶を志す受講者は、相応の自覚を持って授業に望むこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0102500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	宗学概論 2					田村 亘禰		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	日蓮聖人教学の基本的概念を体系的に修得させる。宗学の専門用語をできるだけ平易に説明し、これを体得させる。私たちが生きている意義・価値を考え、未来の目標設定と実行への意志の涵養をはかる。								
到達目標	法華経の全般的な内容や、日蓮聖人の生涯と思想について、心を込めて他者に話して聞かせることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回の内容について、自宅および図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。ただし、インターネット上に氾濫する日蓮聖人の解説などは、あまり信頼しないこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】五義の体系（1）</li> <li>【第2回】五義の体系（2）</li> <li>【第3回】天台大師の説く一念三千</li> <li>【第4回】日蓮聖人の受容する一念三千</li> <li>【第5回】題目妙法五字の意義（1）</li> <li>【第6回】題目妙法五字の意義（2）</li> <li>【第7回】一大秘法と三大秘法</li> <li>【第8回】本門の本尊（1）</li> <li>【第9回】本門の本尊（2）</li> <li>【第10回】本門の戒壇</li> <li>【第11回】主師親三徳と三大誓願</li> <li>【第12回】日蓮聖人の説き示す種々の成仏</li> <li>【第13回】日蓮聖人教学における諸課題（1）</li> <li>【第14回】日蓮聖人教学における諸課題（2）</li> <li>【第15回】まとめ</li> </ul>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト毎回および宿題（20%）、期末試験1回（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部 編（日蓮宗新聞社）1989年								
指定図書	『真訓両説妙法蓮華経並開結』法華経普及会 編（平楽寺書店）1996年、『日蓮宗読本』立正大学日蓮教学研究所 編（平楽寺書店）1985年、『日蓮辞典（電子版）』宮崎英修 編（紀伊國屋書店）2021年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所 編（身延山久遠寺）2003年、『日蓮辞典』宮崎英修 編（東京堂出版）1978年								
参考書	『日蓮-その行動と思想』高木 豊（太田出版）2002年、『日蓮宗小辞典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年								
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室を退出させる。 専門用語に慣れ親しむこと。 日蓮宗僧侶を志す受講者は、相応の自覚を持って授業に望むこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0104000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第1期
科目名	<b>宗学史概論1</b>				田村 亘禰		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	①日蓮聖人滅後において、聖人の行動と思想の両面を、先師たちがどのように継承し、展開しようとしたかを考える。 ②日蓮聖人滅後から、江戸時代前期までの教学の歴史をたどる。								
到達目標	日蓮教団の思想的展開の概要を説明することができる。 日蓮宗と日蓮系他教団との教理的な相違を概略、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回取り扱う内容について、各自、自宅や図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】宗学史という学問分野の特長・考慮すべき諸事項 【第2回】鎌倉・南北朝時代における教団の展開と教学上の問題 【第3回】室町時代の京都における教団の展開と諸門流教学 【第4回】中古天台本覚思想の流行 【第5回】行学院日朝の行動と教学 【第6回】本迹一致勝劣論の展開 【第7回】玄妙阿闍梨日什の分立とその教学 【第8回】円光房日陣の分立とその教学				【第9回】円明院日澄の教学 【第10回】慶林坊日隆の分立とその教学 【第11回】本因妙・本果妙下種論の展開 【第12回】常不軽房日真の分立とその教学 【第13回】富士門流における両巻血脈の形成 【第14回】広蔵院日辰の行動と教学 【第15回】宗風一変-折伏より摂受へ 仏心院日珙の行動と思想-				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト毎回および宿題（20%）、期末試験（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『日蓮宗教学史』執行海秀（平楽寺書店）1952年								
指定図書	『日蓮宗学説史』望月歆厚（平楽寺書店）1968年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編（東京堂出版）1981年								
参考書	『日蓮教学の研究』望月歆厚（平楽寺書店）1958年、『興門教学の研究』執行海秀（海秀舎）1984年、『日蓮宗信行論の研究』渡邊寶陽（平楽寺書店）1976年、『日蓮教学研究』北川前肇（平楽寺書店）1987年、『日興門流上代事典』大黒喜道 編著（興風談所）2000年								
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室より退場させる。 この授業は「宗学の総合科目」とも言え、特に専門的な内容を有する。できれば「宗学概論」「宗史概論」「天台学概論」等を修得した後に履修することが望ましい。 教科書は各自、学内の購買等で購入すること。 専門用語に慣れるよう努力してもらいたい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他	教科書を事前に読み、意味の分からない用語について、『日蓮宗事典』等で、あらかじめ調べておくこと。授業中に行う小テストを授業時間内で解答できない場合は宿題として持ち帰り、次回の授業時に提出すること。								

講義コード	11A0104100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	<b>宗学史概論2</b>				田村 亘禰		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	①日蓮聖人滅後において、聖人の行動と思想の両面を、先師たちがどのように継承し、展開しようとしたかを考える。 ②江戸時代前・後期における教学の歴史をたどる。								
到達目標	日蓮教団の思想的展開の概要を説明することができる。 日蓮宗と日蓮系他教団との教理的な相違を概略、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回取り扱う内容について、各自、自宅や図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】江戸時代前期における教団の展開と教学上の諸問題 【第2回】受不受論の源流と展開 【第3回】一如院日重・寂照院日乾・心性院日遠の行動と教学 【第4回】仏性院日奥の行動と教学 【第5回】檀林教学の興隆と展開-常在院日深を中心に- 【第6回】録内・録外遺文の注釈書-安国院日講を中心に- 【第7回】書物を通じた論争-了義院日達・舜統院真迺等- 【第8回】草山元政の法華律 【第9回】六牙院日潮の行動と教団史研究 【第10回】堅樹院日寛による富士大石寺教学の大成 【第11回】江戸時代後期における教団の展開と教学上の諸問題 【第12回】一妙院日導による教学の体系化 【第13回】優陀那院日輝の充治園設立と観心主義教学 【第14回】在家教学の隆盛-皆久論争と長松日扇等を中心に- 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト毎回および宿題（20%）、期末試験（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『日蓮宗教学史』執行海秀（平楽寺書店）1952年								
指定図書	『日蓮宗学説史』望月歆厚（平楽寺書店）1968年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編（東京堂出版）1981年								
参考書	『日蓮教学の研究』望月歆厚（平楽寺書店）1958年、『興門教学の研究』執行海秀（海秀舎）1984年、『日蓮宗信行論の研究』渡邊寶陽（平楽寺書店）1976年、『日蓮教学研究』北川前肇（平楽寺書店）1987年、『日興門流上代事典』大黒喜道 編著（興風談所）2000年								
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室より退場させる。 この授業は「宗学の総合科目」とも言え、特に専門的な内容を有する。できれば「宗学概論」「宗史概論」「天台学概論」等を修得した後に履修することが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他	教科書を事前に読み、意味の分からない用語について、『日蓮宗事典』等で、あらかじめ調べておくこと。授業中に行う小テストを授業時間内で解答できない場合は宿題として持ち帰り、次回の授業時に提出すること。								

講義コード	11A0115600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	松野 智章	開講期	第1期
科目名	<b>宗教哲学</b>								
履修前条件					備考				
授業の目的	宗教哲学は、宗教に関して理性的でありさえすれば自由に宗教を考察することができる学問である。宗教とは何か？神は実在するのか？無神論者の生の価値とは何か？最先端の科学の知見は宗教にどのような影響を与えるのか？神学でもなければ客観的な宗教社会学でもない哲学的に宗教を考察するのが本授業である。								
到達目標	1、哲学者が宗教をどのように捉えてきたのか、その一部を理解できるようになる。 2、科学的知見によって、宗教を相対的にみることができるようになる。 3、哲学的な思考法の一部を理解できるようになる。 4、宗教について、自分で自由に考える力を養えるようになる。 5、宗教と文化の関係を理解できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	宗教哲学に関する本を1冊は手に取ってみてください。特に、古典を読むとその面白さが分かります。合計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】そもそも宗教って何？哲学って何？ 【第2回】世界宗教と民族宗教の違いを理解する。 【第3回】一神教と人権の関係を理解する。 【第4回】近代になって宗教が誕生した？ 【第5回】宗教と芸術の関係を通して近代を理解する。 【第6回】宗教と建築の関係を通して近代を理解する。 【第7回】宗教における近代国家とは何か？ 【第8回】ナチとは何か？				【第9回】ディズニーにおける宗教の描写を理解する。 【第10回】第二バチカン公会議と言語哲学を理解する。 【第11回】宗教と科学の関係を考える。 【第12回】宗教と物質主義について考える。 【第13回】ポストモダンと宗教について考える。 【第14回】ディスカッション 【第15回】宗教哲学をテーマに小論文を書く。(試験)				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50% 試験50%								
フィードバックの内容	リアクションペーパーでの質問は匿名で翌週に回答する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『宗教哲学入門』量義治(講談社学術文庫)2008、『時と永遠』波多野精一(岩波文庫)2012、『宗教の哲学』ジョン・ヒック(勁草書房)1994、『ワイトゲンシュタインと宗教哲学——言語・宗教・コミットメント』星川啓慈(ヨルゲン社)1989、『善の研究』西田幾多郎(岩波文庫)1979、『解明される宗教』ダニエル・デネット(青土社)2010、『宗教を生みだす本能——進化論からみたヒトと信仰』ニコラス・ウェイド(エヌティティ出版)2011								
教員からのお知らせ	基本的に考える授業です。知識は無くてもやる気があれば十分です。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、リアクションペーパー(フォーム)にご記入ください。								
アクティブラーニングの内容	授業内もしくは、個別に対応いたします。								
その他									

講義コード	11A0115000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期
科目名	<b>宗教とは何か／宗教学概説</b>								
履修前条件					備考				
授業の目的	宗教とは何か。世界には宗教の名で呼ばれる現象が無数にあり、種々異なる様相を呈している。それらをひとくくりに定義するのは難しい。この捉え所のない諸宗教現象を、先人たちは理解しようと努め、あるいはそれに身を投じてきた。本講義では、そのような宗教に関する研究と実践の諸相を価値中立的立場から俯瞰し、宗教の存在意義を考察する。また特に、人類に共通する宗教体験の機序を探究する。								
到達目標	宗教現象の多様性を概括的に認識することができる。諸宗教の実態状況を中立的立場から客観的に理解することができる。多様な宗教現象に共通する要素や性質等を探究考察することができる。諸宗教の存在意義を理解し、寛容に対応することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料および参考図書の該当箇所をあらかじめ目を通しておき、授業後も資料を再読して扱われた内容の理解に努める。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】 宗教研究の意義、宗教の定義の試み 【第2回】 宗教の定義、超越性・聖性・究極性 【第3回】 宗教研究の方法論、宗教現象の分類法 【第4回】 宗教儀礼、宗教心理、神秘主義 【第5回】 神という概念の多様性、神話 【第6回】 自然崇拜、ディナミズム(呪力観) 【第7回】 アニミズム(有霊観)、祖先崇拜 【第8回】 トーテミズム、フェティシズム				【第9回】 シャーマニズム 【第10回】 呪術と宗教、宗教と倫理 【第11回】 宗教社会学の基礎理論 【第12回】 宗教集団に関する諸理論 【第13回】 宗教社会学の周辺分野 【第14回】 神秘体験・臨死体験と脳科学 【第15回】 現代社会における宗教の意義				
成績評価の方法	レポート(80%)、授業への取り組み姿勢(20%)。								
フィードバックの内容	レポートに対する講評を授業内において行う。								
教科書	適宜、資料を配布します。								
指定図書									
参考書	『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎監修(東京大学出版会)1973年、『宗教学』岸本英夫(大明堂)1961年、『宗教現象学入門』G.v.d.レーウ著、田丸徳善/大竹みよ子訳(東京大学出版会)1979年、『宗教社会学を学ぶ人のために』井上順孝編(世界思想社)2016年、『シャーマンの世界』ピアーズ・ウィテプスキー著、中沢新一監修、岩坂彰訳(創元社)1996年								
教員からのお知らせ	レポート作成に当たっては各種資料やノート等を披見してよいが、単なる感想文や資料の抜き書きだけでは評価に値しないので注意すること。各自の見解を率直に述べるのが得策である。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、意見共有。								
その他	宗教の存在意義を問いつつ、現在の世界の危機的状況の乗りを越えて我々皆が生き延びることのできる道を、共に考えてまいります。でも最後に、ちゃぶ台返し。								

講義コード	11A0115300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期	
科目名	宗教の史的展開／宗教史概説				戸田 裕久			第2期		
履修前提条件					備考					
授業の目的	世界に続発する紛争の多くは宗教に起因するとよく耳にする。本当だろうか。聖戦の美名の裏には必ず生臭い利害対立があった。宣教は侵略と植民地支配の大義名分に過ぎなかった。それは歴史の物語る所である。本講では、世界の諸宗教の教義と実践の歴史的展開と現況を価値中立的立場から紹介する。そしてこれは、世界の諸宗教現象の源流を探る旅であり、また、宗教の未来を予測する試みでもある。									
到達目標	世界の諸宗教の多様性を概括的に認識することができる。諸宗教の実態状況を中立的立場から客観的に理解することができる。多様な宗教現象に共通する要素や性質等を探究考察することができる。諸宗教の存在意義を理解し寛容な対応をすることができる。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料および参考図書当該箇所にあらかじめ目を通しておき、授業後も資料を再読して扱われた内容の理解に努める。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。									
授業計画	【第1回】世界の諸宗教の全体像、先史時代の宗教 【第2回】メソポタミアの古代宗教 【第3回】エジプトの古代宗教 【第4回】インドの古代宗教 【第5回】イランの古代宗教 【第6回】ギリシアの古代宗教（神話、密儀、哲学） 【第7回】ユダヤ教（旧約聖書、律法書） 【第8回】ユダヤ教（預言者、諸書、信仰生活）				【第9回】キリスト教（史的イエスの生涯と思想） 【第10回】キリスト教（原始キリスト教の教義） 【第11回】キリスト教（中世以降の展開、文化習俗） 【第12回】イスラーム教（コーラン、聖法） 【第13回】イスラーム教（共同体、神秘主義） 【第14回】中国の宗教（儒教、道教） 【第15回】日本の宗教（神道、民間信仰）					
成績評価の方法	レポート（80％）、授業への取り組み姿勢（20％）。									
フィードバックの内容	レポートに対する講評を授業内において行う。									
教科書	適宜、資料を配布します。									
指定図書										
参考書	『エリアーデ世界宗教事典』ミルチャ・エリアーデ、ヨアン・P・クリアーノ著、奥山 倫明訳（せりか書房）1994年、『神の歴史－ユダヤ・キリスト・イスラーム教全史』カレン・アームストロング著、高尾利数訳（柏書房）1995年、『神の伝記』ジャック・マイルズ著、秦剛平訳（青土社）1996年、『知の教科書 キリスト教』竹下節子（講談社）2002年、『世界の宗教と経典・総解説』（自由国民社）1998年									
教員からのお知らせ	上記の授業計画に留まらず、実際に授業を進める中で色々な方向に話が広がり、配布資料が多くなるかもしれません。授業では全てを扱い切れなくとも資料には一応目を通した上でレポート作成に臨んでください。									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。									
アクティブラーニングの内容	反転授業、意見共有									
その他	世界の諸宗教について、お伝えすべきこと、お話ししたいことが山ほどありますので、数時間余分に授業（補講）することになるかもしれません。補講も含めて全ての授業を受講した上で学期末レポート作成に臨んでください。									

講義コード	11A0114500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	山本 展也	開講期	第2期	
科目名	宗教法人法				山本 展也			第2期		
履修前提条件					備考					
授業の目的	本講義では、宗教団体の制度上の位置づけについて考察する。現代の宗教団体は大半が宗教法人という法人格を有し、法人として活動している。法人格がなければ、宗教団体として財産を取得することも、銀行から借入を行うことも困難である。									
到達目標	このように、宗教団体は宗教法人法や税法などの法律とかかわりながら活動しているのであるが、それらの法律を単に条文を読むということだけでなく、具体的な事例を挙げながら解説する。 宗教法人の事務を、宗教法人法に則って適正に処理することができる。 宗教法人の収益事業に係る法人税法や消費税法の取扱いの基本を理解できる。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、宗教法人法は、文化庁のホームページ等を参考にし、同法条文と照らし合わせて学習すること。所得税・法人税・消費税については、国税庁のパンフレットが手頃で参考になるため、授業中に該当ホームページを紹介するので講義後に復習すること。									
授業計画	本授業は全てオンラインで実施します。 【第1回】宗教法人法1 第1章 【第2回】宗教法人法2 第2・3章 【第3回】宗教法人法3 第4章以下 小テスト 【第4回】日本の税の仕組み 【第5回】所得税の概要 【第6回】源泉徴収制度 【第7回】毎月の源泉徴収実務1 【第8回】毎月の源泉徴収実務2				【第9回】年末調整実務1 【第10回】年末調整実務2 【第11回】年末調整実務3 【第12回】年末調整の小テスト（方法については授業で事前に発表する） 【第13回】法人税法 【第14回】消費税法・税務調査 【第15回】総括					
成績評価の方法	授業への取組み50％、レポート&小テスト等50％で評価することを原則とする。 到達目標に記載の内容について、宗教法人法では、条文の理解が出来ているか、税法では実際に実務に応用できるか、その他宗教法人についてどのような問題意識を持っているか、これらを総合的に評価する。									
フィードバックの内容	小テストについての講評や誤りが特に多かったポイントの解説については、LMS等で行う。 学生の疑問にはなるべくわかりやすく解説し、要望等にはできるだけ斟酌するようにしたい									
教科書	資料を授業内に配布。									
指定図書	必要な都度指示。									
参考書	毎年改正のため授業中に指示。									
教員からのお知らせ	授業には主体的・積極的に参加されることを希望します。									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、LMSで対応する予定。 LMS利用についての改善点は、その都度提案下さることを希望する。									
アクティブラーニングの内容										
その他	現役の税理士が宗教法人の各種事務の基本を講義します。									

講義コード	11A0103800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	宗史概論1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日蓮聖人滅後の日蓮教団では、六老僧をはじめとして門流が形成され、東国はもとより畿内や九州などの各地へと展開していった。戦国時代に入ると、日蓮教団は戦国大名や強力な統一政権と対峙せざるを得なくなる。そして近世にいたり、現在へと続く教団の基礎が形成される。そこで本授業では、各時代の特質に留意しつつ、日蓮教団の歴史的展開を明らかにする。								
到達目標	日蓮教団の歴史的展開について、基本的な説明ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス		【第9回】 門流の分立（1）		【第10回】 門流の分立（2）		【第11回】 門流の分立（3）		
	【第2回】 六老僧の制定と墓所輪番		【第12回】 京畿における諸門流の展開（1）		【第13回】 京畿における諸門流の展開（2）		【第14回】 京畿における諸門流の展開（3）		
	【第3回】 東国における門流の形成（1）		【第15回】 まとめ						
	【第4回】 東国における門流の形成（2）								
	【第5回】 東国における門流の形成（3）								
	【第6回】 東国における門流の形成（4）								
	【第7回】 諸門流の京都進出（1）								
	【第8回】 諸門流の京都進出（2）								
成績評価の方法	学期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	（なし）								
指定図書	『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『日蓮とその弟子』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年、『京都日蓮教団門流史の研究』糸久宝賢（平楽寺書店）1990年、『日蓮宗の成立と展開』中尾堯（吉川弘文館）1973年、『中世東国の地域社会史』湯浅治久（岩田書院）2005年、『反骨の導師日親・日奥』寺尾英智・北村行遠編（吉川弘文館）2004年、『戦国仏教』湯浅治久（中公新書）2009年、『日蓮教団史概説』影山堯雄（平楽寺書店）1959年、『京都町衆と法華信仰』冠賢一（山喜房佛書林）2010年								
参考書	『法華文化の展開』藤井学（法蔵館）2002年、『法華衆と町衆』藤井学（法蔵館）2003年、『中世日蓮教団史攷』高木豊（山喜房佛書林）2008年、『中世京都の民衆と社会』河内将芳（思文閣出版）2000年、『中世京都の都市と宗教』河内将芳（思文閣出版）2006年、『不受不施派の源流と展開』宮崎英修（平楽寺書店）1969年、『中世東国日蓮宗寺院の研究』佐藤博信（東京大学出版会）2003年、『日蓮宗儀礼史の研究』松村寿巖（平楽寺書店）2001年、『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』望月真澄（平楽寺書店）2002年、『日蓮宗と戦国京都』河内将芳（淡交社）2013年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	第2期開講の「宗史概論2」と合わせて履修することを希望します。								

講義コード	11A0103900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第2期
科目名	宗史概論2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日蓮聖人滅後の日蓮教団では、六老僧をはじめとして門流が形成され、東国はもとより畿内や九州などの各地へと展開していった。戦国時代に入ると、日蓮教団は戦国大名や強力な統一政権と対峙せざるを得なくなる。そして近世にいたり、現在へと続く教団の基礎が形成される。そこで本授業では、各時代の特質に留意しつつ、日蓮教団の歴史的展開を明らかにする。								
到達目標	日蓮教団の歴史的展開について、基本的な説明ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス		【第9回】 織田信長と安土宗論		【第10回】 豊臣秀吉と大仏千僧供養会		【第11回】 江戸時代の日蓮教団（1）		
	【第2回】 不受不施制の展開		【第12回】 江戸時代の日蓮教団（2）		【第13回】 江戸時代の日蓮教団（3）		【第14回】 教学の振興と檀林の興起		
	【第3回】 門流和融運動の推進		【第15回】 まとめ						
	【第4回】 日蓮教団の武装化								
	【第5回】 天文法難の勃発								
	【第6回】 天文法難以後の教団（1）								
	【第7回】 天文法難以後の教団（2）								
	【第8回】 地方における教団の活動								
成績評価の方法	学期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	（なし）								
指定図書	『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『日蓮とその弟子』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年、『京都日蓮教団門流史の研究』糸久宝賢（平楽寺書店）1990年、『日蓮宗の成立と展開』中尾堯（吉川弘文館）1973年、『中世東国の地域社会史』湯浅治久（岩田書院）2005年、『反骨の導師日親・日奥』寺尾英智・北村行遠編（吉川弘文館）2004年、『戦国仏教』湯浅治久（中公新書）2009年、『日蓮教団史概説』影山堯雄（平楽寺書店）1959年、『京都町衆と法華信仰』冠賢一（山喜房佛書林）2010年								
参考書	『法華文化の展開』藤井学（法蔵館）2002年、『法華衆と町衆』藤井学（法蔵館）2003年、『中世日蓮教団史攷』高木豊（山喜房佛書林）2008年、『中世京都の民衆と社会』河内将芳（思文閣出版）2000年、『中世京都の都市と宗教』河内将芳（思文閣出版）2006年、『不受不施派の源流と展開』宮崎英修（平楽寺書店）1969年、『中世東国日蓮宗寺院の研究』佐藤博信（東京大学出版会）2003年、『日蓮宗儀礼史の研究』松村寿巖（平楽寺書店）2001年、『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』望月真澄（平楽寺書店）2002年、『日蓮宗と戦国京都』河内将芳（淡交社）2013年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	第1期開講の「宗史概論1」と合わせて受講することを希望します。								

講義コード	11A0150000	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	田邊 資章	開講期	第1期
科目名	情報基礎 1								
履修前条件					備考				
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまでに以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシ育成のための授業である。情報リテラシとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。								
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。 e-Learning という PC を使った教材を課すこともある。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 ガイダンス</li> <li>【第2回】 インターネット検索演習 (1)</li> <li>【第3回】 インターネット検索演習 (2)</li> <li>【第4回】 日本語文書処理の基礎 (1)</li> <li>【第5回】 日本語文書処理の基礎 (2)</li> <li>【第6回】 日本語文書処理の基礎 (3)</li> <li>【第7回】 日本語文書処理の基礎 (4)</li> <li>【第8回】 日本語文書処理の基礎 (5)</li> <li>【第9回】 表計算ソフトの基本 (1)</li> <li>【第10回】 表計算ソフトの基本 (2)</li> <li>【第11回】 表計算ソフトの基本 (3)</li> <li>【第12回】 プレゼンテーションソフトの基本 (1)</li> <li>【第13回】 プレゼンテーションソフトの基本 (2)</li> <li>【第14回】 プレゼンテーションソフトの基本 (3)</li> <li>【第15回】 プレゼンテーションソフトの基本 (4)</li> </ul>								
成績評価の方法	毎週の課題 (100%) から到達目標への到達度を評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	適宜授業中に指示								
指定図書	適宜授業中に指示								
参考書									
教員からのお知らせ	パソコン (PC) を使った演習を行う。 基礎から実践的に学んでいくので、初心者も遠慮無く受講してほしい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
その他									

講義コード	11A0150100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	田邊 資章	開講期	第2期
科目名	情報基礎 2								
履修前条件					備考				
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまでに以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシ育成のための授業である。情報リテラシとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。								
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。 e-Learning という PC を使った教材を課すこともある。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 ガイダンス</li> <li>【第2回】 インターネット検索演習 (A)</li> <li>【第3回】 インターネット検索演習 (B)</li> <li>【第4回】 日本語文書処理の応用 (1)</li> <li>【第5回】 日本語文書処理の応用 (2)</li> <li>【第6回】 日本語文書処理の応用 (3)</li> <li>【第7回】 表計算ソフトの応用 (1)</li> <li>【第8回】 表計算ソフトの応用 (2)</li> <li>【第9回】 表計算ソフトの応用 (3)</li> <li>【第10回】 表計算ソフトの応用 (4)</li> <li>【第11回】 プレゼンテーションソフトの応用 (1)</li> <li>【第12回】 プレゼンテーションソフトの応用 (2)</li> <li>【第13回】 プレゼンテーションソフトの応用 (3)</li> <li>【第14回】 プレゼンテーションソフトの応用 (4)</li> <li>【第15回】 プレゼンテーションソフトの応用 (5)</li> </ul>								
成績評価の方法	毎週の課題 (100%) から到達目標への到達度を評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	適宜授業中に指示								
指定図書	適宜授業中に指示								
参考書									
教員からのお知らせ	パソコン (PC) を使った演習を行う。 情報基礎 2 からは応用的な使用が増えてくるので、情報基礎 1 で学んだことを活用して欲しい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
その他									



講義コード	11A0105800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	堀内 規之	開講期	第1期
科目名	真言学概論1					堀内 規之		第1期	
履修前条件						備考			
授業の目的	本講義は、受講生が他者や地域社会に向けて真言宗の歴史と理論を論理的に表現・説明ができる能力を身につけることを目的としている。 具体的には、真言宗祖である弘法大師空海のご生涯をたどることによって、真言宗を理解し、またその信仰の一端と日本文化を理解することである。								
到達目標	授業の目的を達成するために、本講義の具体的到達目標は、以下のものとする。 ①受講生が、弘法大師のご生涯を学ぶ必要性和その重要性について正しく理解し、記述できる。 ②受講生が、なぜ空海が真言宗祖だけではなく、大師信仰がいまも面々と受け継がれていることについて、正しく理解し、人に説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修をおこなうこと。 授業外学修では、授業内容の確認と次回授業内容について、テキストを一読し、不明な単語や用語について辞書等において確認しておくこと。								
授業計画	<p>【第1回】 本講義の概説 テキスト、参考文献の紹介 評価の説明</p> <p>【第2回】 弘法大師の生きた時代</p> <p>【第3回】 弘法大師の誕生地について</p> <p>【第4回】 聾瞽指帰と『三教指帰』</p> <p>【第5回】 入唐の目的について</p> <p>【第6回】 入唐中の活躍について①</p> <p>【第7回】 入唐中の活躍について②</p> <p>【第8回】 帰国後の状況と菓子の変</p> <p>【第9回】 伝教大師最澄との交流</p> <p>【第10回】 徳一と弘法大師</p> <p>【第11回】 高野山開創</p> <p>【第12回】 東寺下賜について</p> <p>【第13回】 後七日御修法・万灯万華会と入定</p> <p>【第14回】 大師の行動原理について</p> <p>【第15回】 総括 テスト</p>								
成績評価の方法	期末試験（60％）、授業への取り組み姿勢（20％）、レポート（20％）								
フィードバックの内容	期末試験の模範解答を試験終了後に配付する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	テキストは教員で用意し、配付いたします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
その他									

講義コード	11A0105900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	堀内 規之	開講期	第2期
科目名	真言学概論2					堀内 規之		第2期	
履修前条件						備考			
授業の目的	弘法大師空海によって、中国より請来された密教を真言密教と称するが、本授業においてはこの真言密教の歴史と教学を多角的に講義をする。								
到達目標	この講義を受けることによって、以下の点が可能となる。 ①受講生が、真言密教の歴史・教えの基本的概念を説明できる。 ②受講生が、真言密教の基礎的用語を用いて説明できるようになる。 ③受講生が、日本仏教に於ける真言密教の立ち位置を説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱う項目について、テキストの当該箇所を読み、理解できた部分とそうでない部分を明確に認識した上で、授業に臨むこと。								
授業計画	<p>【第1回】 講義の概要と成績評価の説明 テキストは『密教百話』の現代語訳版を配付いたします。</p> <p>【第2回】 『密教百話』 密教の起源・顕教と密教・密教は釈迦の教えか</p> <p>【第3回】 『密教百話』 事相と教相・口伝・文書記載方法・解釈の四段階</p> <p>【第4回】 『密教百話』 密教の起源・八祖相承・金剛界系と胎藏界系・等葉不等葉</p> <p>【第5回】 『密教百話』 三国伝来の密教・教判思想・十住心思想</p> <p>【第6回】 『密教百話』 入唐八家・東密と台密・弘法大師の門下</p> <p>【第7回】 『密教百話』 野沢十二流・興教大師・新義と古義</p> <p>【第8回】 『密教百話』 分派の根本義・流例・事相三十六流</p> <p>【第9回】 『密教百話』 修験道・両部神道・所依の経典・『大日経』・『金剛頂経』</p> <p>【第10回】 『密教百話』 曼荼羅・仏菩薩の網羅方法・胎藏界、金剛界の名称</p> <p>【第11回】 『密教百話』 金剛界曼荼羅と胎藏界曼荼羅</p> <p>【第12回】 『密教百話』 大日如来・常恒説法・五智</p> <p>【第13回】 『密教百話』 四種法身・仏身の建立</p> <p>【第14回】 『密教百話』 即身成仏思想</p> <p>【第15回】 まとめと試験</p>								
成績評価の方法	学期末のレポート（60％）、授業への取り組み・態度（40％）などを考慮して総合的に評価する。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	本講義ではプリントを配布した上で、各回の講義は上記の通り進めますので、それぞれのテーマに関連する、各自の関心ある事項（人名・地名など）について、辞典等で調べた上で授業に臨んでください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11J1120101	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	久田 満	開講期	第1期
科目名	心理学概論Ⅰ／心理学史					久田 満	第1期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	心理学概論Ⅰでは、心理学の誕生からの歴史の変遷と現代心理学が人間および集団の健全な発達にどのように貢献しているかについて理解することを目的とする。								
到達目標	1. 心理学の歴史の変遷を説明できる。 2. 心理学の諸分野の基礎的な知見を理解する。 3. 心理学の知見を活用して、人間と集団の発達について説明ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業では、60時間以上の授業外学修を行うことを求めます。授業外学修は復習を中心とし、授業内容を振りかえり、不明な用語について調べたり、授業担当者へ質問をしたりして疑問点が解消されるようにして下さい。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション：心理学と諸科学との関連 【第2回】心理学の歴史 【第3回】生物学的基盤：生態学的心理学 【第4回】認知的基盤1：感覚、知覚 【第5回】認知的基盤2：記憶と記憶障害 【第6回】学習理論：古典的・道具的条件づけ 【第7回】動機づけ理論 【第8回】パーソナリティ理論				【第9回】発達理論1：乳幼児期、学童期 【第10回】発達理論2：青年期 【第11回】発達理論3：中年期 【第12回】発達理論4：老年期 【第13回】集団の心理学1：リーダーシップ 【第14回】集団の心理学2：コミュニティ感覚 【第15回】まとめ：期末試験と解説				
成績評価の方法	参加の状況：40%、期末試験：60% 参加状況は、講義内容に関するショートレポートによって評価します。								
フィードバックの内容	ショートレポートへのフィードバックは、原則次の講義時の冒頭で行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、メールにて質問・相談を受け付けます。メールアドレスは授業資料内に示します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11J1120201	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	久田 満	開講期	第2期
科目名	心理学概論Ⅱ／心理学概論					久田 満	第2期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	心理学概論Ⅰでは、心理学の誕生からの歴史の変遷と現代心理学が人間および集団の健全な発達にどのように貢献しているかについて理解することを目的とする。								
到達目標	1. 心理学の応用分野について説明できる。 2. 心理学の「心の健康」への貢献について理解できる。 3. 臨床心理学の諸理論と技法について理解し、日常生活に活かすことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この授業では、60時間以上の授業外学修を行うことを求めます。授業外学修は復習を中心とし、授業内容を振りかえり、不明な用語について調べたり、授業担当者へ質問をしたりし、疑問点が解消されるようにして下さい。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション：心理学とその応用 【第2回】臨床心理学の歴史 【第3回】精神分析 【第4回】ユング心理学 【第5回】認知療法 【第6回】行動療法 【第7回】リラクゼーション法1：呼吸法 【第8回】リラクゼーション法2：自律訓練法				【第9回】森田療法 【第10回】内観療法 【第11回】システムズ・アプローチ 【第12回】危機介入 【第13回】予防的介入 【第14回】コミュニティ・アプローチ 【第15回】まとめ：期末試験と解説				
成績評価の方法	参加状況：40%、期末試験：60% 参加状況は、講義内容に関するショートレポートによって評価します。								
フィードバックの内容	ショートレポートへのフィードバックは、原則次の講義時の冒頭で行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、メールにて質問・相談を受け付けます。メールアドレスは授業資料内に示します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11A0113000	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期
科目名	<b>世界の言語と文化[英語Ⅰ]</b>				戸田 裕久		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では英語圏の映画や舞台記録等の視聴覚資料を鑑賞し脚本等を精読することにより、欧米人の文化習俗や言語感覚を体験的に学修する。								
到達目標	英米語のネイティヴスピーカーの発音が聞き取れる。教材の表現方法を手本として、自分の見解や心情を英語で正確に伝えることができる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に生き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	視聴覚資料の教材の既習箇所を再読して概要をまとめた上で、印象に残った場面や言い回しなど学んだ事柄や感想を英語で作文しておく。教材の既習箇所の音読練習を重ねる。これら予習・復習を各回4時間、計60時間以上行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】授業の進め方の説明と教材の選定、視聴覚資料の冒頭部分の視聴、内容の理解</p> <p>【第2回】～【第13回】各回の授業は以下のように展開される。</p> <p>(1) 前回の復習：前回の授業で扱われた内容を振り返る。</p> <p>(2) 視聴覚資料の視聴：視聴覚資料(映画等)を英語・日本語字幕なしで視聴し、大意を把握する、あるいは内容を想像する。</p> <p>(3) 内容の理解：配布資料(スクリプト)の当該箇所を読み内容を理解する。物語の時代背景や文化基盤等について解説が加えられる。</p> <p>(4) 再度の視聴：英語字幕つきで当該箇所を視聴し内容と出演者の演技を確認する。</p> <p>(5) 実演練習：英語原文の読み方を全員で確認した上で、各自で音読練習する。</p> <p>(6) 今回の内容の覚え書き：今回学習した箇所の概要をまとめ、印象に残った場面や言い回しなど学んだ事柄や感想を英語で書き留める。</p> <p>【第14・15回】第1期実技試験：各人が英語で自己紹介し、授業で扱われた教材の中で特に印象に残った場面や事柄について述べた上で、当該箇所を音読実演する。その発表原稿をレポートとして提出する。</p>								
成績評価の方法	実技試験(40%)、レポート(40%)、授業への取り組み姿勢(20%)。								
フィードバックの内容	課題レポート等の講評を授業内において行う。								
教科書	未定。適宜、教材を配布します。								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	実技試験では音読する箇所を受験者本人に決めていただきます。どの場面を選ぶかということに、教材とした作品に対する理解度と授業への取り組み姿勢が表われるからです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	実技、プレゼンテーション								
その他	何事も始めは気が進まなくとも、続けている内に楽しくなってくるものです。いやいやするのではなく、何らかの楽しみを見つけて勉めてください。								

講義コード	11A0113100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期
科目名	<b>世界の言語と文化[英語Ⅱ]</b>				戸田 裕久		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では英語圏の映画や舞台記録等の視聴覚資料を鑑賞し脚本等を精読することにより、欧米人の文化習俗や言語感覚を体験的に学修する。								
到達目標	英米語のネイティヴスピーカーの発音が聞き取れる。教材の表現方法を手本として、自分の見解や心情を英語で正確に伝えることができる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に生き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	視聴覚資料の教材の既習箇所を再読して概要をまとめた上で、印象に残った場面や言い回しなど学んだ事柄や感想を英語で作文しておく。教材の既習箇所の音読練習を重ねる。これら予習・復習を各回4時間、計60時間以上行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】授業の進め方の説明と教材の選定、視聴覚資料の冒頭部分の視聴、内容の理解</p> <p>【第2回】～【第13回】各回の授業は以下のように展開される。</p> <p>(1) 前回の復習：前回の授業で扱われた内容を振り返る。</p> <p>(2) 視聴覚資料の視聴：視聴覚資料(映画等)を英語・日本語字幕なしで視聴し、大意を把握する、あるいは内容を想像する。</p> <p>(3) 内容の理解：配布資料(スクリプト)の当該箇所を読み内容を理解する。物語の時代背景や文化基盤等について解説が加えられる。</p> <p>(4) 再度の視聴：英語字幕つきで当該箇所を視聴し内容と出演者の演技を確認する。</p> <p>(5) 実演練習：英語原文の読み方を全員で確認した上で、各自で音読練習する。</p> <p>(6) 今回の内容の覚え書き：今回学習した箇所の概要をまとめ、印象に残った場面や言い回しなど学んだ事柄や感想を英語で書き留める。</p> <p>【第14・15回】第2期実技試験：各人が英語で自己紹介し、授業で扱われた教材の中で特に印象に残った場面や事柄について述べた上で、当該箇所を音読実演する。その発表原稿をレポートとして提出する。</p>								
成績評価の方法	実技試験(40%)、レポート(40%)、授業への取り組み姿勢(20%)。								
フィードバックの内容	課題レポート等の講評を授業内において行う。								
教科書	未定。適宜、教材を配布します。								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	実技試験では音読する箇所を受験者本人に決めていただきます。どの場面を選ぶかということに、教材とした作品に対する理解度と授業への取り組み姿勢が表われるからです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	実技、プレゼンテーション								
その他	若いうちに(25歳くらいまでに)なるべく多くの言語に触れることを強くお勧めします。「世界の言語と文化」のフランス語、ドイツ語、中国語、ハンガール、ヒンディー語も是非受講してください。								

講義コード	11A0113200	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	方 亞平	開講期	第1期
科目名	世界の言語と文化[中国語Ⅰ]				方 亞平			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義は初めて中国語を学ぶ諸君ができるだけ正しく簡単に、より効果的に中国語をマスターすることを目的とする。本講義はピンイン（ローマ字による中国語表記）の学習を重視するとともに、繰返し練習を重んじる。最後に実際の応用ができるように工夫して日常会話も学習する。それは言語学習の基礎の基礎である。								
到達目標	中国語の入門として基本的な発音と日常用のフレーズをマスターして簡単な挨拶ができる。短文もスラスラ読めるようになる。葉書のような短い言葉も書ける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目については60時間以上の授業外学修を行う必要がある。毎回、予めテキストを読んで単語の意味を調べるなどの予習を行い、発音練習・文法事項の復習をしっかりと行う。また中国語での家族・自己紹介に関するレポートを課す予定なので、決められた期限までに提出する。								
授業計画	【第1回】 第一課 漢字と発音 発音（一）：単母音／子音（1） 【第2回】 第一課 発音（二） 特別母音／複合母音（1）子音（2） 【第3回】 第二課 発音（三） 複合母音（2）／子音（3） 【第4回】 第二課 発音（四） 前鼻母音 【第5回】 第三課 発音（五） 奥鼻母音 【第6回】 第三課 名詞述語文（1）年月日、日曜の言い方、疑問詞 “几” 【第7回】 第四課 名詞述語文（2）年齢の言い方、A “的” B 【第8回】 第四課 名詞述語文（3）時刻の言い方、文末の語気助詞 “吧” 【第9回】 第五課 名詞述語文（4）値段の言い方、動詞述語文 【第10回】 第五課 指示代名詞（1）動詞 + “一下” A “是” B 、疑問詞 “什么” 【第11回】 第六課 復習 【第12回】 第七課 選択疑問詞 “还是”？、前置詞 “在”、連動文 【第13回】 第八課 “喜欢” “这” / “那” / “哪” + 量詞 + （名詞）動詞の重ね型、文末の語気助詞 “吧” ②軽い命令 【第14回】 第九課 形容詞述語文 感嘆詞副詞 “好” + 形容詞 + “啊” 前置詞 “给” 【第15回】 第十課 主述述語文 副詞 “也” “一点儿” + “也” + 否定形								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、授業内小テスト（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内冒頭にて行う。提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。								
教科書	『演じる入門中国語』李林静／中桐典子／余瀾（朝日出版社）2020年1月31日								
指定図書	『中国語学習辞典』相原 茂（朝日出版社）2002年2月10日								
参考書	『中国に遊びましょう』榎本 英雄（朝日出版社）2003年4月1日								
教員からのお知らせ	大声朗読・ノート取り 受講に当たって、事前に単語のポイントと本文の朗読を予習しておくことが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0113300	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	方 亞平	開講期	第2期
科目名	世界の言語と文化[中国語Ⅱ]				方 亞平			第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義は初めて中国語を学ぶ諸君ができるだけ正しく簡単に、より効果的に中国語をマスターすることを目的とする。本講義はピンイン（ローマ字による中国語表記）の学習を重視するとともに、繰返し練習を重んじる。最後に実際の応用ができるように工夫して日常会話も学習する。それは言語学習の基礎の基礎である。								
到達目標	中国語の入門として簡単な日常会話ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目については60時間以上の授業外学修を行う必要がある。毎回、予めテキストを読んで単語の意味を調べるなどの予習を行い、発音練習・文法事項の復習をしっかりと行う。また中国語での家族・自己紹介に関するレポートを課す予定なので、決められた期限までに提出する。								
授業計画	【第1回】 第十一課 比較文、省略疑問文 “呢” 【第2回】 第十二課 復習 【第3回】 第十三課 助動詞 “想” 指示代名詞（2）「存在」を表す “有” 【第4回】 第十四課 「存在」を表す “在” 「存在」を表す “有” と “在” の違い 【第5回】 第十五課 「所有」を表す “有” 人の意向を聞く “怎么样” 完了を表す言い方 【第6回】 第十六課 疑問詞 “怎么” ①方法 前置詞 “离” 【第7回】 第十七課 結果補語 進行を表す言い方 禁止を表す言い方 “别” 【第8回】 第十八課 復習 【第9回】 第十九課 経験を表す言い方 名詞を修飾する言い方 【第10回】 第十九課 文末の語気助詞 “吧” ③推量 【第11回】 第二十課 「少し〜」（1）“一点儿” 「少し〜」（2）“有点儿” 助動詞 “会” 【第12回】 第二十一課 方向補語 使役を表す言い方 【第13回】 第二十二課 様態補語 疑問詞 “怎么” ②理由 指示代名詞（3） 【第14回】 第二十三課 助動詞 “能” “打算” 時量補語 【第15回】 第二十四課 復習								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、試験（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内冒頭にて行う。提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。								
教科書	『演じる入門中国語』林静香／中桐典子・余瀾（朝日出版社）2020年1月31日								
指定図書	『中国語学習辞典』相原 茂（朝日出版社）2002年2月10日								
参考書	『中国に遊びましょう』榎本 英雄（朝日出版社）2003年4月1日								
教員からのお知らせ	大声朗読・ノート取り 受講に当たって、事前に単語のポイントと本文の朗読を予習しておくことが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0113900	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	安永 有希	開講期	第2期
科目名	世界の言語と文化【ヒンディー語】						安永 有希	第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、インドの公用語であるヒンディー語の文字・文法・語彙の基礎を紹介する。また、画像・映像資料を用いて、インドの様々な文化や日常生活に触れる。								
到達目標	デーヴァナーガリー文字を習得し、ヒンディー語で簡単な文の読み書きや日常会話ができる。また、インドの文化に関する様々な知識を得て、インドへの理解を深める。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定した教材の予習に10時間、授業の復習に50時間、計60時間の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ヒンディー語ってどんなことば？ 【第2回】 デーヴァナーガリー文字、インドを知る 【第3回】 母音字と子音字、インドの人々の暮らし（衣） 【第4回】 母音と関係する記号、インドの人々の暮らし（食） 【第5回】 子音のあらわし方、インドの人々の暮らし（住） 【第6回】 つづりと発音 【第7回】 これは何ですか？ 語順、人称代名詞、コピュラ動詞 【第8回】 調子はどうだい？ 文法性、単数・複数 【第9回】 ここからとても遠いですか？ 後置詞と後置格 【第10回】 入場券をください 一般動詞 【第11回】 アグラまでの切符をください 目的語と後置詞 ko 【第12回】 来週アグラに行くつもりです 未来形 【第13回】 彼は何をしているの？ 現在形 【第14回】 私を覚えていませんか？ 過去形 【第15回】 小試験・まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（適時実施する小テスト）40%、期末試験60%で評価する。								
フィードバックの内容	期末試験の模範解答を試験終了後に配布する。								
教科書	『ニューエクスプレス・ヒンディー語』町田和彦（白水社）2008								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	ロールプレイング／シミュレーション								
その他									

講義コード	11A0113600	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第1期
科目名	世界の言語と文化【フランス語Ⅰ】				久保 真紀子		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この講義では、フランス語の書籍や研究論文を読解することを目指し、教科書を使って基礎文法を学びながら、フランス語の世界に親しんでゆきます。								
到達目標	初級文法の知識を習得し、仏和辞典を用いながら語彙力を身につけるとともに、基本的な発音を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	語学を習得するためには予習と復習が不可欠です。毎回の授業前には、教科書を使って必ず予習してくるとともに、授業後にも復習して、授業で習った知識を定着させてください。時間にして、合計60時間以上の授業外学修が必要です。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス、文字と発音 アルファベ / 綴り字記号 / 発音記号と音 / 文字の読み方 / 語群の読み方</p> <p>【第2回】 名詞の性と数 / 冠詞</p> <p>【第3回】 主語になる代名詞 / 動詞 être と avoir の直説法現在形 / 提示の表現</p> <p>【第4回】 否定形 / 形容詞</p> <p>【第5回】 -er 動詞の直説法現在 / 疑問形 / 疑問文に対する答え</p> <p>【第6回】 指示形容詞 / 疑問形容詞 / 所有形容詞</p> <p>【第7回】 aller, venir の直説法現在 / 近い未来と近い過去 / 前置詞 (à, de) と定冠詞 (le, les) の縮約</p> <p>【第8回】 finir, partir の直説法現在 / 疑問代名詞 / 疑問副詞</p> <p>【第9回】 voir, dire, entendre の直説法現在 / 形容詞・副詞の比較級 / 形容詞・副詞の最上級 / 特殊な比較級・最上級</p> <p>【第10回】 faire, prendre の直説法現在 / 命令形 / 非人称構文</p> <p>【第11回】 目的語になる人称代名詞・強勢形</p> <p>【第12回】 過去分詞 / 直説法複合過去</p> <p>【第13回】 関係代名詞 / 強調構文</p> <p>【第14回】 代名動詞 / 指示代名詞</p> <p>【第15回】 総合問題 1 (※2) の確認</p> <p>※1 教科書と音声データについて 教科書は必ず購入して、毎回持参してください。ただし、注文してから手元に届くまでの期間として、最初の数回は該当ページのコピーを配布します。教科書の音声データは出版社のホームページから聴くことができます。ホームページの URL は教科書に記載されています。</p> <p>※2 総合問題1は、教科書に掲載されている Leçon 1～Leçon10までの振り返り課題です。提出期限は第11回授業時に伝えます。その課題の回答と解説を第15回授業で行います。また、Leçon11以降に関する振り返り課題は、第2期に行います。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (70%)、総合問題1の提出と点数 (30%)								
フィードバックの内容	毎回の授業では受講生を指名して回答してもらいます。また、受講生の習熟状況を見ながら必要に応じて復習や補足説明をおこないます。								
教科書	『Le français clair』 清岡智比古 (白水社) 2021								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	仏和辞典を必ず購入し、予習復習に使ってください (どの出版社のものでも構いません)。第1期は基礎文法を学びますので、授業時間以外にも反復練習を必ず行ってください。第2期では第1期に習得した知識をもとにより実践的な読解を行いますので、第1期と第2期を連続して履修することを推奨します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ロールプレイング								

講義コード	11A0113700	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第2期
科目名	世界の言語と文化[フランス語Ⅱ]				久保 真紀子			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	この講義では、フランス語の書籍や研究論文を読解することを目指し、教科書を使って基礎文法の定着を図りつつ、専門的な内容の文献を辞書を使いながら時間をかけて読み込んでゆきます。								
到達目標	第1期から学修してきた基礎文法をもとに、フランス語の文献を講読できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書および講読文献（コピー配布）については、毎回の授業前に、単語を調べて翻訳することを徹底してください。毎回の授業では1人1人指名して回答してもらいます。予習と復習のために、合計60時間以上の授業外学修が必要です。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス  【第2回】教科書：pouvoir, vouloir, devoir の直説法現在 / 直説法単純未来  【第3回】教科書：中性代名詞  【第4回】教科書：直説法半過去 / 受動態  【第5回】教科書：現在分詞 / ジェロンディフ  【第6回】教科書：条件法現在  【第7回】教科書：接続法現在  【第8回】文法のまとめ  【第9回】文献講読  【第10回】文献講読  【第11回】文献講読  【第12回】文献講読  【第13回】文献講読  【第14回】文献講読  【第15回】総括</p> <p>※ 文献講読について  第9回以降は簡単なフランス語文献を講読します。使用する文献については、授業時にプリントを配布・指示します。</p> <p>※2 フランス語文法の習熟度を測るため、期末課題として文献和訳の課題を出します。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）、課題提出と内容（30%）								
フィードバックの内容	毎回の授業では受講生を指名して回答してもらいます。また、受講生の習熟状況を見ながら必要に応じて復習や補足説明をおこないます。								
教科書 指定図書 参考書	『Le français clair』清岡智比古（白水社）2021								
教員からのお知らせ	<p>第1期に「世界の言語と文化 [フランス語Ⅰ]」を履修していない学生は、教科書『Le français clair』を必ず購入してください。また、文献講読には仏和辞典が欠かせませんので、教科書とともに購入してください（どの出版社のものでも構いません）。</p> <p>第1期に習得した基礎文法をもとに講読を進めて行きます。文献講読にはある程度のフランス語の知識が必要となるため、第1期と第2期を連続して履修することが望ましいですが、第2期だけの履修も可能です。</p>								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ロールプレイング								
その他	文献講読はゆっくりとしたペースで少しずつ読み進めてゆきますが、予習復習は必須です。予習や課題に取り組む際には、辞書をこまめに引きながら丁寧に読み進めるように心掛けてください。完璧な訳でなくても構いませんので、とにかく挑戦してみましょう。想像力を使いながら読み進めていくと、次第に慣れて行くものです。								

講義コード	11A0108800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	則武 海源	開講期	第1期
科目名	世界の宗教地理 1					則武 海源		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	西チベットは、古来より現在に至るまで一大仏教地域であり、その地理的条件から諸地域と活発に交渉し、歴史的に重要な役割をはたしてきた。これまでのチベット研究は中央チベットが主として取り扱われてきたが、近年、西チベットの重要性が指摘されている。この西チベットの地理的特徴を把握し、歴史的に西チベットがどのように展開し、活発な仏教交渉をいかに重ねていったかという経緯を探ることが本講義の目的である。								
到達目標	西チベットの地政学的・宗教的・歴史的特徴を理解し、西チベット仏教の諸展開と周辺諸地域との仏教交渉を地理的特徴とあわせて理解することを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	積極的に西チベットの地理的環境ならびにチベット仏教の諸相を考察し、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】西チベットの地理的環境 インダス・ガンジス・ブラフマプトラの源流</p> <p>【第2回】西チベット周辺諸地域との地理的・歴史的関係①</p> <p>【第3回】西チベット周辺諸地域との地理的・歴史的関係②</p> <p>【第4回】西チベットの仏教移入の環境</p> <p>【第5回】アティーシャの入蔵とその後のチベット仏教が示す周辺地域との関係</p> <p>【第6回】西北インドの地勢的状况と当時の仏教展開①</p> <p>【第7回】西北インドの地勢的状况と当時の仏教展開②</p> <p>【第8回】チベット仏教美術に見られる西方の影響</p> <p>【第9回】地勢的に見たチベット仏教文化の特徴</p> <p>【第10回】西チベットとコータンの地理的・仏教的交渉</p> <p>【第11回】西チベットとネパールの地理的・仏教的交渉</p> <p>【第12回】ラダックにおけるチベット仏教の変遷</p> <p>【第13回】チベットを目指した探検家 トランスヒマラヤ</p> <p>【第14回】西チベットの地理と仏教伝播の関係を考える</p> <p>【第15回】総括</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題レポート提出2回50%により成績を評価します。								
フィードバックの内容	課題へのフィードバックは授業中に行います。								
教科書	授業内でプリントを配布します。								
指定図書	授業内で指示を出します。								
参考書	授業内で指示を出します。								
教員からのお知らせ	地理・歴史をベースに進めていく授業です。問題意識を持って積極的に参加して下さい。授業で使用する資料は、「オンライン授業の予習・復習」に毎回アップしますので、各自プリントアウトして授業に参加して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、次の授業に支障がない範囲で授業終了後、または学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
その他									

講義コード	11A0108900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	則武 海源	開講期	第2期
科目名	世界の宗教地理 2					則武 海源		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	仏教の伝播したインドから中国に至る内陸アジアでは、地理的環境の中で多くのオアシス国家が成立し、仏教の受容と展開に大きな影響を与えてきた。一般にシルクロードと呼ばれオアシス国家を結び発展し、東西文化交流を担った。本講義は、仏教東漸の中核をなしたシルクロードの歴史的・民族的・文化的背景を考察することを目的とする。								
到達目標	シルクロードの地理的環境を理解し、その各地域で展開した仏教の諸交渉を理解し、説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予習復習において、各授業で提示する当該地域の資料を収集し、確認すること。60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】シルクロードの地理的環境と仏教の関わり・経典と地理</p> <p>【第2回】シルクロードから中国への仏教移入と影響</p> <p>【第3回】仏像の地理的変遷を考える</p> <p>【第4回】長安・洛陽から河西回廊の地理的特徴</p> <p>【第5回】河西回廊と敦煌の地理的環境</p> <p>【第6回】敦煌石窟の特徴と展開</p> <p>【第7回】吐蕃による敦煌支配</p> <p>【第8回】トルファン周辺域の歴史と地政的役割</p> <p>【第9回】高昌国を考える</p> <p>【第10回】亀茲国の地理的・歴史的展開</p> <p>【第11回】ギジルに見る西方の影響</p> <p>【第12回】カシュガルの役割</p> <p>【第13回】西北インドとの仏教交渉と地理的關係</p> <p>【第14回】東トルキスタンの地理的環境と仏教の関係を考える</p> <p>【第15回】総括</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題・レポート提出2回50%により成績を評価します。								
フィードバックの内容	課題へのフィードバックは授業内でおこないます。								
教科書	オンライン授業の予習・復習に資料をアップします。								
指定図書	授業中に適宜指示を出します。								
参考書	授業中に適宜指示を出します。								
教員からのお知らせ	仏教を通しての宗教と地理的關係、異文化交渉の中での仏教の諸展開を習得することに努めてください。授業で使用する資料は、「オンライン授業の予習・復習」に毎回アップしますので、各自プリントアウトして授業に参加して下さい。資料をしっかりと読み込んで下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、次の授業に支障がない範囲で授業終了後、または学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容									
その他	本講義では講義資料を「オンライン授業の予習・復習」に毎回アップしますので、各自プリントアウトして授業に参加して下さい。各回の講義のテーマに関連する事項（人名・地名など）について、辞典等で調べてみてください。								



講義コード	11A1101001	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	安中 尚史	開講期	第1期
科目名	ゼミナールⅠ							安中 尚史	第1期
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本仏教の歴史的展開を主体的に学ぶための力を養うことをねらいとします。								
到達目標	日本仏教の歴史的展開を研究するために必要な基礎力を身につけることを目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	学術論文や史料（資料）を各自で検索・収集し内容を把握して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス                  【第2回】学術論文・史料（資料）の検索と収集（1）                  【第3回】学術論文・史料（資料）の検索と収集（2）                  【第4回】学術論文・史料（資料）の検索と収集（3）                  【第5回】学術論文・史料（資料）の検索と収集（4）および課題の提出（1）                  【第6回】日本仏教史研究の方法論（1）                  【第7回】日本仏教史研究の方法論（2）                  【第8回】日本仏教史研究の方法論（3）                  【第9回】日本仏教史研究の方法論（4）および課題の提出（2）                  【第10回】日本仏教史研究の方法論（5）                  【第11回】日本仏教史研究の方法論（6）                  【第12回】日本仏教史研究の方法論（7）                  【第13回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会①                  【第14回】安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会①                  【第15回】まとめと課題の提出（3）</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（レポート等）50%で評価します。								
フィードバックの内容									
教科書	特にありません								
指定図書	授業中に紹介します								
参考書									
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
その他									

講義コード	11A1101003	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第1期
科目名	ゼミナールⅠ							原 慎定	第1期
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>テーマ：人生の意味と目的を考える                  諸富祥彦著『人生に意味はあるか』をテキストとして、心理カウンセラーの著者が大学の授業でも実践している方法論を学び、宗教・文学・哲学・スピリチュアリティ・心理学の答えを概観し、著者自身の答えにアプローチする。こうした思考方法をたどりながら、「宗学」することの本質に迫っていきたい。</p>								
到達目標	各自の人生観を振り返り、自己を相対化できるようになる。「宗学」とは、けっして閉鎖的で独善的な学問ではない。自分の中で考え抜く力を養い、普遍的な価値観を身につけることによって、現代社会の人々に対する説得力をもちうる事が実感できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定されたテキスト・資料類をあらかじめ読んで内容を把握した上で、自分自身の問題意識をもつことが求められる。また関連する情報や資料を収集し、レポートする能力の育成を図る。よって毎回の授業に際して4時間以上の予習・復習が必要となる（合計60時間以上）。								
授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション                  【第2回】自分の中の歴史                  【第3回】各自の知的関心・研究テーマについて                  【第4回】テキスト：諸富祥彦著『人生に意味はあるか』について                  【第5回】「人生の意味」を考える（1）                  【第6回】「人生の意味」を考える（2）                  【第7回】「人生の意味」を考える（3）                  【第8回】「これが答えだ」(1) 宗教・文学の答え</p> <p>【第9回】「これが答えだ」(2) 哲学の答え                  【第10回】「これが答えだ」(3) スピリチュアリティの答え1                  【第11回】「これが答えだ」(4) スピリチュアリティの答え2                  【第12回】「これが答えだ」(5) フランクルの答え                  【第13回】「これが答えだ」(6) 諸富祥彦の答え1                  【第14回】「これが答えだ」(7) 諸富祥彦の答え2                  【第15回】まとめ</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回の課題・感想など）60%、期末レポートの発表・提出（40%）を基準として総合的に評価します。								
フィードバックの内容	使用するシステム（Teams）を通じて適宜対応し、必要に応じて次回の授業でフィードバックを行います。								
教科書	『人生に意味はあるか』 諸富祥彦（講談社現代新書）2005								
指定図書									
参考書	『自分の中に歴史を読む』 阿部謹也（ちくまプリマーブックス）1988、『[完全版] 生きがいの創造 スピリチュアルな科学研究から読み解く人生のしくみ』 飯田史彦（PHP 文庫）2012、『NHK「100分 de 名著」ブックス フランクル 夜と霧』 諸富祥彦（NHK 出版）2013								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステム（Teams）の質問・連絡掲示板等を通じて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、ゼミナール								
その他									

講義コード	11A1101004	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ					三輪 是法	第1期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	このゼミナールは日本仏教の思想的側面を研究対象とする。時代を限定せず、日本仏教関連の文献を講読していく。								
到達目標	日本仏教に関する文献を読解するための、補助的作業力（参考資料の調査や専門用語の理解習得など）を身につけ、文献内容を正しく理解説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	自分自身の課題について、事前学修を2時間以上おこない、発表準備に備える。授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上おこなう。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。								
授業計画	【第1回】 オリエンテーション～ゼミナールの進行について 【第2回】 研究テーマの設定1 【第3回】 研究テーマの設定2 【第4回】 研究テーマの設定3 【第5回】 研究テーマの設定4 【第6回】 研究テーマの設定5 【第7回】 文献講読1 【第8回】 文献講読2－中間発表 【第9回】 文献講読3 【第10回】 文献講読4 【第11回】 文献講読5 【第12回】 文献講読6 【第13回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第14回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会② 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	中間発表レポートが50%、最終課題レポート50%で評価する。								
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではなくありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。								
オフィスアワー	メールとオンラインで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習／ゼミナール								
その他									

講義コード	11A1101005	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ					田村 亘禰	第1期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	卒業論文の準備作業。日蓮教学・教学史等の様々な学術論文を熟読し、卒業論文のテーマを見つける。								
到達目標	自分が読んだ学術論文の概要を、他者に話して聞かせることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、卒業論文の準備作業に充てること。授業外学修の時間は、最低でも60時間以上を充てること。								
授業計画	【第1回】 自己紹介・卒論の展望を発表。質疑応答。 【第2回】 自己紹介・卒論の展望を発表。質疑応答。 【第3回】 ガイドブックの具体的な使い方の説明。 【第4回】 ガイドブックの具体的な使い方の説明。 【第5回】 資料の取り扱い方の説明。 【第6回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第7回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第8回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第9回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第10回】 参考文献の講読。 【第11回】 参考文献の講読。 【第12回】 参考文献の講読。 【第13回】 参考文献の講読。 【第14回】 参考文献の講読。 【第15回】 レポート提出。まとめ。								
成績評価の方法	期末レポート（60%）、発表（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）を基準として、総合的に評価します。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書	授業時に紹介します								
参考書	授業時に紹介します								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール								
その他									

講義コード	11A1101006	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	ゼミナールⅠ							第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけることを目的とする。								
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する基本的事項と研究法について説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 仏教学部で学ぶ意義について考える</p> <p>【第3回】 研究テーマの定め方、先行研究について</p> <p>【第4回】 「歴史を研究する」ということ</p> <p>【第5回】 論文を講読し、論文のあり方について学ぶ（1）</p> <p>【第6回】 論文を講読し、論文のあり方について学ぶ（2）</p> <p>【第7回】 研究の「目的」と「意義」を考える（1）</p> <p>【第8回】 研究の「目的」と「意義」を考える（2）</p> <p>【第9回】 研究の「目的」と「意義」を考える（3）</p> <p>【第10回】 研究の方法・実践（1）</p> <p>【第11回】 研究の方法・実践（2）</p> <p>【第12回】 研究の方法・実践（3）</p> <p>【第13回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会①</p> <p>【第14回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会②</p> <p>【第15回】 まとめ</p>								
成績評価の方法	発表（30%）、授業への取り組み姿勢（70%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール								
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A2101101	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第1期
科目名	ゼミナールⅠ							第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	現在に残された文化としての作品と、「造形」という視点をとおして対峙する。あるいは、「文化財」という観点で現象を捉えた上で、自らの感触と過去の事実を立体的に交差させながら、その必然性と意味を探る。								
到達目標	「制作」を行う場合には、4年次に取り組む「卒業制作」のための基礎造形力と技術、そして彫刻様式の把握力を身につける。「論文」の場合には、自分のテーマを決定するための基礎資料収集を行う方法やその内容を検証する方法論を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	自分が興味をもった文化に関する資料について、事前に調査する（15時間以上）。 仏教寺院や博物館・美術館等に赴き、自分の目で作品を鑑賞し、その実感を得る（15時間以上）。 自分自身の制作活動あるいし論文資料の収集・確認作業（30時間以上）。								
授業計画	<p>&lt;卒業論文（制作）に向けての指導を行う&gt;</p> <p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 美術とは何か？美術史とは何か？</p> <p>【第3回】 論文とは何か？</p> <p>【第4回】 仏教美術の基礎知識の習得1（制作の学生は、併せて実習を行う）</p> <p>【第5回】 仏教美術の基礎知識の習得2</p> <p>【第6回】 仏教美術の基礎知識の習得3</p> <p>【第7回】 仏教美術の基礎知識の習得4</p> <p>【第8回】 仏教美術の基礎知識の習得5</p> <p>【第9回】 仏教美術の基礎知識の習得6</p> <p>【第10回】 仏教美術の基礎知識の習得7</p> <p>【第11回】 研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査1</p> <p>【第12回】 研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査2</p> <p>【第13回】 研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査3</p> <p>【第14回】 研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査4</p> <p>【第15回】 研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査5</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%・授業内レポート50%								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内で行うほか、学生各自の興味を確認した上で、次の段階に移行するための助言を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『文化財保存学入門』秋田貴廣編 立正大学仏教学部監修（丸善プラネット）2012								
教員からのお知らせ	このゼミは1限の時間帯に開講されているが、「論文組」と「制作組」を分けて授業を進める関係上、2限の時間帯を使用する可能性がある。そのため出来る限り2限の時間帯を空けておく（他の授業を入れない）ように。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受付けます。それ以外の時間にはEメールにて受付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	仏像の立体資料等を適宜用いて、学生自身の目と手で触れて実感できる機会を設ける。演習／ゼミナール								
その他	本講義ではテキストは使用しないが、各自の関心のある作品について、事前に調査して授業に臨むのが望ましい。								

講義コード	11A2101102	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	高橋 堯英	開講期	第1期
科目名	ゼミナールⅠ				高橋 堯英		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	このゼミナールでは、インド仏教文化を中心とする卒業論文作成のための基礎的なスキルを学ぶことを目的とする。								
到達目標	各ゼミ生は、当ゼミ終了時までには各自の研究の方向性を決定することが出来る。インド仏教文化関連の研究資料・研究論文の輪読などを通じ、史料の取り扱い方、調べ方が理解出来る。前期終了時のゼミ合宿またはゼミ発表会で、各自が決定したテーマについて報告が出来るようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	インド仏教文化関連の研究資料・研究論文の輪読で利用した資料をよく復習し、注の処理、史料の取り扱い方、調べ方を自らが主体的に理解するように。前期終了時のゼミ発表会で、各自が決定したテーマについて報告してもらおうが、それに向かって毎回2時間以上の予習と2時間以上の復習、計60時間以上の授業外学修を求める。								
授業計画	【第1回】 論文とは？レポートとは？ 【第2回】 研究論文の構造の理解 【第3回】 リーディング・リストの作成 【第4回】 研究論文の輪読 【第5回】 研究資料・論文の輪読 【第6回】 自らの研究エリア又はテーマについての発表 【第7回】 自らの研究エリア又はテーマについての発表 【第8回】 研究資料・論文の輪読				【第9回】 研究資料・論文の輪読 【第10回】 研究資料・論文の輪読 【第11回】 研究資料・論文の輪読 【第12回】 研究資料・論文の輪読 【第13回】 研究資料・論文の輪読 【第14回】 自らの研究テーマについての発表とディスカッション 【第15回】 自らの研究テーマについての発表とディスカッション				
成績評価の方法	ゼミへの参加姿勢（50%）、学期内中間発表（25%）、学期末発表（25%）。中間発表・学期末発表の評価には発表に用いるレジメの評価も含まれます。								
フィードバックの内容	自らの研究対象についての発表の折のディスカッションで問題点を検証し、方向性を確認する。輪読した論文の内容を知識として習得するために、学期末にレポートにて確認する機会を設ける。								
教科書	特にもうけず								
指定図書	特にもうけず								
参考書	特にもうけず								
教員からのお知らせ	輪読する資料は共有ストレージ内の高橋堯英のストレージにアップする予定ですので、事前に用意し、毎回必ず予習をしてゼミに参加して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、メール（takahidetakahashi1955@gmail.com）で対応します。								
アクティブラーニングの内容	学期途中と学期末に発表機会を設け、各自の調査成果を報告し、ディスカッションによって各自のテーマの掘り下げを進めます。								
その他									

講義コード	11A2101103	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第1期
科目名	ゼミナールⅠ				手島 一真		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならないのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。								
到達目標	卒業研究を念頭に置いて、各自の研究テーマを設定し、必要な文献や資料を吟味し収集できる。またその結果に基づいて考察を行い、小論文としてまとめることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	論文講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、原典資料からの引用文など、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表の際は、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的に取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 実証的研究のための方法論総説 【第2回】 研究の土台となる基本文献に関する論文講読（1） 【第3回】 同（2） 【第4回】 同（3） 【第5回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（1） 【第6回】 同（2） 【第7回】 同（3） 【第8回】 宗教文化史に関する論文・原典資料講読（1）				【第9回】 同（2） 【第10回】 同（3） 【第11回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（4） 【第12回】 同（5） 【第13回】 同（6） 【第14回】 総括1 【第15回】 総括2				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（積極的な発言含む）30%、研究文献目録・研究計画書作成25%、研究発表20%、提出課題25%。（研究発表は必須）								
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表、小論文に対する講評は、授業時に随時行う。								
教科書	『漢籍はおもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター 編（研文出版）2008年								
指定図書	『全訳 漢辞海』戸川芳郎（三省堂）2019年、『新字源』小川環樹（角川書店）2017年、『新漢語林』鎌田正（大修館書店）2011年								
参考書	授業内で指示します								
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。漢和辞典を必携（上記指定図書のうち）。講読用論文・資料はプリント配布します。ポータルサイト「オンライン授業」でも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科において定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受付けます。それ以外の時間にはEメールにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など 演習／ゼミナール								
その他	各種書類の提出や卒業に関わる事項等、重要連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。								

講義コード	11A2101104	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期		
科目名	ゼミナールⅠ				戸田 裕久			第1期			
履修前提条件					備考						
授業の目的	<p>仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は、仏教と他宗教の諸文献における神話的記述を比較する。仏教経典等の聖典をはじめ叙事詩・説話・伝記・歴史書・論書等における神話・伝説・靈異譚を調査し、世界観・人間観・死生観等を比較し相互の影響関係等を考察する。</p>										
到達目標	<p>仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法及び注意点を知らずの研究に役立てることができる。自らの興味関心に即して研究課題を設定し他者に判りやすく調査・報告することができる。自らの興味関心に即して研究課題を設定し他者に判りやすく調査・報告することができる。</p>										
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握し、各自の見解や疑問点を書きとめ、演習での発言や質問に備えること。また、各人が研究課題を設定して自主的に個人研究を推進し第2期での発表に備えること。個人研究の成果を報告書（小論文）の形でまとめておくこと。これらを各回平均4時間、計60時間行うことが望ましい。</p>										
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 比較思想の研究方法及び留意点</li> <li>【第2回】 神話の定義 神話学の方法論</li> <li>【第3回】 ヴェーダ神話</li> <li>【第4回】 プラーフマナ文献における神話解釈</li> <li>【第5回】 ウパニシャッド文献における神話解釈</li> <li>【第6回】 初期仏教文献における神々（諸天）</li> <li>【第7回】 ヴィシュヌ教の神話</li> <li>【第8回】 シヴァ教の神話</li> </ul> </td> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>【第9回】 インドの女神崇拜</li> <li>【第10回】 女神崇拜</li> <li>【第11回】 アビダルマ仏教における神話的世界観</li> <li>【第12回】 アビダルマ仏教における神話的死生観</li> <li>【第13回】 大乘仏教経典における諸菩薩</li> <li>【第14回】 密教経典における尊格</li> <li>【第15回】 神話の力</li> </ul> </td> </tr> </table>									<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 比較思想の研究方法及び留意点</li> <li>【第2回】 神話の定義 神話学の方法論</li> <li>【第3回】 ヴェーダ神話</li> <li>【第4回】 プラーフマナ文献における神話解釈</li> <li>【第5回】 ウパニシャッド文献における神話解釈</li> <li>【第6回】 初期仏教文献における神々（諸天）</li> <li>【第7回】 ヴィシュヌ教の神話</li> <li>【第8回】 シヴァ教の神話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第9回】 インドの女神崇拜</li> <li>【第10回】 女神崇拜</li> <li>【第11回】 アビダルマ仏教における神話的世界観</li> <li>【第12回】 アビダルマ仏教における神話的死生観</li> <li>【第13回】 大乘仏教経典における諸菩薩</li> <li>【第14回】 密教経典における尊格</li> <li>【第15回】 神話の力</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 比較思想の研究方法及び留意点</li> <li>【第2回】 神話の定義 神話学の方法論</li> <li>【第3回】 ヴェーダ神話</li> <li>【第4回】 プラーフマナ文献における神話解釈</li> <li>【第5回】 ウパニシャッド文献における神話解釈</li> <li>【第6回】 初期仏教文献における神々（諸天）</li> <li>【第7回】 ヴィシュヌ教の神話</li> <li>【第8回】 シヴァ教の神話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第9回】 インドの女神崇拜</li> <li>【第10回】 女神崇拜</li> <li>【第11回】 アビダルマ仏教における神話的世界観</li> <li>【第12回】 アビダルマ仏教における神話的死生観</li> <li>【第13回】 大乘仏教経典における諸菩薩</li> <li>【第14回】 密教経典における尊格</li> <li>【第15回】 神話の力</li> </ul>										
成績評価の方法	個人研究の口頭発表（20%）と発表資料（20%）、研究成果報告書（30%）、平常点（30%）。										
フィードバックの内容	研究成果報告書（レポート）に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。										
教科書	適宜、資料を配布します。										
指定図書											
参考書	『世界神話大事典』イヴ・ボンヌフォワ編、金光仁三郎主幹（大修館書店）2001年、『神話学入門』大林太良（中央公論社）1966年、『世界神話学入門』後藤明（講談社）2017年、『ヒンドゥー教と叙事詩』中村元（春秋社）1996年、『ヒンドゥー神話の神々』立川武蔵（せりか書房）2008年、『インド宇宙論大全』定方晟（春秋社）2011年										
教員からのお知らせ	第1期は講義形式で授業を進めますが、第2期には各人が自ら研究課題を設定して研究した成果を発表する機会が与えられますので、それに備えて各自で研究を進めておいてください。										
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。										
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション										
その他	必ず出席すること。遅刻しないこと。なお受講生各自の研究は学友と分担し共同研究にすると、より楽しくまたより成果が上がるものと期待されます。研究テーマは各自が自由に設定して構いません。										

講義コード	11A2101105	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	則武 海源	開講期	第1期		
科目名	ゼミナールⅠ				則武 海源			第1期			
履修前提条件					備考						
授業の目的	<p>本ゼミナールは、仏教交渉史の視点からインドから日本に至るまでの諸地域（西北インド・内陸アジア・チベット・シルクロード・中国・日本等）を研究領域とし、歴史的・教理的・文化的・地理的背景を考察しながら、諸地域が交渉を重ねて独自に形成・発展させた仏教とその文化を検証していく。各地域の諸資料を収集・解析し、各種研究書・論文等と照合しながら、特に仏教興起から分派、そして伝播に至るメカニズムを解明することを本ゼミの目的としています。</p>										
到達目標	<p>興味を抱く研究を進めていく上での資料の取り扱い・精査の手法を身につけ、論文作成に向けた発想力・基礎能力を身につけ、各自の研究課題を説明できる。</p>										
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>上記に示した目的を理解し、60時間以上の授業外学修を行うこと。 コロナ禍の状況にもよりますが、博物館・美術館、寺院などに自ら足を運んで直接仏教に触れてみてください。 自分の研究テーマに沿って積極的に資料蒐集してください。</p>										
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 研究テーマの指定1</li> <li>【第2回】 研究テーマの指定2</li> <li>【第3回】 資料蒐集と整理法1</li> <li>【第4回】 資料蒐集と整理法2</li> <li>【第5回】 各研究領域の基本的文献1</li> <li>【第6回】 各研究領域の基本的文献2</li> <li>【第7回】 先行研究等の把握と活用法1</li> <li>【第8回】 先行研究等の把握と活用法2</li> </ul> </td> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>【第9回】 問題の所在を明らかに1</li> <li>【第10回】 問題の所在を明らかに2</li> <li>【第11回】 現状問題への対処方法</li> <li>【第12回】 各研究領域の基本的論文1</li> <li>【第13回】 各研究領域の基本的論文2</li> <li>【第14回】 各研究領域の基本的論文3</li> <li>【第15回】 進行状況の確認・報告</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>これらの点に留意しながら適宜問題点を指摘し、各自の研究の進行状況に応じて指導を行う。最終的に各々の研究テーマに沿って研究発表が行えるレベルにまで問題意識を向上させ、卒業論文作成にあたっての基礎を完成させる。</p>									<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 研究テーマの指定1</li> <li>【第2回】 研究テーマの指定2</li> <li>【第3回】 資料蒐集と整理法1</li> <li>【第4回】 資料蒐集と整理法2</li> <li>【第5回】 各研究領域の基本的文献1</li> <li>【第6回】 各研究領域の基本的文献2</li> <li>【第7回】 先行研究等の把握と活用法1</li> <li>【第8回】 先行研究等の把握と活用法2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第9回】 問題の所在を明らかに1</li> <li>【第10回】 問題の所在を明らかに2</li> <li>【第11回】 現状問題への対処方法</li> <li>【第12回】 各研究領域の基本的論文1</li> <li>【第13回】 各研究領域の基本的論文2</li> <li>【第14回】 各研究領域の基本的論文3</li> <li>【第15回】 進行状況の確認・報告</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 研究テーマの指定1</li> <li>【第2回】 研究テーマの指定2</li> <li>【第3回】 資料蒐集と整理法1</li> <li>【第4回】 資料蒐集と整理法2</li> <li>【第5回】 各研究領域の基本的文献1</li> <li>【第6回】 各研究領域の基本的文献2</li> <li>【第7回】 先行研究等の把握と活用法1</li> <li>【第8回】 先行研究等の把握と活用法2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第9回】 問題の所在を明らかに1</li> <li>【第10回】 問題の所在を明らかに2</li> <li>【第11回】 現状問題への対処方法</li> <li>【第12回】 各研究領域の基本的論文1</li> <li>【第13回】 各研究領域の基本的論文2</li> <li>【第14回】 各研究領域の基本的論文3</li> <li>【第15回】 進行状況の確認・報告</li> </ul>										
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、中間報告・レポート50%で成績を評価します。										
フィードバックの内容	レポートならびに毎回の課題のフィードバックは授業内で行います。										
教科書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する。										
指定図書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する。										
参考書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する。										
教員からのお知らせ	自分で問題意識を持って、資料蒐集から積極的にアプローチして下さい。先輩諸氏からのアドバイスも大いに受け、各自の研究領域成果向上に努めて下さい。										
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、次の授業に支障がない範囲で授業終了後、または学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。										
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール										
その他	それぞれのテーマに関連する事項について各自調べてゼミに臨んで下さい。										

講義コード	11A2101107	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第1期
科目名	ゼミナール1				久保 真紀子			第1期	
履修前条件	備考								
授業の目的	このゼミナールでは、アジアの仏教美術や寺院建築等の造形表現やその成立背景を学ぶことに主眼を置き、画像や文献といった諸資料を丹念に読み解きながら研究を進める手法を身に付けることを目指す。								
到達目標	画像資料をよく観察してその特徴を描写したり、文献史料から読み取れたことを丁寧に伝える経験を積むことで、客観的で説得力のある論文を作成するための基礎を習得する。また、資料を収集・整理する方法や、画像資料等を用いたプレゼンテーションの手法を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	口頭発表や課題の準備のみならず、関連文献の収集と精読、あるいは博物館や美術館の見学等、進んで授業外学修を行うこと。その時間として、合計60時間以上行ってほしい。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス（授業内容の説明、スケジュールの確認と調整）</p> <p>【第2回】文献講読（1）</p> <p>【第3回】文献講読（2）</p> <p>【第4回】作品鑑賞と意見交換（1）</p> <p>【第5回】論文構想発表会（1）</p> <p>【第6回】論文構想発表会（2）</p> <p>【第7回】論文構想発表会（3）</p> <p>【第8回】論文構想発表会（4）</p> <p>【第9回】論文構想発表会（5）</p> <p>【第10回】作品鑑賞と意見交換（2）</p> <p>【第11回】論文構想発表会（6）</p> <p>【第12回】論文構想発表会（7）</p> <p>【第13回】論文構想発表会（8）</p> <p>【第14回】論文構想発表会（9）</p> <p>【第15回】総括</p> <p>※1「文献講読」では、あらかじめ講師が指定した文献を全員で講読し、意見交換を行います。</p> <p>※2「作品鑑賞と意見交換」（第4回、第10回）では、授業内で講師が指示した作品を各自が観察し、読み取れたことを全員で意見交換し、作品に対する理解を深めます。</p> <p>※3「論文構想発表会」では、卒業論文の構想や進捗状況の報告をおこないます。受講生は担当回に向けて各自準備してください。WordやPower Pointで資料を作成し、口頭で発表していただきます。発表後に全員で意見交換します。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢により総合的に評価します。								
フィードバックの内容	文献講読や作品鑑賞、ならびに論文構想発表会では、各受講生に所定の用紙に記入・提出していただきます。また、記入した内容をもとに授業時間内に意見交換した後、教員からコメントを述べます。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業では、全員に少なくとも1回は口頭発表を担当してもらいます。事前にはしっかり準備して臨みましょう。また、自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対して積極的に発言しているかどうかを評価の対象となります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。								
アクティブラーニングの内容その他	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション								

講義コード	11A1101201	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	安中 尚史	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2				安中 尚史			第2期	
履修前条件	備考								
授業の目的	日本仏教の歴史的展開を主体的に学ぶための力を養うことをねらいとします。								
到達目標	日本仏教の歴史的展開を研究するために必要な基礎力を身につけることを目標とします。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	学術論文や史料（資料）を各自で検索・収集し内容を把握して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	<p>【第1回】日本仏教史研究の実践（1）</p> <p>【第2回】日本仏教史研究の実践（2）</p> <p>【第3回】日本仏教史研究の実践（3）</p> <p>【第4回】日本仏教史研究の実践（4）</p> <p>【第5回】日本仏教史研究の実践（5）</p> <p>【第6回】日本仏教史研究の実践（6）および課題の提出（1）</p> <p>【第7回】日本仏教史研究の実践（7）</p> <p>【第8回】日本仏教史研究の実践（8）</p> <p>【第9回】日本仏教史研究の実践（9）および課題の提出（2）</p> <p>【第10回】日本仏教史研究の実践（10）</p> <p>【第11回】日本仏教史研究の実践（11）</p> <p>【第12回】日本仏教史研究の実践（12）</p> <p>【第13回】受講生による研究報告と検討（1）</p> <p>【第14回】受講生による研究報告と検討（2）</p> <p>【第15回】まとめと課題の提出（3）</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（レポート等）50%で評価します。								
フィードバックの内容									
教科書	特にありません								
指定図書	授業中に紹介します								
参考書	授業中に紹介します								
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容その他	ゼミナール								

講義コード	11A1101203	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							原 慎定	第2期
履修前提条件					備考				
授業の目的	テーマ：日蓮聖人の不屈の生涯と人間的な魅力に迫る 日蓮聖人の伝記にはしばしば誇張や潤色が見られるため、文献学的に確実な遺文を中心として伝説と史実を選別する必要がある。こうした観点から実証的な日蓮聖人伝を描いた名著の一つに、田村芳朗著『日蓮 殉教の如来使』がある。この授業では本書を輪読しながら日蓮聖人の思想と行動の意義を探り、慈愛に満ちた教化に触れることを目的とする。								
到達目標	日蓮聖人の思想と行動に関する問題意識をもつことができるようになる。 各自が研究テーマを指定し、卒業論文作成に向けた基礎力と発想力を身につける。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定されたテキスト・資料類をあらかじめ読んで内容を把握した上で、毎回自分の意見を発表することが求められる。よって毎回の授業に際して4時間以上の予習・復習が必要となる（合計60時間以上）。								
授業計画	【第1回】 真実一路の旅 【第2回】 警世の予言者 【第3回】 殉教の如来使（1） 【第4回】 殉教の如来使（2） 【第5回】 孤高の宗教者（1） 【第6回】 孤高の宗教者（2） 【第7回】 永遠への思慕（1） 【第8回】 永遠への思慕（2） 【第9回】 永遠への思慕（3） 【第10回】 日蓮の継承者（1） 【第11回】 日蓮の継承者（2） 【第12回】 卒業論文について（1）研究テーマの指定に向けて 【第13回】 卒業論文について（2）研究方法の構築 【第14回】 卒業論文について（3）各自の研究計画 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回の課題・感想など）60%、期末レポートの発表・提出（40%）を基準として総合的に評価します。								
フィードバックの内容	使用するシステム（Teams）を通じて適宜対応し、必要に応じて次回の授業でフィードバックを行います。								
教科書	『日蓮 殉教の如来使』 田村芳朗（吉川弘文館）2015								
指定図書	『日蓮教学における罪の研究』 原 慎定（平楽寺書店）1999								
参考書	『日蓮 その行動と思想』 高木 豊（太田出版）2002								
教員からのお知らせ	必ず「ゼミナール1」とあわせて履修して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステム（Teams）の質問・連絡掲示板等を通じて対応します。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、ゼミナール								

講義コード	11A1101204	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							三輪 是法	第2期
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミナールは日本仏教の思想的側面を研究対象とする。時代を限定せず、日本仏教関連の文献を講読していく。								
到達目標	日本仏教に関する文献を講読するための、補助的作業力（参考資料の調査や専門用語の理解習得など）を身につけ、内容を正しく理解説明できる。論文を執筆するための基本事項を理解し、卒業論文執筆の準備を完成する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	自分自身の課題について、事前学修を2時間以上おこない、発表準備に備える。授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上おこなう。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。								
授業計画	【第1回】 オリエンテーション～講読文献の選定 【第2回】 文献講読の手引き 【第3回】 文献講読1 【第4回】 文献講読2 【第5回】 文献講読3 【第6回】 文献講読4 【第7回】 文献講読5 【第8回】 文献講読6－中間発表 【第9回】 文献講読7 【第10回】 論理的文章表現1 【第11回】 論理的文章表現2 【第12回】 論理的文章表現3 【第13回】 論理的文章表現4 【第14回】 論理的文章表現5 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	中間発表レポートが50%、最終課題レポート50%で評価する。								
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではなくありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。								
オフィスアワー	メールとオンラインで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容 その他	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習/ゼミナール								

講義コード	11A1101205	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							田村 亘禰	第2期
履修前提条件					備考				
授業の目的	卒業論文の準備作業。論文のテーマに付随する諸問題の把握。								
到達目標	論文の概要を、問題点ごとに他者に話して聞かせることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、計60時間以上、卒業論文の準備作業に充てること。								
授業計画	【第1回】卒業論文の進め方の確認。 【第2回】それぞれのテーマに相応する講義。 【第3回】それぞれのテーマに相応する講義。 【第4回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第5回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第6回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第7回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第8回】それぞれのテーマに相応する講義。 【第9回】それぞれのテーマに相応する講義。 【第10回】参考文献の購読。 【第11回】参考文献の購読。 【第12回】参考文献の購読。 【第13回】参考文献の購読。 【第14回】参考文献の購読。 【第15回】レポート提出。まとめ。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、レポート70%。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定図書・参考書は、その都度、指示します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール								
その他									

講義コード	11A1101206	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							本間 俊文	第2期
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけることを目的とする。								
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する基本的事項と研究法について説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】史料講読・研究の実践（1） 【第3回】史料講読・研究の実践（2） 【第4回】史料講読・研究の実践（3） 【第5回】史料講読・研究の実践（4） 【第6回】史料講読・研究の実践（5） 【第7回】史料講読・研究の実践（6） 【第8回】史料講読・研究の実践（7） 【第9回】史料講読・研究の実践（8） 【第10回】史料講読・研究の実践（9） 【第11回】史料講読・研究の実践（10） 【第12回】史料講読・研究の実践（11） 【第13回】研究内容に関する発表（1） 【第14回】研究内容に関する発表（2） 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	発表（30%）、授業への取り組み姿勢（70%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール								
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								



講義コード	11A2101301	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							秋田 貴廣	第2期
履修前提条件					備考				
授業の目的	現在に残された文化としての作品と、「造形」という視点をとおして対峙する。あるいは、「文化財」という観点で文化現象を捉えて確認した上で、自らの感触と過去の事実を立体的に交差させながら、その必然性と意味を探る。								
到達目標	「制作」を行う場合には、4年次に取り組む「卒業制作」のための基礎造形力と技術、そして彫刻様式の把握力を身につける。「論文」の場合には、自分のテーマを決定するための基礎資料収集を行いながら、日本の文化現象に対する知識を獲得し、それを説明できるようになること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	自分が興味をもった文化について、事前に調査する（30時間以上）。 仏教寺院や博物館・美術館等に赴き、自分の目で作品を鑑賞し、その実感を得る（30時間以上）。								
授業計画	<卒業論文（制作）に向けての指導を行う> 【第1回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む1 【第2回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む2 【第3回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む3 【第4回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む4 【第5回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む5 【第6回】造形研究・技法研究・資料収集 【第7回】 【第8回】 【第9回】 【第10回】 【第11回】 【第12回】 【第13回】卒業制作（論文）のテーマを決定 【第14回】 【第15回】								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%・授業内レポート50%								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内の冒頭で行う。								
教科書	『文化財保存学入門』秋田貴廣編 立正大学仏教学部監修（丸善プラネット）2012								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	当該ゼミの学生は「論文組」と「制作組」に分かれて進める都合上、できる限り、ゼミのある日の午前中の予定を空けておくように。なお卒業制作を希望する学生が多数いる場合は、ゼミ内セレクションによって選抜する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール								
その他	本講義ではテキストは使用しないが、各自の関心のある作品について、事前に調査して授業に臨むのが望ましい。								

講義コード	11A2101302	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	高橋 堯英	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							高橋 堯英	第2期
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミナールでは、インド仏教文化を中心とする卒業論文作成の指導を行うことを目的とする。								
到達目標	雑誌論文の輪読を通じ、研究論文とは如何なるものかが理解出来る。研究論文を作成する上での注意事項が理解出来る。前期終了時に、自らの卒論について発表する機会を設け、研究発表の基本を身につけることが出来る。段階的指導に従うことによって、卒業論文を完成させるための適切な手法を身につけることが出来る。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	研究論文の輪読資料の復習を通じ、研究論文作成についての理解を深めて欲しい。『仏教学科生のためのガイドブック 研究編』を復習してほしい。学期の中間と期末に、卒論についての発表機会を行うので、準備を進めること。各授業に対し2時間以上の予習と2時間以上の復習、計60時間以上の授業外学修を各自で行うこと。								
授業計画	【第1回】イントロダクション 【第2回】研究論文の輪読 【第3回】研究論文の輪読 【第4回】研究論文の輪読 【第5回】各自の研究の中間報告 【第6回】各自の研究の中間報告 【第7回】研究論文の輪読 【第8回】研究論文の輪読 【第9回】研究論文の輪読 【第10回】研究論文の輪読 【第11回】研究論文の輪読 【第12回】研究論文の輪読 【第13回】研究論文の輪読 【第14回】研究の進行状況の報告発表とディスカッション 【第15回】研究の進行状況の報告発表とディスカッション								
成績評価の方法	ゼミへの参加姿勢（50%）、中間発表と発表レジメ（25%）、学期末発表と発表レジメ（25%）。								
フィードバックの内容	輪読論文についてのディスカッションを授業中に行う。各自のテーマ設定、フレームワーク作成、リーディングリスト作成についての指導も授業中に行う。自らの研究対象についての発表の折のディスカッションで問題点を検証し、方向性を確認する。								
教科書	特にもうけず								
指定図書	特にもうけず								
参考書	特にもうけず								
教員からのお知らせ	積極的・主体的取り組みを期待する。卒業論文のテーマ設定等相談があれば、オフィスアワーか、下記のメールアドレスにてメールで対応する。中間報告や学期末報告の発表日に無断欠席した者、発表資料未提出者には単位認定しない。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。メール（takahidetakahashi1955@gmail.com）でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	学期途中と学期末に、各自の積極的能動的な調査による研究成果を報告する発表機会を設け、ディスカッションを通じて、各自の研究の深化を図る。								
その他									

講義コード	11A2101303	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第2期																																
科目名	ゼミナール2																																								
履修前提条件					備考																																				
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならぬのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。																																								
到達目標	講読を通じて修得した文献の読解能力や取扱いの方法を踏まえ、各自が収集した文献を適切に活用して発表に活かすことができる。教員との応答の中で設定したテーマ・内容のプレ卒業研究（小論文）を完遂できる。																																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	原典資料講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表に関しては、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的に取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。																																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 論文作成のポイント（1）</td> <td>【第9回】</td> <td>同</td> <td>（3）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（1）</td> <td>【第10回】</td> <td>ゼミ生による研究発表と意見交換</td> <td>（5）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 同</td> <td>【第11回】</td> <td>同</td> <td>（6）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 同</td> <td>【第12回】</td> <td>同</td> <td>（7）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 同</td> <td>【第13回】</td> <td>原典資料・論文講読</td> <td>（4）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文作成のポイント（2）</td> <td>【第14回】</td> <td>同</td> <td>（5）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 原典資料・論文講読（1）</td> <td>【第15回】</td> <td>同</td> <td>（6）</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 同</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 論文作成のポイント（1）	【第9回】	同	（3）	【第2回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（1）	【第10回】	ゼミ生による研究発表と意見交換	（5）	【第3回】 同	【第11回】	同	（6）	【第4回】 同	【第12回】	同	（7）	【第5回】 同	【第13回】	原典資料・論文講読	（4）	【第6回】 論文作成のポイント（2）	【第14回】	同	（5）	【第7回】 原典資料・論文講読（1）	【第15回】	同	（6）	【第8回】 同			
【第1回】 論文作成のポイント（1）	【第9回】	同	（3）																																						
【第2回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（1）	【第10回】	ゼミ生による研究発表と意見交換	（5）																																						
【第3回】 同	【第11回】	同	（6）																																						
【第4回】 同	【第12回】	同	（7）																																						
【第5回】 同	【第13回】	原典資料・論文講読	（4）																																						
【第6回】 論文作成のポイント（2）	【第14回】	同	（5）																																						
【第7回】 原典資料・論文講読（1）	【第15回】	同	（6）																																						
【第8回】 同																																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（積極的な発言含む）30%、研究文献目録・研究計画書作成25%、研究発表20%、提出課題25%。（研究発表は必須）																																								
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表といった課題に対する講評は、提出・発表時に随時行う。																																								
教科書	『漢籍はおもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター 編（研文出版）2008年																																								
指定図書	ゼミ1指定図書を参照																																								
参考書																																									
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。漢和辞典を必携（上記指定図書のうち）。講読用論文・資料はプリント配布します。ポータルサイト「オンライン授業」でも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。																																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科において定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。																																								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など 演習／ゼミナール																																								
その他	各種書類の提出や卒業に関わる事項等、重要連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。																																								

講義コード	11A2101304	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期																								
科目名	ゼミナール2																																
履修前提条件					備考																												
授業の目的	仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は、仏教と他宗教の諸文献における神話的記述を比較する。仏教経典等の聖典をはじめ叙事詩・説話・伝記・歴史書・論書等における神話・伝説・靈異譚を調査し、世界観・人間観・死生観等を比較し相互の影響関係等を考察する。																																
到達目標	仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法及び注意点を知らずの研究に役立てることができる。自らの興味関心に即して研究課題を設定し他者に判りやすく調査・報告することができる。																																
授業外学修内容・授業外学修時間数	演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握し、各自の見解や疑問点を書き留め、演習での発言や質問に備えること。また、各人が研究課題を設定して自主的に個人研究を推進し、発表に備えること。個人研究の成果を報告書（小論文）の形でまとめておくこと。これらを各回平均4時間、計60時間行うことが望ましい。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 卒業論文中間発表および質疑応答</td> <td>【第9回】</td> <td>個人研究発表（4）討議、仏教文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 卒業論文中間発表および質疑応答</td> <td>【第10回】</td> <td>個人研究発表（5）討議、仏教文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 資料収集の技法、学術論文の作法</td> <td>【第11回】</td> <td>個人研究発表（6）討議、仏教文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 模範的学術論文の講読</td> <td>【第12回】</td> <td>指導教員の研究発表・討議</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 模範的学術論文の受講生による輪読</td> <td>【第13回】</td> <td>卒業論文成果発表・合評会</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 個人研究発表（1）討議、学術論文の輪読</td> <td>【第14回】</td> <td>卒業論文成果発表・合評会</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 個人研究発表（2）討議、学術論文の輪読</td> <td>【第15回】</td> <td>本年度の研究成果の総括、今後の課題</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 個人研究発表（3）討議、仏教文献講読</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 卒業論文中間発表および質疑応答	【第9回】	個人研究発表（4）討議、仏教文献講読	【第2回】 卒業論文中間発表および質疑応答	【第10回】	個人研究発表（5）討議、仏教文献講読	【第3回】 資料収集の技法、学術論文の作法	【第11回】	個人研究発表（6）討議、仏教文献講読	【第4回】 模範的学術論文の講読	【第12回】	指導教員の研究発表・討議	【第5回】 模範的学術論文の受講生による輪読	【第13回】	卒業論文成果発表・合評会	【第6回】 個人研究発表（1）討議、学術論文の輪読	【第14回】	卒業論文成果発表・合評会	【第7回】 個人研究発表（2）討議、学術論文の輪読	【第15回】	本年度の研究成果の総括、今後の課題	【第8回】 個人研究発表（3）討議、仏教文献講読		
【第1回】 卒業論文中間発表および質疑応答	【第9回】	個人研究発表（4）討議、仏教文献講読																															
【第2回】 卒業論文中間発表および質疑応答	【第10回】	個人研究発表（5）討議、仏教文献講読																															
【第3回】 資料収集の技法、学術論文の作法	【第11回】	個人研究発表（6）討議、仏教文献講読																															
【第4回】 模範的学術論文の講読	【第12回】	指導教員の研究発表・討議																															
【第5回】 模範的学術論文の受講生による輪読	【第13回】	卒業論文成果発表・合評会																															
【第6回】 個人研究発表（1）討議、学術論文の輪読	【第14回】	卒業論文成果発表・合評会																															
【第7回】 個人研究発表（2）討議、学術論文の輪読	【第15回】	本年度の研究成果の総括、今後の課題																															
【第8回】 個人研究発表（3）討議、仏教文献講読																																	
成績評価の方法	個人研究の口頭発表（20%）と発表資料（20%）、研究成果報告書（30%）、平常点（30%）。																																
フィードバックの内容	研究成果報告書（レポート）に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。																																
教科書	適宜、資料を配布します。																																
指定図書																																	
参考書	『仏教・インド思想辞典』早島鏡正監修、高崎直道編集代表（春秋社）1987年、『仏典解題事典〈第三版〉』斎藤明他編集（春秋社）2020年、『仏教文化事典』金岡秀友・柳川啓一監修（佼成出版社）1989年、『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎編（東京大学出版会）1973年																																
教員からのお知らせ	第2期には各人が自ら研究課題を設定して研究した成果を発表する機会が与えられます。また、学友の発表に対する積極的な発言が、平常点として評価の対象となります。																																
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。																																
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション																																
その他	必ず出席すること。遅刻しないこと。なお受講生各自の研究は学友と分担し共同研究にすると、より楽しくまたより成果が上がるものと期待されます。研究テーマは各自が自由に設定して構いません。																																

講義コード	11A2101305	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	則武 海源	開講期	第2期																
科目名	ゼミナール2							第2期																	
履修前条件					備考																				
授業の目的	本ゼミナールは、仏教交渉史の視点からインドから日本に至るまでの諸地域（西北インド・内陸アジア・チベット・シルクロード・中国・日本）を研究領域とし、歴史的・教理的・文化的・地理的背景を考察しながら、諸地域が交渉を重ねて独自に形成・発展させた仏教とその文化を検証していく。各地域の諸資料を収集・解析し、各種研究書・論文等と照合しながら、特に仏教興起から分派、そして伝播に至るメカニズムを解明することを本ゼミの目的としています。																								
到達目標	興味を抱く研究を進めていく上での資料の取り扱い・精査の手法を身につけ、論文作成に向け発想力・思考能力を身につけ、各自の研究の内容を説明できる。																								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	上記に示した目的を理解し、60時間以上の授業外学修を行うこと。 コロナ禍の状況に依りますが、博物館・美術館、寺院などに自ら足を運んで直接仏教に触れてみてください。 研究テーマの資料蒐集を行って下さい。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】論文の書き方1</td> <td>【第9回】研究方法の構築1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】論文の書き方2</td> <td>【第10回】研究方法の構築2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】現状問題解明に向けての対処方法</td> <td>【第11回】研究方法の構築3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】目次の組み立て方1</td> <td>【第12回】研究の現状見直し</td> </tr> <tr> <td>【第5回】目次の組み立て方2</td> <td>【第13回】研究発表資料作成1</td> </tr> <tr> <td>【第6回】研究資料の整理と活用1</td> <td>【第14回】研究発表資料作成2</td> </tr> <tr> <td>【第7回】研究資料の整理と活用2</td> <td>【第15回】研究発表ならびに報告書提出</td> </tr> <tr> <td>【第8回】研究資料の整理と活用3</td> <td></td> </tr> </table> <p>これらの点に留意しながら適宜問題点を指摘し、各自の研究の進行状況に応じて指導を行う。最終的に各々の研究テーマに沿って研究発表が行えるレベルにまで問題意識を向上させ、卒業論文作成にあたっての基礎を完成させるとともに、フィールドワークに必要な言語の習得にも時間を充てる。</p>									【第1回】論文の書き方1	【第9回】研究方法の構築1	【第2回】論文の書き方2	【第10回】研究方法の構築2	【第3回】現状問題解明に向けての対処方法	【第11回】研究方法の構築3	【第4回】目次の組み立て方1	【第12回】研究の現状見直し	【第5回】目次の組み立て方2	【第13回】研究発表資料作成1	【第6回】研究資料の整理と活用1	【第14回】研究発表資料作成2	【第7回】研究資料の整理と活用2	【第15回】研究発表ならびに報告書提出	【第8回】研究資料の整理と活用3	
【第1回】論文の書き方1	【第9回】研究方法の構築1																								
【第2回】論文の書き方2	【第10回】研究方法の構築2																								
【第3回】現状問題解明に向けての対処方法	【第11回】研究方法の構築3																								
【第4回】目次の組み立て方1	【第12回】研究の現状見直し																								
【第5回】目次の組み立て方2	【第13回】研究発表資料作成1																								
【第6回】研究資料の整理と活用1	【第14回】研究発表資料作成2																								
【第7回】研究資料の整理と活用2	【第15回】研究発表ならびに報告書提出																								
【第8回】研究資料の整理と活用3																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢40%、中間報告20%、レポート40%で成績を評価します。																								
フィードバックの内容	レポートならびに課題のフィードバックは授業内で行います。																								
教科書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する。																								
指定図書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する。																								
参考書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する。																								
教員からのお知らせ	自分で問題意識を持って、資料蒐集など積極的にアプローチして下さい。 先輩諸氏からのアドバイスも大いに受け、各自の研究領域の成果向上に努めて下さい。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、次の授業に支障がない範囲で授業終了後、または学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。																								
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール																								
その他	それぞれのテーマに関連する事項について調べた上でゼミに臨んで下さい。																								

講義コード	11A2101307	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミナールでは、アジアの仏教美術や寺院建築に関する研究論文等の講読を通して、制作当時の歴史的背景や地域的・時代的特性を考察するとともに、論文執筆の基礎を学ぶ。								
到達目標	客観的で説得力のある論文を作成するための基礎を習得する。また、資料の収集・整理や、画像資料等を用いたプレゼンテーションの手法や論文執筆の基本を身につける。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	口頭発表や課題の準備のみならず、関連文献の収集や精読、博物館や美術館の見学等も可能な限り行うこと。その時間として、合計60時間以上行ってほしい。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス（授業内容の説明、スケジュールの確認と調整）</p> <p>【第2回】作品鑑賞と意見交換（1）</p> <p>【第3回】作品鑑賞と意見交換（2）</p> <p>【第4回】論文中間報告会（1）</p> <p>【第5回】論文中間報告会（2）</p> <p>【第6回】論文中間報告会（3）</p> <p>【第7回】論文中間報告会（4）</p> <p>【第8回】論文中間報告会（5）</p> <p>【第9回】論文中間報告会（6）</p> <p>【第10回】論文構想発表会（1）</p> <p>【第11回】論文構想発表会（2）</p> <p>【第12回】論文構想発表会（3）</p> <p>【第13回】論文構想発表会（4）</p> <p>【第14回】論文構想発表会（5）</p> <p>【第15回】総括</p> <p>（1）作品鑑賞と意見交換 授業内で講師が指示した作品を各自が観察し、読み取れたことを全員で意見交換し、作品に対する理解を深める。</p> <p>（2）論文中間報告会 卒業論文執筆中の受講生が論文の進捗状況を口頭で報告し、意見交換を行う。</p> <p>（3）論文構想発表会 卒業論文執筆の準備をしている受講生が途中経過を報告し、意見交換を行う。</p> <p>（4）発表資料等の準備・提出 担当教員の指示に従い、早めに準備して、決められた提出期限までに提出すること。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、口頭発表および意見交換（60%）により総合的に評価する。								
フィードバックの内容	文献講読や作品鑑賞、論文構想発表会、ならびに論文中間発表会では、各受講生に所定の用紙に記入・提出していただきます。また、記入した内容をもとに授業時間内に意見交換した後、教員からコメントを述べます。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業では受講生全員に口頭発表の機会を設けている。その際には、他の受講生も積極的にコメントや質問を行って、お互いの研究の進展につなげてほしい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション								

講義コード	11A1101401	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	安中 尚史	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3							安中 尚史	第1期
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本仏教の展開について、深く理解することをねらいとします。								
到達目標	受講生各自が設定したテーマに基づいた研究を行い、中間報告書の完成を目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各自が収集した学術論文や史料（資料）をもとに考察し、その結果を踏まえて論究して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 日本仏教研究に関する考察と論究（1）</p> <p>【第3回】 日本仏教研究に関する考察と論究（2）</p> <p>【第4回】 日本仏教研究に関する考察と論究（3）</p> <p>【第5回】 日本仏教研究に関する考察と論究（4）</p> <p>【第6回】 日本仏教研究に関する考察と論究（5）</p> <p>【第7回】 日本仏教研究に関する考察と論究（6）</p> <p>【第8回】 日本仏教研究に関する考察と論究（7）および課題の提出（1）</p> <p>【第9回】 日本仏教研究に関する考察と論究（8）</p> <p>【第10回】 日本仏教研究に関する考察と論究（9）</p> <p>【第11回】 受講生による中間報告と検討（1）</p> <p>【第12回】 受講生による中間報告と検討（2）および課題の提出（2）</p> <p>【第13回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会①</p> <p>【第14回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会①</p> <p>【第15回】 まとめと課題の提出（3）</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（中間報告書等）50%で評価します。								
フィードバックの内容									
教科書	特にありません								
指定図書	授業中に紹介します								
参考書	授業中に紹介します								
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
その他									

講義コード	11A1101403	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3							原 慎定	第1期
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>テーマ：人生の意味と目的を考える</p> <p>諸富祥彦著『人生に意味はあるか』をテキストとして、心理カウンセラーの著者が大学の授業でも実践している方法論を学び、宗教・文学・哲学・スピリチュアリティ・心理学の答えを概観し、著者自身の答えにアプローチする。こうした思考方法をたどりながら、「宗学」することの本質に迫っていきたい。</p>								
到達目標	各自の人生観を振り返り、自己を相対化できるようになる。「宗学」とは、けっして閉鎖的で独善的な学問ではない。自分の中で考え抜く力を養い、普遍的な価値観を身につけることによって、現代社会の人々に対する説得力をもちうる事が実感できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定されたテキスト・資料類をあらかじめ読んで内容を把握した上で、自分自身の問題意識をもつことが求められる。また関連する情報や資料を収集し、レポートする能力の育成を図る。よって毎回の授業に際して4時間以上の予習・復習が必要となる（合計60時間以上）。								
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 自分の中の歴史</p> <p>【第3回】 各自の知的関心・研究テーマについて</p> <p>【第4回】 テキスト：諸富祥彦著『人生に意味はあるか』について</p> <p>【第5回】 「人生の意味」を考える（1）</p> <p>【第6回】 「人生の意味」を考える（2）</p> <p>【第7回】 「人生の意味」を考える（3）</p> <p>【第8回】 「これが答えだ」(1) 宗教・文学の答え</p> <p>【第9回】 「これが答えだ」(2) 哲学の答え</p> <p>【第10回】 「これが答えだ」(3) スピリチュアリティの答え1</p> <p>【第11回】 「これが答えだ」(4) スピリチュアリティの答え2</p> <p>【第12回】 「これが答えだ」(5) フランクルの答え</p> <p>【第13回】 「これが答えだ」(6) 諸富祥彦の答え1</p> <p>【第14回】 「これが答えだ」(7) 諸富祥彦の答え2</p> <p>【第15回】 まとめ</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回の課題・感想など）60%、期末レポートの発表・提出（40%）を基準として総合的に評価します。								
フィードバックの内容	使用するシステム（Teams）を通じて適宜対応し、必要に応じて次回の授業でフィードバックを行います。								
教科書	『人生に意味はあるか』 諸富祥彦（講談社現代新書）2005								
指定図書									
参考書	『自分の中に歴史を読む』 阿部謹也（ちくまプリマーブックス）1988、『[完全版] 生きがいの創造 スピリチュアルな科学研究から読み解く人生のしくみ』 飯田史彦（PHP 文庫）2012、『NHK「100分 de 名著」ブックス フランクル 夜と霧』 諸富祥彦（NHK 出版）2013								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステム（Teams）の質問・連絡掲示板等を通じて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、ゼミナール								
その他									

講義コード	11A1101404	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3							備考	
履修前提条件									
授業の目的	このゼミナールは日蓮仏教を含めた日本仏教を研究対象とする。自ら設定した研究テーマを、複眼的に研究考察する。								
到達目標	発表、レポート作成のための補助的作業力（資料の調査や読解、文章作成など）を身につけ、理解認識した内容を正確にプレゼンテーションできる。卒業論文を執筆する準備を整え、実際に研究論文を執筆することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	設定した研究テーマに関して事前学修を2時間以上、事後学修も2時間以上おこない、発表準備に備える。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。								
授業計画	【第1回】 オリエンテーション～研究テーマの検討・設定・論文の書き方1 【第2回】 研究テーマの検討・設定・論文の書き方2 【第3回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆1 【第4回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆2 【第5回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆3 【第6回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆4 【第7回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆5 【第8回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆6 - 中間発表 【第9回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆7 【第10回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆8 【第11回】 合同発表会準備① 【第12回】 合同発表会準備② 【第13回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第14回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会② 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	中間発表レポートが50%、最終課題レポート50%で評価する。								
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。								
オフィスアワー	メールとオンラインで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習/ゼミナール								
その他									

講義コード	11A1101405	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3							備考	
履修前提条件									
授業の目的	卒業論文の作成。卒業論文のテーマに付随する諸問題の把握。								
到達目標	卒業論文の前半を形にする。卒業論文の概要を、問題点ごとに他者に話して聞かせることができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、計60時間以上、卒業論文の準備作業・作成作業に充てること。								
授業計画	【第1回】 自己紹介・卒論テーマ発表・卒論の展望を発表。質疑応答。キーワードを伝達。 【第2回】 辞典等を用いてキーワードを発表・解説。質疑応答。 【第3回】 辞典等を用いてキーワードを発表・解説。質疑応答。 【第4回】 ガイドブックの具体的な使い方の説明。 【第5回】 資料の取り扱い方の説明。 【第6回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第7回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第8回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第9回】 目次の作成方法の説明。→目次作成・添削。 【第10回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第11回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第12回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第13回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第14回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第15回】 レポート提出（卒業論文の一部）。まとめ。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、レポート70%。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定図書・参考書は、その都度、紹介します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習/ゼミナール								
その他									

講義コード	11A1101406	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3							第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での研究法を身につけて実践することを目的とする。								
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する研究法を実践することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 研究の実践 (1)</p> <p>【第3回】 研究の実践 (2)</p> <p>【第4回】 研究の実践 (3)</p> <p>【第5回】 研究の実践 (4)</p> <p>【第6回】 研究の実践 (5)</p> <p>【第7回】 研究の実践 (6)</p> <p>【第8回】 研究の実践 (7)</p> <p>【第9回】 研究の実践 (8)</p> <p>【第10回】 研究の実践 (9)</p> <p>【第11回】 研究の実践 (10)</p> <p>【第12回】 研究の実践 (11)</p> <p>【第13回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会①</p> <p>【第14回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会②</p> <p>【第15回】 まとめ</p>								
成績評価の方法	発表 (30%)、授業への取り組み姿勢 (70%) を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編 (立正大学仏教学部) 2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール								
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A2101501	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3							第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	「制作」を希望する学生は、現在に残された作品と「造形」という視点をとおして対峙し、自分自身の感触と過去の事実を立体的に交差させる。「論文」の学生は、各作品の造形様式についてそこに至る展開と変遷を辿り、あるいは「文化財」という視点から日本の文化現象を確認し、その必然性と意味を探究。								
到達目標	「制作」の場合には、自分のテーマを決定するための基礎資料収集、テーマの決定、制作材料の決定、その後ようやく制作作業に入り、対象に近づくことができる。「論文」の場合には、過去の学術成果を確認する中で自分自身の問題意識を培い、それを自らの考察に反映させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義ではテキストは使用しない。それぞれのテーマに関連する関心のある作品や文化現象について、事前に調査することが望ましい (15時間)。 自分が興味をもった文化や作品について実際に観ることを心がける。そして随時レポートとして提出する (15時間)。 自分の制作、あるいは資料の検証と執筆作業 (30時間)。								
授業計画	<p>&lt;年間を通して卒業論文(制作)に向けての制作指導を行う&gt;</p> <p>【第1回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討1</p> <p>【第2回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討2</p> <p>【第3回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討3</p> <p>【第4回】 論文・制作テーマの検討と応用1</p> <p>【第5回】 論文・制作テーマの検討と応用2</p> <p>【第6回】 論文・制作テーマの検討と応用3</p> <p>【第7回】 論文・制作テーマの検討と応用4</p> <p>【第8回】 論文・制作テーマの検討と応用5</p> <p>【第9回】 自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む1</p> <p>【第10回】 自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む2</p> <p>【第11回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る1</p> <p>【第12回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る2</p> <p>【第13回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る3</p> <p>【第14回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る4</p> <p>【第15回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る5</p>								
成績評価の方法	論文ならびに制作に対する姿勢50%・授業内レポート50%								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内の冒頭で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	4年時は就職活動等で時間をとられてしまうことが多いので、早めに進行させるためにも毎回出席すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受付けます。それ以外の時間にはEメールにて受付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	立体資料を適宜用いて、学生自身の目と手で文化を実感する機会を設ける。制作行為によって直接的に造形と対話する。								
その他									

講義コード	11A2101502	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	高橋 堯英	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3							第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミナールでは、インド仏教文化を中心とする卒業論文作成のための基礎的なスキルを学ぶことを目的とする。								
到達目標	各ゼミ生は、当ゼミ終了時まで各自の研究テーマを決定することが出来る。インド仏教文化関連の研究資料・研究論文の輪読などを通じ、史料の取り扱い方、調べ方が理解出来る。前期終了時のゼミ発表会で、各自が決定したテーマについて報告が出来るようになる。また、プレゼンテーション技術を身につけることが出来る。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	ゼミ生は、自らの選択したテーマに関係した基本的書籍を精読する必要がある。インド仏教文化関連の研究資料・論文の輪読で、史料の取り扱い方、調べ方を自らが実践して理解するように。前期終了時のゼミ発表会に向かって2時間以上の予習と2時間以上の復習、計60時間以上の授業外学修を求める。								
授業計画	【第1回】 論文とは？ レポートとは？ 【第2回】 研究論文の構造の理解 【第3回】 リーディング・リストの作成 【第4回】 研究論文の輪読 【第5回】 中間発表 【第6回】 中間発表 【第7回】 研究論文の輪読 【第8回】 研究論文の輪読				【第9回】 研究論文の輪読 【第10回】 研究論文の輪読 【第11回】 研究論文の輪読 【第12回】 研究論文の輪読 【第13回】 研究論文の輪読 【第14回】 卒論テーマについての発表会とディスカッション 【第15回】 卒論テーマについての発表会とディスカッション				
成績評価の方法	ゼミへの参加姿勢（50%）、中間発表とレジュメ資料（25%）、学期末発表とレジュメ資料（25%）								
フィードバックの内容	自らの研究対象についての発表の折のディスカッションで問題点を検証し、方向性を確認します。輪読した論文の内容を知識として習得するために、学期末にレポートにて確認する機会を設ける。								
教科書	特にもうけず								
指定図書	特にもうけず								
参考書	特にもうけず								
教員からのお知らせ	各資料は共有ストレージ内の高橋のストレージにアップする予定です。卒論執筆に向けて、各自で計画を立てて、作業を進めてほしい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、メール（takahidetakahashi1955@gmail.com）でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	中間発表・学期末発表という2回の発表機会を設け、各自が調べた内容をディスカッションを通じ問題点の掘り下げを進めます。								
その他									

講義コード	11A2101503	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3							第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならないのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。								
到達目標	各自が学的関心をもった分野における先行研究文献を収集できること。先行研究の参照閲読を通して適切な研究課題を抽出できる。その課題に関して客観的合理的論証に至るための筋道を構想できる。その要点を捉えて口頭発表（プレゼンテーション）としてまとめることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	論文講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、原典資料からの引用文など、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表の際は、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的に取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 実証的研究のための方法論総説 【第2回】 研究の土台となる基本文献に関する論文講読（1） 【第3回】 同（2） 【第4回】 同（3） 【第5回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（1） 【第6回】 同（2） 【第7回】 同（3） 【第8回】 宗教文化史に関する論文・原典資料講読（1）				【第9回】 同（2） 【第10回】 同（3） 【第11回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（4） 【第12回】 同（5） 【第13回】 同（6） 【第14回】 総括1 【第15回】 総括2				
成績評価の方法	授業への取組み姿勢（積極的な発言含む）30%、研究文献目録・研究計画書作成25%、研究発表20%、提出課題25%。（研究発表は必須）								
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表、小論文に対する講評は、授業時に随時行う。								
教科書	『漢籍はおもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター 編（研文出版）2008年								
指定図書	ゼミ1指定図書を参照								
参考書	授業内で指示します								
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。漢和辞典を必携（上記指定図書のうち）。講読用論文・資料はプリント配布します。ポータルサイト「オンライン授業」でも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科において定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受付けます。それ以外の時間にはEメールにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など 演習／ゼミナール								
その他	各種書類の提出や卒業に関わる事項等、重要連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。								



講義コード	11A2101504	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期																
科目名	ゼミナール3																								
履修前条件					備考																				
授業の目的	<p>仏教とヒンドゥー教系諸派を思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は、仏教と他宗教の諸文献における神話的記述を比較する。仏教経典等の聖典をはじめ叙事詩・説話・伝記・歴史書・論書等における神話・伝説・靈異譚を調査し、世界観・人間観・死生観等を比較し相互の影響関係等を考察する。</p>																								
到達目標	<p>仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法及び注意点を知らずの研究に役立てることができる。各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文を作成することができる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握した上で、各自の見解や疑問点を書き留めておき、演習における発言や質問に備えること。また、各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文作成の準備を進めること。これらを各回平均4時間、計60時間行うことが望ましい。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 比較思想の研究方法及び留意点</td> <td>【第9回】 インドの女神崇拜</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 神話の定義 神話学の方法論</td> <td>【第10回】 女神崇拜</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 ヴェーダ神話</td> <td>【第11回】 アビダルマ仏教における神話的世界観</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 プラフマナ文献における神話解釈</td> <td>【第12回】 アビダルマ仏教における神話的死生観</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 ウパニシャッド文献における神話解釈</td> <td>【第13回】 大乘仏教経典における諸菩薩</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 初期仏教文献における神々(諸天)</td> <td>【第14回】 密教経典における尊格</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 ヴィシュヌ教の神話</td> <td>【第15回】 神話の力</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 シヴァ教の神話</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 比較思想の研究方法及び留意点	【第9回】 インドの女神崇拜	【第2回】 神話の定義 神話学の方法論	【第10回】 女神崇拜	【第3回】 ヴェーダ神話	【第11回】 アビダルマ仏教における神話的世界観	【第4回】 プラフマナ文献における神話解釈	【第12回】 アビダルマ仏教における神話的死生観	【第5回】 ウパニシャッド文献における神話解釈	【第13回】 大乘仏教経典における諸菩薩	【第6回】 初期仏教文献における神々(諸天)	【第14回】 密教経典における尊格	【第7回】 ヴィシュヌ教の神話	【第15回】 神話の力	【第8回】 シヴァ教の神話	
【第1回】 比較思想の研究方法及び留意点	【第9回】 インドの女神崇拜																								
【第2回】 神話の定義 神話学の方法論	【第10回】 女神崇拜																								
【第3回】 ヴェーダ神話	【第11回】 アビダルマ仏教における神話的世界観																								
【第4回】 プラフマナ文献における神話解釈	【第12回】 アビダルマ仏教における神話的死生観																								
【第5回】 ウパニシャッド文献における神話解釈	【第13回】 大乘仏教経典における諸菩薩																								
【第6回】 初期仏教文献における神々(諸天)	【第14回】 密教経典における尊格																								
【第7回】 ヴィシュヌ教の神話	【第15回】 神話の力																								
【第8回】 シヴァ教の神話																									
成績評価の方法	個人研究の口頭発表(20%)と発表資料(20%)、研究成果報告書(30%)、平常点(30%)。																								
フィードバックの内容	研究成果報告書(レポート)に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。																								
教科書	適宜、資料を配布します。																								
指定図書																									
参考書	『世界神話大事典』イヴ・ボンヌフォワ編、金光仁三郎主幹(大修館書店)2001年、『神話学入門』大林太良(中央公論社)1966年、『世界神話学入門』後藤明(講談社)2017年、『ヒンドゥー教と叙事詩』中村元(春秋社)1996年、『ヒンドゥー神話の神々』立川武蔵(せりか書房)2008年、『インド宇宙論大全』定方晟(春秋社)2011年																								
教員からのお知らせ	第1期は講義形式で授業を進めますが、その間に4年次の受講生は各自、卒業論文作成に向けて研究を推進してください。第2期からは本格的に論文執筆に取り組み、随時、個人指導を受けていただきます。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション、卒業論文																								
その他	必ず出席すること。遅刻しないこと。4年生は各自の卒業論文の完成に向けて研究に精励してください。卒業論文のテーマは各自が自由に設定して構いません。																								

講義コード	11A2101505	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	則武 海源	開講期	第1期																
科目名	ゼミナール3																								
履修前条件					備考																				
授業の目的	<p>本ゼミナールは、仏教交渉史の視点からインドから日本に至るまでの諸地域(西北インド・内陸アジア・チベット・シルクロード・中国・日本)を研究領域とし、歴史的・教理的・文化的・地理的背景を考察しながら、諸地域が交渉を重ねて独自に形成・発展させた仏教とその文化を検証していく。各地域の諸資料を収集・解析し、各種研究書・論文等と照合しながら、特に仏教興起から分派、そして伝播に至るメカニズムを解明することを本ゼミの目的としています。</p>																								
到達目標	<p>興味を抱く研究を進めていく上での資料の取り扱い・精査の手法を身につけ、論文作成に向けた発想力・基礎能力を身につけ、各自の研究内容を説明できる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>上記に示した目的を理解し、60時間以上の授業外学修を行うこと。コロナ禍の状況によりですが、博物館・美術館、寺院などに自ら足を運んで直接仏教に触れてみてください。各自の研究テーマの資料蒐集などを積極的に行ってください。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 研究テーマの確認</td> <td>【第9回】 テーマに沿った研究内容の整理</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究テーマに向けての現状把握</td> <td>【第10回】 問題の所在を明らかに</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 資料蒐集と整理法</td> <td>【第11回】 現状問題への対応</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 これまで蒐集した資料・論文を整理・検証する</td> <td>【第12回】 論文の目次を作成する1</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 各研究領域の資料蒐集1</td> <td>【第13回】 論文の目次を作成する2</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 各研究領域の資料蒐集2</td> <td>【第14回】 予想される結果につき検討する</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 各研究領域の資料蒐集3</td> <td>【第15回】 進行状況の確認・中間報告</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 先行研究等の把握と活用法</td> <td></td> </tr> </table> <p>これらの点に留意しながら適宜問題点を指摘し、各自の研究の進行状況に応じて指導を行う。</p>									【第1回】 研究テーマの確認	【第9回】 テーマに沿った研究内容の整理	【第2回】 研究テーマに向けての現状把握	【第10回】 問題の所在を明らかに	【第3回】 資料蒐集と整理法	【第11回】 現状問題への対応	【第4回】 これまで蒐集した資料・論文を整理・検証する	【第12回】 論文の目次を作成する1	【第5回】 各研究領域の資料蒐集1	【第13回】 論文の目次を作成する2	【第6回】 各研究領域の資料蒐集2	【第14回】 予想される結果につき検討する	【第7回】 各研究領域の資料蒐集3	【第15回】 進行状況の確認・中間報告	【第8回】 先行研究等の把握と活用法	
【第1回】 研究テーマの確認	【第9回】 テーマに沿った研究内容の整理																								
【第2回】 研究テーマに向けての現状把握	【第10回】 問題の所在を明らかに																								
【第3回】 資料蒐集と整理法	【第11回】 現状問題への対応																								
【第4回】 これまで蒐集した資料・論文を整理・検証する	【第12回】 論文の目次を作成する1																								
【第5回】 各研究領域の資料蒐集1	【第13回】 論文の目次を作成する2																								
【第6回】 各研究領域の資料蒐集2	【第14回】 予想される結果につき検討する																								
【第7回】 各研究領域の資料蒐集3	【第15回】 進行状況の確認・中間報告																								
【第8回】 先行研究等の把握と活用法																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、中間報告・レポート50%で成績を評価します。																								
フィードバックの内容	レポートならびに課題のフィードバックは授業内で行います。																								
教科書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する。																								
指定図書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する。																								
参考書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する。																								
教員からのお知らせ	自分で問題意識を持って、資料蒐集から積極的にアプローチして下さい。各自の研究領域の成果向上に努めて下さい。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、次の授業に支障がない範囲で授業終了後、または学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	演習/ゼミナール																								
その他	それぞれの研究テーマに関連する事項について調べた上でゼミに臨んで下さい。																								

講義コード	11A2101507	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3				久保 真紀子			第1期	
履修前提条件	備考								
授業の目的	このゼミナールでは、アジアの仏教美術や寺院建築等の造形表現やその成立背景を学ぶことに主眼を置き、画像や文献といった諸資料を丹念に読み解きながら研究を進める手法を身に付けることを目指す。								
到達目標	画像資料をよく観察してその特徴を描写したり、文献史料から読み取れたことを丁寧に伝える経験を積むことで、客観的で説得力のある論文を作成するための基礎を習得する。また、資料を収集・整理する方法や、画像資料等を用いたプレゼンテーションの手法を身につける。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	口頭発表や課題の準備のみならず、関連文献の収集と精読、あるいは博物館や美術館の見学等、進んで授業外学修を行うこと。その時間として、合計60時間以上行ってほしい。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス（授業内容の説明、スケジュールの確認と調整）</p> <p>【第2回】文献講読（1）</p> <p>【第3回】文献講読（2）</p> <p>【第4回】作品鑑賞と意見交換（1）</p> <p>【第5回】論文構想発表会（1）</p> <p>【第6回】論文構想発表会（2）</p> <p>【第7回】論文構想発表会（3）</p> <p>【第8回】論文構想発表会（4）</p> <p>【第9回】論文構想発表会（5）</p> <p>【第10回】作品鑑賞と意見交換（2）</p> <p>【第11回】論文構想発表会（6）</p> <p>【第12回】論文構想発表会（7）</p> <p>【第13回】論文構想発表会（8）</p> <p>【第14回】論文構想発表会（9）</p> <p>【第15回】総括</p> <p>※1「文献講読」では、あらかじめ講師が指定した文献を全員で講読し、意見交換を行います。</p> <p>※2「作品鑑賞と意見交換」（第4回、第10回）では、授業内で講師が指示した作品を各自が観察し、読み取れたことを全員で意見交換し、作品に対する理解を深めます。</p> <p>※3「論文構想発表会」では、卒業論文の構想や進捗状況の報告をおこないます。受講生は担当回に向けて各自準備してください。WordやPower Pointで資料を作成し、口頭で発表していただきます。発表後に全員で意見交換します。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢により総合的に評価します。								
フィードバックの内容	文献講読や作品鑑賞、ならびに論文構想発表会では、各受講生に所定の用紙に記入・提出していただきます。また、記入した内容をもとに授業時間内に意見交換した後、教員からコメントを述べます。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業では、全員に少なくとも1回は口頭発表を担当してもらいます。事前にはしっかり準備して臨みましょう。また、自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対して積極的に発言しているかどうかを評価の対象となります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション								

講義コード	11A1101601	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	安中 尚史	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4				安中 尚史			第2期	
履修前提条件	備考								
授業の目的	日本仏教の展開について、深く理解することをねらいとします。								
到達目標	受講生各自が設定したテーマに基づいた研究を行い、最終報告書の完成を目標とします。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各自が収集した学術論文や史料（資料）をもとに考察し、その結果を踏まえて論究して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	<p>【第1回】日本仏教史研究に関する考察と論究（1）</p> <p>【第2回】日本仏教史研究に関する考察と論究（2）</p> <p>【第3回】日本仏教史研究に関する考察と論究（3）</p> <p>【第4回】日本仏教史研究に関する考察と論究（4）</p> <p>【第5回】日本仏教史研究に関する考察と論究（5）</p> <p>【第6回】日本仏教史研究に関する考察と論究（6）および課題提出</p> <p>【第7回】日本仏教史研究に関する考察と論究（7）</p> <p>【第8回】日本仏教史研究に関する考察と論究（8）</p> <p>【第9回】日本仏教史研究に関する考察と論究（9）および課題提出</p> <p>【第10回】日本仏教史研究に関する考察と論究（10）</p> <p>【第11回】日本仏教史研究に関する考察と論究（11）</p> <p>【第12回】日本仏教史研究に関する考察と論究（12）</p> <p>【第13回】受講生による最終報告と検討（1）</p> <p>【第14回】受講生による最終報告と検討（2）</p> <p>【第15回】まどめ</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（最終報告書等）50%で評価します。								
フィードバックの内容									
教科書	特にありません								
指定図書	授業中に紹介します								
参考書	授業中に紹介します								
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容 その他	ゼミナール								

講義コード	11A1101603	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4				原 愼定		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	<p>テーマ：日蓮聖人の不屈の生涯と人間的な魅力に迫る          日蓮聖人の伝記にはしばしば誇張や潤色が見られるため、文献学的に確実な遺文を中心として伝説と史実を選別する必要がある。こうした観点から実証的な日蓮聖人伝を描いた名著の一つに、田村芳朗著『日蓮 殉教の如来使』がある。この授業では本書を輪読しながら日蓮聖人の思想と行動の意義を探り、慈愛に満ちた教化に触れることを目的とする。</p>						
到達目標	<p>日蓮聖人の思想と行動に関する問題意識を深めることができるようになる。          各自の研究テーマに即して、卒業論文の内容的充実を図れるようになる。</p>						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>指定されたテキスト・資料類をあらかじめ読んで内容を把握した上で、毎回自分の意見を発表することが求められる。よって毎回の授業に際して4時間以上の予習・復習が必要となる（合計60時間以上）。</p>						
授業計画	<p>【第1回】 真実一路の旅          【第2回】 警世の予言者          【第3回】 殉教の如来使（1）          【第4回】 殉教の如来使（2）          【第5回】 孤高の宗教者（1）          【第6回】 孤高の宗教者（2）          【第7回】 永遠への思慕（1）          【第8回】 永遠への思慕（2）          【第9回】 永遠への思慕（3）          【第10回】 日蓮の継承者（1）          【第11回】 日蓮の継承者（2）          【第12回】 卒業論文について（1）          【第13回】 卒業論文について（2）          【第14回】 卒業論文について（3）          【第15回】 まとめ</p>						
成績評価の方法	<p>授業への取り組み姿勢（毎回の課題・感想など）60%、期末レポートの発表・提出（40%）を基準として総合的に評価します。</p>						
フィードバックの内容	<p>使用するシステム（Teams）を通じて適宜対応し、必要に応じて次回の授業でフィードバックを行います。</p>						
教科書	『日蓮 殉教の如来使』 田村芳朗（吉川弘文館）2015						
指定図書	『日蓮教学における罪の研究』 原 愼定（平楽寺書店）1999						
参考書	『日蓮 その行動と思想』 高木 豊（太田出版）2002						
教員からのお知らせ	必ず「ゼミナール3」とあわせて履修して下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステム（Teams）の質問・連絡掲示板等を通じて対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、ゼミナール						
その他							

講義コード	11A1101604	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4				三輪 是法		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	このゼミナールは日蓮仏教を含めた日本仏教を研究対象とする。自ら設定した研究テーマを、復眼的に研究考察する。						
到達目標	<p>発表、レポート作成のための補助的作業力（資料の調査や読解、文章作成など）を身につけ、理解認識した内容を正確にプレゼンテーションできる。日蓮教学を含めた仏教思想を現代社会に応用できる。論文を執筆するための論理的考察力を身につけ、2万字以上の論文を執筆できる。</p>						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>設定した研究テーマに関して事前学修を2時間以上、事後学修も2時間以上おこない、発表準備に備える。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。</p>						
授業計画	<p>【第1回】 オリエンテーション～研究テーマの検討・設定          【第2回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆1          【第3回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆2          【第4回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆3          【第5回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆4          【第6回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆5          【第7回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆6          【第8回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆7 - 中間発表          【第9回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆8          【第10回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆9          【第11回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆10          【第12回】 研究テーマに関する論文作成1          【第13回】 研究テーマに関する論文作成2          【第14回】 研究テーマに関する論文作成3          【第15回】 まとめ</p>						
成績評価の方法	中間発表レポートが50%、最終課題レポート50%で評価する。						
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではなくありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。						
オフィスアワー	メールとオンラインで可能な限り対応します。						
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習/ゼミナール						
その他							

講義コード	11A1101605	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	卒業論文の作成。卒業論文のテーマに付随する諸問題の把握。								
到達目標	卒業論文を完成させる。卒業論文の概要を、問題点ごとに他者に話して聞かせることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、計60時間、卒業論文の準備作業に充てること。								
授業計画	【第1回】 卒業論文の進め方の確認。ゼミナール（三）の伝達ポイントの再確認。 【第2回】 テーマに相応する講義。 【第3回】 テーマに相応する講義。 【第4回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第5回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第6回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第7回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第8回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第9回】 テーマに相応する講義。 【第10回】 テーマに相応する講義。 【第11回】 2章を作成・発表。質疑応答。 【第12回】 2章を作成・発表。質疑応答。 【第13回】 2章を作成・発表。質疑応答。 【第14回】 2章を作成・発表。質疑応答。 【第15回】 まとめ。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、レポート70%。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定図書・参考書は、適宜、授業中に提示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール								
その他									

講義コード	11A1101606	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での研究法を身につけて実践することを目的とする。								
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する研究法を実践することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 研究の実践（1） 【第3回】 研究の実践（2） 【第4回】 研究の実践（3） 【第5回】 研究の実践（4） 【第6回】 研究の実践（5） 【第7回】 研究の実践（6） 【第8回】 研究の実践（7） 【第9回】 研究の実践（8） 【第10回】 研究の実践（9） 【第11回】 研究の実践（10） 【第12回】 研究の実践（11） 【第13回】 受講生による最終報告（1） 【第14回】 受講生による最終報告（2） 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	発表（30%）、授業への取り組み姿勢（70%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール								
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A2101701	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4					秋田 貴廣		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	「制作」を希望する学生は、現在に残された作品と、造形行為をとおして対峙し、自分自身の感触と過去の事実を立体的に交差させる。「論文」の学生で美術を対象とする場合は、各作品の造形様式の展開と変遷を辿りながらその必然性と意味を探る。「文化財」という観点で研究する場合は、理念と実際の関係を理解しつつ適正な在り方を見極める。								
到達目標	「制作」の場合には、自分のテーマを決定するための基礎資料収集、テーマの決定、制作材料の決定、その後に制作作業に入り、対象に近づくことができる。「論文」の場合には、過去の学術成果を確認する中で自分自身の問題意識を培い、それを自らの考察に反映させることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義ではテキストは使用しない。それぞれのテーマに関連する関心のある作品について、事前に調査することが望ましい(15時間)。 自分が興味をもった文化や作品について、実際に観る。そして随時レポートとして提出する(15時間)。 自分の制作活動あるいは論文資料の検証と執筆作業(30時間)。								
授業計画	<年間を通して卒業論文(制作)に向けての制作指導を行う>								
	《制作組》		《論文組》						
	【第1回】	造形研究・技法研究・制作指導	／	論文執筆指導	【第9回】	〃	／	〃	〃
	【第2回】	〃	／	〃	【第10回】	〃	／	〃	〃
	【第3回】	〃	／	〃	【第11回】	台座設計・制作	／	論文執筆指導	〃
	【第4回】	〃	／	〃	【第12回】	〃	／	〃	〃
	【第5回】	〃	／	〃	【第13回】	〃	／	〃	〃
	【第6回】	〃	／	〃	【第14回】	〃	／	〃	〃
	【第7回】	〃	／	〃	【第15回】	作品解説パネルの作成	／	〃	〃
	【第8回】	〃	／	〃					
成績評価の方法	論文ならびに制作に対する姿勢50%・授業内レポート50%								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内の冒頭で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	4年時は就職活動等で時間をとられてしまうことが多いので、早めに進行させるためにも毎回出席すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	立体資料を適宜用いて、学生自身の目と手で文化を実感する機会を設ける。演習／ゼミナール								
その他									

講義コード	11A2101702	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	高橋 堯英	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4					高橋 堯英		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	このゼミナールでは、インド仏教文化を中心とする卒業論文作成の指導を行うことを目的とする。								
到達目標	様々な研究者の雑誌論文を通じ、研究論文とは如何なるものが理解出来る。研究論文を作成する上での注意事項が理解出来る。前期終了時に、自らの手がける卒論の内容についての概要を発表する機会が設けられ、プレゼンの技能や資料作成法を身につけることが出来る。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業中の雑誌論文の輪読を通じ、研究論文を作成する上での注意事項を理解してほしい。自らの卒論の内容についての中間報告と修了時の概要発表のために進めること。各授業に対し2時間以上の予習と2時間以上の復習、計60時間以上の授業外学修を各自の責任で進めて欲しい。								
授業計画	【第1回】	イントロダクション			【第9回】	研究論文の輪読			
	【第2回】	研究論文の輪読			【第10回】	研究論文の輪読			
	【第3回】	研究論文の輪読			【第11回】	研究論文の輪読			
	【第4回】	研究論文の輪読			【第12回】	研究論文の輪読			
	【第5回】	研究の発表とディスカッション			【第13回】	研究論文の輪読			
	【第6回】	研究の発表とディスカッション			【第14回】	卒論要旨の発表とディスカッション			
	【第7回】	研究論文の輪読			【第15回】	卒論要旨の発表とディスカッション			
	【第8回】	研究論文の輪読							
成績評価の方法	ゼミへの参加姿勢(50%)、中間発表・発表レジメ(25%)、卒論の概要発表・発表レジメ(25%)。								
フィードバックの内容	卒業論文についての中間報告・発表レジメやレポートは授業中に検証する。自らの研究対象についての発表の折のディスカッションで問題点を検証し、方向性を確認する。								
教科書	特にもうけず								
指定図書	特にもうけず								
参考書	特にもうけず								
教員からのお知らせ	積極的・主体的取り組みを期待する。5回以上欠席した者、理由なく中間報告と卒論概要の発表日に無断欠席した者、課題レポートを提出しない者には単位認定しない。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、メール(takahidetakahashi1955@gmail.com)でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	自らの研究成果を中間報告・学期末報告という2回の機会を設け行い、ディスカッションによって掘り下げを進めます。								
その他	この科目は4年次生を対象とするが、卒業論文の草稿を12月末までに、最低二章分を指定された期日に提出し、そのチェックを時間外で行う。								

講義コード	11A2101703	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4				手島 一真		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならないのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。						
到達目標	各自の研究課題に関し、先行研究の成果や原典資料を適切に用いて、客観的合理的論証を導き出せる。その要点を捉えて口頭発表（プレゼンテーション）としてまとめることができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	原典資料講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表に関しては、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的に取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 論文作成のポイント（1）</li> <li>【第2回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（1）</li> <li>【第3回】 同（2）</li> <li>【第4回】 同（3）</li> <li>【第5回】 同（4）</li> <li>【第6回】 論文作成のポイント（2）</li> <li>【第7回】 原典資料・論文講読（1）</li> <li>【第8回】 同（2）</li> <li>【第9回】 同（3）</li> <li>【第10回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（5）</li> <li>【第11回】 同（6）</li> <li>【第12回】 同（7）</li> <li>【第13回】 原典資料・論文講読（4）</li> <li>【第14回】 同（5）</li> <li>【第15回】 同（6）</li> </ul>						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢45%、研究文献目録・研究計画書作成15%、研究発表40%（研究発表必須）						
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表といった課題に対する講評は、提出・発表時に随時行う。						
教科書	『漢籍はおもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター 編（研文出版）2008年						
指定図書	ゼミ1指定図書を参照						
参考書							
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。漢和辞典を必携（上記指定図書のうち）。講読用論文・資料はプリント配布します。ポータルサイト「オンライン授業」でも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科において定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナールなど						
その他	各種書類の提出や卒業に関わる事項等、重要連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。						

講義コード	11A2101704	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4				戸田 裕久		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は、仏教と他宗教の諸文献における神話的記述を比較する。仏教経典等の聖典をはじめ叙事詩・説話・伝記・歴史書・論書等における神話・伝説・靈異譚を調査し、世界観・人間観・死生観等を比較し相互の影響関係等を考察する。						
到達目標	仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法及び注意点を知らずの研究に役立てることができる。各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文を作成することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握した上で、各自の見解や疑問点を書き留めておき、演習における発言や質問に備えること。また、各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文作成の準備を進めること。これらを各回平均4時間、計60時間行うことが望ましい。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】 卒業論文中間発表および質疑応答</li> <li>【第2回】 卒業論文中間発表および質疑応答</li> <li>【第3回】 資料収集の技法、学術論文の作法</li> <li>【第4回】 模範的学術論文の講読</li> <li>【第5回】 模範的学術論文の受講生による輪読</li> <li>【第6回】 個人研究発表（1）討議、学術論文の輪読</li> <li>【第7回】 個人研究発表（2）討議、学術論文の輪読</li> <li>【第8回】 個人研究発表（3）討議、仏教文献講読</li> <li>【第9回】 個人研究発表（4）討議、仏教文献講読</li> <li>【第10回】 個人研究発表（5）討議、仏教文献講読</li> <li>【第11回】 個人研究発表（6）討議、仏教文献講読</li> <li>【第12回】 指導教員の研究発表・討議</li> <li>【第13回】 卒業論文成果発表・合評会</li> <li>【第14回】 卒業論文成果発表・合評会</li> <li>【第15回】 本年度の研究成果の総括、今後の課題</li> </ul>						
成績評価の方法	個人研究の口頭発表（20%）と発表資料（20%）、研究成果報告書（30%）、平常点（30%）。						
フィードバックの内容	研究成果報告書（レポート）に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。						
教科書	適宜、資料を配布します。						
指定図書							
参考書	『仏教・インド思想辞典』早島鏡正監修、高崎直道編集代表（春秋社）1987年、『仏典解題事典〈第三版〉』斎藤明他編集（春秋社）2020年、『仏教文化事典』金岡秀友・柳川啓一監修（佼成出版社）1989年、『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎編（東京大学出版会）1973年						
教員からのお知らせ	4年次受講生は各自、卒業論文作成に向けて研究を推進してください。第2期からは本格的に論文執筆に取り組み、随時、個人指導を受けていただきます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション、卒業論文						
その他	必ず出席すること。遅刻しないこと。就職活動等でやむを得ず欠席する場合には事前または事後に報告すること。4年生は各自の卒業論文の完成に向けて研究に精励してください。						

講義コード	11A2101705	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	則武 海源	開講期	第2期																
科目名	ゼミナール4							第2期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	本ゼミナールは、仏教交渉史の視点からインドから日本に至るまでの諸地域（西北インド・内陸アジア・チベット・シルクロード・中国・日本）を研究領域とし、歴史的・教理的・文化的・地理的背景をもとに、諸地域が交渉を重ねて独自に形成・発展させた仏教とその文化を検証する。各地域の諸資料を収集・解析し、各種研究書・論文等と照合しながら、特に大乘・小乗仏教の興起から伝播のメカニズムを解明することを本ゼミの目的とする。																								
到達目標	自らの研究課題に応じて、歴史的・教理的・文化的・地理的背景をもとに、諸地域の仏教とその文化の展開を検証し、諸資料の解析・精査を通して、卒業論文を作成する能力を身につけ、各自の研究内容を説明できる。																								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	上記に示した目的を理解し、60時間以上の授業外学修を行うこと。 コロナ渦の状況にもよりますが図書館・博物館・美術館等は勿論のこと、現地調査ができる者は、文献資料であった研究課題を、フィールドワークの分野からも積極的にアプローチすること。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 論文の書き方</td> <td>【第9回】 各章における問題点を指摘する3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 論文の全体構成を確定する</td> <td>【第10回】 各章における問題点を指摘する4</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 現状問題解明に向けての対処方法</td> <td>【第11回】 研究の現状見直し1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 各章における問題点を指摘する1</td> <td>【第12回】 研究の現状見直し2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 各章における問題点を指摘する2</td> <td>【第13回】 論文として仕上げる1</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 研究資料の整理と活用・論文作成1</td> <td>【第14回】 論文として仕上げる2</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 研究資料の整理と活用・論文作成2</td> <td>【第15回】 研究発表ならびに報告書提出</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 注記や参考文献の取り扱い方</td> <td></td> </tr> </table> <p>これらの点に留意しながら適宜問題点を指摘し、研究成果の進行状況に応じて指導を行う。最終的に、各々の研究テーマに沿って研究発表をおこない、問題意識を向上させ、卒業論文完成に向け適宜指導を行う。</p>									【第1回】 論文の書き方	【第9回】 各章における問題点を指摘する3	【第2回】 論文の全体構成を確定する	【第10回】 各章における問題点を指摘する4	【第3回】 現状問題解明に向けての対処方法	【第11回】 研究の現状見直し1	【第4回】 各章における問題点を指摘する1	【第12回】 研究の現状見直し2	【第5回】 各章における問題点を指摘する2	【第13回】 論文として仕上げる1	【第6回】 研究資料の整理と活用・論文作成1	【第14回】 論文として仕上げる2	【第7回】 研究資料の整理と活用・論文作成2	【第15回】 研究発表ならびに報告書提出	【第8回】 注記や参考文献の取り扱い方	
【第1回】 論文の書き方	【第9回】 各章における問題点を指摘する3																								
【第2回】 論文の全体構成を確定する	【第10回】 各章における問題点を指摘する4																								
【第3回】 現状問題解明に向けての対処方法	【第11回】 研究の現状見直し1																								
【第4回】 各章における問題点を指摘する1	【第12回】 研究の現状見直し2																								
【第5回】 各章における問題点を指摘する2	【第13回】 論文として仕上げる1																								
【第6回】 研究資料の整理と活用・論文作成1	【第14回】 論文として仕上げる2																								
【第7回】 研究資料の整理と活用・論文作成2	【第15回】 研究発表ならびに報告書提出																								
【第8回】 注記や参考文献の取り扱い方																									
成績評価の方法	授業への取り組み50%、中間報告50%で成績を評価します。																								
フィードバックの内容	レポートならびに課題のフィードバックは授業内で行います。																								
教科書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する																								
指定図書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する																								
参考書	適宜、各自の研究テーマに応じて指摘する																								
教員からのお知らせ	自分で問題意識を持って資料蒐集から積極的にアプローチし、卒業論文としてその研究成果を纏め上げることに努めて下さい。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、次の授業に支障がない範囲で授業終了後、または学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール																								
その他	卒業論文作成のために、各自の研究課題に問題意識を持って積極的にアプローチしてください。																								

講義コード	11A2101707	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4								
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミナールでは、アジアの仏教美術や寺院建築に関する研究論文等の講読を通して、制作当時の歴史的背景や地域的・時代的特性を考察するとともに、論文執筆の基礎を学ぶ。								
到達目標	客観的で説得力のある論文を作成するための基礎を習得する。また、資料の収集・整理や、画像資料等を用いたプレゼンテーションの手法や論文執筆の基本を身につける。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	口頭発表や課題の準備のみならず、関連文献の収集や精読、博物館や美術館の見学等も可能な限り行うこと。その時間として、合計60時間以上行ってほしい。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス（授業内容の説明、スケジュールの確認と調整）</p> <p>【第2回】作品鑑賞と意見交換（1）</p> <p>【第3回】作品鑑賞と意見交換（2）</p> <p>【第4回】論文中間報告会（1）</p> <p>【第5回】論文中間報告会（2）</p> <p>【第6回】論文中間報告会（3）</p> <p>【第7回】論文中間報告会（4）</p> <p>【第8回】論文中間報告会（5）</p> <p>【第9回】論文中間報告会（6）</p> <p>【第10回】論文構想発表会（1）</p> <p>【第11回】論文構想発表会（2）</p> <p>【第12回】論文構想発表会（3）</p> <p>【第13回】論文構想発表会（4）</p> <p>【第14回】論文構想発表会（5）</p> <p>【第15回】総括</p> <p>（1）作品鑑賞と意見交換 授業内で講師が指示した作品を各自が観察し、読み取れたことを全員で意見交換し、作品に対する理解を深める。</p> <p>（2）論文中間報告会 卒業論文執筆中の受講生が論文の進捗状況を口頭で報告し、意見交換を行う。</p> <p>（3）論文構想発表会 卒業論文執筆の準備をしている受講生が途中経過を報告し、意見交換を行う。</p> <p>（4）発表資料等の準備・提出 担当教員の指示に従い、早めに準備して、決められた提出期限までに提出すること。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、口頭発表および意見交換（60%）により総合的に評価する。								
フィードバックの内容	文献講読や作品鑑賞、ならびに論文構想発表会では、各受講生に所定の用紙に記入・提出していただきます。また、記入した内容をもとに授業時間内に意見交換した後、教員からコメントを述べます。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業では受講生全員に口頭発表の機会を設けている。その際には、他の受講生も積極的にコメントや質問を行って、お互いの研究の進展につなげてほしい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション								



講義コード	11A0106200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第1期
科目名	<b>中国仏教史1</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教発祥地のインドとは異なる、漢字文化圏である中国において仏教が展開していく様子について講説し、とくに仏教伝来から教学・思想が急速に発展した南北朝時代までを重点的に扱います。内容としては、中国の政治や社会の歴史の変遷とともに展開した仏教の諸相を理解することを目的とします。								
到達目標	中国の歴史・地理的事情を基礎的知識として、仏教伝来の事情と南北朝時代までの仏教史上の重要な諸事項について、理解し、説明できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書を事前に読んでおくことは勿論ですが、下記の指定図書の記載を参考に、何らかの中国史概説書、仏教学・仏教史の概説書を授業の予習・復習として読み、奥行きのある歴史理解を心がけてください。 なおこの科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】中国の地勢、歴史、歴史書 【第2回】序説 【第3回】後漢の仏教-伝来と受容 【第4回】魏・晋の仏教-魏・晋という時代 【第5回】魏・晋の仏教-經典の翻訳と研究(1) 【第6回】魏・晋の仏教-經典の翻訳と研究(2) 【第7回】魏・晋の仏教-經典の翻訳と研究(3) 【第8回】魏・晋の仏教-經典の翻訳と研究(4)				【第9回】南北朝の仏教-教団の発展と儒道二教(1) 【第10回】南北朝の仏教-教団の発展と儒道二教(2) 【第11回】南北朝の仏教-教団の発展と儒道二教(3) 【第12回】仏教芸術の発達 【第13回】漢語仏典-大正蔵について(1) 【第14回】漢語仏典-大正蔵について(2) 【第15回】漢語仏典-大蔵経と一切経				
成績評価の方法	毎回のリアクション・ペーパー45%、期末レポート55%								
フィードバックの内容	レポートに対する総評を、ポータルサイトの「オンライン授業」に一定期間掲載する予定です。								
教科書	『仏教史概説 中国篇』野上俊成ほか(平楽寺書店)1968年								
指定図書	『新アジア仏教史(全15巻)』沖本克己ほか(佼成出版社)2010年～、『新中国仏教史』鎌田茂雄(大東出版社)2001年、『中国仏教思想史』木村清孝(世界聖典刊行協会)1979年、『世界の歴史(全30巻。とくに第2巻、第6巻)』尾形勇・礪波護ほか(中央公論社)1996～99年、『中国の歴史(全12巻。とくに第6巻まで)』礪波護ほか(講談社)2004～05年、『古代中国』貝塚茂樹・伊藤道治(講談社学術文庫)2000年、『魏晋南北朝』川勝義雄(講談社学術文庫)2003年、『隋唐帝国』布目潮フウ、栗原益男(講談社学術文庫)1997年								
参考書	『仏教の思想(全12巻)』塚本善隆ほか(角川文庫ソフィア)1996～97年、『アジア仏教史 中国編(全5巻)』中村元ほか(佼成出版社)1974～76年、『中国仏教史(全6巻)』鎌田茂雄(東京大学出版会)1982～99年、『中国仏教要史』布施浩岳(山喜房佛書林)1970年、『中国通史』堀敏一(講談社学術文庫)2000年								
教員からのお知らせ	本講義は「インド仏教史1」を学んでから履修することが望ましい。 ビデオでの受講に際しては、必ず手元に教科書・配付資料PDFを用意して見る(ビデオ画面に表示される文字は小さいので)。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、Eメールにて受付けます。 メールアドレスは、授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習など								
その他									

講義コード	11A0106300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第2期
科目名	<b>中国仏教史2</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教発祥地のインドとは異なる、漢字文化圏である中国において仏教が展開していく様子について講説し、とくに教学・思想のピークといわれる隋唐時代を重点的に扱います。内容としては、「中国仏教」なるものの概観を踏まえ、各宗派の展開、および関連する文化の諸相を理解することを目的とします。								
到達目標	隋唐時代における仏教の、国家との関係、各宗派の展開、関連諸文化に関して、重要な諸事項および特質を説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書を事前に読んでおくことは勿論ですが、下記の指定図書の記載を参考に、何らかの中国史概説書を授業の予習・復習として読み、奥行きのある歴史理解を心がけてください。 なおこの科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】南北朝から隋朝へ 【第2回】隋の仏教(1) 国家仏教、五衆と四方館 【第3回】隋の仏教(2) 天台宗(1) 【第4回】隋の仏教(3) 天台宗(2) 【第5回】隋の仏教(4) 天台宗(3)、三論宗 【第6回】隋の仏教(5) 未法思想、三階教、房山石経 【第7回】唐の仏教(1) 国家と仏教、沙門の敬礼問題 【第8回】唐の仏教(2) 州立の官寺と内道場、道教の状況				【第9回】唐の仏教(3) 僧尼の簿籍と度牒・戒牒、僧尼の管理制 【第10回】唐の仏教(4) 僧尼の社会活動、会昌の法難 【第11回】唐の仏教(5) 浄土教、律学 【第12回】唐の仏教(6) 華嚴宗 【第13回】唐の仏教(7) 禪宗 【第14回】唐の仏教(8) 法相宗 【第15回】唐の仏教(9) 密教				
成績評価の方法	毎回のリアクション・ペーパー45%、期末レポート55%								
フィードバックの内容	レポートに対する総評を、ポータルサイトの「オンライン授業」に一定期間掲載する予定です。								
教科書	『仏教史概説 中国篇』野上俊成ほか(平楽寺書店)1968年								
指定図書	『新アジア仏教史(全15巻)』沖本克己ほか(佼成出版社)2010年～、『新中国仏教史』鎌田茂雄(大東出版社)2001年、『中国仏教思想史』木村清孝(世界聖典刊行協会)1979年、『世界の歴史(全30巻。とくに第2巻、第6巻)』尾形勇・礪波護ほか(中央公論社)1996～99年、『中国の歴史(全12巻。とくに第6巻まで)』礪波護ほか(講談社)2004～05年、『古代中国』貝塚茂樹・伊藤道治(講談社学術文庫)2000年、『魏晋南北朝』川勝義雄(講談社学術文庫)2003年、『隋唐帝国』布目潮フウ、栗原益男(講談社学術文庫)1997年								
参考書	『仏教の思想(全12巻)』塚本善隆ほか(角川文庫ソフィア)1996～97年、『アジア仏教史 中国編(全5巻)』中村元ほか(佼成出版社)1974～76年、『中国仏教史(全6巻)』鎌田茂雄(東京大学出版会)1982～99年、『中国仏教要史』布施浩岳(山喜房佛書林)1970年、『中国通史』堀敏一(講談社学術文庫)2000年								
教員からのお知らせ	本科目の受講は「インド仏教史1・2」と「中国仏教史1」を学んだ後が望ましい。 ビデオでの受講に際しては、必ず手元に教科書・配付資料PDFを用意して見る(ビデオ画面に表示される文字は小さいので)。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、Eメールにて受付けます。 メールアドレスは、授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習など								
その他									

講義コード	11B5120401	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	湯浅 正彦	開講期	第1期
科目名	哲学とは何かA								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義においては、聴講者に、哲学するための訓練とはどういうものかについて、いささかの理解をもってもらうこと、併せて、どうしても必要な哲学的な知識を伝授すること、を目指します。								
到達目標	哲学とはどのような知的な営みであるかについて、いづらか理解でき、そのために哲学者たちが開発してきた諸理論や諸術語についてなにがしかの知識が得られる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、以下のような作業をして60時間以上の授業外学修を行うこと。すなわち、各回の授業内容を復習し、課題への回答をC-learningで提出すること、また前回の課題への講評を熟読すること。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 序説：「哲学」をめぐって 【第3回】 哲学の諸部門について 【第4回】 哲学史から（1）：ソクラテスの哲学 【第5回】 哲学史から（2）：プラトンの哲学 【第6回】 哲学史から（3）：アリストテレスの哲学 【第7回】 哲学史から（4）：ストアの哲学 【第8回】 哲学史から（5）：アウグスティヌスの哲学 【第9回】 哲学史から（6）：デカルトの哲学 【第10回】 哲学史から（7）：ロックの哲学 【第11回】 哲学史から（8）：ライプニッツの哲学 【第12回】 哲学史から（9）：ヒュームの哲学 【第13回】 哲学史から（10）：カントの理論哲学 【第14回】 哲学史から（11）：カントの道徳哲学 【第15回】 哲学史から（12）：カントの美学・目的論								
成績評価の方法	期末試験70%、平常点30%により総合的に評価する。								
フィードバックの内容	小テストを行った場合には、模範解答を示す。								
教科書	なし。								
指定図書	なし。								
参考書	『哲学の基礎』山本信（北樹出版）1988、『論理学概論』近藤・好並（岩波書店）1964年、『倫理学』W. K. フランケナ（培風館）1975年、『哲学の歴史 12巻』（中央公論新社）2007年、『哲学事典』（平凡社）1971年、『哲学思想事典』（岩波書店）1998年、『存在と自我』湯浅正彦（勁草書房）2003年								
教員からのお知らせ	講師自身がいかにか哲学しているかを知りたい方は、参考書に掲げた著書をお読みください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	各回の授業に課題を出し、模範解答を示します。								
その他	私語をする、授業に遅刻して来るなど、授業妨害と認められることを行う学生がいた場合には退場を命じます。また、授業に集中するため、授業中に携帯電話を机の上に置いたり操作することを禁じます。								

講義コード	11B5120402	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	長倉 誠一	開講期	第1期
科目名	哲学とは何かB								
履修前提条件					備考				
授業の目的	古代ギリシアに誕生した「哲学」とはどのようなものか、その本質をヨーロッパの哲学をもとにして示すこと。これが授業の目的。ヨーロッパにおいて「哲学」は、個々の学問ならびに文化と一体のものであったし、それらを統合するものであった。こうした本来の「哲学」を紹介するのが授業の目的である。								
到達目標	古代ギリシアに誕生し、ヨーロッパ文化の土台であり続けている「哲学」について、その本当の内容を知ること。とくに個々の「学問」との関係を理解すること。これが目標である。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定図書に挙げた『反哲学史』などを自分で読んでみることに45時間。授業の要約（1200字程度）を、何回か宿題としますが、これは15時間以上必要です。合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 哲学の出発点 【第2回】 哲学者と知識人の違い（ソクラテスの問いの意味） 【第3回】 ギリシアの数学と哲学（タレスやプラトン）の関係 【第4回】 アリストテレスによる哲学と学問分類 【第5回】 近代自然科学の物質概念と近代哲学 【第6回】 アダム・スミスなどの近代社会科学と哲学 【第7回】 19世紀ドイツの歴史哲学 【第8回】 実証主義と学問論争（ウンデルバントなど） 【第9回】 ニヒリズムとの対決（ニーチェなど） 【第10回】 道具的理性批判（ホルクハイマーなどフランクフルト学派） 【第11回】 ウィトゲンシュタインの知覚論とハンソンの観察の理論的負荷性 【第12回】 ターンやダントその他反進歩史観 【第13回】 生物学と哲学（スペンサーやマックスやシェーラー）1 【第14回】 生物学と哲学（ロータッカーやニコライ・ハルトマン）2 【第15回】 まとめなど								
成績評価の方法	課題の「レポート」提出（Cラーニング利用）など平常点で50点、まとめの小テストで50点の総合評価								
フィードバックの内容	課題のレポートを確認し、必要な場合は、それを通じて応答する。								
教科書	プリント配布								
指定図書	『反哲学史』木田元（講談社学術文庫）2000 2、『子どものためのカント』長倉誠一訳（未知谷）2008 3、『哲学の原点ードイツからの提言』長倉誠一訳（未知谷）1999 7、『現代の古典カント』長倉誠一訳（未知谷）2023.11.								
参考書									
教員からのお知らせ	とくになし								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	授業内容を文章としてまとめ、レポートとして提出することを数回求める。								
その他	平常点の割合が高いため、レポート未提出の場合にはかなりマイナスになります。								

講義コード	11B5120501	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	哲学の基本諸問題					武内 大		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	魔術的な思想と深くかかわるルネサンス期の哲学を題材としつつ、想像力、言語、身体、愛などの問題について考えたい。この授業では、哲学的な思考力、読解力、論述力、歴史・文化への関心を養成するのが目的である。								
到達目標	歴史的・文化的背景を踏まえた哲学的思考ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テキストの読解、レポート作成を含めて、授業外に計60時間以上の学修が必要となる。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション ルネサンス哲学と魔術 【第2回】 マルシリオ・フィチーノの星辰魔術 【第3回】 想像力 【第4回】 ビーコ・デッラ・ミランドラとカバラ思想 【第5回】 文字と数 【第6回】 コルネリウス・アグリッパのオカルト哲学 【第7回】 熱狂と恍惚 【第8回】 パラケルススの医学思想 【第9回】 天体と身体 【第10回】 ジョン・ディーの自然哲学 【第11回】 モナドと錬金術 【第12回】 哲学的探究としての天使召喚 【第13回】 ジョルダノ・ブルーノのエロス魔術 【第14回】 愛と絆 【第15回】 総括								
成績評価の方法	レポート（60%）、授業への参加意欲（40%）を考慮した総合評価。								
フィードバックの内容	提出された課題や質問については、随時フィードバックを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『ルネサンスの神秘思想』伊藤博明（講談社）2012								
教員からのお知らせ	資料は授業中に配布。参考書は授業中に改めてお知らせいたします。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
その他									

講義コード	11A0104200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	天台学概論 1					田村 亘禰		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	天台大師智顛（てんだいだいしちぎ）は、仏教思想史の中で、『法華経』を中心にして一切経（すべての経典）をまとめた最初の師と言える。この天台大師の説いた仏教総論とも言うべき五時八教判を中心に学んでいきたい。本講義では、むずかしい用語をなるべくやさしく解説し、ともどもに仏教哲理の世界へ歩を進めて行きたい。								
到達目標	天台教学の概略を説明できる。五時八教判の概略を説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予習・復習あわせて60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 天台大師の生涯と思想 1 【第2回】 天台大師の生涯と思想 2 【第3回】 天台大師の生涯と思想 3 【第4回】 仏教思想史上における天台学の位置 【第5回】 五時判 1 【第6回】 五時判 2 【第7回】 化儀の四教 1 【第8回】 化儀の四教 2 【第9回】 化法の四教 1 【第10回】 化法の四教 2 【第11回】 三種教相 1 【第12回】 三種教相 2 【第13回】 十境十乘観法 1 【第14回】 十境十乘観法 2 【第15回】 一念三千								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（小テスト等）40%、課題（レポート等）60%で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心に毎回フィードバックを行う。								
教科書									
指定図書	『天台四教儀新釈』稲葉円成（法蔵館）1953年、『現代語訳 天台四教儀』池田魯参（山喜房佛書林）2011年、『天台四教儀談義』三友健容（大法輪閣）2016年、『天台学概論』福田堯穎（中山書房仏書林）1954年、『天台仏教の教え』多田孝文監修（大正大学出版会）2012年								
参考書	『天台学』安藤俊雄（平楽寺書店）1968年、『天台学論集』安藤俊雄（平楽寺書店）1975年								
教員からのお知らせ	テキストは、適宜、印刷物を配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0104300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	天台学概論2				田村 亘禰		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	天台大師智顛（てんだいだいしちぎ）は、仏教思想史の中で、『法華経』を中心にして一切経（すべての経典）をまとめた最初の師と言える。この天台大師の説いた仏教総論の書、『法華玄義』を中心に学んでいきたい。本講義では、むずかしい用語をなるべくやさしく解説し、とともに仏教哲理の世界へ歩を進めて行きたい。								
到達目標	『法華玄義』の内容を概略説明できる。三種教相、三法妙、待絶二妙、迹門十妙、本門十妙、本因本果、諸法実相、蓮華因果、十重顕本等の専門用語の説明ができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	予習・復習あわせて60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】法華玄義の思想1 【第3回】法華玄義の思想2 【第4回】法華玄義の思想3 【第5回】法華玄義の思想4 【第6回】法華玄義の思想5 【第7回】法華玄義の思想6 【第8回】法華玄義の思想7 【第9回】法華文句の思想1 【第10回】法華文句の思想2 【第11回】摩訶止観の思想1 【第12回】摩訶止観の思想2 【第13回】摩訶止観の思想3 【第14回】摩訶止観の思想4 【第15回】おわりに								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（小テスト等）40%、課題（レポート等）60%で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書									
指定図書	『現代語訳法華玄義（上）』菅野博史（公益財団法人東洋哲学研究所）2018年、『現代語訳法華玄義（下）』菅野博史（公益財団法人東洋哲学研究所）2019年								
参考書	『天台学』安藤俊雄（平楽寺書店）1968年、『天台学論集』安藤俊雄（平楽寺書店）1975年								
教員からのお知らせ	テキストは適宜、印刷物を配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付ける。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0109000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第1期
科目名	東洋文化史1							手島 一真	第1期
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、東アジア漢字文化圏の歴史上の中心である中国において生成した宗教的思潮の展開を探ることを目的とします。内容としては、中国学（歴史、文化）に取り組むための方法を紹介することから始め、古代中国に成立した「儒教」について、「礼」を媒介とする古代の国家・社会との関係、精神文化的特徴と展開、貴族制時代における展開とその後、について講説します。								
到達目標	「礼」を媒介とした、儒教と古代の国家・社会との関係について説明できる。 儒教思想の構造的特徴について説明できる。 儒教発展の要因としての讖緯思想について説明できる。 魏晋・隋唐・宋の時代における儒教史の特徴について説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	手島担当科目「中国仏教史」の指定図書の記載も参考に、中国史の概説書を、太古の時代から唐代あたりまで、事前に読んでおいてください。また授業後には、下記指定図書・参考書などを用いて、学的関心を広げてください。なおこの科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 導入－中国史と時代区分 【第2回】 中国学研究入門－地勢、歴史、歴史書 【第3回】 中国学研究入門－中国の神話（およびその歴史との関係） 【第4回】 中国学研究入門－書物の分類と「経書」 【第5回】 儒教の成立－礼と儒教 【第6回】 儒教の成立－儒教国家の成立 【第7回】 儒教の成立－礼の経書 【第8回】 特論：儒教思想の構造（1） 【第9回】 特論：儒教思想の構造（2） 【第10回】 特論：讖緯思想（1） 【第11回】 特論：讖緯思想（2） 【第12回】 儒教の拡がり－貴族制の時代 【第13回】 儒教の拡がり－周孔の教え 【第14回】 儒教の拡がり－東アジア世界の中で 【第15回】 総括								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢45%、学期末試験もしくはレポート55%								
フィードバックの内容	試験や課題に対する講評を、授業時に行います。								
教科書	『東アジアの儒教と礼』小島毅（山川出版社）2004年								
指定図書	『中国の宗教』アドラー（春秋社）2005年、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）1990年、『宗教から見る中国古代史』渡邊義浩（ナツメ社）2007年、『儒教と中国：「二千年の正統思想」の起源』渡邊義浩（講談社選書メチエ）2010年、『中国仏教思想史』木村清孝（世界聖典刊行協会）1979年								
参考書	『中国思想史』武内義雄（岩波全書）1957年、『儒教史』戸川芳郎ほか（山川出版社／世界宗教史叢書）1987年、『講座道教（全6巻）』野口鐵郎ほか（雄山閣出版）1999～2001年、『シリーズ道教の世界（全5巻）』田中文雄ほか（春秋社）2002～03年、『中国の思想』村山吉廣（社会思想社／現代教養文庫）1972年、『アジア歴史事典（全10巻）』貝塚茂樹ほか（平凡社）1984年（再刊）、『道教事典』野口鐵郎ほか（平河出版社）1994年、『「道教」の大事典』坂出祥伸ほか（新人物往来社）1994年								
教員からのお知らせ	できるだけ1年次に、「東洋文化史2」とあわせて履修して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習など								
その他									

講義コード	11A0109100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第2期
科目名	東洋文化史2								
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、東アジア漢字文化圏の歴史上の中心である中国において生成した宗教思潮の展開を探ることを目的とします。内容としては、神仙信仰などを核心とする「道教」の成立と展開、インドより伝来した「仏教」が中国社会に浸透し発展していくなかで行われた儒仏道三教交渉の事情とそこに現れた思想状況について講義します。								
到達目標	道教の源流たる、道家と神仙思想について説明できる。 漢～南北朝～隋唐時代に形成された道教の特徴について説明できる。 南北朝～隋唐時代における道教と仏教・儒教との交渉の特徴について説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	手島担当科目「中国仏教史」の指定図書の記載も参考に、中国史の概説書を、太古の時代から唐代あたりまで、事前に読んでおいてください。また授業後には、下記指定図書・参考書などを用いて、学的関心を広げてください。なおこの科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 導入－諸子百家（1）：兵家、縦横家、法家、墨家、楊子、名家 【第2回】 導入－諸子百家（2）：道家（付 儒家） 【第3回】 中国史のなかの道教 【第4回】 道家と神僊（神仙）（1）：老子 【第5回】 道家と神僊（神仙）（2）：黄老・老荘・そして道家 【第6回】 道家と神僊（神仙）（3）：方技と神僊／さまざまな神僊術 【第7回】 道家と神僊（神仙）（4）：鬼神信仰と符の源流 宗教的信仰集団と経典の形成（1）：黄老信仰 【第8回】 宗教的信仰集団と経典の形成（2）：五斗米道と天師道 【第9回】 宗教的信仰集団と経典の形成（3）：上清経・靈宝経・三皇経の成立 【第10回】 宗教的信仰集団と経典の形成（4）：金丹鍊成の法 【第11回】 道教教理の大成（1）：教理の統合 【第12回】 道教教理の大成（2）：隋から唐へ 【第13回】 道教教理の大成（3）：『雲笈七籤』と道教教理 【第14回】 〈特論〉：隋唐時代までの儒教・仏教・道教による交渉 【第15回】 総括								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢45%、学期末試験もしくはレポート55%								
フィードバックの内容	試験や課題に対する講評を、授業内で行います。								
教科書	『中国道教の展開』横手裕（山川出版社）2008年								
指定図書	『中国の宗教』アドラー（春秋社）2005年、『宗教から見る中国古代史』渡邊義浩（ナツメ社）2007年、『中国の道教』金正輝（平川出版社）1995年、『中国の道教』小林正美（創文社／中国学芸叢書）1998年、『道教の歴史』横手裕（山川出版社）2015年、『中国仏教思想史』木村清孝（世界聖典刊行協会）1979年								
参考書	『中国思想史』武内義雄（岩波全書）1957年、『儒教史』戸川芳郎ほか（山川出版社／世界宗教史叢書）1987年、『講座道教（全6巻）』野口鐵郎ほか（雄山閣出版）1999～2001年、『シリーズ道教の世界（全5巻）』田中文雄ほか（春秋社）2002～03年、『中国の思想』村山吉廣（社会思想社／現代教養文庫）1972年、『アジア歴史事典（全10巻）』貝塚茂樹ほか（平凡社）1984年（再刊）、『道教事典』野口鐵郎ほか（平河出版社）1994年、『道教の大事典』坂出祥伸ほか（新人物往来社）1994年								
教員からのお知らせ	本科目は「東洋文化史1」を学んでから履修することが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習など								
その他									

講義コード	11A0102800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	日蓮聖人伝1								
履修前提条件						備考			
授業の目的	鎌倉時代中期に活躍した日蓮聖人(1222-82)は、釈尊が説かれた仏教經典の中でも『法華經』の教えを根本に据え、法華經信仰によって世の人々を救う道を開いた。本授業では、法華經弘通に邁進した日蓮聖人の生涯を思想と行動の両面から究明することを目的とし、最新の研究成果を踏まえつつその生涯を概観していく。								
到達目標	史実と伝承の違いを踏まえて、日蓮聖人の生涯に関する基本的事項が体系的に説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】日蓮聖人伝研究の現在地 【第3回】日蓮聖人が生きた時代 【第4回】誕生と出自 【第5回】清澄登山・出家 【第6回】鎌倉・京畿遊学 【第7回】立教開宗 【第8回】鎌倉布教				【第9回】災害の続出と上奏の準備 【第10回】『立正安国論』の上奏 【第11回】松葉谷法難 【第12回】伊豆法難 【第13回】安房帰省 【第14回】小松原法難 【第15回】蒙古国書到来と『立正安国論』の再検証				
成績評価の方法	学期末試験(70%)、授業への取り組み姿勢(30%)を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『増補改訂 日蓮—その行動と思想』高木豊(太田出版)2002年								
指定図書	『日蓮—その生涯と思想』久保田正文(講談社)1967年、『講座日蓮2 日蓮の生涯と思想』田村芳朗・宮崎英修編(春秋社)1972年、『法華經の行者日蓮』姉崎正治(講談社)1983年、『日蓮聖人—その生涯と教え—』日蓮宗新聞社編(日蓮宗新聞社)1991年、『日蓮とその弟子 増補版』宮崎英修(平楽寺書店)1997年、『日蓮』中尾堯(吉川弘文館)2001年、『シリーズ日蓮2 日蓮の思想とその展開』小松邦彰・花野充道編(春秋社)2014年、『日蓮聖人の歩みと教え(鎌倉期)』高橋俊隆(山喜房佛書林)2016年、『日蓮聖人の歩みと教え(佐渡期)』高橋俊隆(山喜房佛書林)2016年、『日蓮聖人の歩みと教え(身延期)』高橋俊隆(山喜房佛書林)2018年								
参考書	『日蓮聖人伝十講』山川智応(新潮社)1921年、『日蓮聖人正伝』鈴木一成編(平楽寺書店)1977年、『日蓮宗小事典』小松邦彰・冠賢一編(法蔵館)1987年、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)2000年改訂増補第三刷、『目からウロコの 日蓮と日蓮宗』小松邦彰監修(学習研究社)2006年、『日蓮辞典 新装版』宮崎英修編(東京堂出版)2013年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	第2期開講の「日蓮聖人伝2」と合わせて受講することを希望します。								

講義コード	11A0102900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第2期
科目名	日蓮聖人伝2								
履修前提条件						備考			
授業の目的	鎌倉時代中期に活躍した日蓮聖人(1222-82)は、釈尊が説かれた仏教經典の中でも『法華經』の教えを根本に据え、法華經信仰によって世の人々を救う道を開いた。本授業では、法華經弘通に邁進した日蓮聖人の生涯を思想と行動の両面から究明することを目的とし、最新の研究成果を踏まえつつその生涯を概観していく。								
到達目標	史実と伝承の違いを踏まえて、日蓮聖人の生涯に関する基本的事項が体系的に説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】良観房忍性との対決 【第3回】龍口法難 【第4回】依智より寺泊へ 【第5回】佐渡流罪(1) 【第6回】佐渡流罪(2) 【第7回】佐渡流罪(3) 【第8回】身延入山				【第9回】蒙古襲来(元寇) 【第10回】身延での生活(1) 【第11回】身延での生活(2) 【第12回】身延での生活(3) 【第13回】熱原法難 【第14回】身延下山と入滅 【第15回】まとめ				
成績評価の方法	学期末試験(70%)、授業への取り組み姿勢(30%)を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『増補改訂 日蓮—その行動と思想』高木豊(太田出版)2002年								
指定図書	『日蓮—その生涯と思想』久保田正文(講談社)1967年、『講座日蓮2 日蓮の生涯と思想』田村芳朗・宮崎英修編(春秋社)1972年、『法華經の行者日蓮』姉崎正治(講談社)1983年、『日蓮聖人—その生涯と教え—』日蓮宗新聞社編(日蓮宗新聞社)1991年、『日蓮とその弟子 増補版』宮崎英修(平楽寺書店)1997年、『日蓮』中尾堯(吉川弘文館)2001年、『シリーズ日蓮2 日蓮の思想とその展開』小松邦彰・花野充道編(春秋社)2014年、『日蓮聖人の歩みと教え(鎌倉期)』高橋俊隆(山喜房佛書林)2016年、『日蓮聖人の歩みと教え(佐渡期)』高橋俊隆(山喜房佛書林)2016年、『日蓮聖人の歩みと教え(身延期)』高橋俊隆(山喜房佛書林)2018年								
参考書	『日蓮聖人伝十講』山川智応(新潮社)1921年、『日蓮聖人正伝』鈴木一成編(平楽寺書店)1977年、『日蓮宗小事典』小松邦彰・冠賢一編(法蔵館)1987年、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺)2000年改訂増補第三刷、『目からウロコの 日蓮と日蓮宗』小松邦彰監修(学習研究社)2006年、『日蓮辞典 新装版』宮崎英修編(東京堂出版)2013年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	第1期開講の「日蓮聖人伝1」と合わせて受講することを希望します。								

講義コード	11A1114600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	小高 絢子	開講期	第2期
科目名	日本社会と宗教／社会と宗教1					小高 絢子		第2期	
履修前条件						備考			
授業の目的	宗教がどのような形でわれわれの生活に関わってくるかは、その時々時代・社会状況によって大きく異なっている。本講義では、現代社会において宗教がどのような場面でわれわれの日常に関わっているかについて、諸宗教の動向と注目すべき宗教現象から学ぶことで、グローバル化・多様化する日本において多くの人々の価値観を理解し、共生していくための手立てとしての宗教学の基本的知識や主体的な思考力の獲得を目指す。								
到達目標	1. 現代の諸宗教に関する基礎知識（歴史・特徴・宗教状況）を得る。 2. 現代の日本社会において宗教と関わる領域で注目されるテーマや宗教現象について、その概要を説明できる。 3. その背景にある社会状況や、多様な価値観を理解したうえで、自身の考えを述べることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、1. 毎授業内容の予習と復習、2. 中間・期末レポート提出にあたっての資料収集、テーマ設定、レポート作成を行うこと。適宜、シラバスや授業内で紹介する参考書等を参照しつつ学修を進めることが望ましい。								
授業計画	<p>本講義では、第2回目～第6回目にかけて諸宗教の基本的知識（歴史・特徴・宗教状況）を確認した上で、第8回目～第14回目ではそれらの宗教と社会との関わりにおいて注目すべきテーマや宗教現象について取り上げる。</p> <p>【第1回】ガイダンスとイントロダクション：授業の目的・内容・成績評価についての説明、次回授業に向けたアンケートの実施</p> <p>【第2回】現代日本の宗教状況・現代日本人の宗教意識：宗教は衰退したのか？</p> <p>【第3回】日本と世界の諸宗教：仏教・神道・儒教・道教</p> <p>【第4回】日本と世界の諸宗教：キリスト教・ユダヤ教</p> <p>【第5回】日本と世界の諸宗教：イスラーム・ヒンドゥー教</p> <p>【第6回】日本と世界の諸宗教：新宗教・新新宗教</p> <p>【第7回】確認テストとフィードバック：前期の授業内容に関するテストの実施、解説</p> <p>【第8回】宗教とスピリチュアリティ：スピリチュアルブーム・スピリチュアル市場</p> <p>【第9回】宗教と観光：聖地巡礼ブーム・自己変容</p> <p>【第10回】宗教と社会貢献：震災復興・ケア</p> <p>【第11回】宗教とジェンダー：女性観・女人禁制</p> <p>【第12回】宗教と移民：オールドカマーとニューカマー・国外布教</p> <p>【第13回】宗教と政治：政教分離・ファンダメンタリズム</p> <p>【第14回】宗教とカルト問題：宗教的コミュニケーション・マインドコントロール</p> <p>【第15回】まとめ：授業の振り返り、フィードバック、レポートの作成・提出</p> <p>なお、以上に示した講義内容は、受講生の人数や関心、理解度に合わせて変更を行う場合がある。</p>								
成績評価の方法	確認テスト（20%）、期末レポート（30%）、授業への取り組み姿勢（50%）で評価する。確認テストは、到達目標1の理解度で評価する。期末レポートは、到達目標2.3に記載の内容について、先行研究や具体例を挙げて論述できることを評価基準とする。授業への取り組み姿勢については、授業内容への質問・コメント・ディスカッションやアンケートへの参加などを通して総合的に評価する。								
フィードバックの内容	アンケートやコメントへのフィードバック、確認テストの解説は必要に応じて授業内で行う。期末レポートに対するフィードバックについても授業内で指示する。								
教科書 指定図書									
参考書	『宗教社会学を学ぶ人のために』井上順孝編（世界思想社）2016年、『よくわかる宗教学』櫻井義秀・平藤喜久子編（ミネルヴァ書房）2015年、『よくわかる宗教社会学』櫻井義秀・三木英編（ミネルヴァ書房）2007年、『宗教学入門』棚次正和・山中弘編（ミネルヴァ書房）2005年、『世界は宗教とこうしてつきあっている』山中弘・藤原聖子編（弘文堂）2013年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は講義終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応する。また、メールでも受け付ける（アドレスは授業内で指示）。								
アクティブラーニングの内容	本講義は、授業内および課題レポート作成にあたり、以下のアクティブ・ラーニングを含む。 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、調査学習、ロールプレイング／シミュレーション								
その他									



講義コード	11A0110800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	安田 治樹	開講期	第1期																		
科目名	日本美術史1				安田 治樹			第1期																			
履修前提条件					備考																						
授業の目的	わが国の造形美術は、古くから大陸や半島の影響を受けつつ、独自の感性に支えられて発達してきました。ことに仏教文化とその美術は、古代以降多様な展開を遂げて、それぞれの分野に最高度の芸術性を達成しました。当期では仏教美術を軸に、古墳時代を含む飛鳥から奈良時代、平安時代までの古代における変遷を、建築・彫刻・絵画・書等の各分野にわたりひろく概観します。																										
到達目標	パワーポイントや参考書等の図版を参照することにより、各時代各分野の主要な美術作品を記憶にとどめ、作品に係わる必要な基礎知識を修得すること、併せてわが国がたどった歴史や文化、さらに大陸、半島との交渉史の概要を理解し、その間の美術史の大まかな変遷を説明し得ること等を目標とします。																										
授業外学修内容・授業外学修時間数	この授業では、毎回準備のための授業外学修（配布資料及び参考図書による予習・復習等）を行うこととし、これに要する時間は、課題への回答やレポートの作成と合わせ、各週概ね4時間、期間中60時間以上とします。																										
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】序－日本美術の特質と歴史的展開</td> <td>【第9回】奈良時代（5）書・工芸</td> </tr> <tr> <td>古墳時代／飛鳥時代（1）</td> <td>【第10回】平安時代（1）建築</td> </tr> <tr> <td>【第2回】飛鳥時代（2）</td> <td>【第11回】平安時代（2）彫刻－1</td> </tr> <tr> <td>【第3回】前奈良期（白鳳時代）（1）建築・彫刻</td> <td>【第12回】平安時代（3）彫刻－2</td> </tr> <tr> <td>【第4回】前奈良期（白鳳時代）（2）絵画</td> <td>【第13回】平安時代（4）絵画－1</td> </tr> <tr> <td>【第5回】奈良時代（1）建築</td> <td>【第14回】平安時代（5）絵画－2</td> </tr> <tr> <td>【第6回】奈良時代（2）彫刻－1</td> <td>【第15回】平安時代（6）書・工芸</td> </tr> <tr> <td>【第7回】奈良時代（3）彫刻－2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第8回】奈良時代（4）絵画</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】序－日本美術の特質と歴史的展開	【第9回】奈良時代（5）書・工芸	古墳時代／飛鳥時代（1）	【第10回】平安時代（1）建築	【第2回】飛鳥時代（2）	【第11回】平安時代（2）彫刻－1	【第3回】前奈良期（白鳳時代）（1）建築・彫刻	【第12回】平安時代（3）彫刻－2	【第4回】前奈良期（白鳳時代）（2）絵画	【第13回】平安時代（4）絵画－1	【第5回】奈良時代（1）建築	【第14回】平安時代（5）絵画－2	【第6回】奈良時代（2）彫刻－1	【第15回】平安時代（6）書・工芸	【第7回】奈良時代（3）彫刻－2		【第8回】奈良時代（4）絵画	
【第1回】序－日本美術の特質と歴史的展開	【第9回】奈良時代（5）書・工芸																										
古墳時代／飛鳥時代（1）	【第10回】平安時代（1）建築																										
【第2回】飛鳥時代（2）	【第11回】平安時代（2）彫刻－1																										
【第3回】前奈良期（白鳳時代）（1）建築・彫刻	【第12回】平安時代（3）彫刻－2																										
【第4回】前奈良期（白鳳時代）（2）絵画	【第13回】平安時代（4）絵画－1																										
【第5回】奈良時代（1）建築	【第14回】平安時代（5）絵画－2																										
【第6回】奈良時代（2）彫刻－1	【第15回】平安時代（6）書・工芸																										
【第7回】奈良時代（3）彫刻－2																											
【第8回】奈良時代（4）絵画																											
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、随時提出を求めるレポート、あるいはオンライン授業の際の出席確認を兼ねた課題への回答（30%）、原則実施を予定する期末試験（50%）により総合評価します。																										
フィードバックの内容	レポート、及び課題への回答等については授業時間内、またはオンラインの「振り返り」「レポート」「掲示板」等の機能を活用し、その都度必要な講評を行います。																										
教科書																											
指定図書																											
参考書	『日本の美術 第1巻（日本美術入門）』吉川逸治編（平凡社）1966、『日本美術史要説（増補新訂）』久野健・持丸一夫（吉川弘文館）1968、『日本美術全史1（原始・飛鳥奈良時代）』藤田経世編（美術出版社）1969、『日本美術全史2（平安時代）』藤田経世編（美術出版社）1969、『原色図典 日本美術史年表』太田博太郎他編（集英社）1986、『日本美術史事典』辻惟雄・田辺三郎助他編（平凡社）1987、『日本美術全集 全20巻』辻惟雄他編（小学館）2012～16																										
教員からのお知らせ	主要な作品の観賞を促し、課題やレポート作成のため随時博物館や美術館での実地見学を勧奨します。社会情勢により見学が制約される場合も、配布資料の他、美術全集等の参考書の参照を怠らぬよう求めます。																										
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談については、対面授業では授業終了後教室において、オンラインの場合は「掲示板機能」等を活用し随時対応します。																										
アクティブラーニングの内容																											
その他																											

講義コード	11A0110900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	安田 治樹	開講期	第2期																
科目名	日本美術史2				安田 治樹			第2期																	
履修前提条件					備考																				
授業の目的	わが国の造形美術は、古くから大陸や半島の影響を受けつつ、独自の感性に支えられて発達してきました。ことに仏教文化とその美術は、古代以降多様な展開を遂げて、それぞれの分野に最高度の芸術性を達成しました。当期では仏教美術を軸に、中世鎌倉時代から安土桃山時代、すなわち概ね近世初頭までの、建築・彫刻・絵画・書等の各分野にわたり、その変遷をひろく概観します。																								
到達目標	パワーポイントや参考書等の図版を参照することにより、各時代各分野の主要な美術作品を記憶にとどめ、作品に係わる必要な基礎知識を修得すること、併せてわが国がたどった歴史や文化、さらに大陸、半島との交渉史の概要を理解し、その間の美術史の大まかな変遷を説明し得ること等を目標とします。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この授業では、毎回準備のための授業外学修（配布資料及び参考図書による予習・復習等）を行うこととし、これに要する時間は、課題への回答やレポートの作成と合わせ、各週概ね4時間、期間中60時間以上とします。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】鎌倉時代（1）建築</td> <td>【第9回】室町時代（2）絵画－1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】鎌倉時代（2）彫刻－1</td> <td>【第10回】室町時代（3）絵画－2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】鎌倉時代（3）彫刻－2</td> <td>【第11回】室町時代（4）工芸</td> </tr> <tr> <td>【第4回】鎌倉時代（4）絵画－1</td> <td>【第12回】桃山時代（1）建築・彫刻</td> </tr> <tr> <td>【第5回】鎌倉時代（5）絵画－2</td> <td>【第13回】桃山時代（2）絵画－1</td> </tr> <tr> <td>【第6回】鎌倉時代（6）補遺－1 禅宗美術・書</td> <td>【第14回】桃山時代（3）絵画－2</td> </tr> <tr> <td>【第7回】鎌倉時代（7）補遺－2 垂迹美術</td> <td>【第15回】江戸時代 近世美術の展望</td> </tr> <tr> <td>【第8回】室町時代（1）建築・彫刻</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】鎌倉時代（1）建築	【第9回】室町時代（2）絵画－1	【第2回】鎌倉時代（2）彫刻－1	【第10回】室町時代（3）絵画－2	【第3回】鎌倉時代（3）彫刻－2	【第11回】室町時代（4）工芸	【第4回】鎌倉時代（4）絵画－1	【第12回】桃山時代（1）建築・彫刻	【第5回】鎌倉時代（5）絵画－2	【第13回】桃山時代（2）絵画－1	【第6回】鎌倉時代（6）補遺－1 禅宗美術・書	【第14回】桃山時代（3）絵画－2	【第7回】鎌倉時代（7）補遺－2 垂迹美術	【第15回】江戸時代 近世美術の展望	【第8回】室町時代（1）建築・彫刻	
【第1回】鎌倉時代（1）建築	【第9回】室町時代（2）絵画－1																								
【第2回】鎌倉時代（2）彫刻－1	【第10回】室町時代（3）絵画－2																								
【第3回】鎌倉時代（3）彫刻－2	【第11回】室町時代（4）工芸																								
【第4回】鎌倉時代（4）絵画－1	【第12回】桃山時代（1）建築・彫刻																								
【第5回】鎌倉時代（5）絵画－2	【第13回】桃山時代（2）絵画－1																								
【第6回】鎌倉時代（6）補遺－1 禅宗美術・書	【第14回】桃山時代（3）絵画－2																								
【第7回】鎌倉時代（7）補遺－2 垂迹美術	【第15回】江戸時代 近世美術の展望																								
【第8回】室町時代（1）建築・彫刻																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、随時提出を求めるレポート、あるいはオンライン授業の際の出席確認を兼ねた課題への回答（30%）、原則実施を予定する期末試験（50%）により総合評価します。																								
フィードバックの内容	レポート、及び課題への回答等については授業時間内、またはオンラインの「振り返り」「レポート」「掲示板」等の機能を活用し、その都度必要な講評を行います。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	『日本美術史要説（増補新訂）』久野健・持丸一夫（吉川弘文館）1968、『日本美術全史3（鎌倉・室町時代）』藤田経世編（美術出版社）1969、『日本美術全史4（安土桃山・江戸時代I）』藤田経世編（美術出版社）1969、『原色図典 日本美術史年表』太田博太郎他編（集英社）1986、『日本美術史事典』辻惟雄・田辺三郎助他編（平凡社）1987、『日本美術全集 全20巻』辻惟雄他編（小学館）2012～16																								
教員からのお知らせ	主要な作品の観賞を促し、課題やレポート作成のため随時博物館や美術館での実地見学を勧奨します。社会情勢により見学が制約される場合も、配布資料の他、美術全集等の参考書の参照を怠らぬよう求めます。																								
オフィスアワー	専本授業に関する質問・相談については、対面授業では授業終了後教室において、オンラインの場合は「掲示板機能」等を活用し随時対応します。																								
アクティブラーニングの内容																									
その他																									

講義コード	11A0100600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	安中尚史・木間俊文・三輪是法	開講期	第2期
科目名	日本仏教研究入門								
履修前提条件						備考			
授業の目的	本授業は、3年次進級の際の所属コース決定に向けて、日本仏教コースの学びの柱となる「日本仏教と文化」・「日本仏教の歴史的展開」・「日本仏教の思想的展開」の3つの研究領域の内容とその研究法について学修することを目的とする。								
到達目標	日本仏教研究の内容とその研究法について説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業計画と参考図書等を参照し、日本仏教の思想・歴史について事前に調べた上で授業に臨むこと。なお、授業外学修は60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス、日本文化史研究入門（1） 【第2回】 日本文化史研究入門（2） 【第3回】 日本文化史研究入門（3） 【第4回】 日本文化史研究入門（4） 【第5回】 日本文化史研究入門（5） 【第6回】 日本仏教史研究入門（1） 【第7回】 日本仏教史研究入門（2） 【第8回】 日本仏教史研究入門（3） 【第9回】 日本仏教史研究入門（4） 【第10回】 日本仏教史研究入門（5） 【第11回】 日本仏教思想研究入門（1） 【第12回】 日本仏教思想研究入門（2） 【第13回】 日本仏教思想研究入門（3） 【第14回】 日本仏教思想研究入門（4） 【第15回】 日本仏教思想研究入門（5）、まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（レポート等）50%で総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	(なし)								
指定図書	『仏教史研究ハンドブック』 佛教学会編（法蔵館）2017年								
参考書	『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』 末木文美士（新潮社）1992年、『日本文化史ハンドブック』 阿部猛・西垣晴次編（東京堂出版）2002年								
教員からのお知らせ	配布資料に基づいて授業を行います。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0104400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	安中 尚史	開講期	第1期
科目名	日本仏教史概論／日本仏教史Ⅰ								
履修前提条件						備考			
授業の目的	紀元前6世紀頃にインドで興った仏教は、西域をへて中国に拡大し、その後、朝鮮半島から日本海を渡って日本に到来したのは6世紀のことです。以来、仏教は日本人の思想や行動、文化に多大な影響を及ぼすこととなりました。この授業は、日本に仏教が伝来し、その後、国家的に受け入れられ、定着を果たしてきた過程についての考察を目的とします。								
到達目標	日本仏教の歴史的な展開について、その基本知識と正しい理解の修得を目標とします。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書を使用せず、プリントを配布して進めます。授業計画とプリントを参照し、各時代の日本仏教の展開について事前に調べたうえで、講義に臨んで下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	【第1回】 仏教の日本伝来 【第9回】 中世における仏教の展開3 【第2回】 古代における仏教の展開1 【第10回】 中世における仏教の展開4 【第3回】 古代における仏教の展開2 【第11回】 近世における仏教の展開1 【第4回】 古代における仏教の展開3 【第12回】 近世における仏教の展開2 【第5回】 古代における仏教の展開4 【第13回】 近世における仏教の展開3 【第6回】 古代における仏教の展開5 【第14回】 近代・現代における仏教の展開1 【第7回】 中世における仏教の展開1 【第15回】 近代・現代における仏教の展開2 【第8回】 中世における仏教の展開2								
	※対面式で期末試験を実施します。本授業は時間割りの上では、水曜日・1時限に設定していますので、基本的には第1期期末試験期間中の水曜日・1時限目に実施します。詳細については授業やポータルサイト等で連絡します。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%（毎回の講義課題<不正に対しては厳正に対応します>）、対面式の期末試験で70%評価します。※対面式で期末試験を実施します。本授業は時間割りの上では、水曜日・1時限に設定していますので、基本的には第1期期末試験期間中の水曜日・1時限目に実施します。詳細については授業やポータルサイト等で連絡します。								
フィードバックの内容	現在、大学が新たな学習管理システム（LMS）の導入を予定しています。「Microsoft365」、「ポータルサイト」「新たな学習管理システム」のうち、どれを使用するか未定です。詳細については、第1回目の授業でお伝えします。								
教科書	プリントを配布します								
指定図書									
参考書	『日本仏教史』 辻善之助（岩波書店）1944～1953、『論集日本仏教史』（雄山閣）1986～1999、『日本仏教史』（吉川弘文館）1986～1998、『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』 末木文美士（新潮社）1992								
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組んで下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0104900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	日本仏教思想概論				三輪 是法		第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教思想の中で、日本仏教は独自の教義を形成してきた。それは中国仏教を基底に、日本古来の宗教や思想などと融合し、時代的变化を踏まえて宗派化・専修化したものであった。この授業では、日本仏教の思想的特徴について、古代から現代に至るまでを概説していく。						
到達目標	日本仏教の宗派ごとに形成された仏教思想について、時代ごとに理解する。延いては、日本人の宗教観の基底を知る。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料や参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。						
授業計画	【第1回】 オリエンテーション～日本仏教とは？ 【第2回】 天台宗 【第3回】 真言宗 【第4回】 禅宗① 【第5回】 禅宗② 【第6回】 浄土宗 【第7回】 浄土真宗 【第8回】 日蓮宗 【第9回】 仏教と神道 【第10回】 仏教とキリスト教 【第11回】 仏教と儒教 【第12回】 仏教と近代① 【第13回】 仏教と近代② 【第14回】 仏教と新興宗教① 【第15回】 仏教と新興宗教②～総括						
成績評価の方法	毎回提出する振り返りレポート40パーセント、期末試験60パーセントで評価する。						
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『日本仏教史』末木文美士（新潮社）1996年						
教員からのお知らせ	テキストはありません。資料と皆さんが作成するノートを自分のテキストにしてください。						
オフィスアワー	メールとオンラインで可能な限り対応します。アドレスはポータルサイトの掲示板を確認してください。						
アクティブラーニングの内容	問答形式で進めていく。						
その他							

講義コード	11A0105000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	日本仏教思想特講 1				都守 基一		第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	日蓮聖人の教学は、印度・中国・日本の三国に伝来した法華仏教思想史上の一大頂点と見ることができる。本講義では、聖人教学の源流をなした先師の教学を概観し、聖人教学との思想的連続面・不連続面等の連関を明示し、より深く聖人教学を理解していきたい。						
到達目標	日蓮聖人の立場・視点から、仏教教理史（特に日本上古天台教理史）の意義を概略、話すことができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回の内容について、自宅や図書館等で予習・復習を行うこととし、宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 日蓮聖人の思想系譜－日蓮聖人と天台宗－ 【第2回】 天台大師の生涯と思想 【第3回】 『法華玄義』の思想（一） 【第4回】 『法華玄義』の思想（二） 【第5回】 『法華文句』の思想（一） 【第6回】 『法華文句』の思想（二） 【第7回】 『摩訶止観』の思想 【第8回】 妙楽大師湛然の思想 【第9回】 伝教大師最澄の思想 【第10回】 慈覚大師円仁の思想 【第11回】 智証大師円珍の思想 【第12回】 五大院安然の思想 【第13回】 恵心僧都源信の思想 【第14回】 中古天台本覚思想 【第15回】 まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢10%、小テスト20%、宿題20%、レポート50%						
フィードバックの内容							
教科書							
指定図書	『法華思想史上の日蓮聖人』山川智応（新潮社）1933年、『法華教学史の研究』塩田義遜（塩田教授古稀記念出版）1960年、『上古日本天台本門思想史』浅井円道（平楽寺書店）1973年						
参考書	『天台教学史』島地大等（隆文館）1986年、『日本仏教の開展とその基調』碓 慈弘（三省堂出版）1948年、『鎌倉新仏教思想の研究』田村芳朗（岩波書店）1965年、『日本仏教論』田村芳朗（春秋社）1991年、『本覚思想論』田村芳朗（春秋社）1990年、『台密の研究』三崎良周（創文社）1988年、『台密の理論と実践』三崎良周（創文社）1994年、『台密教学の研究』大久保良峻（法蔵館）2004年、『台密思想形成の研究』水上文義（春秋社）2008年、『日本における天台学の展開』木内堯央（宗教工芸社）2012年						
教員からのお知らせ	テキストは特になし。コピー等を用意する。板書を丁寧に写し取ること。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容							
その他	【準備学習】各回の講義のテーマに関連する諸事項（人名など）について、事前に辞典等で調べた上で、授業に望むこと。						

講義コード	11A0105100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	久保田 正宏	開講期	第2期
科目名	日本仏教思想特講2				久保田 正宏			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	最澄に始まる日本天台は、中国天台から継承した法華円教教学に、日本天台独自の彩色を施した。本講義では、日蓮思想の源流を探るという観点から、主に中国・日本両天台諸師の教学と思想を概観する。そして、諸師と日蓮との思想的な関連性の有無にも触れ、日蓮教学を理解する上での一助としたい。								
到達目標	主として中国・日本両天台の教学史の概要を説明し、日蓮思想との関連についても概説することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の内容について、予習と復習を行い、授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 総説－仏教教学史における日蓮思想の源流－ 【第2回】 天台大師智顛の教学（一） 【第3回】 天台大師智顛の教学（二） 【第4回】 荊溪大師湛然の教学 【第5回】 日本天台教学概説 【第6回】 伝教大師最澄（一） 【第7回】 伝教大師最澄（二） 【第8回】 空海の密教（東密）と天台密教（台密）				【第9回】 慈覚大師円仁（一） 【第10回】 慈覚大師円仁（二） 【第11回】 智証大師円珍 【第12回】 五大院安然（一） 【第13回】 五大院安然（二） 【第14回】 中古天台本覚思想と鎌倉時代の仏教 【第15回】 総括（期末試験）				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験（50%）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを、翌週の授業内にて行う場合がある。								
教科書									
指定図書	『法華思想史上の日蓮聖人』山川智応（新潮社。浄妙全集刊行会より再刊）1933年、『法華教学史の研究』塩田義遜（塩田教授古稀記念出版会。日本図書センターより再刊）1960年、『上古日本天台本門思想史』浅井円道（平楽寺書店）1973年、『天台本覚論』多田厚隆・大久保良順・田村芳朗・浅井円道校注（岩波書店）1973年、『台密教学の研究』大久保良峻（法蔵館）2004年								
参考書	『天台教学史』鳥地大等（明治書院。中山書房および隆文館より再刊）1929年、『日本仏教の開展とその基調 上・下』裕慈弘（三省堂。名著普及会より再刊）1948・1953年、『天台学概論』福田堯顕（文一出版。中山書房より再刊）1954年、『天台大師の研究—智顛の著作に関する基礎的研究—』佐藤哲英（百華苑）1961年、『台密の研究』三崎良周（創文社）1988年、『本覚思想論』田村芳朗（春秋社）1990年、『日本仏教論』田村芳朗（春秋社）1991年、『天台教学と本覚思想』大久保良峻（法蔵館）1998年、『天台学探尋—日本の文化・思想の核心を探る—』大久保良峻編著（法蔵館）2014年、『日本仏教の開展—文献より読む史実と思想—』大久保良峻編著（春秋社）2018年								
教員からのお知らせ	テキストは特になし。各回の授業で資料等を配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A1105110	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第1期
科目名	日本仏教思想特講3				三輪 是法			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教思想の中で、日本仏教は独自の教義を形成してきた。それは中国仏教を基底に、日本古来の宗教や思想などと融合し、時代の要請などによって宗派化・専修化・宗教化したものであった。この特講では、近現代の新興宗教発生の契機を理解するために、近現代における日本仏教に関する資料を講読する。								
到達目標	近現代に展開する日本仏教の思想と動向、およびその時代背景を学修し、日本人の宗教信仰の特質について理解する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料や参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】 オリエンテーション～日本仏教の特徴 【第2回】 近現代における日本仏教① 【第3回】 近現代における日本仏教② 【第4回】 日蓮主義概説 【第5回】 日蓮主義を読む1 【第6回】 日蓮主義を読む2 【第7回】 日蓮主義を読む3 【第8回】 日蓮主義を読む4 【第9回】 日蓮主義を読む5 【第10回】 日蓮主義を読む6 【第11回】 日蓮主義を読む7 【第12回】 日蓮主義を読む8 【第13回】 日蓮主義を読む9 【第14回】 日蓮主義を読む10 【第15回】 総括								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容50パーセント、最終課題レポート50パーセントで評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な語句について、対話によって理解を確認する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『近代日本の日蓮主義運動』大谷栄一（法蔵館）2001年、『近代仏教という視座』大谷栄一（べりかん社）2012年、『日蓮主義とはなんだったのか』大谷栄一（講談社）2019年、『近現代日本の法華運動』西山茂（春秋社）2016年、『近代社会と日蓮主義』戸頃重基（評論社）1972年								
教員からのお知らせ	テキストは随時配布します。								
オフィスアワー	メールとオンラインで可能な限り対応します。アドレスはポータルサイトの掲示板を確認してください。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
その他									

講義コード	11A1105120	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第2期
科目名	日本仏教思想特講4								
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教思想の中で、日本仏教は独自の教義を形成してきた。それは中国仏教を基底に、日本古来の宗教や思想などと融合し、時代の要請などによって宗派化・専修化・宗教化したものであった。この授業では、近現代における日本仏教の思想的特徴について理解する。								
到達目標	近現代に展開する日本仏教の思想と動向、およびその時代背景を学修し、日本人の宗教信仰の特質について理解する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料や参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション～近世・近代仏教について－総論1 【第2回】近現代仏教について－総論2 【第3回】近現代仏教について－総論3 【第4回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想1 【第5回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想2 【第6回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想3 【第7回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想4 【第8回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想5 【第9回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と西洋思想6 【第10回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と社会思想7 【第11回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と社会思想8 【第12回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と社会思想9 【第13回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と社会思想10 【第14回】近現代仏教に関する文献を読む－仏教と社会思想11 【第15回】総括								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント、期末課題レポート70パーセントで評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な語句について、対話によって理解を確認する。								
教科書									
指定図書	『近代日本思想体系 全23巻』（岩波書店）1991年								
参考書	『近代仏教という視座』大谷栄一（ベリかん社）2012年、『近代日本と仏教』末木文美士（トランスビュー）2004年、『日本の近代社会と仏教』吉田久一（評論社）1970年、『吉田久一著作集』吉田久一（川島書店）1989～1993年、『大正生命主義と現代』鈴木貞美 編（河出書房新社）1995年								
教員からのお知らせ	テキストは随時配布します。								
オフィスアワー	メールとオンラインで可能な限り対応します。アドレスはポータルサイトの掲示板を確認してください。								
アクティビティの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
その他									

講義コード	11A0105160	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	日本仏教史特論1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、「日本古代仏教史」研究をテーマに、古代における日本仏教がいかに社会と関わり合いながら展開したのかを概観するとともに、その過程において生じた様々な宗教的・社会的・文化的諸問題や歴史資料を取り上げ、その内容について考察する。								
到達目標	日本古代仏教史に関する基本的な事項について説明ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】仏教の伝来と受容 【第3回】日本仏教の歴史資料①－仏教伝来と聖徳太子－ 【第4回】奈良仏教の展開（1） 【第5回】奈良仏教の展開（2） 【第6回】日本仏教の歴史資料②－鎮護国家の美しき仏－ 【第7回】平安仏教の展開（1） 【第8回】平安仏教の展開（2） 【第9回】平安仏教の展開（3） 【第10回】日本仏教の歴史資料③－密教と曼荼羅世界－ 【第11回】日本古代史と仏教史料 【第12回】日本仏教の歴史資料④－華麗なる王朝の美－ 【第13回】古代仏教とその周辺（1） 【第14回】古代仏教とその周辺（2） 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	学期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会編（法蔵館）2017年								
指定図書	『日本仏教史 古代』速水 侑（吉川弘文館）1986年、『事典 日本の仏教』蓑輪顕量編（吉川弘文館）2014年、『日本仏教史』蓑輪顕量（春秋社）2015年、『仏教事典』日本佛教学会編（丸善出版）2021年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティビティの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0105170	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第2期
科目名	日本仏教史特論2／日本仏教史特講1				本間 俊文		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、「日本中世仏教史」研究をテーマに、中世における日本仏教がいかに社会と関わり合いながら展開したのかを概観するとともに、その過程において生じた様々な宗教的・社会的・文化的諸問題や歴史資料を取り上げ、その内容について考察する。								
到達目標	日本中世仏教史に関する基本的な事項について説明ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 中世国家と仏教（1） 【第3回】 中世国家と仏教（2） 【第4回】 日本仏教の歴史資料①－運慶と快慶－ 【第5回】 中世の仏教思想 【第6回】 中世の信仰世界（1） 【第7回】 曼荼羅本尊 【第8回】 中世の信仰世界（2） 【第9回】 中世の信仰世界（3） 【第10回】 日本仏教の歴史資料②－禅林と会所－ 【第11回】 中世の仏教文化（1） 【第12回】 中世の仏教文化（2） 【第13回】 中世僧侶の修学 【第14回】 中世僧侶の衣食住 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	学期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『仏教史研究ハンドブック』 佛教史学会編（法蔵館）2017年								
指定図書	『日本仏教史 中世』 大隅和雄、中尾堯編（吉川弘文館）1998年、『事典 日本の仏教』 蓑輪顕量編（吉川弘文館）2014年、『日本仏教史』 蓑輪顕量（春秋社）2015年、『仏教事典』 日本佛教学会編（丸善出版）2021年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0105180	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第2期
科目名	日本仏教史特論3／日本仏教史特講2				本間 俊文		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、「日本近世仏教史」研究をテーマとし、近世における日本仏教がいかに社会と関わり合いながら展開したのかを概観するとともに、その過程において生じた様々な宗教的・社会的・文化的諸問題や歴史資料を取り上げ、その内容について考察する。								
到達目標	日本近世仏教史に関する基本的な事項について説明ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 近世国家と仏教（1） 【第3回】 近世国家と仏教（2） 【第4回】 近世における諸宗派の動向（1） 【第5回】 近世における諸宗派の動向（2） 【第6回】 日本仏教の歴史資料①－天下人の造形－ 【第7回】 近世社会と仏教（1） 【第8回】 近世の出開帳 【第9回】 近世の大仏造立 【第10回】 近世社会と仏教（2） 【第11回】 近世社会と仏教（3） 【第12回】 過去帳の成立と展開 【第13回】 日本仏教の歴史資料②－将軍家と庶民の仏－ 【第14回】 仏教の学問・知識 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	学期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『仏教史研究ハンドブック』 佛教史学会編（法蔵館）2017年								
指定図書	『日本仏教史 近世』 圭室文雄（吉川弘文館）1987年、『事典 日本の仏教』 蓑輪顕量編（吉川弘文館）2014年、『日本仏教史』 蓑輪顕量（春秋社）2015年、『仏教事典』 日本佛教学会編（丸善出版）2021年								
参考書	『江戸の開帳』 比留間尚（吉川弘文館）1980年、『近世開帳の研究』 北村行遠（名著出版）1989年、『葬式仏教』 圭室諦成（大法輪閣）2004年オンデマンド版								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0105190	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教史特論4／日本仏教史2					安中 尚史		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	紀元前6世紀頃にインドで興った仏教は、西域をへて中国に拡大し、その後、朝鮮半島から日本海を渡って日本に到来したのは6世紀のことです。以来、仏教は日本人の思想や行動、文化に多大な影響を及ぼすこととなりました。								
到達目標	この授業は、日本に仏教が伝来し、その後、国家的に受け入れられ、定着を果たし、さらに新たな展開がみられた近代についての考察を目的とします。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	近代における日本仏教の歴史的な展開について、その基本知識と正しい理解の修得を目標とします。								
授業計画	教科書を使用せず、プリントを配布して進めます。授業計画とプリントを参照し、各時代の日本仏教の展開について事前に調べたうえで、講義に臨んで下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
成績評価の方法	【第1回】前近代における仏教の展開1 【第2回】前近代における仏教の展開2 【第3回】前近代における仏教の展開3 【第4回】廃仏毀釈の様相1 【第5回】廃仏稀釈の様相2 【第6回】仏教の近代化1 【第7回】仏教の近代化2 【第8回】仏教の近代化3 【第9回】仏教の近代化4 【第10回】仏教と戦争 【第11回】仏教の海外進出 【第12回】仏教と教育 【第13回】仏教の世俗化 【第14回】仏教と現代社会 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、期末試験70%で評価します。								
フィードバックの内容									
教科書	プリントを配布します								
指定図書									
参考書	『日本仏教史』辻善之助（岩波書店）1944～1953、『論集日本仏教史』（雄山閣）1986～1999、『日本仏教史』（吉川弘文館）1986～1998、『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』末木文美士（新潮社）1992								
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組んで下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A1116700	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教文献演習1／史料演習3					戸田 教敏		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	室町時代に京都を中心として活躍した久遠成院日親（1407-1488）は、その生涯を通じて日蓮聖人の教えを厳格に守るべきことを力説し、周辺からの激しい迫害を蒙りながら、命がけの伝道を展開した著名な僧侶である。この日親の代表的著作の一つに『伝灯鈔』と称する文献史料がある。本書は、その題号が示すように、日蓮聖人滅後における法灯の伝統を論じたものであり、14～15世紀の日蓮教団の動向を窺う上で貴重な文献史料である。本授業では、この『伝灯鈔』の講読を通じて、中世日蓮教団の展開の一端を緋いていく。								
到達目標	室町時代に成立した『伝灯鈔』の講読を通じて、文献史料の読解力を向上させるとともに、日親の行跡と中世日蓮教団の展開を理解し、説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】室町時代における日蓮教団の展開 【第3回】日親の生涯（1） 【第4回】日親の生涯（2） 【第5回】『伝灯鈔』の書誌 【第6回】『伝灯鈔』講読（1） 【第7回】『伝灯鈔』講読（2） 【第8回】『伝灯鈔』講読（3）								
成績評価の方法	【第9回】『伝灯鈔』講読（4） 【第10回】『伝灯鈔』講読（5） 【第11回】『伝灯鈔』講読（6） 【第12回】『伝灯鈔』講読（7） 【第13回】『伝灯鈔』講読（8） 【第14回】『伝灯鈔』講読（9） 【第15回】『伝灯鈔』講読（10）								
成績評価の方法	期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書									
指定図書	『日蓮宗宗学全書 第18巻』立正大学日蓮教学研究所編（山喜房佛書林）1959年、『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『日親－その行動と思想－』中尾堯（評論社）1971年、『反骨の導師 日親・日興』寺尾英智・北村行遠編（吉川弘文館）2004年								
参考書	『日蓮宗の成立と展開』中尾堯（吉川弘文館）1973年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編（日蓮宗宗務院）1981年、『日蓮とその弟子 増補版』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『シリーズ日蓮3 日蓮教団の成立と展開』小松邦彰・花野允道編（春秋社）2015年								
教員からのお知らせ	使用する史料等は授業時に配布します。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。「日本仏教文献演習2／史料演習4」とともに受講することを希望します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメールでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
その他									

講義コード	11A1116800	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第2期																
科目名	日本仏教文献演習2／史料演習4					戸田 教敏		第2期																	
履修前条件						備考																			
授業の目的	室町時代に京都を中心として活躍した久遠成院日親（1407-1488）は、その生涯を通じて日蓮聖人の教えを厳格に守るべきことを力説し、周辺からの激しい迫害を蒙りながら、命がけの伝道を展開した著名な僧侶である。この日親の代表的著作の一つに『伝灯鈔』と称する文献史料がある。本書は、その題号が示すように、日蓮聖人滅後における法灯の伝統を論じたものであり、14～15世紀の日蓮教団の動向を窺う上で貴重な文献史料である。本授業では、この『伝灯鈔』の講読を通じて、中世日蓮教団の展開の一端を繕っていく。																								
到達目標	室町時代に成立した『伝灯鈔』の講読を通じて、文献史料の読解力を向上させるとともに、日親の行跡と中世日蓮教団の展開を理解し、説明することができる。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第9回】 『伝灯鈔』 講読（8）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 『伝灯鈔』 講読（1）</td> <td>【第10回】 『伝灯鈔』 講読（9）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 『伝灯鈔』 講読（2）</td> <td>【第11回】 『伝灯鈔』 講読（10）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 『伝灯鈔』 講読（3）</td> <td>【第12回】 『伝灯鈔』 講読（11）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 『伝灯鈔』 講読（4）</td> <td>【第13回】 『伝灯鈔』 講読（12）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 『伝灯鈔』 講読（5）</td> <td>【第14回】 『伝灯鈔』 講読（13）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 『伝灯鈔』 講読（6）</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 『伝灯鈔』 講読（7）</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第9回】 『伝灯鈔』 講読（8）	【第2回】 『伝灯鈔』 講読（1）	【第10回】 『伝灯鈔』 講読（9）	【第3回】 『伝灯鈔』 講読（2）	【第11回】 『伝灯鈔』 講読（10）	【第4回】 『伝灯鈔』 講読（3）	【第12回】 『伝灯鈔』 講読（11）	【第5回】 『伝灯鈔』 講読（4）	【第13回】 『伝灯鈔』 講読（12）	【第6回】 『伝灯鈔』 講読（5）	【第14回】 『伝灯鈔』 講読（13）	【第7回】 『伝灯鈔』 講読（6）	【第15回】 まとめ	【第8回】 『伝灯鈔』 講読（7）	
【第1回】 ガイダンス	【第9回】 『伝灯鈔』 講読（8）																								
【第2回】 『伝灯鈔』 講読（1）	【第10回】 『伝灯鈔』 講読（9）																								
【第3回】 『伝灯鈔』 講読（2）	【第11回】 『伝灯鈔』 講読（10）																								
【第4回】 『伝灯鈔』 講読（3）	【第12回】 『伝灯鈔』 講読（11）																								
【第5回】 『伝灯鈔』 講読（4）	【第13回】 『伝灯鈔』 講読（12）																								
【第6回】 『伝灯鈔』 講読（5）	【第14回】 『伝灯鈔』 講読（13）																								
【第7回】 『伝灯鈔』 講読（6）	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 『伝灯鈔』 講読（7）																									
成績評価の方法	期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。																								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。																								
教科書																									
指定図書	『日蓮宗宗学全書 第18巻』立正大学日蓮教学研究所編（山喜房佛書林）1959年、『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『日親－その行動と思想－』中尾堯（評論社）1971年、『反骨の導師 日親・日奥』寺尾英智・北村行遠編（吉川弘文館）2004年																								
参考書	『日蓮宗の成立と展開』中尾堯（吉川弘文館）1973年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編（日蓮宗宗務院）1981年、『日蓮とその弟子 増補版』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『シリーズ日蓮3 日蓮教団の成立と展開』小松邦彰・花野充道編（春秋社）2015年																								
教員からのお知らせ	使用する史料等は授業内に配布します。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。「日本仏教文献演習1／史料演習3」の受講を前提に授業を進めるので、連続して受講することを希望します。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメールでも受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	演習																								
その他																									

講義コード	11A0109300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期															
科目名	日本文化史概論／日本文化史2					本間 俊文		第1期																
履修前条件						備考																		
授業の目的	本授業では、日本における文化の歴史的展開について概観する。日本の文化は、独特の自然環境によって築かれた基層文化の上に、中国の長い時代にわたる様々な文化と、インドで生まれた仏教とを受容していく中で形成されてきた。重層的な構造を持つ日本文化の展開を、思想・宗教・文学・芸能などの視点から概観し、日本文化の複雑な性格と豊かな内容について学んでいく。																							
到達目標	日本文化の歴史的展開や、日本の各時代における文化の特徴について説明することができる。																							
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。																							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 日本文化の見方</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 神々の祭りとは日本神話</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 仏教の伝来と受容（1）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 仏教の伝来と受容（2）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 律令制度と官人の学問</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 かな文字の成立と国文学</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 仏教の日本化と庶民への浸透</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 芸能の成熟</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 儒教とその日本化</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 町人文化とその思想（1）</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 町人文化とその思想（2）</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 日本中心の思想</td> </tr> <tr> <td>【第14回】 近代日本の諸宗教</td> </tr> <tr> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第2回】 日本文化の見方	【第3回】 神々の祭りとは日本神話	【第4回】 仏教の伝来と受容（1）	【第5回】 仏教の伝来と受容（2）	【第6回】 律令制度と官人の学問	【第7回】 かな文字の成立と国文学	【第8回】 仏教の日本化と庶民への浸透	【第9回】 芸能の成熟	【第10回】 儒教とその日本化	【第11回】 町人文化とその思想（1）	【第12回】 町人文化とその思想（2）	【第13回】 日本中心の思想	【第14回】 近代日本の諸宗教	【第15回】 まとめ
【第1回】 ガイダンス																								
【第2回】 日本文化の見方																								
【第3回】 神々の祭りとは日本神話																								
【第4回】 仏教の伝来と受容（1）																								
【第5回】 仏教の伝来と受容（2）																								
【第6回】 律令制度と官人の学問																								
【第7回】 かな文字の成立と国文学																								
【第8回】 仏教の日本化と庶民への浸透																								
【第9回】 芸能の成熟																								
【第10回】 儒教とその日本化																								
【第11回】 町人文化とその思想（1）																								
【第12回】 町人文化とその思想（2）																								
【第13回】 日本中心の思想																								
【第14回】 近代日本の諸宗教																								
【第15回】 まとめ																								
成績評価の方法	学期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。																							
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。																							
教科書	『日本文化史講義』大隅和雄（吉川弘文館）2017年																							
指定図書	『日本文化の歴史』尾藤正英（岩波新書）2000年、『日本文化史ハンドブック』阿部猛、西垣晴次編（東京堂出版）2002年、『日本文化入門』板垣俊一（武蔵野書院）2016年、『これだけは知っておきたい日本仏教文化事典』佐々木宏幹・山折哲雄監修（仏教出版）2015年																							
参考書																								
教員からのお知らせ																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。																							
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り																							
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。																							



講義コード	11A0115350	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第1期
科目名	日本文化史特講 1				田村 亘禰		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、ただ単に、伝統的な文化の価値を説くことに限定するものではない。過去の伝統的な文化であっても、それらはすべて歴史上のある時期に生み出されたものであり、常に変化しながら現代に受け継がれてきたものであることを、それが創り出された初めに立ち返って把握することを目的とする。								
到達目標	日本文化の概略を他者に話して聞かせることができる。特に仏教と日本文化の融合について説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。読み方や意味の分からない用語について、あらかじめ調べておくこと。各回の授業後に復習を行い、内容を深く理解すること。								
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】「日本」とは 【第3回】「文化」と「文明」 【第4回】日本文化の基層 【第5回】日本的な心情 【第6回】伝統芸能 【第7回】茶の湯 【第8回】音楽文化 【第9回】信仰と宗教 【第10回】日本的仏教 【第11回】寺院と寺社 【第12回】神道 【第13回】自然観 【第14回】美意識 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（小テスト等）40%、課題（期末レポート等）60%で評価します。								
フィードバックの内容	小テストを中心に毎回フィードバックを行います。								
教科書	『日本文化入門』板垣俊一（武蔵野書院）2016年								
指定図書	『日本文化史研究（上）』内藤湖南（講談社）1976年、『日本文化史研究（下）』内藤湖南（講談社）1976年、『日本文化の形成』宮本常一（そしえて）1981年								
参考書	『日本文化の核心』松岡正剛（講談社）2020年、『菊と刀』ルース・ベネディクト著／長谷川松治訳（講談社）2005年								
教員からのお知らせ	テキストは、プリントアウトを配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0115050	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	日本文化特講 1				田村 亘禰		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	私たちが多種多様な日本独自の文化を理解しておくことは、日本人としてのアイデンティティを保有することである。また、その日本文化が深く仏教文化とつながっていることも知っておくべきである。この授業が、国際化が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティの構築の一助となれば幸いである。								
到達目標	日本文化の概略、特色などを他者に話して聞かせることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後に事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】歌舞伎、能・狂言 【第2回】文楽、雅楽、落語 【第3回】陶芸、漆芸 【第4回】染織、竹工芸 【第5回】和紙、茶道 【第6回】いけばな、香道 【第7回】邦楽、囲碁・将棋 【第8回】日本絵画、浮世絵 【第9回】仏像、日本庭園 【第10回】書、正月 【第11回】節分、ひな祭り 【第12回】お花見、端午の節句 【第13回】七夕、お盆（盂蘭盆会） 【第14回】お月見、七五三 【第15回】相撲、柔道								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢20%、小テスト20%、期末レポート60%で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心に毎回フィードバックを行います。								
教科書	『日本文化ビジュアル解体新書』山本素子（SBクリエイティブ株式会社）2019年								
指定図書	『日本文化史 第二版』家永三郎（岩波書店）1982年、『日本文化史講義』大隅和雄（吉川弘文館）2017年、『日本文化の歴史』尾藤正英（岩波書店）2000年、『日本文化史ハンドブック』阿部猛・西垣晴次編（東京堂出版）2002年								
参考書	『日本文化における時間と空間』加藤周一（岩波書店）2007年、『武士道』新渡戸稲造著／岬龍一郎訳（PHP 研究所）2005年								
教員からのお知らせ	授業に集中すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0115100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	松野 智章	開講期	第2期																
科目名	日本文化特講2／宗教の文化					松野 智章		第2期																	
履修前条件						備考																			
授業の目的	日本文化を理解するために「神道とは何か」を理解することを目的とする。神道が日本文化の全てではないが、仏教と共に、日本文化の主要な軸であることは間違いない。神道のもの見方、生活の中の神道、神道の歴史、天皇と神道、靖国神社問題、アニメと神道など、多岐にわたるトピックを横断しながら、神道の全体像を捉え、神道を理解できるようにする。																								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 お祭りとは何かを理解できるようになる。</li> <li>2 天皇とは何かを理解できるようになる。</li> <li>3 神道とナショナリズムについて理解出来るようになる。</li> <li>4 靖国問題に対して自分なりの意見が持てるようになる。</li> <li>5 神道と他宗教の違いを理解出来るようになる。</li> </ol>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予習はしなくて良いので、復習を行うこと。 また、実際に、神社のお祭りに見学に行ってみるとより理解することが出来る。 授業外学習に60時間以上を使うこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 民族宗教としての神道</td> <td>【第9回】 近世の神道</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 年中行事と人生儀礼</td> <td>【第10回】 近代の神道</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 神職とは何か？祭とは何か？</td> <td>【第11回】 国家神道とは何か？</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 神社とは何か？</td> <td>【第12回】 戦後の神道</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 天皇とは何か？</td> <td>【第13回】 靖国問題について</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 日本神話とは何か？</td> <td>【第14回】 日本文化論と神道</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 古代の神道</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 中世の神道</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 民族宗教としての神道	【第9回】 近世の神道	【第2回】 年中行事と人生儀礼	【第10回】 近代の神道	【第3回】 神職とは何か？祭とは何か？	【第11回】 国家神道とは何か？	【第4回】 神社とは何か？	【第12回】 戦後の神道	【第5回】 天皇とは何か？	【第13回】 靖国問題について	【第6回】 日本神話とは何か？	【第14回】 日本文化論と神道	【第7回】 古代の神道	【第15回】 まとめ	【第8回】 中世の神道	
【第1回】 民族宗教としての神道	【第9回】 近世の神道																								
【第2回】 年中行事と人生儀礼	【第10回】 近代の神道																								
【第3回】 神職とは何か？祭とは何か？	【第11回】 国家神道とは何か？																								
【第4回】 神社とは何か？	【第12回】 戦後の神道																								
【第5回】 天皇とは何か？	【第13回】 靖国問題について																								
【第6回】 日本神話とは何か？	【第14回】 日本文化論と神道																								
【第7回】 古代の神道	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 中世の神道																									
成績評価の方法	授業参加度50% 学期末レポート50%																								
フィードバックの内容	毎週アクションペーパーにて質問を受け付ける。翌週に、その回答を行う。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	『教養としての神道－生きのびる神々』島蘭進（東洋経済新報社）2022/ 5 /13、『プレステップ神道学』國學院大學神道文化学部（弘文堂）2023/ 2 /22、『神道の逆襲』菅野 覚明（講談社現代新書）2001/ 6 /20																								
教員からのお知らせ	やる気があれば十分です。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																								
アクティブラーニングの内容																									
その他																									

講義コード	11A2118000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	則武 海源	開講期	第1期																
科目名	比較宗教文化論／比較宗教文化論1					則武 海源		第1期																	
履修前条件						備考																			
授業の目的	宗教は地球上の全地域に存在し、人々の生活に密接に関係しながら発展をとげてきた。民族を決定する重要な要因の一つは宗教である。宗教はまた融合と断絶、土着のものと同化しながら発展してきた。現在の日本がおかれる国際社会情勢の中であって、その国・地域・人々を理解する上で宗教は重要なウエイトを占めている。本講義では、アジアの宗教を概観しながら、仏教の諸展開や日本の文化に与えた影響について考えることを目的とする。																								
到達目標	日常生活の中で何気なくふれている事項が、実は宗教的意味を持つものであることが多々ある。本科目では、アジアの宗教を比較し、仏教との相違・関わりなどを理解できることを目標とする。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	宗教に関連する博物館や美術展の展示会などを積極的に見学し、宗教展開の諸相を考察することをあわせ、計60時間以上の授業外学修を行うこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 宗教とは 原始宗教・民族宗教・三大宗教</td> <td>【第9回】 日本の原始宗教と仏教 カミとは</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 アジアの宗教地図</td> <td>【第10回】 神道、修験道、陰陽道</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 古代バラモンとヒンドゥー教</td> <td>【第11回】 日本の仏教の特徴</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 仏教興起と諸展開 Buddha と God の違いは</td> <td>【第12回】 神仏習合の意味</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 東西文化の融合 インドにおける神仏習合</td> <td>【第13回】 日本文化と宗教観</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 石窟寺院に見られる文化的影響</td> <td>【第14回】 諸宗教のあり方を考える</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 中華思想とその影響（儒教・道教）</td> <td>【第15回】 総括</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 中国への仏教伝播とその影響</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 宗教とは 原始宗教・民族宗教・三大宗教	【第9回】 日本の原始宗教と仏教 カミとは	【第2回】 アジアの宗教地図	【第10回】 神道、修験道、陰陽道	【第3回】 古代バラモンとヒンドゥー教	【第11回】 日本の仏教の特徴	【第4回】 仏教興起と諸展開 Buddha と God の違いは	【第12回】 神仏習合の意味	【第5回】 東西文化の融合 インドにおける神仏習合	【第13回】 日本文化と宗教観	【第6回】 石窟寺院に見られる文化的影響	【第14回】 諸宗教のあり方を考える	【第7回】 中華思想とその影響（儒教・道教）	【第15回】 総括	【第8回】 中国への仏教伝播とその影響	
【第1回】 宗教とは 原始宗教・民族宗教・三大宗教	【第9回】 日本の原始宗教と仏教 カミとは																								
【第2回】 アジアの宗教地図	【第10回】 神道、修験道、陰陽道																								
【第3回】 古代バラモンとヒンドゥー教	【第11回】 日本の仏教の特徴																								
【第4回】 仏教興起と諸展開 Buddha と God の違いは	【第12回】 神仏習合の意味																								
【第5回】 東西文化の融合 インドにおける神仏習合	【第13回】 日本文化と宗教観																								
【第6回】 石窟寺院に見られる文化的影響	【第14回】 諸宗教のあり方を考える																								
【第7回】 中華思想とその影響（儒教・道教）	【第15回】 総括																								
【第8回】 中国への仏教伝播とその影響																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%・課題レポート提出2回50%により成績を評価します。																								
フィードバックの内容	課題等へのフィードバックは授業内で行う。																								
教科書	オンライン授業の予習・復習に資料をアップします。																								
指定図書	授業中に適宜指示を出します。																								
参考書	授業中に適宜指示を出します。																								
教員からのお知らせ	世界の宗教事情に関心を持ち、日本の宗教を自分なりに考え、積極的にアプローチして下さい。 授業で使用する資料は、「オンライン授業の予習・復習」に毎回アップしますので、各自プリントアウトして授業に参加して下さい。  資料をしっかりと読み込んで下さい。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、次の授業に支障がない範囲で授業終了後、または学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容																									
その他	授業で使用する資料は、「オンライン授業の予習・復習」に毎回アップしますので、各自プリントアウトして授業に参加して下さい。																								

講義コード	11A0114200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	横畑 泰希	開講期	第1期
科目名	仏教カウンセリング					横畑 泰希		第1期	
履修前条件						備考			
授業の目的	カウンセリングとは、カウンセラーとクライアントとの心理的相互作用によって、クライアントの抱える問題の解決を目指す人間関係の過程である。その意味では、仏教が人々の心の救済を目指すことと多くの共通点を見出すことができる。また、カウンセリングの基礎となる臨床心理学は、仏教の考えが背後にあるとも言われている。この講義では、一般的なカウンセリングを学ぶとともに、仏教的立場からの支援のあり方について考察する。								
到達目標	心とは何か、カウンセリングとは何か等について理論、知識を習得し、仏教者として仏教カウンセリングとは何かについて論じることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本科目では、60時間以上の授業外学修を行うこととする。毎授業終了時に次回の予告を行うので、教科書の該当箇所を読んだり、キーワードについて調べたりするなどして、ポイントをノートにまとめておくこと。授業後はレポートに向けて、ポイントを復習し整理しておくこと。								
授業計画	【第1回】 仏教カウンセリングとは何か（問題提起） 【第2回】 心の相談と仏教との繋がり①－意識心理学的視点－ 【第3回】 心の相談と仏教との繋がり②－人間に関する基本的信仰－ 【第4回】 心の相談と仏教との繋がり③－了解－ 【第5回】 心とは何か①－知情意の総体－ 【第6回】 心とは何か②－自分自身そのもの－ 【第7回】 心とは何か③－健康な心の発達－ 【第8回】 相談活動の基礎 【第9回】 カウンセリング理論 【第10回】 心の臨床－聴く・尋ねる－ 【第11回】 心の臨床－気づく・指示する・守る－ 【第12回】 薫習 【第13回】 鬼子母コンプレックス 【第14回】 キサー・ゴータミー尼の物語 【第15回】 まとめ  ※授業の進度により変更することがあります。								
成績評価の方法	小レポート（3回）50% 期末レポート50%								
フィードバックの内容									
教科書	『仏教心理学への道』金子保（クオリティケア）2012								
指定図書	『仏教とこころの深層－物語の心理臨床的意味』金子保（クオリティケア）2013、『心の臨床入門』川井尚（論創社）2009								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	初回授業時に説明します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0100100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	日比 宣仁	開講期	第1期
科目名	仏教学演習基礎1／仏教学基礎演習1A					日比 宣仁		第1期	
履修前条件						備考			
授業の目的	仏教の人間社会における存在意義と可能性について、身近な、もしくは現代的な題材を用い、教室内での議論を通じて気づかせることを目的とする。								
到達目標	1) 宗教（仏教）に対する自らの考えをまとめ、説明することができる。 2) 宗教（仏教）に対する他者の考え方を受けとめ、自らの考え方との同異を比較し、理論的に分析・説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 はじめに 【第2回】 「宗教」とは何か 【第3回】 「仏教」とは何か 【第4回】 「仏教学」とは何か 【第5回】 「日蓮教学」とは何か 【第6回】 仏教的なものの方を理解する①私たちが何故ここにいるのか（業・輪廻・解脱） 【第7回】 〃 〃 ②私たちがどのようにして成り立っているのか（五蘊・十二処・十八界） 【第8回】 〃 〃 ③世界はどのようにして生じたのか（十二縁起） 【第9回】 〃 〃 ④偏見や差別をなくすことは可能か（中道） 【第10回】 〃 〃 ⑤現状を変えることは可能か（四諦八正道） 【第11回】 〃 〃 ⑥仏教は死をどのようにとらえているのか（キサーゴータミーの逸話） 【第12回】 〃 〃 ⑦仏教は自死をどのようにとらえているのか（チャンナ等仏弟子らの逸話） 【第13回】 〃 〃 ⑧仏教は世界をどのようにとらえているのか（ブッダの生涯と瞑想） 【第14回】 〃 〃 ⑨何が無いのか（空） 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋毎回の小テスト30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価します。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会【編】（法藏館）2017								
教員からのお知らせ	使用する資料等は毎回授業内で配布します。この授業は、仏教学部の学びへの入り口となるものです。みなさんと共に色々と考えていきたいと思えます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学修／演習								
その他									

講義コード	11A0100200	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	日比 宣仁	開講期	第2期
科目名	仏教学演習基礎2／仏教学基礎演習2A				日比 宣仁			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教学部における学びの多様性について講義するとともに、受講者が自ら関心を抱いた事柄について意見を交換することで、各自の研究テーマを見つけ出すことを目的とする。								
到達目標	「仏教学」や「宗学」という仏教学部における学びの特色を理解し、その時点での自らの研究テーマを決定し、その意義を他者に対して説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】「仏教学」とは何か（仏教学概説） 【第2回】仏教ではどのような言語が用いられているのか（仏教聖典語概説） 【第3回】仏教聖典とはどのようなものか（仏教聖典概説） 【第4回】仏教はインド・スリランカ・東南アジアでどのように展開したのか（南アジア・東南アジア仏教史概説） 【第5回】仏教はどのようにして中国に伝えられ、展開したのか（東アジア仏教史概説①） 【第6回】仏教はどのようにして日本に伝えられ、展開したのか（ 〃 ②） 【第7回】仏教はチベットでどのように展開したのか（内陸アジア仏教史概説） 【第8回】仏教思想はどのように展開したのか（仏教思想史概説） 【第9回】仏教芸術・仏像はどのように展開したのか（仏教芸術・仏像史概説） 【第10回】何の為に「比較」するのか（比較文化（学）概説） 【第11回】『法華経』とはどのようなものか（法華経概説） 【第12回】日蓮聖人の思想と行動とは（日蓮聖人伝） 【第13回】日蓮宗はどのように展開したか（日蓮宗教団史） 【第14回】仏教は何を伝えようとしているのか（仏教教理概説） 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋毎回の小テスト30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価します。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書	『仏教史研究ハンドブック』 佛教史学会 [編] (法蔵館) 2017								
教員からのお知らせ	使用する資料等は毎回授業内で配布します。この授業は、仏教学部の学びへの入り口となるものです。みなさんと共に色々と考えていきたいと思えます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学修／演習								
その他									

講義コード	11A0103600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	則武 海源	開講期	第1期
科目名	仏教学概論1				則武 海源			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本科目は、仏教の基礎を学んだ2年生以上の開設科目であり、仏教に於ける実践哲学の考え方を仏教学・仏教史・仏教文化の諸研究・諸宗派から考える科目である。平易に理解できるように資料提示しながら、仏教の基本的構造や諸経典・諸宗派の内容に随時触れ、日本に伝播し弘まった仏教を概説し、仏教の基本構造・諸展開を習得することを目的とする。								
到達目標	仏教の基本構造と理念、日本に伝播した仏教の教学の特徴ならびに諸展開を理解し説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	積極的に仏教の諸相を考察し、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 仏教とは何か・釈尊の生涯 成道と中道・四諦八正道 【第2回】 インドにおける仏教の諸展開 三宝・三学・三法印・三蔵・小乗・大乘 【第3回】 西北インドからシルクロードにおける仏教展開 【第4回】 中国における仏教の諸展開 【第5回】 日本における仏教の初伝とその後の展開 【第6回】 俱舎宗の成立過程 【第7回】 俱舎宗の教理1 【第8回】 俱舎宗の教理2 【第9回】 俱舎宗の諸展開 【第10回】 成実宗の成立と展開 【第11回】 成実宗の教理1 【第12回】 成実宗の教理2 【第13回】 成実宗の諸展開 【第14回】 仏教の学説と諸展開を考える 【第15回】 総括								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題レポート提出3回50%により成績を評価します。								
フィードバックの内容	課題へのフィードバックは授業内で行います。								
教科書	『八宗綱要』鎌田茂雄（講談社）1981								
指定図書	『シリーズ東アジア仏教全5巻』高崎直道・木村清孝編（春秋社）1995								
参考書	『仏典解題事典』水野弘元他（春秋社）1998、『仏典入門事典』大蔵経学術用語研究会（永田文昌堂）2001								
教員からのお知らせ	仏教の考え方、生きる本質を自分なりに導き出し、考えてみてください。 仏教の基本構造と理念、諸展開を理解できるかと思えます。 毎回資料提示をしますので、教科書と併せて読み込んで下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、オンライン授業の掲示板にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
その他	現役僧侶の実務経験を活かし、仏教の基本構造と理念、諸展開を理解してもらいます。								

は

講義コード	11A0103700	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	則武 海源	開講期	第2期
科目名	仏教学概論2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>本科目は、仏教の基礎を学んだ2年生以上の開設科目であり、仏教に於ける実践哲学の考え方を仏教学・仏教史・仏教文化の諸研究・諸宗派から考える科目である。</p> <p>平易に理解できるように資料提示しながら、仏教の基本的構造や諸経典・諸宗派の内容に随時触れ、日本に伝播し広まった仏教を概説し、仏教の基本構造・諸展開を習得することを目的とする。</p>								
到達目標	<p>仏教の基本構造と理念、日本に伝播した仏教の教学の特徴ならびに諸展開を理解し説明できる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>積極的に仏教の諸相を考察し、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】インド・中国・日本における仏教の伝播と仏教の基本構造を考える  【第2回】律宗の成立背景  【第3回】律宗の教義内容  【第4回】法相宗の成立と展開  【第5回】法相宗の教義①  【第6回】法相宗の教義②  【第7回】三論宗の成立と展開  【第8回】三論宗の教義①  【第9回】三論宗の教義②  【第10回】華嚴宗の成立と展開  【第11回】華嚴宗の教義①  【第12回】真言宗の成立と展開  【第13回】真言宗の諸展開  【第14回】日本における諸宗派を考える  【第15回】総括</p>								
成績評価の方法	<p>授業への取り組み姿勢50%、課題レポート提出3回50%により成績を評価します。</p>								
フィードバックの内容	<p>課題のフィードバックは授業内で行います。</p>								
教科書	<p>『八宗綱要』鎌田茂雄（講談社）1981</p>								
指定図書	<p>『シリーズ東アジア仏教全5巻』高崎直道・木村清孝編（春秋社）1995</p>								
参考書	<p>『仏典解題事典』水野弘元他（春秋社）1998、『仏典入門事典』大蔵経学術用語研究会（永田文昌堂）2001</p>								
教員からのお知らせ	<p>日本仏教の諸宗派の考え方、ならびにその展開を自分なりに考えてみてください。  仏教の基本構造と理念、諸展開を理解できるかと思います。  しっかりと教科書ならびに資料を読み込んで下さい。</p>								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、オンライン授業の掲示板で受け付けます。</p>								
アクティブラーニングの内容									
その他	<p>現役僧侶が実務経験を活かし、仏教に於ける実践哲学の考え方を解説し理解してもらいます。</p>								

講義コード	11A2118500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	池上 悟	開講期	第2期
科目名	仏教考古学研究2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>現生安穩、後生善処をめざす仏教は、欽明天皇の時代に朝鮮半島南部の百済からわが国に伝わったとされる。新来の宗教である仏教には、独特の施設が建立された。積尊の舍利を奉安した仏塔、本尊を安置した金堂、僧侶が経典の講義や説教をする講堂、梵鐘を懸けた鐘楼、経典を保存した経蔵、僧侶が住した僧房などであり、全体は伽藍と呼ばれる。</p> <p>これらの施設は、仏教伝来時に新技術として導入されたものであり、仏教教義の変化に伴って伽藍も変遷している。奈良時代には聖武天皇によって中国の事例を規範として、仏教による国家鎮護をめざした諸国分寺の建立が行われ。様々な伽藍配置が採用されている。</p> <p>鎌倉新仏教では、それぞれの宗派による伽藍配置に特徴がある。仏教伝来以降の各時代における伽藍配置の変遷を確認する。鐘楼に懸けられた梵鐘は仏教の梵音具の代表とされる。音を出す仏具は梵鐘のほかに罽口、雲板、証鼓、木魚などがあり、日蓮宗では木柩も使用されている。音を発することにより儀礼の区切りをつけ、宗教的雰囲気高め仏心を呼び覚ますとともに、梵鐘撞打によって生者の煩惱を払い死者の往生を願うものとされる。鎌倉時代に定型し現在に至る梵鐘の変遷を確認する。</p>								
到達目標	<p>時代ごとに重視された仏教思想に伴った伽藍の変遷から、現在に至る背景を確認できる。梵音具の代表としての梵鐘の変遷を、梵鐘を製作した鋳物師の様相とともに確認できる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】唐・天竺の伽藍  【第2回】朝鮮半島の寺院  【第3回】古代の伽藍  【第4回】法隆寺論争  【第5回】白鳳寺院  【第6回】国分寺  【第7回】鎌倉新仏教の伽藍  【第8回】近世寺院の伽藍  【第9回】古代の梵鐘  【第10回】中世の梵鐘  【第11回】上総鋳物師の梵鐘  【第12回】江戸時代の梵鐘・1  【第13回】江戸時代の梵鐘・2  【第14回】近代の梵鐘  【第15回】戦時下の梵鐘</p>								
成績評価の方法	<p>授業への取り組み姿勢30%、期末試験70%</p>								
フィードバックの内容	<p>前回授業の内容を、次回授業冒頭で確認する。</p>								
教科書									
指定図書	<p>『仏教考古学講座』石田茂作など（雄山閣出版）1984、『梵鐘と考古学』坪井良平（ビジネス教育出版）1989</p>								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。</p>								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A1116400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	木村 中一	開講期	第2期
科目名	仏教古文書演習／日蓮遺文研究2								
履修前提条件						備考			
授業の目的	昨今「古文書学」に対する認識・概念は歴史研究の技術的な手段として常識的な観念であるとされています。本講義は日本中世・鎌倉時代の代表的仏教者の一人である日蓮の記した、いわゆる「日蓮遺文」の講読を中心として「古文書とはなにか」またそれらからどのように情報を得られるかなどについて基本知識の付与を目的とします。								
到達目標	最新の研究成果を根拠として、取り扱う古文書に対する研究方法を分析することができる。またそれらに関する知識を他者へ分かりやすく説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定した教科書（プリント）に30時間以上、毎回出題する課題と予習・復習に30時間以上、合計60時間以上の講義外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 オリエンテーションー古文書を読むこととは 【第2回】 日蓮遺文の概説と講読（「富城入道殿御返事」）－資料概説 【第3回】 日蓮遺文の概説と講読（「富城入道殿御返事」）－講読（1） 【第4回】 日蓮遺文の概説と講読（「富城入道殿御返事」）－まとめと解説 【第5回】 日蓮遺文の概説と講読（「内記左近入道殿御返事」）－資料概説 【第6回】 日蓮遺文の概説と講読（「内記左近入道殿御返事」）－講読（1） 【第7回】 日蓮遺文の概説と講読（「内記左近入道殿御返事」）－まとめと解説 【第8回】 日蓮遺文の概説と講読（「諸人御返事」）－資料概説 【第9回】 日蓮遺文の概説と講読（「諸人御返事」）－講読（1） 【第10回】 日蓮遺文の概説と講読（「諸人御返事」）－まとめと解説 【第11回】 日蓮遺文の概説と講読（「御衣並単衣御書」）－資料概説 【第12回】 日蓮遺文の概説と講読（「御衣並単衣御書」）－講読（1） 【第13回】 日蓮遺文の概説と講読（「御衣並単衣御書」）－講読（2） 【第14回】 日蓮遺文の概説と講読（「御衣並単衣御書」）－まとめと解説 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	中間レポート（30%）、期末レポート試験（50%）、授業への取り組み姿勢（20%）を基準として、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の講義冒頭に行う。また課題に対するフィードバックも同様に講義冒頭に行う。								
教科書	プリントを配布。								
指定図書	『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988、『日蓮聖人全集』渡辺宝陽他（春秋社）1992～1996								
参考書	『日蓮大聖人御真蹟対照録』片山随喜（立正安国会）1967、『ことのは 日蓮の手紙』木村中一（平凡社）2021								
教員からのお知らせ	中間レポートなどの課題提出について、ポータルサイトなどを使用するため、各回において担当教員の指示に従うこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習、ディスカッション。								
その他	仏教書誌学研究／日蓮遺文研究1 とセットで履修することを薦めます。								

講義コード	11A0106400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第1期
科目名	仏教史特講1								
履修前提条件						備考			
授業の目的	仏教の中国的変容に大きな影響を与えた皇帝権に焦点を当て、その関係性を端的に示す史的事象を取り上げて講読します。内容としては、隋唐時代の皇帝権と仏教教団とが互恵をめざした関係の内実についての理解を得、もって東アジア仏教に通底する思想性・様態の根源を探ることを目的とします。								
到達目標	中国王朝（前史としての南北朝と、隋朝・唐朝）と仏教教団との関係について、その展開と特徴を説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	当科目の指定・参考図書のほか、手島担当科目「中国仏教史」の指定図書の記載を参考に、中国史の概説書を、太古の時代から唐代あたりまで、事前に読んでおいてください。また授業後には、上記指定図書・参考書などを用いて、学的関心を広げてください。 なお、ここに示した授業以外の学修は60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】 中国の南北朝時代 【第2回】 王法と仏法 【第3回】 北周の廃仏（1） 【第4回】 北周の廃仏（2） 【第5回】 北周の廃仏（3） 【第6回】 海西の菩薩天子（1） 【第7回】 海西の菩薩天子（2） 【第8回】 海西の菩薩天子（3） 【第9回】 隋より唐へー革命期の仏教ー（1） 【第10回】 隋より唐へー革命期の仏教ー（2） 【第11回】 隋より唐へー革命期の仏教ー（3） 【第12回】 盛唐仏教の光と影（1） 【第13回】 盛唐仏教の光と影（2） 【第14回】 盛唐仏教の光と影（3） 【第15回】 総括								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（45%）、学期末試験もしくはレポート（55%）。								
フィードバックの内容	試験や課題に対する講評を、授業内（教室もしくはポータルサイト等）で行う。								
教科書	プリントを配布								
指定図書	『隋唐時代の仏教と社会』藤善真澄（白帝社）2004年、『アジア仏教史 中国編Ⅰ～Ⅴ』中村元、笠原一男、金岡秀友監修・編（俊成出版社）1974～1976年、『唐代政治社会史研究』礪波護（同朋舎）1986年								
参考書	『中国歴史研究入門』礪波護、岸本美緒、杉山正明編（名古屋大学出版会）2006年、『塚本善隆著作集1～7』塚本善隆（大東出版社）1974～1976年、『支那中世仏教の展開』山崎宏（清水書店（のち法蔵館より復刊））1942年（1971年）、『隋唐仏教史の研究』山崎宏（法蔵館）1967年、『北魏仏教の研究』横超慧日編（平楽寺書店）1970年、『疑経研究』牧田諦亮（京都大学人文科学研究所）1976年、『三階教之研究』矢吹慶輝（岩波書店）1927、『中国佛教史経の研究』氣賀澤保規編（京都大学学術出版会）1996年、『唐代仏教史論』滋野井恬（平楽寺書店）1973、『中国仏教制度史の研究』諸戸立雄（平河出版社）1990								
教員からのお知らせ	中国の歴史、仏教の歴史、儒教・道教の歴史、それらへの観察の視点をもって臨んでください。 なお本講義は、「中国仏教史1」を履修済みか、同時に履修することが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習など								
その他	中国の歴史、仏教の史的展開におけるダイナミズムに関心がある学生の受講を歓迎します。								

講義コード	11A2106600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	中井 本勝	開講期	第2期
科目名	<b>仏教史特講3</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、梁の僧祐（445-518）によって編纂された『弘明集』を用いて、中国に伝わった仏教がどのように理解されたのかということや、他宗教との論争の様子などについて見ていく。								
到達目標	中国における当時の人々の仏教の理解および他宗教から仏教がどのように捉えられていたかについて、説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味の分からない用語については、あらかじめ調べておくことが望ましい。								
授業計画	【第1回】講義の概要説明、中国仏教史概観（1） 【第2回】中国仏教史概観（2）僧祐と『弘明集』 【第3回】『弘明集』を読む（1） 【第4回】『弘明集』を読む（2） 【第5回】『弘明集』を読む（3） 【第6回】『弘明集』を読む（4） 【第7回】『弘明集』を読む（5） 【第8回】『弘明集』を読む（6）		【第9回】『弘明集』を読む（7） 【第10回】『弘明集』を読む（8） 【第11回】『弘明集』を読む（9） 【第12回】『弘明集』を読む（10） 【第13回】『弘明集』を読む（11） 【第14回】『弘明集』を読む（12） 【第15回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（課題提出）（60%）、学期末試験もしくは学期末レポート（40%）により総合評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	適宜、配布する。								
指定図書	『新アジア仏教史06 中国Ⅰ 南北朝』沖本克己編（佼成出版社）2010、『新アジア仏教史07 中国Ⅱ 隋唐』沖本克己編（佼成出版社）2010								
参考書	『大乘仏典〈中国・日本篇〉4 弘明集・広弘明集』吉川忠夫（中央公論社）1988、『出三蔵記集序巻訳注』中嶋隆藏（平楽寺書店）1997、『六朝期における仏教受容の研究』遠藤祐介（白帝社）2014、『唐・南山道宣著作序文訳註』大内文雄（法蔵館）2019、『六朝隋唐仏教展開史』船山徹（法蔵館）2019								
教員からのお知らせ	①本講義は、学問的に専門的なことを扱うため、ある程度の仏教知識が必要とされます。よって、基礎的な仏教知識を得た上、思想的な問題意識を持って受講してください。 ②6回以上、課題が未提出であった場合、単位は修得できません。 ③よくわからないことがある場合は、必ず自主的に質問をしてください。可能な範囲内でお答えします。 ④課題や学期末試験もしくは学期末レポート等は自分で考えた意見を書いてもらいます。ネット記事や論文から一部分でも「貼り付け」（コピー＆ペースト）をしていた場合、評価は0点となります。 ⑤課題や学期末試験もしくは学期末レポートの記述内容に関して、真摯な姿勢で取り組んでいないと教員が判断した場合、評価は0点となります。 ⑥上記の内容について、「シラバスを読んでいなかった」・「知らなかった」という主張は通じませんので、必ず通読し、理解をしておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他	【注意】本講義は、考えることを要求される。自分の頭脳を使って考え、自分の言葉で語れるようになってください。								

講義コード	11A1116300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	木村 中一	開講期	第1期
科目名	<b>仏教書誌学研究／日蓮遺文研究1</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	書誌学とは、書籍・典籍を対象として、その成立や形態、また伝来などを研究する学問分野です。本講義は日本中世・鎌倉時代の代表的な僧侶の一人である日蓮の記した、いわゆる「日蓮遺文」を研究対象として、その形態（種類）や書跡、また日蓮滅後の継承と伝来について考察し「仏教書誌学とはなにか」「日蓮遺文とはなにか」に関する基本的知識の付与を目的とします。								
到達目標	最新の研究成果を根拠として、各時代の歴史資料に関する研究方法を分析することができる。また仏教書籍・典籍（特に日蓮遺文）に関する知識を他者へ分かりやすく説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	次講義の項目や資料（遺文）などを参考書などにて予習することに30時間以上、また出題する課題や振り返りノート作成に30時間以上、合計60時間以上の講義外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション-書誌学とはなにか 【第2回】日蓮遺文とはなにか-日蓮遺文に関する基本知識 【第3回】日蓮遺文の大別-著述・消息 【第4回】日蓮遺文の大別-要文・図録・書写本など 【第5回】日蓮の書跡-筆・墨 【第6回】日蓮の書跡-紙・装丁 【第7回】日蓮遺文を研究すること-「祖書研究」とは何か（外的研究） 【第8回】日蓮遺文を研究すること-「祖書研究」とは何か（内的研究） 【第9回】日蓮遺文の継承と伝来（1）-蒐集 【第10回】日蓮遺文の継承と伝来（2）-恪護 【第11回】日蓮遺文の継承と伝来（3）-写本 【第12回】日蓮遺文の継承と伝来（4）-刊本 【第13回】日蓮遺文の継承と伝来（5）-集成本 【第14回】日蓮遺文の継承と伝来（3）-編纂 【第15回】まとめと振り返り								
成績評価の方法	中間レポート（30%）、期末試験（50%）、授業への取り組み姿勢（20%）を基準として、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の講義冒頭に行う。また課題に対するフィードバックも同様に講義冒頭に行う。								
教科書	プリントを配布。								
指定図書	『日蓮聖人教学の研究』浅井要麟（平楽寺書店）1958、『日蓮聖人遺文の文献学的研究』鈴木一成（山喜房佛書林）1965、『日蓮真蹟遺文と寺院文書』中尾堯（吉川弘文館）2002、『日蓮聖人真蹟の形態と伝来』寺尾英智（雄山閣出版）1997								
参考書	『ご真蹟にふれる』中尾堯（日蓮宗新聞社）1994、『ことのは 日蓮の手紙』木村中一（平凡社）2021								
教員からのお知らせ	中間レポートなどの課題提出について、ポータルサイトなどを使用するため、各回において担当教員の指示に従うこと。								
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習、ディスカッション。								
その他	仏教古文書研究／日蓮遺文研究2 とセットで履修することを薦めます。								

講義コード	11A0114300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期																	
科目名	仏教デス・エデュケーション				武田 悟一		第2期																		
履修前提条件					備考																				
授業の目的	「デス・エデュケーション」とは、死の教育、あるいは死への準備教育を意味します。私たちは、かならず「死」を迎える存在でありますから、その死をいかに受けとめ、自己の人生の問題として考える必要があります。仏教では「死」を迎える私たちが、いかにこの課題と向かうべきかを教えています。そこで、この授業においては、釈尊の生き方、あるいは日蓮聖人（1222-82）の教えにその問題をたずね、現代社会における「死」についても考えたいと思います。																								
到達目標	生命をうけている私たちは、必ず死を迎えるが、具体的な事例をとおして、自己の問題として受けとめ、説明することができる。																								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書（プリント配布）・指定・参考図書を30時間以上、毎回出題する課題と予習・復習に30時間以上、合計60時間以上の学修を行って下さい。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 デス・エデュケーションとは何か①</td> <td>【第9回】 ゴータマ・ブッダの臨終をめぐる②</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 デス・エデュケーションとは何か②</td> <td>【第10回】 仏教における「死」の問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 アルフォンス・デーケン氏の提唱①</td> <td>【第11回】 日蓮聖人にとっての「臨終」の問題</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 アルフォンス・デーケン氏の提唱②</td> <td>【第12回】 日蓮聖人と檀越</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 日本の文化からみる死生観①</td> <td>【第13回】 日蓮聖人にみる「臨終」について</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 日本の文化からみる死生観②</td> <td>【第14回】 現代日本人の死生観①</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 日本の文化からみる死生観③</td> <td>【第15回】 現代日本人の死生観②・まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 ゴータマ・ブッダの臨終をめぐる①</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 デス・エデュケーションとは何か①	【第9回】 ゴータマ・ブッダの臨終をめぐる②	【第2回】 デス・エデュケーションとは何か②	【第10回】 仏教における「死」の問題	【第3回】 アルフォンス・デーケン氏の提唱①	【第11回】 日蓮聖人にとっての「臨終」の問題	【第4回】 アルフォンス・デーケン氏の提唱②	【第12回】 日蓮聖人と檀越	【第5回】 日本の文化からみる死生観①	【第13回】 日蓮聖人にみる「臨終」について	【第6回】 日本の文化からみる死生観②	【第14回】 現代日本人の死生観①	【第7回】 日本の文化からみる死生観③	【第15回】 現代日本人の死生観②・まとめ	【第8回】 ゴータマ・ブッダの臨終をめぐる①	
【第1回】 デス・エデュケーションとは何か①	【第9回】 ゴータマ・ブッダの臨終をめぐる②																								
【第2回】 デス・エデュケーションとは何か②	【第10回】 仏教における「死」の問題																								
【第3回】 アルフォンス・デーケン氏の提唱①	【第11回】 日蓮聖人にとっての「臨終」の問題																								
【第4回】 アルフォンス・デーケン氏の提唱②	【第12回】 日蓮聖人と檀越																								
【第5回】 日本の文化からみる死生観①	【第13回】 日蓮聖人にみる「臨終」について																								
【第6回】 日本の文化からみる死生観②	【第14回】 現代日本人の死生観①																								
【第7回】 日本の文化からみる死生観③	【第15回】 現代日本人の死生観②・まとめ																								
【第8回】 ゴータマ・ブッダの臨終をめぐる①																									
成績評価の方法	定期試験（オンライン形式・50%）、毎授業の課題・授業への取り組み姿勢（50%）を基準として、総合的に評価します。																								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。																								
教科書	プリントを配布します																								
指定図書	『ブッダ最後の旅』中村元訳（岩波文庫）1980年、『死とは何か』大法輪編集部（大法輪閣）1984年、『書簡にみる日蓮 ころの交流』北川前肇（NHK ライブラリー）2006年、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン（NHK ライブラリー）1996年、『死への準備教育第1巻・第2巻・第3巻』アルフォンス・デーケン編（メヂカルフレンド社）1986年、『死を看とる医学』柏木哲夫（NHK ライブラリー）1996年																								
参考書	『愛、見つけた 小さな命の置きみやげ』小林完吾（二見書房）1983年、『新しい生命倫理を求めて』田村芳朗他著（北樹出版）1989年																								
教員からのお知らせ	本授業は「Microsoft Teams」を利用して授業を行います。授業への参加方法や利用方法等については、ポータルサイトにある本科目の「オンライン授業」第1回授業予告欄にて通知します。																								
オフィスアワー	Microsoft Teams のチャット機能にて受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、リアル教材																								
その他																									



講義コード	11A0110000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	仏教文化史特講 1				久保 真紀子		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教がインドに興り、アジア諸地域に伝わり受容される過程で、各地で彫刻・絵画・工芸・建築等によって人々の信仰心が表された。この講義では、仏教美術の起源や、仏像が創始されるまでの経緯、およびそれらが南伝と北伝それぞれの経路で各地に広まって様々な表現が生み出された過程を学び、仏教美術を鑑賞するための基礎的知識を習得することを目指す。								
到達目標	南アジア、東南アジア、東アジアの仏像の像容を、基本的な専門用語を使って客観的に説明できるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス  【第2回】 釈尊の生涯と仏教美術のはじまり  【第3回】 無仏像の伝統  【第4回】 仏像の創始（1）ガンダーラ彫刻  【第5回】 仏像の創始（2）マトゥラー彫刻  【第6回】 仏教の伝播－南伝と北伝（1）南インド  【第7回】 仏教の伝播－南伝と北伝（2）スリランカ  【第8回】 仏教の伝播－南伝と北伝（3）東南アジア〈島嶼部〉  【第9回】 仏教の伝播－南伝と北伝（4）東南アジア〈大陸部〉  【第10回】 仏教の伝播－南伝と北伝（5）東アジア〈中国〉  【第11回】 仏教の伝播－南伝と北伝（6）東アジア〈朝鮮半島〉  【第12回】 仏教の伝播－南伝と北伝（7）東アジア〈日本〉  【第13回】 仏像の種別（1）如来像  【第14回】 仏像の種別（2）菩薩像  【第15回】 まとめ</p> <p>（1）配布資料について  この授業では特定の教科書は使いません。資料は毎回の授業時に配布します。</p> <p>（2）その他の提出物について  毎回の受講時に課す課題に回答し、提出すること。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（60%）、期末試験（40%）を総合して成績を評価する。								
フィードバックの内容	毎回の授業後に課す課題の回答を見て、必要に応じてその後の授業で補足説明を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『インド美術史』宮治昭（吉川弘文館）1981、『仏教の説話と美術』高田修（講談社）2004、『世界美術大全集 東洋編13 インド（1）』肥塚隆・宮治昭（小学館）2000、『世界美術大全集 東洋編12 東南アジア』肥塚隆（小学館）2001、『仏像の鑑賞基礎知識』光森正士・岡田健（至文堂）1993								
教員からのお知らせ	美術史を学ぶためには、博物館や美術館、あるいは寺院等に足を運び、作品をじっくりと鑑賞することが大切です。毎回の授業時にも、配布資料に掲載された写真をよく観察し、形状や作品の醸し出す雰囲気をとらえるように努めてください。また、毎回の授業の復習として、鑑賞した作品について、手元にある書籍やインターネットを活用して調べてみることも良いでしょう。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。								
アクティブラーニングの内容 その他	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								

講義コード	11A0110100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第2期
科目名	仏教文化史特講2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>仏教がインドに興り、アジア諸地域に伝わり受容される過程で、各地で彫刻・絵画・工芸・建築等によって人々の信仰心が表された。この講義では、仏伝図や本生図といった仏教説話図に注目し、南アジアおよび東南アジアの寺院建築に表された彫刻や壁画における仏教説話図の鑑賞を通して、その主題や図像表現、地域性や時代背景について理解を深める。</p>								
到達目標	<p>仏教説話図を観察し、基本的な専門用語を使って、そこに描写された情景を客観的に説明できるようになるとともに、主題となった説話の内容を理解する。</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンスー仏伝図と本生図  【第2回】 古代インドの仏塔にみられる仏教説話図  【第3回】 ガンダーラ彫刻の仏教説話図  【第4回】 南インドの仏教説話図  【第5回】 アジャンター石窟の壁画に表された仏教説話  【第6回】 作品鑑賞文発表会（1）  【第7回】 インドネシア・ボロブドゥールの仏教説話図〈仏伝〉  【第8回】 インドネシア・ボロブドゥールの仏教説話図〈本生話〉  【第9回】 インドネシア・ボロブドゥールの仏教説話図〈善財童子の巡礼の旅〉  【第10回】 作品鑑賞文発表会（2）  【第11回】 カンボジア・アンコール期の仏教説話図〈仏伝〉  【第12回】 カンボジア・アンコール期の仏教説話図〈本生話〉  【第13回】 カンボジアの上座部仏教寺院に描かれた仏教説話図  【第14回】 作品鑑賞文発表会（3）  【第15回】 まとめ</p> <p>（1）配布資料について  この授業では特定の教科書は使いません。資料は毎回の授業時に配布します。</p> <p>（2）作品鑑賞文について  第5回、第9回、第13回の授業時に特定の作品を提示しますので、授業時間内にそれを観察して「作品鑑賞文」を記入・提出してもらいます。その次の回に、それぞれ数名の「作品鑑賞文」を選び紹介するとともに、講師による講評を行います。</p> <p>（3）その他の提出物について  毎回の受講時に課される課題に回答し、提出すること。</p>								
成績評価の方法	<p>授業への取り組み姿勢（40%）、作品鑑賞文の提出および内容（20%）、期末試験（40%）を総合して成績を評価する。</p>								
フィードバックの内容	<p>毎回の提出物を見て、必要に応じてその後の授業時間内に補足説明を行う。</p>								
教科書									
指定図書									
参考書	<p>『インド美術史』宮治昭（吉川弘文館）1981、『仏教の説話と美術』高田修（講談社）2004、『仏像の鑑賞基礎知識』光森正士・岡田健（至文堂）1993、『世界美術大全集 東洋編12 東南アジア』肥塚隆責任編集（小学館）2001、『世界美術大全集 東洋編13 インド（1）』宮治昭・肥塚隆責任編集（小学館）2000、『世界美術大全集 東洋編14 インド（2）』宮治昭・肥塚隆責任編集（小学館）1998、『Buddhist Painting in Cambodia』Vittorio Roveda and Yem Sothon（River Books）2009、『Preah Bot: Buddhist painted scrolls in Cambodia』Vittorio Roveda and Yem Sothon（River Books）2010</p>								
教員からのお知らせ	<p>この授業の内容は第1期開講の「仏教文化史特講1」履修後のほうが理解しやすいので、連続して受講することが望ましいですが、この科目のみ履修することも可能です。その場合は、参考文献を使って自主的に予習復習するようにしてください。</p>								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。</p>								
アクティブラーニングの内容 その他	<p>教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション</p>								

講義コード	11A2110200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	内藤 善之	開講期	第1期
科目名	<b>仏教文化史特講3</b>								
履修前条件					備考				
授業の目的	インドに端を発した仏教は、中国大陸に浸透する過程で、在地の文化や国家権力と交渉をもちながら様々な様相を顕わしました。本授業は仏教東漸の観点から西域を含むシルクロード及び中原における仏教造像の史的展開を主題とし、とくに仏像の造形様式の変遷と美術的特徴について理解することを目的とします。講義の進行に伴い、適宜遺物の紹介、理解のためにパワーポイントによる映像資料紹介を交えて進めます。								
到達目標	(1) 仏教の東方伝播について、いわゆる北伝ルートの地理上、歴史上の基盤的知識を得ること。 (2) 西域を含む中国大陸における仏教美術の変遷について、理解し説明できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義中に指示した事項について、予習・復習をすることとし、60時間以上の授業外学修を行うこと。講義の振り返り資料を配布するので、それを用いて復習を行うこと。予習については講義中次回の用いる資料や論文の紹介を行う適宜参照すること。								
授業計画	【第1回】 オリエンテーション 【第2回】 仏教美術の東漸 【第3回】 仏像の成立と発展 【第4回】 シルクロードとは 【第5回】 ヒンドゥクシュ山脈を越えて 【第6回】 石窟寺院の系譜 【第7回】 西域の仏教遺跡①クチャ周辺遺址の美術 【第8回】 西域の仏教遺跡②トルファン周辺遺址の美術				【第9回】 河西の石窟寺院 【第10回】 敦煌莫高窟の造営と周辺遺址の美術 【第11回】 中国初期の金銅仏①五胡十六国時代 【第12回】 中国初期の金銅仏②北魏 【第13回】 雲崗石窟の造営と周辺遺址の美術 涼州様式から雲崗様式へ 【第14回】 龍門石窟の造営とその歴史 【第15回】 まとめ				
成績評価の方法	学期末レポート (50%)、授業への取り組み姿勢 (50%) とします。								
フィードバックの内容	講義後回収する質問用紙に対するフィードバックを翌週講義内にておこなう。								
教科書									
指定図書									
参考書	『アジア仏教美術論集・東アジア I』 濱田瑞美 (中央公論美術出版) 2017、『敦煌三大石窟-莫高窟・西千仏洞・榆林窟』 東山健吾 (講談社) 1996、『北魏仏教造像史の研究』 石松日奈子 (ブリュッケ) 2005、『文明の十字路口=中央アジアの歴史』 岩村忍 (講談社) 2007								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習。								
その他									

講義コード	11A0100800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	秋田貴廣・久保真紀子・則武海源	開講期	第2期
科目名	<b>文化・芸術研究入門</b>								
履修前条件					備考				
授業の目的	アジア各地にみられる仏教に関わる文化は、寺院の造営、彫刻や絵画の制作、あるいは儀礼や祭祀の催行等、多くの人々の絶え間ない営みによって築き上げられてきた。この講義は、文化や芸術の観点から仏教を理解し研究する意義と方法について、担当教員3名がそれぞれの専門分野における具体的事例を示しながら解説する。教員1名につき5回分の講義を担当し、輪講形式で進めて行く。								
到達目標	仏教文化および仏教芸術に関する具体的な研究方法や体験談に触れることで、自分自身の興味関心や問題意識を醸成する。そしてこのようなアプローチから見出し得る知見について確認し、3年次からのコース選択、および卒業論文のテーマ設定のための土台を築く。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	担当教員が参考図書として授業中に紹介する書籍を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。また、博物館や美術館で行われている仏教に関する展覧会等に可能な限り足を運び、仏教文化・芸術の世界についての知識を身に付け、見識を深めるよう努めてほしい。それが難しい場合は、既存の展覧会カタログを入手して目を通すなど、自らの感触を持てる機会をつくってほしい。								
授業計画	【第1回】 文化とは (秋田) 【第2回】 仏教の歴史と文化-インド (則武) 【第3回】 仏教の歴史と文化-シルクロード (則武) 【第4回】 仏教の歴史と文化-チベット (則武) 【第5回】 仏教の歴史と文化-中国 (則武) 【第6回】 仏教の歴史と文化-日本 (則武) 【第7回】 美術史研究の方法と実践 (1) (久保) 【第8回】 美術史研究の方法と実践 (2) (久保)				【第9回】 美術史研究の方法と実践 (3) (久保) 【第10回】 美術史研究の方法と実践 (4) (久保) 【第11回】 美術史研究の方法と実践 (5) (久保) 【第12回】 芸術とは (秋田) 【第13回】 芸術とは2 (秋田) 【第14回】 文化としての仏像 (秋田) 【第15回】 文化の継承性 (秋田)				
成績評価の方法	提出物 (授業の感想等) 50%、授業への取り組み姿勢50%で総合的に評価。								
フィードバックの内容	受講生から提出された感想に基づき、担当教員が必要に応じて補足説明を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この講義は仏教学部2年次末のコース選択に向けての導入科目だが、「文化・芸術コース」志望の学生に受講を限定するものではなく、幅広い学生の積極的な受講を期待する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載された各教員のオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り								
その他									

講義コード	11A0111800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第1期
科目名	文化財論Ⅰ							第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	文化・文化史理解のための新たな方法として「(有形) 歴史文化財」という視点を設定し、その基本概念と、歴史的背景の理解とあわせ、文化財研究の観点の理解を目的とする。その「理解」のためにまずは“文化”とは何か、文化を継承することの意義は何かについて探り、そこから人間がこれまで築いてきた“文化”を捉えなおす視座を形成する。								
到達目標	原始の文化から、古代文明の中の著名な有形歴史文化財や文化現象について、その形成過程を確認・検証することをとおして、歴史・民俗・信仰・芸術等、各方面の研究に展開していくための視点と考え方を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各授業日のテーマに関連して各自の関心のある文化について、事前に調査して授業に臨むのが望ましい(30時間以上)。身近な文化的事象について、その在り方の必然性について考える(30時間以上)。								
授業計画	【第1回】文化とは 【第2回】「文化財」の歴史・現代における可能性 【第3回】造形と認識(意味)・美術と宗教 【第4回】文化財修復という観点の可能性 【第5回】文化を継承する意義Ⅰ 【第6回】世界遺産の取組み 【第7回】世界の文化財Ⅰ(原始時代の文化) 【第8回】世界の文化財Ⅱ-1(人間の誕生と意味の発生1) 【第9回】世界の文化財Ⅱ-2(人間の誕生と意味の発生2) 【第10回】世界の文化財Ⅲ-1(原始時代の観念技術1) 【第11回】世界の文化財Ⅲ-2(原始時代の観念技術2) 【第12回】世界の文化財Ⅳ(古代文明における宗教と文化) 【第13回】世界の文化財Ⅴ(宗教と国家の起源-古代メソポタミア) 【第14回】世界の文化財Ⅵ(生と死の王国にまたがる文化システム-古代エジプト) 【第15回】世界の文化財Ⅶ(古代情報のデータベース化)								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、前期レポート30%。後期レポート40%。								
フィードバックの内容	一つのテーマで数回の授業を行うことにしており、そのテーマ終了時点で各学生の感想や理解の内容を聴取し、次回の授業において講評を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『文化財保存学入門』秋田貴廣編 立正大学仏教学部監修(丸善プラネット)2012								
教員からのお知らせ	当授業は関連授業の「文化財修復概説」の前提となる内容である。したがって「文化財修復概説」の前に、あるいは同時期に当授業を受講することが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	立体資料を適宜使用し、学生が自らの目と手で触れて実感するような機会を設ける。								
その他	文化財修復会社の実務経験を活かし、有形歴史文化財としての建築物・絵画・彫刻の表現の前提となる技術や精神、当時の人々の想いなどを伝えて理解を深める。								

講義コード	11A0111900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第2期
科目名	文化財論Ⅱ							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	文化・文化史理解のための新たな方法として「(有形) 歴史文化財」という視点を設定し、その基本概念と、歴史的背景の理解とあわせ、文化財の存在意義とともに、研究において対象の理解を深めることを目的とする。								
到達目標	主に日本の各時代の著名な有形歴史文化財としての建築物、仏像・仏画や神像類を題材に、歴史・民俗・信仰・芸術等、各方面の研究に展開していくための視点と考え方を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各授業日のテーマに関連して各自の関心のある文化について、事前に調査して授業に臨むのが望ましい(30時間以上)。身近な文化的事象について、その在り方の必然性について考える(30時間以上)。								
授業計画	【第1回】文化財の表現と技術 【第2回】飛鳥時代の歴史と文化財 【第3回】白鳳時代の歴史と文化財 【第4回】天平時代の歴史と文化財Ⅰ(大陸文化の流入) 【第5回】天平時代の歴史と文化財Ⅱ(大仏建立) 【第6回】平安前期の歴史と文化財 【第7回】平安中期の歴史と文化財 【第8回】平安後期の歴史と文化財 【第9回】鎌倉時代の歴史と文化財Ⅰ 【第10回】鎌倉時代の歴史と文化財Ⅱ 【第11回】鎌倉以降の歴史と文化財 【第12回】近代日本文化の課題と可能性Ⅰ 【第13回】近代日本文化の課題と可能性Ⅱ 【第14回】文化財の修復 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢40%、前期レポート30%。後期レポート30%。								
フィードバックの内容	一つのテーマで数回の授業を行うことにしており、そのテーマ終了時点で各学生の感想や理解の内容を聴取し、次回の授業において講評を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『文化財保存学入門』秋田貴廣編 立正大学仏教学部監修(丸善プラネット)2012								
教員からのお知らせ	当授業は関連授業の「文化財修復概説」の前提となる内容である。したがって「文化財修復概説」の前に当授業を受講することが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科において定めるオフィスアワーにて、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。それ以外の時間にはEメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始当初に案内します。								
アクティブラーニングの内容	適宜、立体資料を使用して、学生が自らの目と手で触れて実感を持てるような機会を設ける。								
その他	文化財修復会社の実務経験を活かし有形歴史文化財という視点で日本の文化財の存在意義を理解させる。								

は

講義コード	11A0100900	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	日比 宣仁	開講期	第1期
科目名	文献学演習1					日比 宣仁		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	漢字仏教文献を題材として、文献学の基礎を演習形式で学ぶ。 文献学の基礎とは、文献を読み解き、その思想を紐解くことであろう。 あまり親しみのない漢字文献に触れ、仏教の思想を多角的に考究することを目的とする。								
到達目標	文献解読を通して、漢字文化圏の仏教思想（中国仏教思想）の特徴を理解することは本講義の目標である。 その際に、インド～中国～（朝鮮・チベット）～日本という北伝仏教の思想変遷を知識として身につけることが肝要であろう。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義の予習・復習をすること（授業では適宜課題を出す）。 授業で扱う漢字文献の読みを国訳の資料で確認し、書き下して読めるようにすること。 上記のために、60時間以上（講義は全15回あるので、1講義に対し4時間以上）の予習・復習を行うこと。								
授業計画	【第1回】 仏教東漸（インド～中国～日本）の概要その1（原始～部派） 【第2回】 仏教東漸（インド～中国～日本）の概要その2（部派～大乘） 【第3回】 仏教東漸（インド～中国～日本）の概要その3（中観） 【第4回】 仏教東漸（インド～中国～日本）の概要その4（唯識） 【第5回】 仏教東漸（インド～中国～日本）の概要その5（如来蔵） 【第6回】 漢文読解 【第7回】 漢文読解 【第8回】 漢文読解 【第9回】 漢文読解 【第10回】 漢文読解 【第11回】 漢文読解 【第12回】 漢文読解 【第13回】 漢文読解 【第14回】 漢文読解 【第15回】 漢文読解								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢60%、課題レポート40%。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新八宗綱要』大久保良峻編著（法蔵館）2001年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	一〇〇〇年以上様々な人々に読まれてきた漢字文献からは、多様な情報を読み取ることができます。それらの情報は、仏教思想に関するのみではなく、私たち現代日本人の日常生活に共通する知恵や知識そのものでもあります。漢字文献の読解を通して、人生に役立つ知恵と知識を身につけましょう。								
オフィスアワー	質問等は授業時間帯に受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習、意見共有、能動的な授業外学習。								
その他									

講義コード	11A0101000	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	日比 宣仁	開講期	第2期
科目名	文献学演習2					日比 宣仁		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	漢字仏教文献を題材として、文献学の基礎を演習形式で学ぶ。 文献学の基礎とは、文献を読み解き、その思想を紐解くことであろう。 あまり親しみのない漢字文献に触れ、仏教の思想を多角的に考究することを目的とする。								
到達目標	文献解読を通して、漢字文化圏の仏教思想（中国仏教思想）の特徴を理解することは本講義の目標である。 その際に、インド～中国～（朝鮮・チベット）～日本という北伝仏教の思想変遷を知識として身につけることが肝要であろう。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義の予習・復習をすること（授業では適宜課題を出す）。 授業で扱う漢字文献の読みを国訳の資料で確認し、書き下して読めるようにすること。 上記のために、60時間以上（講義は全15回あるので、1講義に対し4時間以上）の予習・復習を行うこと。								
授業計画	【第1回】 漢文読解 【第2回】 漢文読解 【第3回】 漢文読解 【第4回】 漢文読解 【第5回】 漢文読解 【第6回】 漢文読解 【第7回】 漢文読解 【第8回】 漢文読解 【第9回】 漢文読解 【第10回】 漢文読解 【第11回】 漢文読解 【第12回】 漢文読解 【第13回】 漢文読解 【第14回】 漢文読解 【第15回】 漢文読解								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢60%、課題レポート40%。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新八宗綱要』大久保良峻編著（法蔵館）2001年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	一〇〇〇年以上様々な人々に読まれてきた漢字文献からは、多様な情報を読み取ることができます。それらの情報は、仏教思想に関するのみではなく、私たち現代日本人の日常生活に共通する知恵や知識そのものでもあります。漢字文献の読解を通して、人生に役立つ知恵と知識を身につけましょう。								
オフィスアワー	質問等は授業時間帯に受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習、意見共有、能動的な授業外学習。								
その他									

講義コード	11A0101100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第1期																
科目名	文献学演習3／史料演習1					戸田 教敏		第1期																	
履修前条件						備考																			
授業の目的	<p>仏教寺院は、日本の歴史を知るために必要な「文献史料」の宝庫である。日本仏教の長い歴史において、各寺院では、僧侶・檀越の宗教活動、公武権力との接触を契機として、様々な文献史料が生み出された。それらの多くは、各寺院に「宝物」として厳重に保管され、今日に伝来する。本授業では、中近世に成立した文献史料、特に日蓮宗の寺院に伝来する文書・記録等の文献史料を講読し、各史料が持つ意義と特色を学びながら、日本仏教史・日蓮教団史の一端を紐解いていく。</p>																								
到達目標	<p>日本の仏教寺院に所蔵される文献史料を講読・考察することによって、日本仏教史・日蓮教団史の一端を理解するとともに、文献史料にそなわる多様な機能と性質を理解し、説明することができる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第9回】 史料講読 (6)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 寺院史料について (1)</td> <td>【第10回】 史料講読 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 寺院史料について (2)</td> <td>【第11回】 史料講読 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 史料講読 (1)</td> <td>【第12回】 史料講読 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 史料講読 (2)</td> <td>【第13回】 史料講読 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 史料講読 (3)</td> <td>【第14回】 史料講読 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 史料講読 (4)</td> <td>【第15回】 史料講読 (12)</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 史料講読 (5)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第9回】 史料講読 (6)	【第2回】 寺院史料について (1)	【第10回】 史料講読 (7)	【第3回】 寺院史料について (2)	【第11回】 史料講読 (8)	【第4回】 史料講読 (1)	【第12回】 史料講読 (9)	【第5回】 史料講読 (2)	【第13回】 史料講読 (10)	【第6回】 史料講読 (3)	【第14回】 史料講読 (11)	【第7回】 史料講読 (4)	【第15回】 史料講読 (12)	【第8回】 史料講読 (5)	
【第1回】 ガイダンス	【第9回】 史料講読 (6)																								
【第2回】 寺院史料について (1)	【第10回】 史料講読 (7)																								
【第3回】 寺院史料について (2)	【第11回】 史料講読 (8)																								
【第4回】 史料講読 (1)	【第12回】 史料講読 (9)																								
【第5回】 史料講読 (2)	【第13回】 史料講読 (10)																								
【第6回】 史料講読 (3)	【第14回】 史料講読 (11)																								
【第7回】 史料講読 (4)	【第15回】 史料講読 (12)																								
【第8回】 史料講読 (5)																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (50%)、期末レポート (50%) を基準として総合的に評価する。																								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	『日蓮宗宗学全書 全23巻』立正大学日蓮教学研究所編 (山喜房佛書林) 1960年～、『日蓮教団全史上』立正大学日蓮教学研究所編 (平楽寺書店) 1964年、『概説古文書学 古代・中世編』日本歴史学会編 (吉川弘文館) 1983年、『概説古文書学 近世編』日本歴史学会編 (吉川弘文館) 1989年、『寺宝護持の心得』日蓮宗勸学院監修 (日蓮宗新聞社) 1996年、『新版古文書学入門』佐藤進一 (法政大学出版局) 2003年、『図説 日蓮聖人と法華の至宝 全7巻』中尾堯・他編 (同朋舎メディアプラン・同朋舎新社) 2012年～																								
教員からのお知らせ	使用する史料等は授業時に配布します。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメールでも受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	演習																								
その他																									

講義コード	11A0101200	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第2期																
科目名	文献学演習4／史料演習2					戸田 教敏		第2期																	
履修前条件						備考																			
授業の目的	<p>仏教寺院は、日本の歴史を知るために必要な「文献史料」の宝庫である。日本仏教の長い歴史において、各寺院では、僧侶・檀越の宗教活動、公武権力との接触を契機として、様々な文献史料が生み出された。それらの多くは、各寺院に「宝物」として厳重に保管され、今日に伝来する。本授業では、中近世、および近現代の文献を講読し、各史料が持つ意義と特色を学びながら、日本仏教史・日蓮教団史の一端を紐解いていく。</p>																								
到達目標	<p>日本の仏教寺院に所蔵される文献史料を講読・考察することによって、日本仏教史・日蓮教団史の一端を理解するとともに、文献史料にそなわる多様な機能と性質を理解し、説明することができる。</p>																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。</p>																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第9回】 史料講読 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 史料講読 (1)</td> <td>【第10回】 史料講読 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 史料講読 (2)</td> <td>【第11回】 史料講読 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 史料講読 (3)</td> <td>【第12回】 史料講読 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 史料講読 (4)</td> <td>【第13回】 史料講読 (12)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 史料講読 (5)</td> <td>【第14回】 史料講読 (13)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 史料講読 (6)</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 史料講読 (7)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第9回】 史料講読 (8)	【第2回】 史料講読 (1)	【第10回】 史料講読 (9)	【第3回】 史料講読 (2)	【第11回】 史料講読 (10)	【第4回】 史料講読 (3)	【第12回】 史料講読 (11)	【第5回】 史料講読 (4)	【第13回】 史料講読 (12)	【第6回】 史料講読 (5)	【第14回】 史料講読 (13)	【第7回】 史料講読 (6)	【第15回】 まとめ	【第8回】 史料講読 (7)	
【第1回】 ガイダンス	【第9回】 史料講読 (8)																								
【第2回】 史料講読 (1)	【第10回】 史料講読 (9)																								
【第3回】 史料講読 (2)	【第11回】 史料講読 (10)																								
【第4回】 史料講読 (3)	【第12回】 史料講読 (11)																								
【第5回】 史料講読 (4)	【第13回】 史料講読 (12)																								
【第6回】 史料講読 (5)	【第14回】 史料講読 (13)																								
【第7回】 史料講読 (6)	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 史料講読 (7)																									
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (50%)、期末レポート (50%) を基準として総合的に評価する。																								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。																								
教科書																									
指定図書																									
参考書	『日蓮宗宗学全書 全23巻』立正大学日蓮教学研究所編 (山喜房佛書林) 1960年～、『日蓮教団全史上』立正大学日蓮教学研究所編 (平楽寺書店) 1964年、『概説古文書学 古代・中世編』日本歴史学会編 (吉川弘文館) 1983年、『概説古文書学 近世編』日本歴史学会編 (吉川弘文館) 1989年、『寺宝護持の心得』日蓮宗勸学院監修 (日蓮宗新聞社) 1996年、『新版古文書学入門』佐藤進一 (法政大学出版局) 2003年、『図説 日蓮聖人と法華の至宝 全7巻』中尾堯・他編 (同朋舎メディアプラン・同朋舎新社) 2012年～、『石橋湛山全集 全16巻』石橋湛山 (東洋経済新報社) 2010年～2011年																								
教員からのお知らせ	使用する史料等は授業時に配布します。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメールでも受け付けます。																								
アクティブラーニングの内容	演習																								
その他																									

講義コード	11A0100301	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	日比 宣仁	開講期	第1期
科目名	文献読解基礎演習1A／仏教学基礎演習3A				日比 宣仁			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	古典資料を読解するにあたって、最低限必要なレベルの古文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要な、古文の文法（古文読解の基礎的知識）および辞書・参考書の取扱方法（古文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、読み方や意味のわからない用語についてはあらかじめ予習を行い調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 文法と講読 【第14回】 文法と講読 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部（第一学習社）2022								
指定図書									
参考書	『古典にいざなう新古典文法』北原保雄（大修館書店）1992、『古文研究法』小西甚一（洛陽社）1965、『新訂古典文法』田辺正男（大修館書店）1986								
教員からのお知らせ	教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	演習								
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。								

講義コード	11A0100302	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	日比 宣仁	開講期	第1期
科目名	文献読解基礎演習1B／仏教学基礎演習3B				日比 宣仁			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	古典資料を読解するにあたって、最低限必要なレベルの古文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要な、古文の文法（古文読解の基礎的知識）および辞書・参考書の取扱方法（古文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、読み方や意味のわからない用語についてはあらかじめ予習を行い調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 文法と講読 【第14回】 文法と講読 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部（第一学習社）2022								
指定図書									
参考書	『古典にいざなう新古典文法』北原保雄（大修館書店）1992、『古文研究法』小西甚一（洛陽社）1965、『新訂古典文法』田辺正男（大修館書店）1986								
教員からのお知らせ	教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	演習								
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。								

講義コード	11A0100303	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第1期
科目名	文献読解基礎演習1C／仏教学基礎演習3C				戸田 教敏		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、古典資料を読解するにあたって最低限必要なレベルの古文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要となる古文の文法（古文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（古文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 文法と講読 【第14回】 文法と講読 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部編（第一学習社）2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また、Eメールでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介します。								

講義コード	11A0100304	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第1期
科目名	文献読解基礎演習1D／仏教学基礎演習3D				戸田 教敏		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、古典資料を読解するにあたって最低限必要なレベルの古文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要となる古文の文法（古文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（古文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 文法と講読 【第14回】 文法と講読 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部編（第一学習社）2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また、Eメールでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介します。								

は



講義コード	11A0100401	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	日比 宣仁	開講期	第2期
科目名	文献読解基礎演習2A／仏教学基礎演習4A				日比 宣仁			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	古典資料を読解するにあたって、最低限必要なレベルの漢文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要な漢文の文法（漢文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（漢文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、読み方や意味のわからない用語についてはあらかじめ予習を行い調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 文法と講読 【第14回】 文法と講読 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部（第一学習社）2022								
指定図書									
参考書	『第四版 全訳漢辞海』戸川芳郎 監修／佐藤進・濱口富士雄 編（三省堂）2016、『改訂新版 角川新字源』小川環樹・西田太郎・赤塚忠 編（KADOKAWA）2017								
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	演習								
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。								

講義コード	11A0100402	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	日比 宣仁	開講期	第2期
科目名	文献読解基礎演習2B／仏教学基礎演習4B				日比 宣仁			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	古典資料を読解するにあたって、最低限必要なレベルの漢文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要な漢文の文法（漢文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（漢文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、読み方や意味のわからない用語についてはあらかじめ予習を行い調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 文法と講読 【第14回】 文法と講読 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部（第一学習社）2022								
指定図書									
参考書	『第四版 全訳漢辞海』戸川芳郎 監修／佐藤進・濱口富士雄 編（三省堂）2016、『改訂新版 角川新字源』小川環樹・西田太郎・赤塚忠 編（KADOKAWA）2017								
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	演習								
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。								

講義コード	11A0100403	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第2期
科目名	文献読解基礎演習2C／仏教学基礎演習4C				戸田 教敏			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、古典資料を読解するにあたって最低限必要なレベルの漢文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要となる漢文の文法（漢文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（漢文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 文法と講読 【第14回】 文法と講読 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部編（第一学習社）2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また、Eメールでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介します。								

講義コード	11A0100404	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第2期
科目名	文献読解基礎演習2D／仏教学基礎演習4D				戸田 教敏			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、古典資料を読解するにあたって最低限必要なレベルの漢文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要となる漢文の文法（漢文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（漢文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 文法と講読 【第14回】 文法と講読 【第15回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験もしくは期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部編（第一学習社）2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また、Eメールでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介します。								

は

講義コード	16A0170001	授業形態	実習	抽選の有無	-	担当教員	伊東 泰樹	開講期	第1期
科目名	法要実習1							伊東 泰樹	第1期
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では主に「宗定日蓮宗法要式 平成版」の内容に沿って信行道場入場を視野に入れた基礎的な法儀の学習と実践的な演習を講義します。また、僧侶を志す者への道念を涵養する場としても配慮します。								
到達目標	法要儀式の意義や基本項目についての説明ができる。 基本所作や丁寧な仏具の扱い等、法要儀式に関する実践ができる。 学習と演習に励むことで自ら今後の課題が指摘できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	受講内容の反復練習をはじめとして、大学での聖日法要・師匠寺院・縁故寺院等での勤行・法要の出仕、そして仏教全般の知識・情報収集などの研鑽を積むことに年間30時間以上を授業外学習に充てるものとします。								
授業計画	【第1回】 第1期授業ガイダンス 【第2回】 宗定日蓮宗法要式概説 【第3回】 勤行と法要儀式について 【第4回】 法衣について 【第5回】 基本所作 【第6回】 〃 【第7回】 仏具の扱い方 【第8回】 〃 【第9回】 〃 【第10回】 発声法と法華経読誦 【第11回】 〃 【第12回】 声明誦唱 【第13回】 〃 【第14回】 〃 【第15回】 第1期総括とレポート								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢・レポート・期末試験を総合して評価します。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。								
教科書	『宗定日蓮宗法要式 平成版』宗定法要式平成版編集委員会（日蓮宗新聞社）2002.12、妙法蓮華経 要品、『日蓮宗声明』（日蓮宗声明師会連合会）								
指定図書									
参考書	『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会（日蓮宗宗務院）								
教員からのお知らせ	実習主体の授業になりますが、仏具の扱いなど実技経験の有無は問いません。取り組み姿勢を重視して評価します。補助教材は必要時に授業内で配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	16A0170101	授業形態	実習	抽選の有無	-	担当教員	伊東 泰樹	開講期	第2期
科目名	法要実習2							伊東 泰樹	第2期
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では主に「宗定日蓮宗法要式 平成版」の内容に沿って信行道場入場を視野に入れた基礎的な法儀の学習と実践的な演習を講義します。また、僧侶を志す者への道念を涵養する場としても配慮します。								
到達目標	法要儀式の意義や基本項目についての説明ができる。 基本所作や丁寧な仏具の扱い等、法要儀式に関する実践ができる。 学習と演習に励むことで自ら今後の課題が指摘できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	受講内容の反復練習をはじめとして、大学での聖日法要・師匠寺院・縁故寺院等での勤行・法要の出仕、そして仏教全般の知識・情報収集などの研鑽を積むことに年間30時間以上を授業外学習に充てるものとします。								
授業計画	【第1回】 第1期授業内容の復習 【第2回】 行軌作法の解説（二大得意） 【第3回】 行軌作法の解説と実習（七方便） 【第4回】 〃 【第5回】 行軌作法の解説と実習（十正修） 【第6回】 〃 【第7回】 法要導師の解説と実習 【第8回】 〃 【第9回】 各種法要儀式の実習 【第10回】 〃 【第11回】 葬儀式について 【第12回】 出家者の葬儀式について 【第13回】 拵拾補遺 【第14回】 〃 【第15回】 第2期総括とレポート								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢・レポート・期末試験を総合して評価します。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。								
教科書	『宗定日蓮宗法要式 平成版』宗定法要式平成版編集委員会（日蓮宗新聞社）2002.12、妙法蓮華経 要品、『日蓮宗声明』（日蓮宗声明師会連合会）								
指定図書									
参考書	『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会（日蓮宗宗務院）								
教員からのお知らせ	実習主体の授業になりますが、仏具の扱いなど実技経験の有無は問いません。取り組み姿勢を重視して評価します。補助教材は必要時に授業内で配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
その他									

講義コード	11A0102600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第1期
科目名	<b>法華経概論1</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日蓮聖人は法華経を釈尊の実語として受容し、その教えに随順することを末代凡夫の信行の中心課題とされた。法華経には教主釈尊による衆生教化の一大目的が明らかにされ、教えを信受し継承することによって永遠のいのちを生きるというテーマが暗示されている。本講義では主として宗学的（信仰的）アプローチにより、法華経の内容を味わい、その特質に迫ることを目的としたい。								
到達目標	法華経の概要を理解するとともに、人間の生き方にかかわる本質的なテーマについて考える視座をもつことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。予習としては毎回テキストの該当箇所を読み、専門用語等についてあらかじめ調べておくこと。毎回の復習として、使用するシステム（Teams）を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。								
授業計画	【第1回】法華経研究の方法論、テキスト・参考書の紹介 【第2回】法華経の経題 【第3回】法華経の成立と漢訳 【第4回】法華経の構成と思想的特色 【第5回】天台大師の法華経受容（1） 【第6回】天台大師の法華経受容（2） 【第7回】伝教大師の法華経受容（1） 【第8回】伝教大師の法華経受容（2）				【第9回】日蓮聖人の法華経受容（1） 【第10回】日蓮聖人の法華経受容（2） 【第11回】開経『無量義経』について 【第12回】以下、法華経各品の大意、序品 【第13回】方便品 【第14回】譬喩品 【第15回】まとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回の課題・感想など）50%、期末試験（50%）を基準として総合的に評価します。								
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内冒頭にて行います。								
教科書	『ものがたり法華経』勝呂信静（山喜房佛書林）1996年、『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1923年								
指定図書	『仏典講座7 法華経 上』田村芳朗・藤井教公（大蔵出版）1988年、『仏典講座7 法華経 下』藤井教公（大蔵出版）1992年								
参考書	『法華経 - 真理・生命・実践 -』田村芳朗（中央公論社（中公新書））1969年、『法華経入門』茂田井教亨（大蔵出版）1976年、『法華経に学ぶ 上』北川前肇（大東出版社）1996年、『法華経に学ぶ 下』北川前肇（大東出版社）1996年、『法華経の信心～久遠釈尊からの要請に生きる～』原慎定（福岡県布教師会）2020年								
教員からのお知らせ	「法華経概論2」とあわせて履修して下さい。自己の真実を照らす鏡を求めて、主体的に学ぶことを期待します。授業では法華経の深層に迫るためのヒントや課題を与えるので、積極的な学修が要請されます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステム（Teams）の質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。								
アクティビティの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。								
その他	現役僧侶が実務経験を活かし日蓮宗の依経である法華経の概要を理解させる。								

講義コード	11A0102700	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第2期
科目名	<b>法華経概論2</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日蓮聖人は法華経を釈尊の実語として受容し、その教えに随順することを末代凡夫の信行の中心課題とされた。法華経には教主釈尊による衆生教化の一大目的が明らかにされ、教えを信受し継承することによって永遠のいのちを生きるというテーマが暗示されている。本講義では主として宗学的（信仰的）アプローチにより、法華経の内容を味わい、その特質に迫ることを目的としたい。								
到達目標	法華経の概要を理解するとともに、人間の生き方にかかわる本質的なテーマについて考える視座をもつことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。予習としては毎回テキストの該当箇所を読み、専門用語等についてあらかじめ調べておくこと。毎回の復習として、使用するシステム（Teams）を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。								
授業計画	【第1回】法華経各品の大意、信解品 【第2回】葉草喩品・授記品 【第3回】化城喩品 【第4回】五百弟子受記品・授学無学人記品 【第5回】法師品・見宝塔品 【第6回】提婆達多品 【第7回】勸持品・安樂行品 【第8回】従地涌出品・如来寿量品				【第9回】分別功德品・随喜功德品・法師功德品 【第10回】常不軽菩薩品 【第11回】如來神力品・囑累品 【第12回】薬王菩薩本事品・妙音菩薩品・観世音菩薩普門品 【第13回】陀羅尼品・妙莊嚴王本事品・普賢菩薩勸発品 【第14回】結経『観普賢菩薩行法経』について 【第15回】まとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回の課題・感想など）50%、期末試験（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内冒頭にて行います。								
教科書	『ものがたり法華経』勝呂信静（山喜房佛書林）1996年、『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1923年								
指定図書	『仏典講座7 法華経 上』田村芳朗・藤井教公（大蔵出版）1988年、『仏典講座7 法華経 下』藤井教公（大蔵出版）1992年								
参考書	『法華経 - 真理・生命・実践 -』田村芳朗（中央公論社（中公新書））1969年、『法華経入門』茂田井教亨（大蔵出版）1976年、『法華経に学ぶ 上』北川前肇（大東出版社）1996年、『法華経に学ぶ 下』北川前肇（大東出版社）1996年								
教員からのお知らせ	「法華経概論1」の履修を前提として授業を進めます。自己の真実を照らす鏡を求めて、主体的に学ぶことを期待します。授業では法華経の深層に迫るためのヒントや課題を与えるので、積極的な学修が要請されます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステム（Teams）の質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。								
アクティビティの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。								
その他	現役僧侶が実務経験を活かし日蓮宗の依経である法華経の概要を理解させる。								

は

講義コード	11A0100500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定・田村亘彌・本間俊文	開講期	第2期
科目名	<b>法華仏教研究入門</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、3年次進級の際の所属コース決定に向けて、法華仏教コースの学びの柱となる「法華教学史（法華経の思想史および天台学）」・「日蓮教学（日蓮聖人の教え）」・「日蓮宗教学史（日蓮教学の継承の歴史）」・「日蓮教団史（日蓮聖人の生涯および日蓮教団の歴史的展開）」の4つの研究領域の内容とその研究法について学修し、日蓮聖人の思想・生涯に基づく法華仏教研究の奥深さとその意義を見出すことを目的とする。								
到達目標	法華仏教研究の内容とその研究法について説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス、日蓮教団史研究入門（1） 【第2回】日蓮教団史研究入門（2） 【第3回】日蓮教団史研究入門（3） 【第4回】日蓮教団史研究入門（4） 【第5回】日蓮教団史研究入門（5） 【第6回】法華教学史研究入門（1） 【第7回】法華教学史研究入門（2） 【第8回】日蓮教学研究入門（1） 【第9回】日蓮教学研究入門（2） 【第10回】日蓮教学研究入門（3） 【第11回】日蓮教学研究入門（4） 【第12回】日蓮教学研究入門（5） 【第13回】日蓮宗教学史研究入門（1） 【第14回】日蓮宗教学史研究入門（2） 【第15回】日蓮宗教学史研究入門（3）、まとめ								
成績評価の方法	毎回の授業における学修内容・感想等の記入（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	毎回の授業で学修した内容・感想等について、担当教員の指定する方法による記入・提出を求め、そのフィードバックを必要に応じて行う。								
教科書									
指定図書	『真訓両説妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）2008年第30版、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2000年改訂増補第3刷、『日蓮宗宗学全書 全23巻』立正大学日蓮教学研究所編（山喜房佛書林）、『日蓮辞典 新装版』宮崎英修編（東京堂出版）2013年、『日蓮宗教学史』執行海秀（平楽寺書店）2016年第15刷								
参考書	『日蓮宗小事典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11B6138501	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	加藤 紫識	開講期	第1期
科目名	<b>民俗学Ⅰ</b>								
履修前提条件					備考				
授業の目的	私たちが生活のなかで当たり前だと思っているさまざまな習慣や文化には、どのような意味があり、伝承されてきたのであろうか。民俗学はそのような、世代を超えて繰り返し伝承されてきた習慣や事象に対する関心や疑問を解明する学問である。「民俗学Ⅰ」では、民俗学の基礎的な理論を紹介しながら、学問の目的や研究方法などを説明する。そのなかから身近な民俗文化に注目し、その意味や変遷を講義する。								
到達目標	①「民俗学」と「民族学」の違い、および「民俗学」の概要を自分の言葉で説明することができる。 ②民俗学に関する基礎的な方法論を理解する。 ③自分たちの生活のなかに民俗事象を見だし、その意味や社会的役割を理解、説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回のテーマに関連する内容について、毎回インターネットや参考図書などで予習復習を行うこととし、課せられた課題レポートなどの提出物の作成・準備と合わせ、授業外で計60時間の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 身近な民俗事象について 【第2回】民俗学とは何か（1）民俗学と民族学、民俗学の定義 【第3回】民俗学とは何か（2）日本民俗学の成立 【第4回】民俗学とは何か（3）日本民俗学史（柳田國男と民俗学） 【第5回】民俗学とは何か（4）民俗学の研究方法 【第6回】さまざまな縁をめぐる民俗 【第7回】地域社会をめぐる民俗 【第8回】身体をめぐる民俗 【第9回】人の一生（1）人生をめぐる民俗 【第10回】人の一生（2）産育儀礼 【第11回】人の一生（3）成年・結婚 【第12回】人の一生（4）年祝い 【第13回】人の一生（5）死と葬送 【第14回】人の一生（6）人生をめぐる民俗 まとめ 【第15回】授業の総括								
成績評価の方法	期末試験およびレポート（50%）、リアクションペーパーの提出などの授業取り組み姿勢（50%）で評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーで寄せられた質問や意見のフィードバックは翌週の授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『柳田國男全集』（ちくま書房）1997、『はじめて学ぶ民俗学』市川秀之ほか編（ミネルヴァ書房）2015、『知って役立つ民俗学』福田アジオ責任編集（ミネルヴァ書房）2015、『日本民俗学の萌芽と生成』板橋春夫（七月社）2023								
教員からのお知らせ	教科書は使用しません。毎回、講義資料を提示しますので、参考資料とともに熟読して理解を深めてください。授業の進捗状況や理解度などで、授業計画の順番が変わる可能性があります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	毎回 WebClass にて意見や質問を書いたリアクションペーパーを提出する。翌週の授業内で解説や補足を交えて前回の授業を振り返り、共有する。								
その他									

講義コード	11B6138601	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	加藤 紫識	開講期	第2期
科目名	民俗学2								
履修前条件						備考			
授業の目的	民俗学は日常生活のなかで繰り返し伝承されてきた習慣や行為を対象に、日本の伝統文化や生活文化を解明する学問として発達してきた。この授業では、「民俗学1」の理論的な学修を踏まえて、個別の民俗事象とその調査・研究方法を交えて説明する。また、現代社会における民俗の「文化的な意味、社会的な役割」を捉える視点を解説する。								
到達目標	①身近な慣習や行為が民俗事象として研究対象になることに注目することができる。 ②対象に応じた調査方法を理解し、調査内容をまとめることができる。 ③日本の生活や社会において民俗のもつ文化的意味や社会的役割を個々の場面で説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回のテーマに関連する内容について、毎回インターネットや参考図書などで予習復習を行うこととし、課せられた課題レポートなどの提出物の作成・準備と合わせ、授業外で計60時間の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 生活のなかの民俗事象 【第2回】民俗信仰の諸相 (1) 稲荷信仰 【第3回】民俗信仰の諸相 (2) 人々のさまざまな願い① 絵馬の歴史と人々の願い 【第4回】民俗信仰の諸相 (3) 人々のさまざまな願い② 板絵に託す願い 【第5回】民俗信仰の諸相 (4) パワースポットとはなにか① パワースポット成立の背景 【第6回】民俗信仰の諸相 (5) パワースポットとはなにか② パワースポット今昔				【第7回】年中行事 (1) 暦の構造と季節感 【第8回】年中行事 (2) 節供とは何か① 人日・上巳 【第9回】年中行事 (3) 節供とは何か② 端午 【第10回】年中行事 (4) 節供とは何か③ 七夕・重陽 【第11回】年中行事 (5) 節分とは何か 【第12回】民俗調査の方法 【第13回】民具調査の方法 【第14回】職人調査の方法 【第15回】授業の総括				
成績評価の方法	期末試験およびレポート (50%)、リアクションペーパーの提出などの授業取り組み姿勢 (50%) で評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーで寄せられた質問や意見のフィードバックは、翌週授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『柳田国男全集』(ちくま書房) 1997、『暮らしの中の民俗学 全3巻』新谷尚紀・波平恵美子ほか編(吉川弘文館) 2003、『都市の暮らしの民俗学 全3巻』新谷尚紀・岩本通弥編(吉川弘文館) 2006、『はじめて学ぶ民俗学』市川秀之ほか編(ミネルヴァ書房) 2015、『知って役立つ民俗学』福田アジオ責任編集(ミネルヴァ書房) 2015								
教員からのお知らせ	教科書は使用せず、毎回、講義資料を提示します。前期開講の「民俗学1」にて民俗学の基礎的な概説を行うので、「民俗学1」の履修後に本科目を履修することを強く勧めます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	毎回の授業後に WebClass にて意見や質問を書いたリアクションペーパーを提出する。翌週の授業内で寄せられた意見を共有し、解説や補足を交えて前回の授業を振り返る。								
その他									

講義コード	11A0103000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第1期
科目名	立正安国論講義 1								
履修前条件						備考			
授業の目的	『立正安国論』は、一般的にも日蓮聖人の代表的著書として認識されている。日蓮聖人が生涯持ち続けた問題、仏教者としてどのように人々を救済すればいいのかという問題を、講義を通して理解し、『立正安国論』がどのような書であるのかを改めて認識する。								
到達目標	『立正安国論』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。同時に、日蓮聖人教学を研究するための基本である、日蓮聖人遺文を読解する基礎を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後に事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション～日蓮聖人遺文を読むための基礎 【第2回】日本仏教思想史1 【第3回】日本仏教思想史2 【第4回】日本仏教思想史3 【第5回】『立正安国論』 解題1 【第6回】『立正安国論』 解題2 【第7回】『立正安国論』 解題3 【第8回】『立正安国論』 講読1				【第9回】『立正安国論』 講読2 【第10回】『立正安国論』 講読3 【第11回】『立正安国論』 講読4 【第12回】『立正安国論』 講読5 【第13回】『立正安国論』 講読6 【第14回】『立正安国論』 講読7 【第15回】まとめ				
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント、期末試験70パーセントで評価する。対面での試験実施が不可能である場合、課題レポートに切り替えます。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な語句について、対話によって理解を確認する。								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編(身延山久遠寺) 1988年								
指定図書	『日蓮聖人遺文全集 第一巻』小松邦彰(春秋社) 1994年、『日本の仏典9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰(筑摩書房) 1988年、『日蓮辞典』宮崎英修編(東京堂出版) 1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編(平楽寺書店) 1924年								
参考書	『傍訳日蓮聖人遺文 立正安国論』北川前肇・原慎定(四季社) 2004年、『日蓮聖人御遺文講義 第一巻』鈴木一成(日本仏書刊行会) 1957年								
教員からのお知らせ	立正安国論講義2 / (二)をあわせて履修してください。その他、参考文献については適宜授業で紹介していきます。指定図書『日蓮辞典』と『法華経開結』を持っている学生(日蓮宗寺院にはあると思います)は、必ず持参するようにしてください。								
オフィスアワー	水曜日を原則とします。その他、メールで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
その他									

講義コード	11A0103100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	立正安国論講義2				三輪 是法			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	『立正安国論』は、一般的にも日蓮聖人の代表的著書として認識されている。日蓮聖人が生涯持ち続けた問題、仏教者としてどのように人々を救済すればいいのかという問題を、講読を通して理解し、『立正安国論』がどのような書であるのかを改めて認識する。さらに、近代日本において『立正安国論』がどのように受容されたのかを考究する。								
到達目標	『立正安国論』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。同時に、日蓮聖人教学を研究するための基本である、日蓮聖人遺文を読解する基礎を身につける。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後に事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】第1期復習～『立正安国論』講読 【第2回】『立正安国論』講読1 【第3回】『立正安国論』講読2 【第4回】『立正安国論』講読3 【第5回】『立正安国論』講読4 【第6回】「立正安国論再読」講読1 【第7回】「立正安国論再読」講読2 【第8回】「立正安国論再読」講読3 【第9回】「立正安国論再読」講読4 【第10回】近代日本における『立正安国論』の受容1 【第11回】近代日本における『立正安国論』の受容2 【第12回】近代日本における『立正安国論』の受容3 【第13回】近代日本における『立正安国論』の受容4 【第14回】近代日本における『立正安国論』の受容5 【第15回】総括								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント、期末試験70パーセントで評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な語句について、対話によって理解を確認する。								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年								
指定図書	『日蓮聖人遺文全集 第一巻』小松邦彰（春秋社）1994年、『日本の仏典9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰（筑摩書房）1988年								
参考書	『傍訳日蓮聖人遺文 立正安国論』北川前肇・原愼定（四季社）2004年、『日蓮聖人御遺文講義 第一巻』鈴木一成（日本仏書刊行会）1957年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年								
教員からのお知らせ	立正安国論講義1／(二)をあわせて履修してください。その他、参考文献については適宜紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』を持っている学生（日蓮宗寺院にはあると思います）は、必ず持参するようにしてください。「立正安国論再読」と、第10回以降のテキストは随時ポータルサイトから配布いたします。								
オフィスアワー	水曜日を原則とします。その他、メールで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
その他									

講義コード	11B5121401	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	小館 貴幸	開講期	第1期
科目名	倫理学とは何かA								
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>私たちが社会生活を営むうえで倫理は必須の事項である。なぜなら、誰もが自分と異なった他者と共に暮らしているからである。「あの人は倫理的である／ない」、「企業倫理に反する／反しない」など、日常でもよく倫理という言葉が登場するが、私たちはどれほど倫理について知っているだろうか。</p> <p>この講義では、倫理そのものを明らかにし、いくつかの学説を学びながら倫理の奥深さに触れ、自らの倫理観を養うことを目的とする。</p>								
到達目標	<p>①倫理とは何かを説明できる。          ②倫理学の様々な学説を整理し、それぞれの特徴や本質を述べることができる。          ③倫理的思考を用いて、自分の考えを言語化することができる。          ④自らの倫理観を養うことができる。</p>								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>指定図書や参考図書などを利用して、授業で取り上げる内容について予め把握しておくこと。授業後は、プリントを見直しながらも一度考えて学びを深め、さらに自分で調べて知識を広めること。課題を提出すること。</p> <p>以上、本科目では60時間の授業外学習を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】イントロダクション（講義の概要や進め方など）          【第2回】倫理とは何か          【第3回】義務論Ⅰ（基本的諸事項と概略）          【第4回】義務論Ⅱ（カントの義務論）          【第5回】功利主義Ⅰ（基本的諸事項と概略）          【第6回】功利主義Ⅱ（功利主義の展開）          【第7回】徳倫理学Ⅰ（ソクラテスにおける徳）          【第8回】徳倫理学Ⅱ（アリストテレスにおける徳）          【第9回】ケアの倫理学Ⅰ（ケアする人におけるケア論）          【第10回】ケアの倫理学Ⅱ（ケアされる人におけるケア論）          【第11回】環境倫理学Ⅰ（基本的諸1事項と概略）          【第12回】環境倫理学Ⅱ（自然と人間の共生の具体的事例）          【第13回】経営倫理学Ⅰ（基本的諸事項と概略）          【第14回】経営倫理学Ⅱ（事例検討）          【第15回】全体のまとめ</p>								
成績評価の方法	学期末試験（60%）、課題提出（20%）、授業への取組み姿勢（10%）、小テスト（10%）								
フィードバックの内容	小テストについては終了後に解説を行い、課題やリアクションペーパーについては後の講義で教員がまとめてコメントします。								
教科書									
指定図書	『倫理学案内－理論と実践』小松光彦、樽井正義、谷寿美編（慶應義塾大学出版会）2008年、『道徳形而上学原論』イマヌエル・カント（岩波書店）2011年、『実践理性批判』イマヌエル・カント（岩波書店）1996年、『功利主義』ジョン・スチュアート・ミル（岩波書店）2021年、『ソクラテスの弁明・クリトン』プラトン（岩波書店）1995年、『ニコマコス倫理学（上）』アリストテレス（岩波書店）1993年、『ニコマコス倫理学（下）』アリストテレス（岩波書店）1992年、『ケアの本質－生きることの意味』ミルトン・メイヤロフ（ゆみる出版）1987年								
参考書	『沈黙の春』レイチェル・カーソン（新潮社）2006年、『野生のうたが聞こえる』アルド・レオポルド（講談社）2004年、『ケアリング－倫理と道徳の教育 女性の観点から』ネル・ノディングス（見洋書房）1997年、『ビジネス・エシックス』リチャード・T・デイジョージ（明石書店）1995年								
教員からのお知らせ	教科書は使用しません。毎講義でプリントを配布して講義を行います。人数や状況に応じて、皆さんが直接参加する機会を設けていきます。また、受講者の関心に講じて、臨機応変に講義内容を変更することもあります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	講義内で適宜意見表明の機会を設けて、皆で共有します。小テスト終了後に教員からのフィードバックによる振り返りを行います。グループ・ワークの機会も設ける予定です。								
その他	社会生活を営む上で倫理は必須の事柄です。倫理を学問的に学ぶことはもちろんですが、それに留まらずに自らの倫理観を高めることができるように、常に自分のこととして主体的に講義に参加して下さい。								



講義コード	11B5121402	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	木村 史人	開講期	第1期
科目名	倫理学とは何かB								
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>私たちは様々な場面で、「正しい／正しくない」と判断している。それでは、「正しさ」とは何であろうか？ あなたがある行為（たとえば、席を譲る、暴力をふるう）を見て、「正しい／間違っている」と判断できているならば、あなたは「正しさとは何か」知っているはずである。</p> <p>本講義では、具体的な問題について、これまでの倫理学思想、特に功利主義と共同体主義、義務論などを手がかりに考察する。</p>								
到達目標	<p>① これまでの倫理学思想を理解する。          ② ①で学んだことを実際の問題に応用することができる。          ③ 自分の考えを言語化することができる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業内容の予習、復習など、授業外に計60時間の学修を行うこと。								
授業計画	<p>この授業では対話・議論を行いますので、対話・議論が好きな方向けです。</p> <p>【第1回】授業の予定、進め方。良い、悪いとは何か？          【第2回】功利主義① 利益とは何で、どのように計算すればいいのか？          【第3回】功利主義② 快楽と苦痛          【第4回】功利主義③ 最大多数の最大幸福          【第5回】功利主義④ 快楽の質          【第6回】共同体主義① 徳としての倫理          【第7回】共同体主義② 物語の役割「誰」と倫理          【第8回】共同体主義③ ダントの物語文          【第9回】共同体主義④ 世間の規範          【第10回】義務論① カントとは誰か？          【第11回】義務論② 自由とは何か？          【第12回】義務論③ 理性的・普遍的な格率          【第13回】義務論④ 自他の人格を尊重する          【第14回】倫理・道徳は進歩しているのか？          【第15回】授業の振り返り。正しさとは何か？</p> <p>授業の予定は、学生の理解度によって、適宜変更される場合がある。</p>								
成績評価の方法	小テスト（3回を予定、60%）、授業内の活動への参加姿勢（40%）から、授業内容の理解度およびそれを応用する思考力を評価する。								
フィードバックの内容	受講者は授業内で議論した内容を c-learning など で発表し、その内容について、教員がコメントする。								
教科書									
指定図書	『倫理学案内：理論と課題』小松光彦、樽井正義、谷寿美編（慶應義塾大学出版会）2006、『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』マイケル・サンデル著；鬼澤忍訳（早川書房）2011、『モラル・トライブス』ジュシユア・グリーン（岩波書店）2015、『実践理性批判』カント（岩波文庫）1979、『功利主義論集』J・S・ミル（京都大学学術出版会）2010、『美徳なき時代』マッキンタイア（みすず書房）1993、『物語としての歴史』アーサー・C・ダント（国文社）1989								
参考書									
教員からのお知らせ	グループで対話・議論を行いますので、そうした活動が苦手でないことが望ましいです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、WebClass のメッセージ機能でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。								
アクティブラーニングの内容	①授業内容を言語化する ②①をグループで共有し、学びを深める教員および他の受講者に発表し、フィードバックを得る								
その他									

講義コード	11B5121502	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	倫理学の基本諸問題B					木村 史人		第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義の第一の目的は、現代の社会における不平等の問題を多角的に考察し、理解することである。そのうえで、現代を生きるうえで必要な倫理とは何かを考える。さらに、学んだことを用いて、我々が日常的に出会う具体的な問題について考え、それを言語化することができるようになることを、第二の目的とする。								
到達目標	① 倫理学思想を理解し、自分の言葉で説明することができる。 ② ①で学んだことを実際の問題に応用することができる。 ③ 学んだことを基に、グループで議論できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修・授業外学修時間 各回の授業内容の予習、復習など、授業外に計60時間の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 授業の予定、進め方。 【第2回】 正義論① ロールズの「無知のヴェール」を考える 【第3回】 正義論② 公平なルールを取り決めることはどのようにして可能か？ 【第4回】 正義論③ 公平性という正義はそもそも正しいのか？ 【第5回】 正義論④ ロールズへの批判 自由至上主義 【第6回】 動物倫理① 種差別とは何か？ 【第7回】 動物倫理② 人間は特別か？ 【第8回】 動物倫理③ 種差別は正しいのか？ 【第9回】 動物倫理④ 動物実験・肉食は正しいのか？ 【第10回】 世界の不平等① 平等とは何か？世界の不平等① 富の集中 【第11回】 世界の不平等② 援助することは義務か？ 【第12回】 世界の不平等③ 平等をどのように実現するのか？ 【第13回】 世代間倫理について考える① 責任とは何か？ 【第14回】 世代間倫理について考える② まだ生まれていない存在に対して、責任を有するのか？ 【第15回】 授業の振り返り  授業の予定は、学生の理解度によって、適宜変更される場合がある。								
成績評価の方法	小テスト（3回を予定、60%）、授業内の活動への参加姿勢（40%）から、授業内容の理解度およびそれを応用する思考力を評価する。								
フィードバックの内容	議論をした成果について、教員がフィードバックを行う。								
教科書									
指定図書	『倫理学案内：理論と課題』小松光彦、樽井正義、谷寿美編（慶應義塾大学出版会）2006、『貧困の倫理学』馬淵浩二（平凡社）2015、『責任という原理：科学技術文明のための倫理学の試み』ハンス・ヨナス著；加藤尚武監訳（東信堂）2010、『未来倫理』戸谷洋志（集英社新書）2023、『動物からの倫理学入門』伊勢田哲治（名古屋大学出版会）2008								
参考書									
教員からのお知らせ	授業内で議論・対話を行いますので、議論・対話が好きなお方にお勧めです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、WebClassのメッセージ機能でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。								
アクティブラーニングの内容	自分で考えたことを基に、グループで議論・対話を行います。また、その成果について教員がコメントします。								
その他									



## 11. クラス担任 他

# 11. クラス担任 他

仏教学部長 安中尚史  
 宗学科主任 三輪是法  
 仏教学科主任 秋田貴廣

		1年	2年	3年	4年
宗学科	法華仏教コース		田村 巨禰	三輪 是法	原 愼定
	日本仏教コース				
学部	令和2年度以降入学生	丹治 恭子 久保真紀子	田村 巨禰 岡田 愛		
仏教学科	思想・歴史コース		岡田 愛	戸田 裕久	手島 一真
	文化・芸術コース			則武 海源	秋田 貴廣

仏教学部事務室 03 (3492) 8528  
 仏教学部懇談室（両学科履修指導担当教員連絡先） 03 (5487) 3108〔宗学科〕  
 03 (5487) 3109〔仏教学科〕  
 日蓮教学研究所 03 (5487) 3266  
 法華経文化研究所 03 (5487) 3253

## **12. 令和6年度オフィスアワー (学生生活相談) の実施について**

## 令和6年度オフィスアワー（学生生活相談）の実施について①

教員名	2号館6階／7階／10階の各研究室で対応します
則武海源（仏）7階	月 12：10～12：50
田村亘禰（宗）7階	月 12：10～12：50
久保真紀子（仏）6階	月 17：40～18：00
原 慎定（宗）7階	火 12：10～12：50
戸田裕久（仏）7階	火 17：40～18：00
三輪是法（宗）7階	水 17：40～18：00
秋田貴廣（仏）7階	水 17：40～18：00
高橋堯英（仏）7階	木 12：10～12：50
丹治恭子（宗）7階	木 12：10～12：50
岡田 愛（仏）10階	木 12：10～12：50
安中尚史（宗）7階	木 17：40～18：00
手島一真（仏）6階	金 12：10～12：50
本間俊文（宗）7階	金 12：10～12：50

- ◆仏教学部では学生生活全般にわたる相談を随時受け付けています。
- ◆特に、上述の時間には教員が各研究室に待機し、対応できるようにしています。  
（緊急の用件で不在となることもあります。）  
対応に時間が必要な事柄については、相談のうえ、別に日時等を定めて対応します。
- ◆仏教学部事務室（1号館1階）でも、10：00～17：00（日祝除く）相談に対応しています。  
〔Tel. 03-3492-8528〕
- ◆仏教学部懇談室（2号館7階）でも、11：00～18：00（土日祝除く）履修指導担当教員やチューター（教務補助員）が相談に対応しています。  
〔Tel. 03-5487-3108（宗学科）〕  
〔Tel. 03-5487-3109（仏教学科）〕

# 令和6年度オフィスアワー（学生生活相談）の実施について②

## 1. 専任教員へのメールによる相談

仏教学部では、学生生活全般にわたる相談について各専任教員が受け付けています（オフィスアワー）。令和6年度は、相談をメールでも随時受け付けます。各教員のメールアドレス一覧は次のとおり、立正大学ポータルサイト内に格納しています。

「ポータルサイト」→「My ツール→キャビネット」→「99.その他授業に関すること」  
→「令和6（2024）年度 仏教学部教員メールアドレス一覧（キャビネット掲示用）」

メールを送信する際は、

- ① メール《件名（タイトル）欄》に、用件を簡明に記す。  
（例、○月△日の授業「◇◇入門」での疑問点について質問します）
- ② メール《本文欄》には宛名（例、○○先生）や用件の内容のほかに、自分自身に関して【学部（学科／コース）・学年・学籍番号・氏名（必要ならば連絡先メールアドレス等も）】を記す。簡潔なあいさつ文もある方がよい。
- ③ 半角カタカナ・機種依存文字は、メールが正しく送達されない原因となるので、使用しない。

といった、基本的なマナーに十分留意してください。

本学の学生には Microsoft365 の使用権が賦与されますので、その中の Outlook を利用してメールを送受信することができます。またこれに付随して学生個々に与えられるメールアドレス（xxxxxxx@rissho-univ.jp）には、大学から重要な案件が送信される場合がありますので、このメールアドレスを常用のスマートフォンのメールソフトに登録する等して、着信には日常的に注意してください。

## 2. 履修指導担当教員および仏教学部事務室への相談

上記の専任教員による相談受付のほか、仏教学部懇談室に駐在する履修指導担当教員、また仏教学部事務室も相談を受け付けています。対応曜日・時間について留意の上、ご相談ください。

### (1) 履修指導担当教員への電話による相談

仏教学部懇談室（2号館7階）では、11:00～18:00（土日祝除く）履修指導担当教員やチューター（教務補助員）が相談に応じています。〔授業や会議等で不在となることもあります。〕

Tel. 03-5487-3108（宗学科）

Tel. 03-5487-3109（仏教学科）

### (2) 仏教学部事務室への電話による相談

仏教学部事務室（1号館1階）では、10:00～17:00（日祝除く）相談に応じています。〔他の問い合わせ対応中等で電話にでられない時もあります。〕

Tel. 03-3492-8528





**《資料》 仏教学部生の9月卒業のための  
卒業論文提出に関する要領**

## 仏教学部生の9月卒業のための卒業論文提出に関する要領

- 1 本要領は、9月卒業のための卒業論文受理に関する事項を定める。
- 2 本要領の適用審査対象となる学生は、次のように定める。

卒業論文作成に向けた研究法について、4年生として第1期・第2期を合して1年間分の指導を受けて修得済み、もしくは修得見込みであることを前提として、9月卒業の意志を有し、その申請が可能な者（9月卒業のための要件については、学事課備付け「9月卒業申請書」を参照）。
- 3 2に定める条項の適用対象の審査は、学生の在籍する学科が行う。審査結果の学生への告知と履修指導は、各学科が行う。
- 4 本要領に定める卒業論文の提出には、3の学科の審査による承認（在籍5年目以降の第1期での卒業見込みの確認と、卒業論文提出予定時期の確認を含む）と、学生による「卒業論文」の履修登録および所定の9月卒業申請を必要条件とする。
- 5 卒業論文題目の届け出期限、卒業論文の提出期間、口頭試問の期日その他については、次のように定める。
  - 5-1 学生が9月卒業（予定）の当該年度第1期における卒業論文提出を希望する場合は、次のとおりとする。
    - ① 卒業論文題目の届け出期限は、5月末日（土日祝の場合は、直前の平日）17時まで（提出先は仏教学部懇談室）とする。
    - ② 卒業論文の提出期間は、およそ7月1日～10日頃（日祝除く）の10時～17時30分（提出先は仏教学部事務室）とし、詳細は6月下旬に掲示にて告知する。
    - ③ 卒業論文の口頭試問の期日は、7月下旬を目途として設定することとし、あらかじめ担当教員が当該学生に指示するとともに、担当教員は仏教学部事務室に伝達する。また、学生が急病等やむを得ない事情により口頭試問を受けられず追試験を希望する場合は1回まで認め、8月初頭を目途に行うものとする。
    - ④ 卒業論文の判定結果が不合格の場合、必要な指導を受けて論文を改稿の上、通常第2期における卒業論文提出期間にあらためて提出することができるものとする。
  - 5-2 学生が9月卒業（予定）の前年度第2期における卒業論文提出を希望する場合、いずれも通常の場合に準ずる。

附則 平成27年3月24日仏教学部臨時教授会決定、平成27年4月1日施行  
平成27年12月16日仏教学部定例教授会改正、平成28年4月1日施行

## 個人情報の取扱い

立正大学では、入学手続時その他大学所定の手続において収集した住所・氏名・電話番号等の個人情報は、法令等に定める一定の場合を除き、利用目的以外には利用しません。なお、利用目的の詳細につきましては本学ホームページ内の「個人情報保護の取り組み」をご覧ください。

[https://www.ris.ac.jp/rissho\\_school/release\\_information/compliance/personal\\_info\\_protection.html](https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/compliance/personal_info_protection.html)



仏教学部事務室 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 TEL(03)3492-8528